

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-31

和仏法律学校講義録

掛下，重次郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

1-5

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

224

(発行年 / Year)

1901-07-29

○ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

明治三十四年七月廿九日發行

(第壹部)

三十四年度乙種講習科用

第五號

和佛法律學校講義錄



民 法 親 族

法律學士

掛下重次郎

090
1901
1-5

民法親族

法律學士 掛下重次郎 講述

和佛法律學校發行

日本法律學叢書

民法 親族

著者　栗原重太郎編

民法親族目次

緒言	一
第一章　總則	三
第二章　戸主及ヒ家族	一七
第一節　總則	一七
第二節　戸主及ヒ家族ノ権利義務	三四
第三節　戸主權ノ喪失	四一
第三章　婚姻	六六
第一節　婚姻ノ成立	六七
第一款　婚姻ノ要件	六七
第二款　婚姻ノ無効及ヒ取消	八七
第二節　婚姻ハ效力	一〇五
第三節　夫婦財產制	一一二
民法親族目次	

第一款 未總則	一一四
第二款 法定財產制	一二四
第四節 離婚	一三七
第一款 協議上ノ離婚	一三九
第二款 裁判上ノ離婚	一四六
第四章 親子	
第一節 實生子	一六二
第二節 養子	一六二
第一款 痞出子	一六三
第二款 庶子及ヒ私生子	一七五
第三款 緣組ノ要件	一九二
第二款 緣組ノ無效及ヒ取消	二一二
第三款 緣組ノ效力	二二四
第四款 離人縁	二二六

第五章 親權 二四九

第一節 總則	二五四
第二節 親權ノ效力	二五八
第三節 親權ノ喪失	二九二

第六章 後見 二九七

第一節 後見ノ開始	二九九
第二節 後見ノ機關	三〇二
第一款 後見人	三〇三
第二款 後見監督人	三二八
第三節 後見ノ事務	三四三
第四節 後見ノ終了	三八〇
第七章 親族會	三九四
第八章 扶養ノ義務	四一三
民法親族目次終	

西京縣志目次

卷一章 县政大綱	四二三
卷二章 財政大綱	三九四
卷三章 教育大綱	三八〇
卷四章 警政大綱	三七二
卷五章 民政大綱	三二八
卷六章 稽核大綱	三〇二
卷七章 聖教大綱	二九二
卷八章 藥政大綱	二五四
卷九章 賓客大綱	二四六
卷十章 謹	

民法親族

○親族法ノ性質　親族法ハ民法ノ一部分ナルカ故ニ民法ノ他ノ部分ト同シク
私人相互ノ關係ヲ規定スルモノナレハ即チ私法ノ一部ニ屬スルコトハ論ヲ俟
タサレトモ同法中ニ規定スル條項必シモ悉ク私法ノ規定ナリト云フニ非サ
ルナリ例ヘハ檢事裁判所戸籍吏等國家ノ機關トノ關係ヲ有スルカ如キ規定是
ナリ而シテ此等ノ規定ハ私人相互間ノ關係ニ非シテ親族關係ニ關聯セル公
法規定ノ性質ヲ有スルナリ。又檢事裁判所戸籍吏等國家ノ機關トノ關係
親族法ハ財產法ニ對スルモノニシテ人事戸主家族婚姻親子親權後見及ヒ親族

緒言

○親族法ノ性質　親族法ハ民法ノ一部分ナルカ故ニ民法ノ他ノ部分ト同シク
私人相互ノ關係ヲ規定スルモノナレハ即チ私法ノ一部ニ屬スルコトハ論ヲ俟
タサレトモ同法中ニ規定スル條項必シモ悉ク私法ノ規定ナリト云フニ非サ
ルナリ例ヘハ檢事裁判所戸籍吏等國家ノ機關トノ關係ヲ有スルカ如キ規定是
ナリ而シテ此等ノ規定ハ私人相互間ノ關係ニ非シテ親族關係ニ關聯セル公
法規定ノ性質ヲ有スルナリ。又檢事裁判所戸籍吏等國家ノ機關トノ關係
親族法ハ財產法ニ對スルモノニシテ人事戸主家族婚姻親子親權後見及ヒ親族

會ニ關スル事ヲ規定スレトモ其規定スル所必シモ悉ク財產以外ノモノタルニ非ス親族關係ニ因リテ生スル親族間ノ財產關係ハ亦親族法ノ規定スル所ナリ例ヘハ夫婦財產制ノ如キ是ナリ
親族法上ノ權利ハ公益ノ必要ニ出ツルカ故ニ其權利者ノ利益ヲ保護スルト同時ニ其相手方ノ利益ヲ保護スルノ目的ニ出ツルモノ多シ例ヘハ親ノ子ヲ監護シ教育スルハ其權利タルト同時ニ亦其義務タリ而シテ親族法上ノ權利ハ單ニ權利者ノ私益ヲ保護スルノ目的ニ出テタルモノ甚タ少シ是ヲ以テ親族法ハ衛シテ强行法タルノ性質ヲ有スルナリ民法中單ニ財產ニ關スル規定ニ於テハ法律ハ少數ノ場合ヲ除クノ外ハ當事者ノ意思ノ自由ニ任シ法律カ豫メ其關係ヲ規定シ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ許サナルモノ少シ換言スレハ財產法ハ聽任法ノ性質ヲ有スレトモ親族間ノ關係ハ之ニ反シテ法律カ特ニ明言スル場合ノ外ハ個人ノ意思ヲ以テ法律カ豫メ定メタル關係ヲ變更スルコトヲ許ササルヲ原則トセリ是レ財產法ハ多ク私益ニ關シ之ニ反シテ親族法ハ多ク公益ニ關スルヨリ此差異ヲ生スル所以ナリ

第一章 總則

親族編ヲ分チテ八章トス即チ第一章總則、第二章戶主及家族、第三章婚姻、第四章親子、第五章親權、第六章後見、第七章親族會、第八章扶養ノ義務是ナリ
○親族關係ノ範圍及ヒ親等ノ算定法ニ關スルコトヲ規定セリ是レ親族法ノ基礎ニシテ他ノ各章ニ掲ケタル規定ニ共通ス
○親族關係ノ原因・家族制度ヲ以テ組織セラレタル社會ニ於テハ法律上ノ親族關係ハ二種ノ方面ニ於テ基礎タル原因ヲ有スルヲ通例トス(一)男女ノ肉體並ニ精神上ノ結合及ヒ之ニ起基スル血緣(二)同一家族團體員タルコト是ナリ而シテ我親族法ハ之ヲ認メタレハ親族關係發生ノ原因ハ分チテ之ヲ三ト爲スコトヲ得即チ(一)婚姻(二)血緣(三)養子縁組是ナリ
○親族ノ種別 親族ハ其親族ノ種類ニ應シテ四種ニ區別ス(一)血族(二)準血族(三)配偶者(四)姻族是ナリ
血族トハ天然ノ血緣關係ヲ有スルモノヲ云ヒ準血族トハ元來天然ノ血緣ヲ有

セサレトモ法律上血族ニ準セラルモノヲ云ヒ繼父母ト繼子トノ關係及ヒ母ト庶子トノ關係養子ト養親及ヒ其血族トノ關係配偶者トハ婚姻ニ因リテ生スル夫婦ノ關係ヲ云ヒ又配偶者ノ一方カ他ノ一方ノ血族及ヒ準血族ニ關スル關係ヲ姻族關係ト云ヒ其關係ヲ有スル者ヲ姻族ト云フ

○親族ノ範圍 親族編ニ於テ親族ト認ムルモノハ第七百二十五條ニ列記セリ

即チ(一)六親等内ノ血族(二)配偶者(三)三親等内ノ姻族是ナリ

法律上親族ト稱スル者ノ範圍ニ付テハ諸國ノ立法例區區ニシテ獨逸ノ新民法(第一五八九條)ノ如キハ親族關係ヲ無限ニ認メタリ佛國民法ハ相續ニ關シテハ十二親等迄ノ者ヲ親族トセリ(佛民法第七五五條伊太利民法八十親等迄ノ者ヲ親族トセリ又我刑法ハ列舉法ヲ採リタレトモ六親等以外ノ者ハ其中ニ存セナルナリ)刑法第一一四條第一一五條民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ民事訴訟法施行條例明治二十三年七月法律第五〇號第九條ノ規定ニ依リ當分ノ刑法ノ親屬例ニ依ルコトセリ而シテ本法ニ於テハ從來ノ慣習ト實際ノ便宜ニ適スルモノトシ親族ハ血族ニ付テハ六親等以内ノ者ニ限ルモノト定メタリ

舊民法人事編第一九條ニ於テハ血族ノ相連結スル者ノミヲ指シテ親族ト稱シ
親族其他ノ親族ト區別シタリト雖モ我邦從來ノ慣習ニ於テ親族ナル文字ハ必
シモ血族ノミヲ指スモノニ限ラサルカ如シ且ツ一親族ト姻族トヲ區別ス
ルハ甚タ煩ハシキヲ以テ本法ニ於テハ親族ナル文字ヲ血族及姻族ニ通シテ
之ヲ用井タリ

人事編ニ於テハ親屬トハ血統及ヒ姻戚ノ關係ヲ總稱シ之ヲ區別スルトキハ血
屬及ヒ姻屬ノ語ヲ用井而シテ此等ノ關係ヲ有スル者ヲ稱シテ親族、血族、姻族ト
云ヒタリ故ニ親屬、血屬、姻屬ト云フトキハ其續キ柄ヲ指シ血族、姻族ト云フトキ
ハ此續キ柄ヲ有スル人ヲ指シタリ然ルニ本法ニ於テハ此續キ柄ヲ指ストキハ

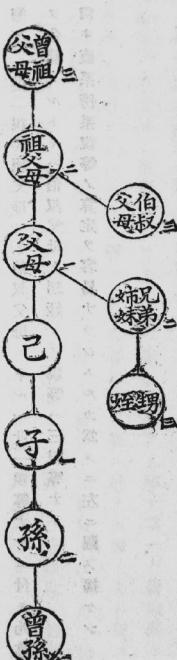
親族關係又ハ姻族關係ナル語辭ヲ用井タリ
人事編第二五條第一項ハ姻族ニ付キ血族關係ト同一ノ程度(六親等以内)ニ於テ
姻族關係ヲ認メタレトモ是事實ニ我邦ノ慣習ニ反スルモノニシテ刑法ノ如キ
モ實質上三親等以下ノ姻族ヲ以テ親族ト認メス蓋シ姻族ノ關係ハ血族關係ニ
比シテ大ニ親疎ノ度ヲ異ニスルモノナルヲ以テ新法ハ姻族ニ付テハ三親等以

内ノ者ヲ以テ親族ト爲シタル所以ナリ
○親等ノ算定法 親等ヲ定ムルニハ二種ノ主義アリ即チ其一ハ親族間ニ於ケル尊卑ノ階級ヲ定ムルモノ例ヘハ配偶者相互ノ間ニ於テモ婦ノ夫ニ對スル關係ハ一親等ナリ之ト異ナリテ夫ノ婦ニ對スル關係ハ二親等タルカ如キ是ナリ其二ハ血統ノ親疏、遠近ヲ示スモノ是ナリ此第二ノ主義ハ古昔羅馬ニ於テ行ハレシモノ故ニ羅馬法主義ト稱スルモノ「シラ本法ニ於テ採用セシモノナリ即チ親族ノ遠近ハ世數ヲ算シテ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等ト爲シタリ例ヘハ親ト子ノ間ハ一世ナルヲ以テ親子ハ一親等ナリ又祖父母ハ二親等ナリ

血族ハ其自然ノ系統ニ依リテ直系親ト傍系親トノ二種ニ區別セラル共同ノ祖ヨリ一直線ニ降下セルモノハ直系親ナリ祖父母、父母、子、孫等是ナリ又共同ノ祖ヨリ出ツルモノ其系統ノ直降セサルモノハ傍系親ナリ伯叔父母、兄弟、姊妹、從兄弟甥姪等ノ如キ者是ナリ而シテ其直系親ノ親等ヲ算スルハ極メテ簡易ナリ唯其世數ノミヲ算スルヲ以テ足ル即チ前ニ示シタルカ如シ而シテ此親等ハ雷ニ血族親間ノミニ適用セラルモノニ非シテ姻族間モ亦之ニ準シテ算スルナリ

即チ姻族間ノ親等ハ其配偶者ヲ目安トシ其者トノ間ニ於ケル親等ニ依リテ定マルナリ故ニ夫ヨリ見レハ婦ノ父母ハ二等姻族親ナリ其祖父母ハ二等姻族親ナリ傍系親ノ親等ヲ定ムルハ直系親ノ如ク簡單ナラズ之ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル今傍系親ノ親等ノ算定法ヲ容易ニ了解セシメンカ爲メニ一二ノ例ヲ舉ケンニ兄弟、伯叔父母ニ就テ云ヘハ兄弟ノ同始祖ハ父母ナリ兄ヨリ其父母マテ遡ル一世父母ヨリ弟マテ下ル同シタ一世ナルニ付キ此等ニ付キハ兄弟間ハ二親等ナリ又伯叔父母ト甥姪トノ同始祖ハ祖父母ナリ甥姪ヨリ祖父母マテ遡ル二世(二親等祖父母ヨリ伯叔父母ニ下ル一世(一親等ナルニ付キ此等ノ數世ヲ合算スルトキハ伯叔父母ト甥姪トノ親等ハ三親等ナリ

苟ホ直系、傍系親等ノ算定ヲ容易ナラシムルカ爲ミニ左ニ圖ヲ掲ケン



人事編第二十條第二項ハ尊屬親ト卑屬親トアルコトヲ示シタレトモ此等ノ關係ハ特ニ法文ヲ待テ知ルモノニ非シテ自然ニ然ルナリ即チ直系ニ於テ自己ノ出ツル所ノ親族ハ尊屬親ニシテ自己ヨリ出テタル親族ハ卑屬親ナリ以上ハ血族及ヒ姻族ニ於ケル親等ノ算定ナルカ準血族ニ於ケル親等ハ如何ニ之ヲ算定スヘキヤ

○養子ト養親及ヒ其血族間ニ第七百二十七條
○養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス(人事編第二十條)

二二條

養子ハ義ニ説キタルカ如ク養親トノ間天然ノ血族ニハ非ナレトモ法律ノ規定ニ依リテ之ニ準セラレタリ而シテ養子ハ縁組ノ日ヨリ其效果トシテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ養家親族ノ一員タルニ在リ(第八六〇條)人事編第一三四條是ヲ以テ養子縁組ハシタルトキハ其日ヨリ養子ハ養家ニ於テ恰モ其血族ト同シキ關係ヲ有ス是レ養子ヨリ養親及ヒ其血族ニ對スルトキモ亦養親及ヒ其血族ヨリ養子ニ對スルトキモ其關係同一ナリ然レトモ此關係ハ此等法律ニ依リテ規定セラレタル者ノ間ニ止マルモノニシテ養親ト養子ノ血族トノ間ハ毫モ親族關係ヲ生セス此間ハ全ク所謂他人關係ナリ是レ我邦ノ慣習ニ從ヒタル規定ナリ此ノ如キ親族關係ハ法律ノ定メ方ニ依リテ變更ス故ニ佛國ノ如キハ我法ト少シク其規定ヲ異ニス即チ養子縁組ニ因リテ生スル關係ハ養子ト其養親トノ間ニ止マリ養親ノ血族ニハ及ハサルナリ

茲ニ一言スヘキコトアリ我邦從來ノ養子ナル用語ハ男子ニ限り女子ノ場合ハ養女ト稱セシカ民法(新舊共ニ)ハ此區別ヲ爲サヌ養子ナル用語ノ中ニ廣ク男女

両性ヲ包含セシメタリ(第八三七條人事編第二二條)
○繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子、繼父母ト繼子トハ天然ノ血縁ニ非ス亦嫡母
ト庶子トノ間モ同一ナリ繼父母トハ父母ノ一方カ死亡シタルニ因リ或ハ離婚
ニ因リ更ニ婚姻ヲ爲シタルトキ實父若クハ實母ノ配偶者ト實父若クハ實母ノ
子トノ關係ヲ云フ又嫡母ト庶子トノ關係ハ夫ノ庶子ト其配偶者トノ關係ヲ云
フ今其關係ヲ能ク了解セシメンカ爲メニ子ノ名稱ヲ一言セシニ子ニハ嫡出子
庶子及ロ私生子アリ嫡出子トハ父母ノ正當ノ婚姻ノ間ニ生シタルモノヲ云ヒ
私生子トハ婚姻ナクシテ生レタルモノヲ云ヒ其母ヨリ見ルトキハ之ヲ認ムル
ト否トニ拘ラス同シタ私生子ナリ父カ認メタルトキハ之ヲ庶子(第八二七條)
ト稱スルナリ而シテ嫡母トハ父カ認知シタル私生子即チ庶子ヨリ指ス所ノ母
ノ名稱ナリ此等天然ノ血縁ナキ者モ亦法律ノ規定ニ依リテ親子間ニ於ケルト
同一ノ關係ヲ生ヌ第七二八條(人事編第二三條)

繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トノ關係ハ親子ノ關係ニ等シキカ故ニ法律カ特
ニ例外ヲ設ケタル場合ノ外ハ親子ノ關係ニ關スル法律ノ規定ハ總テ皆繼父

母ト繼子嫡母ト庶子トノ間ニモ其適用ヲ受クヘキナリ法律カ特ニ設ケタル例
外トハ第七百七十三條繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親
族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得之ニ反シテ實父母カ同意セサルトキハ
子ハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(第八百九條繼父母又ハ嫡母カ繼子又ハ庶子ノ協議
上ノ離婚ニ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ヲ爲スコトヲ得實父母
カ同意ヲ爲サルトキハ離婚ヲ爲スコトヲ得ス)第八百四十三條繼子又ハ庶子ノ
カ養子縁組ヲ爲ス場合ニ於テ繼父母又ハ嫡母カ之ニ代リテ承諾ヲ爲シ又ハ同
意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス實父母ナルトキハ此ノ如キコト
ナシ第八百六十三條滿二十五年ニ達セサル繼子又ハ庶子カ離縁ヲ爲ス場合ハ
離婚ヲ爲ス場合ニ同シテ規定ノ如キ是ナリ

○親族關係ノ消滅 親族關係カ天然ノ原因ニ依リテ生シタルトキハ如何ナル
原因生スルモ消滅スルコトナシ例ヘハ夫婦ノ間ニ子アリ婦カ離婚ニ因リ夫ノ
家ヲ去リタリトモ其母子ノ親族關係ハ依然存續スルモノニシテ之カ爲メニ毫
モ變更スルコトアラサルナリ之ニ反シテ人爲ノ原因ニ依リテ生シタル親族關係

係ハ之ヲ生シタル原因ノ消滅シタルトキハ亦消滅スルモノトス人爲ノ原因ニ依リテ生スル親族關係トハ夫婦親族繼父母ト繼子、嫡母ト庶子トノ關係、養子ト養親及ヒ其血族トノ關係是ナリ而シテ夫婦間ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム是レ離婚ノ性質ヨリ來ル當然ノ結果ナレハ別ニ法ノ明文ヲ俟タス之ニ反シテ姻族其他ノ關係ノ消滅原因ハ特ニ條文ヲ以テ之ヲ明カニシタリ即チ左ノ如之姻族關係及ヒ繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於ケル親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ(第七二九條人事編第二五條第二項)

元來夫婦及ヒ姻族ノ親族關係ハ婚姻ニ因リテ生シタルモノナレハ其婚姻ニシテ解止シタル以上ハ其關係ノ消滅スルハ普通ノ道理ナリ然ルニ外國法律(獨逸)ノ中ニハ夫婦關係ノ消滅ニ因リテ姻族關係ノ消滅ヲ來サナルモノアリト雖モ我法律ハ之ヲ認メサルナリ然レトモ以上ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ消滅スヘシト雖モ之カ爲メニ全ク婚姻アラサリシ以前ト同一ナルモノニ非スシテ幾分カ其效果ヲ存スルモノアリ第七百七十條ノ規定ニ從ヘハ直系姻族ノ間ニ於テ

ハ姻族關係ノ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス又民事訴訟法第二百九十七條ノ證言ヲ拒ムヲ得ヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ[○]族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ仍ホ其解除心ナル場合ト同シク證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノトセリ又刑事カ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合ヲ規定シタル同法第三十二條ニ[○]姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ刑事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ其配偶者ト親族ナリシトキハ同シク除斥セラル又執達吏規則明治二十三年七月法律第五一號第八條ニモ執達吏カ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルニ付キ右刑事ニ於ケルト同シキ規定アリ

我邦從來ノ慣習ニ依ルトキハ姻族關係ハ婚姻ノ解除ニ因リテ止息セリト雖モ夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ニ残存スルトキハ其關係依然トシテ變更スルコトナシ然レトモ若シ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキハ姻族關係ハ消滅スルモノトシタルヲ本法モ此慣習ヲ採用シテ第二項ノ規定ヲ設ケタリ而シテ前條ノ親族關係即チ繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間

ニ於ケル關係ハ親ノ婚姻ニ因リテ生シタルモノナルカ故ニ其離婚ニ因リテ亦此關係ノ消滅スルニ至ルモノトスルヘ至當ナリト云フヘシ然レトモ本家相續分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ハ其家ト親族關係ヲ絶ツモノトセサルヲ以テ此場合ニ於テハ本條ノ規定ノ適用ヲ受ケサルナリ
養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離縁ニ因リテ止ム——第七百三十條第一項
離婚ニ因リテ姻族關係カ消滅スルト同シク養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係カ離縁ニ因リテ消滅スルハ離縁其モノノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ何トナレハ離縁トハ養子緣組ノ效力ヲ解除スルモノナレハ最初縁組ニ因リテ生シタル效力即チ養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ從テ縁組ノ日ヨリ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ生シタル血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係消滅スヘケレハナリ
養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム——第七百三十條第二項
養父又ハ養母ハ元來養家ノ人ニ非シテ婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ヨリ

入りタル場合ニ於テハ其者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルコトアリ此場合ニ於テハ其養親ハ全タ養家ト親族關係ヲ絶ツモノナレハ其養家ニ殘存スル養子トノ關係モ亦之ト同時ニ消滅セサルヘカラズ而シテ養子ト養親ノ血族トノ關係ハ養子ト養親トノ親族關係アルカ爲メニ生セシモノナレハ其親族關係ニシテ消滅スル以上ハ之ト同時ニ養子ト養親ノ血族トノ關係モ消滅スヘキハ自ムノ道理ナリ

養子ノ配偶者直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム——第七百三十條第三項
養子離縁ノ場合ニ於テ養子ノ養家ヲ去リテ其配偶者及ヒ卑屬カ養家ニ殘存スルコトアリ又ハ其配偶者及ヒ卑屬モ養子ト共ニ其家ヲ去ルコトアリ第七四五條第八七六條而シテ養子ノ配偶者及ヒ其卑屬カ養子ト共ニ養子ノ離縁ニ因リテ家ヲ去ルトキハ此等ノ者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ノ消滅スルハ是レ亦自然ノ道理ナリ何トナレハ此等ノ者カ養子ノ養親及ヒ其血族ト親族關係

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ及ヒ養
親カ養子ヲ去リタルトキニ於ケル親族關係消滅ノ例外夫婦ノ一方カ死亡シ
其生存配偶者カ縁合其家ヲ去リタリト雖モ其去リタルヤ其實家ニ歸リタルニ
アラスシテ本家相續分家及ヒ廣家絶家再興ノ爲メナルトキハ疊ニ説キタル第
七百二十九條第二項第七百三十條第二項ノ原則ノ適用ヲ受クハキモノニアラ
ニ於テ仍乎其關係ノ存ヌヘキ理由アラサレハナリ然レトモ養子ノ配偶者カ其
家ノ家女ニシテ養子ト共ニ家ヲ去リタルトキ養親ト血緣アルニ於テハ其血緣
ハ之カ爲ミニ消滅スヘキモノニアラス故ニ此場合ニハ右規定ノ適用ヲ受クル
モノニアラス又養子ノ配偶者タル家女ト養子トノ間ニ子ヲ擧ケ養子離縁ノ際
家女ハ其家ニ留リ其子ノミ養子ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ此母子ノ血緣ハ
之カ爲ミニ消滅スルモノニアラス要スルニ一旦婚姻ニ因リテ生シタル血緣ハ
養子離縁ト其ニ離婚ヲ爲シタリト雖モ之カ爲ミニ其血緣ノ關係ニ變更ヲ生ス
ルモノニアラサルナリ

第一章 戶主及七家族

ス此場合ニ於テハ依然親族關係へ特續スヘキナリ仰モ婚姻又ハ養子縁組ノ因リテ他家ヨリ入リタル者カ其姓家又ハ養家ヲ去ルハ概シテ船家又ハ養家トノ親族關係ヲ絶ツ意思ナルヲ通常トスレトモ本家相續分家相續又ハ廢家絶家再興ノ爲メニ其家ヲ去ル場合ニ於テハ右ノ如キ昔通ノ意思ヲ有スルモノトハ推定スルヲ得ス此ノ如キ場合ニ於テハ家族制度ノ廣キ意味ニ於テ同一家族トシ依然其家ニ在ルト同一ニ視サルヘカラサルフ以テ第七百三十一條ニ此例外ヲ設ケタリ

第二章 戸主及ヒ家族
本章ニ於テハ戸主ト家族トノ關係ヲ示シ併セテ如何ナル人カ戸主ニシテ又如何ナル人カ家族ナルカ定ム而シテ本章ヲ分チテ三節ト爲ス第一節則則第二節戸主及ヒ家族ノ權利義務第三節戸主權ノ喪失是ナリ

本節ニ於テハ戸主權取得ノ原因及ヒ家族ト爲ル事由ヲ掲ケ當然家族タル者及ヒ甲家ヨリ轉シテ乙家ニ入ル者ヲ規定シ且ツ家ヲ轉スルニ付キ必要ナル條件ヲ定メ併セテ女戸主ノ入夫婚姻新家ノ創立ノ如キ戸主權取得ノ特別原因ヲ掲ク但シ戸主權取得ノ普通原因ハ家督相續ニシテ相續幅ノ目的ナレハ戸主權取得ノ原因ニ付テハ其特別ナルモノヲ掲クルニ過キサルナリ
○戸主 戸主トハ一家ニ長タル者ヲ謂フ此長タル者トハ年齢ヨリ之ヲ謂フニ非スシテ其家ニ主權ヲ有スル點ヨリ謂フモノナリ例へハ父カ隠居シ子カ其跡ヲ繼キタル場合ニ於テハ子カ家長即チ戸主ニシテ其家ニ付テハ主權ヲ有スルナリ
○家族 第七百三十二條第一項 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス八事編第二四三條第一項
茲ニ所謂家トハ有形上ノモノヲ指スニ非ス換言スレハ居住ヲ同シウスルヲ謂ニ非スシテ法律上ノ家即チ無形ノモノヲ指スナリ
法律上家族タルモノハ戸主ナリ親族若クハ其配偶者タルコトヲ要ス而シテ此親

族トハ第七百二十五條ニ在ル六親等内ノ者ヲ指スヲ以テ戸主ノ親族ナリト雖モ六親等以外ノ者ハ家族タラサルナリ又其親族ハ戸主ト家ヲ同シウスルニ非サレハ家族タラサルナリ是ヲ以テ六親等以外ノ親族又ハ從來戸主ノ附籍尼介籍等ニ在リシ者ノ如キハ右ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ家族ト稱スルヲ得ス然レトモ新民法ノ此規定ニ適セスシテ家族タラサルモノト雖モ民法施行ノ際家族タリシ者ハ民法施行法第六十二條ニ從ヒ家族タルヨトヲ得
戸主ハ死亡隠居又ハ入夫婚姻等ニ因リ變更スルヨトアリ其場合ニ於テハ舊戸主ノ家族タリシ者ハ新戸主ト何等ノ親族關係ヲ有セサルニ拘ラス舊戸主ト共ニ新戸主ノ家族タルナリ第七三二條第二項
○當然家族タル可き者—第七百三十三條第一項、第二項、子ハ父ノ家ニ入ル父ノ知レサル子ノ母ノ家ニ入ル子ハ父ノ家ニ入ル父子ハ嫡出子タルト庶子タルト養子タルトヲ問ハス常ニ其父ノ家ニ在ルヲ以テ原則トス然レトモ此原則ヲ以テ子ハ當ニ父ニ附隨ス可モモト解ス可カラズ若シ父カ入夫ニシテ離婚ヲ爲シ又ハ養子ニシテ離縁ヲ爲シテ婚家又ハ養家ミ

去ルトキハ子ハ當然父ニ隨從シテ父ノ家ニ入ル可キモノニアラス故ニ此規定
ハ子タル身分ノ定リタルトキニ適用セラルルニ遇キサルナリ
父ノ知レサル子カ母ノ家ニ入ルハ當然ナリ是レ專ラ私生子ノ場合ニ係ル然レ
トモ父母共ニ知レサルトキハ入ル可キ家ナキヲ以テ其子ハ一家ヲ創立ス(第七
三五條第三項人事物編第二五五條)而シテ此規定ハ主トシテ迷子棄子等ニ適用セ
ラルモノニシテ是レ戸主權取得ノ一ノ特別原因タルナリ又長ク無籍ニシテ
其父母ノ知レサル者モ同シク此適用ヲ受ク可キナリ
子ハ父ノ家ニ入ルトノ原則ハ父カ子ノ出生前ニ在リテ離婚(入夫ノ場合又ハ離
縁ニ因リテ嫁家又ハ養家ヲ去リタル場合ニ於テ直チニ之ヲ適用スルトキハ離
ハ出生スルヤ直ニ之父カ屬セル家ニ入ル可キカ如シト雖モ是レ從來我邦ノ慣
習ニ反スルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テハ子ハ懷胎ノ始メニ遡リ當時父カ屬セ
シ家即チ母ノ家嫁家養家ニ入ル可キモノトセリ(第七三四條是レ右原則ノ例外
タリ然レトモ養子カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルニ當リ若シ同時ニ離婚ナキトキ
ハ妻モ亦隨フテ其家ヲ去ル可シ(第七四五條此ノ如キ場合ニ於テ子ヲ養家ニ入
ハ妻モ亦隨フテ其家ヲ去ル可シ)

ルモノトスルトキハ父母共ニ在ラスシテ子ノ爲メ甚タ不利益ナルヲ以テ前原
則ヲ適用シ子カ出生ノ時父カ屬スル家即チ父ノ實家ニ入ル可キモノトセリ然
レトモ此規定モ或場合ニハ適用ス可カラサルコトアリ即チ一旦父ト共ニ家ヲ
去リタル母カ協議上ニ離婚ヲ爲シテ生家ニ歸ルカ或ハ三個月内ニ離縁ヲ理由
トシ離婚ノ訴第八一三條第一〇號第八一八條第二項ヲ提起シテ子ノ出生前ニ
復籍ヲ爲シタルトキハ右例外ノ規定ニ從ヒ養子ヲ父ノ舊婚家養家ニ屬セシム
ルヲ委當ト爲シ第二項ノ規定ヲ設ケタリ
以上ハ當然家族タル者ナルカ其外尙ホ轉籍ニ依リテ家族タルモノアリ即チ左
ノ如シ

(一) 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得
ス(第七百三十五條第一項)
子ハ父ノ家若クハ父知レサルトキハ母ノ家ニ入ルヲ常トシ又其父若クハ母ノ
戸主タラサル場合ニ於テモ其子カ婚姻ニ因リテ生レタル者即チ嫡出子ナルト
キハ戸主タル者之ヲ自家ノ家族ト爲スコトヲ拒ムノ權ナシト雖モ家族カ婚姻

外ニ於テ庶子、私生子ヲ擧ケタルトキハ是レ倫理ニ悖レルモノナルカ故ニ戸主タル者之ヲ自家ノ家族トシテ扶養シ教育スルノ義務ナシ是ヲ以テ家族ノ庶子私生子ヲ家族ト爲スニハ戸主ノ同意アルコトヲ要スト爲シタル所以ナリ
 (二) 庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス——第七百三十五條第二項第三項
 家族ノ庶子其父ノ認知ヲ受ケタリトモ戸主ノ同意ヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル母ノ家ニモ入ルコトヲ得サルトキ又ハ父ノ認知ヲ受ケサル私生子カ母ノ家ノ戸主ノ同意ヲ得サルヨリ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ別ニ一家ヲ創立スルヨリ外途アラサルヲ以テ右ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ
 (三) 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家の戸主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス——第七百三十六條人事編第二五八條
 入夫カ女戸主ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ戸主權ヲ入夫ニ譲ルハ我邦古來ノ慣習タルト入夫ノ婚姻ノ場合ニ於テ一家内ノ主權カ常ニ婦ニ存スルトスルハ

一家組織ノ變態ニ屬スルトノ理由ヲ以テ本法ハ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ入夫カ其家ノ戸主タルヲ原則ト爲セリ是レ戸主權取得ノ特別ノ一原因ナリ
 然レトモ女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ女子ノ戸主タルコトハ必スシモ禁ス可キモノニ非サレハ當事者間ニ在リテ女子ヲシテ戸主ヲ繼承セシムルコトノ意思ニ合フコトアル可キヲ以テ當事者カ其意思ヲ表示シタル場合ニ於テハ女戸主ハ依然戸主ニシテ入夫ハ其家族タルモノトス(第三十八條)
 (四) 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得——第七百三十七條第一項八事編第二五四條、第二五六條第二項
 戸主ノ親族ニシテ甲家ヨリ乙家ニ轉籍スルコトハ從來ヨリ慣習トシテ行ハル所ニシテ之ヲ認許スルトモ別ニ弊害アルヲ見サルカ故ニ之カ規定ヲ設ケタリ例ヘハ養子縁組若クハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者其配偶者死亡シタル後其子ヲ連レテ實家ニ復歸スルカ如キ場合はナリ此場合ニ於テ戸主ハ新ニ之カ扶養ノ義務ヲ負フカ故ニ其同意ヲ得サル可カラス而シテ其者カ他家ノ家族タルトキハ尙ホ其家ノ戸主ノ同意ヲモ得サル可カラス又他ノ家族ト爲ル可キ

者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得サル可カラス此等ノ者カ未成年者ノ法定代理人ナルコトハ民法ノ總則ニ規定スルヲ以テ其同意ヲ得ルコトヲ要ス可キ旨ヲ特記スルヲ要セサルモノノ如シト雖モ父母後見人ハ財産ニ付テノミ法律上未成年者ヲ代表スルモノニシテ人事ノ如キニ至リテハ當然之ヲ代表ス可キ者ニ非ナルヲ以テ特ニ其代表ノ規定ヲ設ケタルナリ

(五) 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス——第七百三十八條第一項入夫、妻、養子等ノ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ自己ノ親族ニシテ配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル者例ヘハ曾テ實家ニ在リテ他ノ配偶者トノ間ニ舉ケタル子又ハ私生子ヲ連子トシテ婚家又ハ養家ニ連レ行クコトハ從來往往之アルヲ見ル所ニシテ是レ亦藝ス可キニアラサレトモ此場合ニ於テハ前ニ説キタル轉籍ノ場合ニ於ケル規定ノ外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ要ス

ルハ勿論ナリ而シテ右ノ例ニ於ケル連子ハ配偶者ヨリ見レハ姻族關係ヲ有スルカ故ニ本條ノ適用ヲ受ケサルモノノ如シト雖モ本條ハ此ノ如キ意味ヲ以テ解ス可キヨノニ非ス其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族トハ配偶者ニ付テ云ヘリ縱令姻族關係ヲ有スト雖モ其血族ニ非サルモノト解セサル可カラス否ラサルニ於テハ自己ノ四親等以外ノ者即チ其配偶者ト姻族關係ヲ有セサル者ナラサル可カラス否ラサルモノニシテ此ノ如キ親等ノ遠キ者ヲ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ其婚家ノ家族ト爲サント欲スルカ如キハ實際上極メテ稀ナル可ク之ニ反シテ四親等以内ノ者ヲ其婚家ニ入ルコトハ尠少ナラヌルモ其家ニ入ル可キ者カ配偶者ト姻族ナルノ故ナリ以テ其配偶者ノ同意ヲ得スシテ可ナリトスルトキハ家内ノ平和ヲ破ル可キヲ以テ此場合ニ於テハ其配偶者ノ同意ヲ得サル可カラサルモノニシテ是レ本條ニ規定スル場合ノ中ナリ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ其養家ニ自己ノ親族ヲ入ル場合モ亦之同シキナリ

(六) 婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト

爲サント欲スルトキ亦同シ——第七百三十八條第二項

前ノ場合ハ自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲スニ在リ婚家又ハ養家ニ於反シテ婚家又ハ養家ニ在ル卑屬ヲ實家ノ家族ト爲スニ在リ婚家又ハ養家ニ於テ生ミタル子ハ父若クハ母カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リ又ハ更ニ婚姻若クハ離縁組ニ因リテ他家ニ入ルコトアルモ當然父若クハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ルモノニアラナルコトハ異ニ説キタルカ如クニシテ此規定ハ絶対ニ適用ス可キモノニアラナルコトハ異ニ説キタルカ如クニシテ此規定ハ絶対ニ適用ス可ルニ於テハ父若クハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ルヲ許サツル可カラス

○實家復籍——第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合はテハ實家ニ復籍ス

異ニ説キタルカ如ク婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ離婚又ハ離縁シタルトキハ之ニ因リテ其配偶者養親及ヒ其血族ニ對スル親族關係ハ消滅スルモノナルカ故ニ其婚家又ハ養家ノ家族タル事由モ亦離婚又ハ離縁ニ因リテ消滅スルモノニシテ其場合ニ於テハ實家ニ復籍ス是レ我邦從來ノ慣習ニ

基キタル規定ナリ

茲ニ規定スル所ハ離婚及ヒ離縁ノ場合ノミナルカ婚姻及ヒ養子縁組カ無效アル場合第七七七八條第八五一條又ハ取消サレタル場合第七七九條第八五二條ヘ於テモ離婚又ハ離縁ノ場合ト同シテ實家ニ復歸スルモノトス時ニ之ニ關スル明文ヲ掲クサレトモ無効ノ場合ニ於テハ最初ヨリ婚姻又ハ養子縁組ハ成立セサルモノニシテ取消ノ場合モ最初ヨリ無効ナリシモノト看做サルルカ故第一二一條法文ヲ俟タスモテ明カナルヲ以テナリ

右ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍セントスルモ實家カ廢絶シテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ入ル可キアラサルヲ以テ別ニ一家ヲ創立スルカ若クハ其實家ヲ再與スルノ外途アラサルナリ(第七四〇條人事物編第二四九條)

○再婚及ヒ再縁組 従來ノ慣習ニテハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラントスルニハ一旦其實家ニ復歸シタル上ニ非サレハ許サレサリント雖モ新法典ハ是レ徒ニ煩勞ヲ重ヌルモノトシ婚家養家及ヒ實家片主ノ同意ヲ得ルニ於テハ婚家又ハ養家ヨリ直

テニ他ノ婚家又ハ養家ニ入ルヲ得ルコトセリ(第七四一條、人事編第二四七條)

第二項、第二四八條)

此場合ニ於テ二個ノ注意ヲ要スルモノアリ即チ婚家又ハ養家ヲ去リタル者ト
婚家又ハ養家トノ親族關係ハ依然繼續ス可キヤ將タ消滅ス可キヤ又再婚姻又
ハ再縁組ヲ爲シタル者カ離婚又ハ離縁スルトキハ前ノ婚家又ハ養家ニ復籍ス
ヘキヤ將タ實家生家ニ復籍ス可キヤ

(一) 婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者ノ死亡シタルヲ以テ其家ヲ去
リタルトキハ更ニ其婚家ヨリ他家ニ嫁シタルト寶家ニ復歸シタルヲ問フコ
トナク其親族關係ハ第七百二十九條第二項ノ規定ニ依リテ消滅ス可キヤ論コ
俟タルナリ之ニ反シテ養子カ縁組ニ因リテ養家ヨリ更ニ他家ニ入ル場合ニ
付テハ右婚姻ノ場合ニ關スルカ如キ規定アラサルヲ以テ養子ト前養家トノ親
族關係ハ之カ爲メニ消滅セサルモノト云ハサル可カラス是レ婚家ヲ去リタル
者ニ關スル場合ト權衡ヲ得サレトモ蓋シ養親カ養子ヲ爲スハ強チニ之ヲ其家
ニ留メ水ク其家族ト爲サンカ爲メニ非シテ養子ノ幼少ノ頃之ヲ養育シテ後

更ニ他家ノ養子ト爲スコトアルハ從來往往見ル所ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ
於テハ依然其親族關係ヲ繼續セシメント欲シタルニ外ナラサルナリ

(二) 一旦婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁
組ニ因リテ其家ヨリ他家ニ入リタル場合ニ於テ離婚又ハ離縁ヲ爲シタルトキ
ハ最初ノ實家ニ復歸セシテ初メ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ入リタル家第一
ノ婚家又ハ養家ニ復歸スヘキナリ蓋シ第二ノ婚姻又ハ養子縁組ニ付テハ右ノ
家ハ實家ト看做スヘケレハナリ

再婚姻又ハ再縁組ハ婚家養家又ハ實家ノ戸主カ同意ヲ爲ササル場合ト雖モ之
ヲ爲スコトヲ得然レトモ此場合ニ於テ同意ヲ爲ササル戸主ノ爲メニ再婚姻又
ハ再縁組ヲ爲サント欲スル者ニ對シテ制裁ヲ與ヘサルヘカラス是ヲ以テ同意
ヲ爲ササル戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一个年内ニ自家ニ復籍スルヲ拒
ムコトヲ得ルモノト爲シタリ

○離籍及ヒ復籍ヲ拒絶セラレタル家族 法律ハ離籍ニ付キ二個ノ場合ヲ規定
セリ其一ハ家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ居所ヲ定メタル場合第七四九條第三

眞他ノ一ハ家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタル場合第
七五〇條第二項是ナリ又復籍拒絕ニ付テハ義ニ説キタル第七百四十一條ノ場
合及ヒ家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタル場合第750
條第二項ヲ規定セリ此等ノ場合ニ於テ離婚セラレタル家族及ヒ實家ニ入ルヘ
キ者ニシテ復籍ヲ拒絶セラレタル家族ハ入ルヘキ家アラザルヲ以テ一家ヲ創
立スルヨリ外ニ途アラザルナリ他家ニ入りタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚
又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキモ亦同一ナリ(第七四二條人事編第二四
九條、第二五〇條)

○他家相續分家及ヒ廢絶家再興—第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルト
キハ他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家分家同家其他親族ノ家ヲ再
興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ル
コトヲ要ス

此規定モ我邦ノ慣習上認ムル所ナリ今規定ノ各場合ニ付キ一言セシ

(一) 他家相續 第九百七十九條ノ規定ニ從ヒ家督相續人トシテ指定セラレタ

- (二) 分家 従來戸主ノ籍ニ從属セシ者其羈絆ヲ脱シ自ラ獨立シテ一家ヲ創立
スルハ分家ナリ而シテ法定ノ推定家督相續人ハ分家ヲ爲スコトヲ得ス(第七四
四條然レトモ其他ノ場合ニ於テハ分家ヲ爲スコトヲ得ル)
- (三) 廢絶家 廢絶家ト絶家トハ同一ナルモノニ非ス廢家トハ戸主カ故ラニ其家
ヲ消滅セシメタルモノヲ云フ例へハ分家シテ一家ヲ創立セシ者カ本家ニ復歸
シテ其家ヲ廢セシカ如キモノ是ナリ又絶家トハ戸主ヲ失ヒタル家カ相續スヘ
キ者ナクシテ自然ニ消滅セシモノヲ云フ
- (四) 同家 同家トハ同一ノ家ヨリ岐レタル數多ノ分家アル場合ニ於テ其分家
間ヲ云フ者ニ本家分家又ヒ他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得然レトモ之
家族ハ廢絶シタル本家分家同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得ル
- カ爲スニハ戸主ノ同意アルコトヲ要ス入ハ同意シ樹立シテ本家ヲ再興スル者
成年者ハ單ニ戸主ノ同意アルニ於テハ以上ノ如ク他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ

廢絶シタル家ヲ再興スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ未成年者ナルトキハ戸主ノ外尙ホ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス未成年者カ此等ノ者ノ同意ヲ得ルコトハ堯ニ第七百三十七條第二項ニ付キ説キタルカ如ク此等ノ者カ未成年者ノ法定代理人タルハ其財産ニ付テノミ然ルモノナルヲ以テ特ニ本條ノ如キ規定ナキニ於テハ當然總則ノ規定ヲ適用スルコト能ハナリ

家族中普通ノ者ハ右ニ叙述スルカ如ク戸主ノ同意アルニ於テハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得可シト雖モ法定ノ推定家督相續人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトハ許サレサルナリ第七四四條是レ他ナシ我邦ハ古來家フ重ンスルノ風俗ナルヨリシテ法律ノ規定ニ依ルノ外ハ法定ノ家督相續人ノ廢除ヲ爲シ(第九七五條)又ハ其相續權ノ抛弃ヲ爲ス(第一〇二〇條)コトヲ許サブルモノナレハ縱令戸主ノ同意アルトキト雖モ法定ノ推定家督相續人ニハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ許サフルナリ

然レトモ此原則ニハ二個ノ例外アリ其一ハ分家ヨリ入りテ本家ヲ相續スル事

合他ノ一戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻シ又ハ養子ヲ爲シタルニ因リ離籍セラレタル場合是ナリ第一ノ場合ハ從來ノ習慣ニ基クモノニシテ本家分家ノ間ニ於テハ本家ヲ重ンシ本家ヲ相續スル必要アル場合ニ於テハ分家ノ戸主スラ裁判所ノ許可ヲ得テ本家ニ入ルコトヲ得(第七六二條)モノナレハ本家相續ノ必要アル場合ニ於テハ法定ノ推定家督相續人ト雖モ之ヲ相續スルコトヲ許サル可カラス第二ノ場合ニ於テハ家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ自ラ婚姻ヲ爲シ又ハ養子縁組ヲ爲ストキハ或ハ戸主ノ不適當ナリト信スル配偶者又ハ養子ヲ迎ヘ之カ爲メニ其家ノ血統ヲ棄リ或ハ相續權ヲモ戸主ノ不適當ナリト信スル者ニ與フルニ至ル可キカ故ニ此場合ニ於テ戸主ハ法定ノ推定家督相續人タリト雖モ其家族ヲ離籍シ又ハ其家族カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタルトキハ其復籍ヲ拒絕スルコトノ權利ヲ戸主ニ與ヘサレハ戸主権ニ制裁ナキヲ以テ此第二項ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル—第

七百四十五條

夫婦ハ居ヲ同シクシ家ヲ同シウスルコトヲ要スルモノナレハ夫カ他家ニ入り若クハ一家ヲ創立スル場合ニ於テ離婚セナル以上ハ妻カ之ニ隨從ス可キモノナルコトハ夫婦タル性質ノ上ニ於テ然ル可キノミナラス亦從來ノ慣習上ニ於テモ然ルヲ以テ此規定ヲ設ケダリ

第二節 戸主及ヒ家族ノ権利義務

本節ニ於テハ戸主ト家族トノ権利ヲ明カニシタルモノニシテ戸主權ノ範圍其行使ノ方法等ヲ定メタリ

○氏 第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス(人事編第二四三條第二項)

氏ハ家ニ屬スル名稱ニシテ之ヲ以テ他家ト區別ヲ爲ス我邦從前ノ慣習ハ支那ニ倣ヒ嫁シテ人ノ妻ト爲リタル後ト雖モ仍ホ生家ノ氏ヲ稱セシカ本法ハ氏ヲ以テ専ラ家ニ屬スル名稱ト爲シ同一ノ家ニ在ル者ハ皆同一ノ氏ヲ稱スルコトヲ要セシメタリ此ノ如クスルトキハ同家族内異ナリタル氏ヲ稱スル者ナキニセリ

至リ紛ハシキコトアラサルナリ

○戸主ノ義務 第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ(人事編第二四四條)

扶養ノ義務トハ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサル者又ハ自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受タルコト能ハサル者ニ對シ其生活ノ資料ヲ供ジ又ハ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ教育ヲ受ケシムルノ義務ナルコトハ第九百五十九條ニ依リテ明瞭ナリ蓋シ戸主ハ家督相續ニ因リテ家ニ屬スル財産ノ全部ヲ相續スルヲ常トセルヲ以テ家族ニ對シテ此義務ヲ負ハシムルハ當然ノコトニ屬セリ

○家族ノ財産權 第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財產トス

戸主又ハ家族ノ號レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ戸主ノ財產ト推定ス(人事編第二四五條)

家族ハ自ラ職業ヲ爲シテ財產ヲ取得スルコトアリ又ハ遺產相續遺贈若クハ贈

與其他ニ因リテ財産ヲ取得スルコトアリ而シテ家族カ其名義ヲ以テ財産ヲ取得シタルコト明カナルトキハ之ヲ其所屬ト爲スハ條理上ニ於テモ亦從來ノ慣習ニ於テモ然ルヲ以テ此規定ヲ設ケタリ而シテ家族ノ有スル財産ハ戸主ニ關係ナキヲ以テ戸主又ハ他ノ家族ノ負擔シタル債務ノ辨済ニ充テラルコトナキナリ然レトモ戸主家族ハ通常一家ニ同居スルカ故ニ一家中其孰レニ屬スル財產ナルヤ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ法律ハ之ヲ戸主ニ屬スルモノト推定セリ何トナレハ我邦從來ノ家族制度ヨリ云へハ戸主ハ祖先傳來ノ家産ヲ舉ケテ之ヲ相續スルヲ常トスルカ故ニ一家中ノ財産ハ皆其有ニ屬スルヲ本則ト認メサルヲ得サレハナリ

○家族ノ居所ヲ指定スル權——第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス(人事編第二四四條)

戸主ハ家族ニ對シ監督權ヲ有スルカ故ニ戸主ノ自ラ指定シタル居所ニ在ラバ之ヲ行使スルコトヲ得サルヲ以テ家族ハ戸主ト同居シ若クハ其許諾ヲ得タル所ニ居ラサル可カラス

此規定アルニ拘ラス家族カ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラスシテ自己隨意ノ所ニ居ルコトアリ此場合ニ於テハ之ニ加フル制裁ナカル可カラス即チ戸主ノ家族ヲ扶養スル義務ハ戸主權ト相伴フ可キモノナレハ若シ戸主ニシテ事實上其戸主權ヲ行フコト能ハサルニ拘ラス尙ホ扶養イ義務ノミヲ負ハシム可キ理ナキヲ以テ此場合ニ於テハ家族カ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ルコトセリ
法律ハ右ノ外戸主ノ命ニ從ハサル家族ニ對シテ制裁ヲ加ヘタリ即チ戸主カ其命ニ從ハシシテ居所ヲ定メタル家族ニ對シテ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉ス可キ旨ヲ催告スルモ尙ホ其催告ニ應セナルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトセリ此場合ニ於テ家族ノ意思ハ戸主權ヲ脱セント欲スルモノナルコトヲ推定シ得ヘキモノニシテ家族ヲシテ自活スルコトヲ得ル間ハ隨意ニ其戸主權ヲ脱シテ自己ノ欲スル所ニ居テ其自活スルコト能ヘサルニ至リタル場合ニ於テハ其家ニ歸リテ戸主ノ扶養ヲ受クルカ如キコトヲ得セシメハ戸主權ハ實際毫モ行ハレサルニ至ル可キヲ以テ此場合ニ於テハ戸

主權ニ服セサル家族ヲ家族中ヨリ脱セシムルコトヲ得ルモノト爲シタル所以ナリ

然レトモ離籍スルコトヲ得ル此戸主權ニ、一ノ例外アリ即チ家族カ未成年者ナル場合是ナリ未成年者カ擅ニ其家ヲ出テア戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルコトアルトモ是レ未タ其思慮充分ニ定マラサレハ之ヲ以テ戸主權ヲ脱セント欲スル完全ノ意思アリト云フヲ得ス此場合ニ於テ之ニ未成年者ト同一ノ制裁ヲ加フルコトスルトキハ無類ノ徒ヲ増スノ虞アルヲ以テ此例外ヲ設ケタリ親權ヲ有スル者ハ其效力トシテ第八百八十條ニ從ヒ未成年ノ子ヲシテ其指定シタル場所ニ居所ヲ定メシム可キ權ヲ有シ戸主モ亦右叙述シタルカ如ク家族ニ對シ同一ノ權利ヲ有スルヲ以テ其家族カ未成年者ナルトキハ親權者ト戸主ト意見同一ナラサル場合ニ於テハ二者權利ノ衝突ヲ見ルニ非ザルナキカノ疑起ル可ケレハ此問題ハ親權ノ效力ニ於テ叙述スルコトセシ

○家族ノ婚姻又ヒ養子縁組ノ場合ニ於ケル戸主ノ權利—第七百五十條第一項
家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第

四六條、第二五〇條

家族ハ總テ戸主ノ監督ノ下ニ在リ且ツ其扶養ヲ受タル者ナレハ其尊屬ナルト卑屬ナルトヲ問ハス又成年者ナルト未成人者ナルトヲ問ハス婚姻ヲ爲シ又ハ養子縁組ヲ爲スニ付テハ戸主ノ同意ヲ得サル可カラス殊ニ他ヨリ妻又ハ養子ヲ迎ヘ其家ニ入レタルトキハ之カ爲メニ戸主ノ扶養ノ義務ヲ増シ又養子ニ付テハ戸主ノ不適當ト認ムル者カ其相續權ヲモ得ントスルカ如キハ不都合ノ結果ヲ生ス可シ是ヲ以テ家族ノ婚姻又ハ養子縁組ニ付テハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要スト爲シタリ然レトモ戸主ノ同意ハ婚姻又ハ養子縁組ノ要件タルニ非サルヲ以テ家族ハ戸主ノ同意ノ有無ニ拘ラス婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スコトヲ得可キナリ

右ノ場合ニ於テモ制裁ナカル可カラス若シ之ナキニ於テハ戸主權ハ實際行ハレサルニ至ル可キヲ以テ法律ハ家族カ戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りタルトキハ其復籍ヲ拒ムコトヲ爲シ又他家ヨリ妻又ハ養子ヲ其家ニ入レタルトキハ之カ離籍ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタリ

親權者モ或年齢ノ子カ其同意ナクシテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ
カ取消ヲ請求スルコトヲ得第七七二條、第七八三條、第八四四條、第八五七條
戸主ハ右戸主權ニ服從セサル者カ普通ノ家族タル場合ト法定ノ推定家督相続
人タル場合トヲ問フコトナク離籍ヲ爲スコトヲ得可キナリ
家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ戸主ヨリ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養
親ニ隨ヒテ其家ニ入ル——第七百五十條第三項

此規定ハ養子ノミニ闘スルモノナリ婚姻ニ付テハ曩ニ説キタルカ如ク第七百
四十五條ノ規定アルヲ以テ茲ニハ重複シタル規定ヲ設ケサルナリ
○戸主權ノ代理行使——第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルト
キハ親族會之ヲ行フ但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人アルトキハ此限
ニ在ラス(人事編第二五七條第二五九條)
戸主カ不在ニシテ其權利ヲ行フヲ得サルコトアリ其他ノ原因ニテ戸主カ其權利ヲ行フヲ得サルコトアリ此等
ノ場合ニ於テ親族會戸主ニ代リテ其權利ヲ行フコトヲ原則トス然レトモ戸主
ヲ得サルコトアリ

主ニ對シテ親權ヲ行フ者アルトキハ第八百九十五條ノ規定ニ依リ又後見人ア
ルトキハ第九百三十四條ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ニ於テ戸主權
ヲ行フカ故ニ其場合ニ於テハ親族會ヲシテ戸主權ヲ代理セシメサル所以ナリ

第三節 戸主權ノ喪失

戸主權ハ一家組織ノ至重ノ要素ニシテ戸主ニ屬スル權利義務ノ得喪ハ極メテ
明確ナルヲ要ス然レトモ分家ヲ爲シ其新ニ一家ヲ立ツルニ因リテ戸主權ヲ取
得スル場合ノ如キハ左程重要ナル事ニ非サレハ別ニ民法上ノ規定ヲ要セヌ又
家督相續ニ因ル戸主權ノ取得ハ相續編ノ規定ニ依リテ明白ナルヲ以テ本章ニ
ハ特ニ戸主權ノ取得ニ關スル規定ヲ設タル必要アルコトナシ之ニ反シテ戸主
權ノ喪失ニ付テハ其原因種類ニシテ法律ノ明文ヲ以テ特ニ之ヲ規定スルコト
ヲ必要トル事項少シトセサルナリ而シテ戸主權ノ喪失ハ戸主ノ死亡・失踪又
ハ國籍ノ喪失ニ依リテ生スルコトアリ女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シ若クハ入夫婚
姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者カ離婚ヲ爲スニ因リテ生スルコトアリト雖モ此

等ハ倘ニ特ニ規定スル所アルヲ以テ別ニ明文ヲ以テ茲ニ之ヲ規定スルノ必要アラナルナリ然レトモ之ニ反シテ戸主カ隠居ヲ爲シ又ハ一家ヲ廢絶セシムルコトニ因リテ戸主権ヲ喪失スル場合ノ如キハ他ニ之ヲ規定ス可キ適當ノ場所ナキヲ以テ本章ニ其規定ヲ設ケ隨意ニ其戸主権ヲ拠棄シテ濫ニ公私ノ利益ヲ害スルコトナカラシムルヲ要ス是ヲ以テ此第三節ヲ設ケタルナリ

○隠居——第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隠居ヲ爲スコトヲ得ス

一 満六十年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト(財產取得編第三〇六條)

隠居ハ我邦古來ノ慣習ニシテ戸主カ隠居ヲ爲スノ原因ハ種種アル可ク昔時ニ在リテ士族ハ身體老衰シテ奉公ヲ爲ス能ハサルヨリ戸主権ヲ其子ニ讓リテ退隱シタリ又一般ニ於テハ老衰シタル戸主カ自ラ家政ヲ執ルコト能ハサルニ至ルトキハ退隱スルヲ常トスレトモ或ハ然ラスシテ少壯有爲ノ戸主自己ノ安逸

ヲ計リ隨意ニ其戸主権ヲ譲リ其力ヲ公私ノ利益ニ盡ササルカ如キコト之ナドトセヌ又商工業ヲ營ム者失敗ノ際其財産ヲ悉シ債權者ヨリ差押ヘラレ失敗ノ影響ヲ家産ニ及ボサンコトヲ恐レテ戸主権ヲ譲ルコトアリ而シテ其原因ノ少壯有爲ノ者カ安逸ヲ計リ又ハ不正ニ債權者ヲ害スル等公益ヲ害シ惡弊アルモノハ許スコトヲ得可カラスト雖モ之ニ反シテ老年病氣等其原因ノ正當ナルモノハ之ヲ禁ス可キモノニ非サレハ新法ハ之ヲ許シテ弊害ノ生セサランコトヲ慮リ或條件ヲ設ケテ之ヲ認メタリ其各條件ニ付キ之ヲ左ニ詳述ゼン

第一 戸主ノ年齢滿六十年以上ナルコト

此年齢ニ達スルトキハ老衰シテ自ラ家政ヲ處理スルコト能ハサルモノト認メタルニ出ツルナリ

第二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ單純承認ヲ爲スコト

右第一ノ條件ノミ存スルト雖モ戸主ニ家督相續人ナキトキハ隠居ヲ爲スコトヲ許サス而シテ其家督相續人ハ完全ノ能力ヲ有スル者タラナル可カラス蓋シ戸主ニ隠居ヲ許スハ専ラ老衰ニ依リ自ラ家政ヲ執ルコト能ハサルニ由ルカ故

ニ之ニ代ハル可キ新戸主モ亦自ラ家政ヲ執ルノ能力アラサル者ナルトキハ隠居ヲ許スノ理由存セサルヲ以テナリ然レトモ其相續者カ實際果シテ家政ヲ執ルニ堪フルヤ否ヤハ一二事實問題ニ屬シ之ヲ判別スルハ至難ナレハ法律ハ完全ナル能力ヲ有スル家督相續人タルヲ以テ足レソトシ其能力者ナルト無能力者ナルトハ能力ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ定ム可キモノナレハ未成年者禁治產者準禁治產者及ヒ妻等ヲ相續人トシテ隠居ヲ爲スコトヲ得ナルナリ又繼令其家督相繼人ハ完全ナル能力ヲ有スルト雖モ相續ニ付キ單純承認ヲ爲シタル場合ナラサル可カラス若シ相續人カ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼單純承認第一〇二三條シタルニ非シテ相續ニ因リテ得タル財產ノ限度ニ於テノミ相續ヲ承認限定承認第一〇二五條シタルトキハ其隠居ニ因リテ債權者ハ損害ヲ被ルヘキヲ以テナリ

隠居ヲ爲スニ付キ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スルハ論ヲ俟タルヲ以テ耕法ハ舊民法ノ如ク之ヲ條件ト爲サスシテ隠居ノ取消ヲ規定スルニ當リ本人ノ任意ニ出テサル隠居ハ之ヲ取消スコトヲ得可キ旨ヲ規定セリ第七五九條舊民法財產取得編第三百六條ニ於テハ配偶者ハ承諾ヲ要スルコトヲ隠居ヲ爲スニ付テノ條件ノ一ト爲シタレトモ本法ニ於テハ其場合ノ如何ヲ問ハス之ヲ其條件ト爲スハ失當ト爲シタリ蓋シ戸主カ戸主権ヲ喪失スルトキハ其配偶者亦利害關係ヲ有スルコト甚タ大ナリト雖モ夫カ戸主タル場合ニ在リテ隠居ヲ爲スニ付キ妻ノ承諾アルコトヲ要スルハ我邦ノ人情風俗ニ適應セサルナリ然レトモ之ニ反シテ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲スニ當リ夫ノ承諾ヲ得セシムルハ至當ノ制限タルヲ以テ配偶者ノ承諾ハ一般ノ條件ト爲サスシテ唯有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合ニ限リタル所以ナリ(第七五五條)

法律ハ隠居ヲ爲スニ付キ右ニ舉ケタル條件ヲ具備セスシテ隠居ヲ爲スコトヲ得ル三箇ノ例外ノ場合ヲ規定セリ

一月主カ疾病本家ノ相續又ハ再興其他已ムヲ得サル事由アルトキ(第七五三條財產取得編第三〇七條)法律カ隠居ヲ爲スニ付キ要スル條件ヲ設ケタルハ實際家政ヲ執ルニ堪フル者カ溢リニ退隱シ一家斷絶スルニ至ランコトヲ恐レタルニ由ル是ヲ以テ年齢滿六十年ニ達セサル者ハ家政ヲ執ルニ堪フルト推定

ジタレトモ實際其年齢ニ達セスシテ疾病本家相續其他已ムヲ得ナル事由アリテ自ラ家政ヲ執ルコト能ハサルコトアリ又分家ノ戸主カ本家ヲ相續シ又ハ再興スルカ如キ場合ニ於テ自家ノ廢絶スルト否トニ拘ラス從來之ヲ許セシ慣習アリシヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ家督相續ノコトニ關スル條件ヲ寛大ニセサル可カラス而シテ此場合ニ於テ戸主カ隠居ヲ爲スニハ二箇ノ條件ヲ要ス

(一) 裁判所ノ許可ヲ得ルコト 隠居ニ關スル事項ハ從來行政官廳ノ管轄ニ屬セシト雖モ普通ノ條件ニ反シテ戸主カ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ果シテ其特別原因ノ存スルヤ否ヤハ裁判所ノ査定ニ依ルコトナトセリ然ラスシテ從來ノ如ク願書ヲ受理スルノミニシテ他ニ調査スルコトナク容易ニ之ヲ許ストキハ之カ爲メ本人相續人債權者其他利害關係人ノ利害ニ大ナル影響ヲ及ボス可キヲ以テ其手續ヲ鄭重ニシタルナリ

茲ニ規定セル裁判所ハ非訟事件手續法第九十條ニ規定スル隠居ヲ爲サンツスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ナリ

(二) 法定ノ家督相續人アルコト若シ之アラサルトキハ豫メ家督相續人ヲ指定

シ其承認ヲ得ルコト 戸主カ隠居ヲ爲サンツスル場合ニ於テ其家督相續人ナキトキニ於テモ之ヲ許スコトトスルトキハ其家ハ斷絶スルニ至ル結果ヲ生キテ以テ此條件ヲ設ケタルモノニシテ此場合ニ於テハ相續ニ付テ家督相續人タル可キ者カ單純承認ヲ爲シタルトヲ問フモノニ非サルナリ而シテ家督相續人カ限定承認ヲ爲シ故ラニ債權者ヲ詐害スル弊害ノ如キハ裁判所ノ許可ヲ必要トスルニ依リテ之ヲ防クニ充分ト爲シタリ若シ隠居ヲ爲サンツスル者ニ於テ右ノ如キ詐害ヲ爲サンカ爲メナルコト裁判所ニ知レタルトキハ裁判所ハ之ニ許可ヲ與ヘサル可シ

二 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキ(第七五四條第一項) 婚姻ハ人生ノ大倫ナルヲ以テ公益上ノ必要ニ基ク制限ノ外ハ各人ノ意思ニ放任セサル可カラス而シテ本法ハ女戸主ノ存在ヲ認ムルカ故ニ此者ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ストスルトキハ其結果殆ト女戸主ヲシテ婚姻ヲ爲スコト能ハサラシムルニ至ル此ノ如クスルトキハ家ヲ重ンスル趣旨ニ拘泥スレハ敢テ不都合ナキモノノ如シト雖モ之カ爲メニ私通ヲ爲シ私生ノ子ヲ生シ風俗ヲ害

スル等ノ弊害ヲ生スルヲ免レサルニ至ル是ヲ以テ女戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトハ從來モ許シタル所ニシテ本法モ之ヲ許スコトトセリ此場合ニ於テ他家ニ入ランストスル戸主ハ自家ノ戸主タル權利ヲ失フ可キコトハ當然ニシテ此事タルヤ一身一家ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有シ且フ隠居ノ普通要件ヲ具備セシテ戸主權ヲ喪失スルモノナレハ溢リニ之ヲ許ス可カラサルヲ以テ法律ハ之ヲ慎重ニシテ此場合ニ於テモ第一ノ場合ノ規定ニ從フコトトセリ即家督相續人アルカ若クハ指定シタル家督相續人カ承認シタルコト及ヒ裁判所ノ許可ヲ得ルコト是ナリ

以上ハ法律カ規定シタル理由ヲ女戸主ニ付キ説キタレトモ此第二ノ場合ハ獨リ女戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニハ限ラス男戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニモ同シク適用ス可キナリ男戸主カ此規定ニ於ケル必要ハ女戸主ノ如ク大ナラスト雖モ其婚姻セント欲スル女カ他家ノ推定家督相續人タリ若クハ戸主タルニ因リ之ヲ自家ニ入ルルコト能ハサル場合ニ於テ其婚姻ヲ禁スルハ亦人情ニ反スルヲ以テ男戸主ノ場合ニモ適用スルモノトス

戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ランストスル場合ニ於ケル普通ノ順序ハ先ツ相続人ノ承認ヲ得裁判所ノ許可ヲ經テ隠居ヲ爲シタル後ニ於テ婚姻ヲ爲スマ常トス然レトモ戸主カ隠居ヲ爲ナス其身分ヲ有スル儘ニテ婚姻ニ因リテ他家ニ入ランコトヲ届出ツルコトアリ其場合ニ於テ第七百七十六條ノ規定ニ依リ戸籍吏ハ此届出ヲ受理スルコトヲ得スト雖モ若シ誤リテ之ヲ受理シタルトキハ其婚姻ハ第七百七十五條ノ規定ニ依リ有效ニ成立スルモノトス故ニ此場合ニ於テハ或ハ婚姻ヲ解除スルカ或ハ其戸主ヲ廢止スルカ二者中其一ヲ擇ハサル可カラス而シテ婚姻ヲ解除スルハ人情ニ反スルカ故ニ寧ロ家ヲ重ンセサル戸主ノ権利ヲ失バシムルノ優レルニ如カストシ婚姻ニ因リテ隠居ヲ爲シタルモノト看做シ第二項ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

此第二項ノ法律ノ推定ヲ受タル場合ハ推定家督相續人アルコト若クハ豫メ家督相続人ヲ指定シテ其承認ヲ得ルコトヲ要セス亦裁判所ノ許可ヲ受タルコトヲ要セサルナリ

三 女戸主カ隠居ヲ爲ストキ(第七五條) 法律ハ女子モ戸主タルコトヲ認ム

レト雖モ公法上ノ關係及ヒ從來ノ慣習ニ於テモ亦家督相續ノ順位ニ於テ女子ハ男子ノ後ニ立タサル可カラサル立法ノ大旨其他女子一般ノ性質ニ於テモ女子カ戸主タルコトハ一家組織ノ變例ニ屬シ通常男子カ戸主タル可キハ疑ナキ所ナリ故ニ女子カ一旦戸主ト爲リタルトキト雖モ完全ナル能力ヲ有スル家督相續人カ相續ニ付キ單純承認ヲ爲ス以上ハ女戸主ノ年齢カ滿六十年ニ達セストモ戸主權ヲ讓リテ退隱スルヲ得セシムルハ却ラ立法上ノ本旨ニ適シ實際ノ必要ニ應スルモノトス是ヲ以テ女戸主カ隠居ヲ爲スニ付テハ年齡ニ關スル條件ノミヲ宥恕シタリ

然レトモ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合ニハ他ニ一ノ條件ヲ要ス即チ其夫ノ同意ヲ得ルヲ要スルコト是ナリ男戸主カ隠居ヲ爲スニ付キ一般ニ其配偶者ノ同意ヲ要スト爲スハ我邦ノ慣習ニ反シ亦夫婦ノ倫序ニモ背クモノナルコトハ體ニ叙述シタル所ナルカ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合ハ之ニ反シテ夫ノ同意ヲ得可キコトハ夫婦間ノ倫序ニ於テ當然ナルヲ以テ此條件ヲ設ケタルナリ」然レトモ右ノ場合ニ於テ夫ハ自己ノ利益ノ爲メニ或ハ不正ノ事由ニ基キ其承

諸ヲ與フルコトヲ拒ミ之カ爲メニ隠居ヲ爲スニ必要ナル條件ヲ具備シ且ツ實際隠居ヲ爲スコトヲ得セシム可キ事情ノ存スルニ拘ラズ女戸主カ隠居ヲ爲スニ同意ヲ與ヘサル弊ナシトセス是ヲ以テ夫ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其妻ノ隠居ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ストノ但書又加ヘタルナリ

○無能力者ノ隠居—第七百五十六條 無能力者カ隠居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

民法第四條ニハ未成年者カ法律行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ストアリヲ若シ其同意ヲ得スヤテ行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシ又第九條ニ於テハ禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシタレハ未成年者又ハ禁治產者カ其法定代理人ノ同意ナクシテ隠居ヲ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ取消スコトヲ得可キモノナリトノ解釋ヲ爲スコトナシトセス然レトモ隠居ニ關シテハ法律ハ一定ノ事由ヲ限定シ女戸主若クハ六十年以上ノ者ヲ除クノ外ハ裁判所ニ於テ隠居ヲ爲スニ付テノ事由カ果シテ法律ノ許ス可キ條件ニ適應スルヤアヤヲ査定スルヲ以テ此場合ニ於テハ無能

力者ト雖モ法定代理人ノ同意ヲ必要トス可キ理由ナシ故ニ此規定ヲ設ケタリ』
○隠居ノ效力發生ノ時期—第七百五十七條 隠居ハ隠居者及ヒ其家督相續人
ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス(財產取得編第三一〇條第三
一一條)

戸主カ隠居ヲ爲シタルトキハ爾後戸主權ヲ喪失シテ一家族ト爲リ又隠居
定日附アル證書ニ依リ其財產ヲ留保スル場合第九八八條ヲ除ク外ハ從來戸主
トシテ有セシ權利義務ヲ擧ケテ其相續人ニ移轉スルカ如キ效力ヲ生スルヲ以
テ何時ヨリ隠居ノ效力ヲ生スルカハ法律ニ於テ明文ヲ以テ規定スル必要アル
ニ付キ戸籍吏ニ届出ヲタル時ヲ以テ其時期ト爲シタルモノニシテ此主義ハ婚姻
ニ關スル第七百七十五條及ヒ養子縁組ニ關スル第八百四十七條等ノ規定ト
同シク一般ニ本法ニ採用セラレタルモノナリ

○隠居ノ取消 戸主カ法定ノ條件ヲ具備セシムテ隠居ヲ爲シタルトキハ其要
件ノ性質ニ從ヒ或ハ全ク無効ト爲ルコトアリ或ハ其效力ニ瑕疵ヲ生スルコト
アリ隠居ハ隠居者及ヒ家督相續人ヨリ之カ届出ヲ爲ササルトキ隠居者ノ意思

欠缺シタルトキ等ニ於テハ初メヨリ無効ナルモノナレトモ今茲ニ檢査スルモ
ノハ此等無効ノ場合ニ非シテ隠居ヲ爲スニ付キ瑕疵アリヲ之ヲ取消スルコトヲ得
是ナリ而シテ左ノ者ハ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

一 隠居者ノ親族及ヒ検事

二 女戸主ノ夫

三 隠居者及ヒ家督相續人

隠居取消ノ原因ハ之ヲ分チ二ト爲スコトヲ得其一ハ法律ノ規定ニ違反シタ

ル場合ニシテ他ノ一ハ隠居者ノ意思ニ瑕疵アル場合是ナリ

(一) 隠居者ノ親族及ヒ検事ハ隠居カ第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規
定ニ違反シタルトキ換言スレハ隠居ノ普通ノ場合ニ於テ隠居者カ滿六十年ニ
達セサル者ナルトキ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人ナキトキ又ハ家督相續人
カ限定期間ヲ爲シタルトキ又戸主カ正當ノ事由アリテ裁判所ノ許可ヲ得テ隠
居ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其事由カ疾病其他已ムヲ得サルニ非サルトキ又ハ家
督相續人ノ承認ヲ得サルトキ等ハ隠居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第

七五八條、財產取得編第三〇八條而シテ其取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ三个月以内ニ爲ナアルトキハ消滅ス可キナリ

隱居者ノ親族ハ其血族ナルト姻族ナルトヲ問ハス隱居取消ニ付キ利害關係ヲ有スル者ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得又検事ニ隱居ノ取消權ヲ與ヘタルハ檢事ハ常ニ社會ノ秩序ヲ保持スルヲ以テ其職ト爲スモノナレハ隱居取消ノ如ク公益ニ關スルコトニ付キ國家自ラノ機關ヲシテ之カ取消ノ請求ヲ爲サシムルコトハ當然ノ事ニ屬ス

(二) 有夫ノ女戸主カ其夫ノ同意ヲ得シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ右同一ノ期間内ニ於フ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得第七五八條第二項財產取得編第三〇九條第一項

曩ニ説キタルカ如ク有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得可キ規定アル以上ハ其同意ヲ得サル場合ニ之カ制裁トシラ夫ヲシテ隱居ノ取消ヲ得セシムルハ至當ノ規定ナリ

(三) 隱居者又ハ家督相續人ト雖モ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル

ルトキハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得(第七五九條財產取得編第三〇八條)

前ニ舉ケタル二箇ノ場合ハ隱居カ法律ノ規定ニ違反シタル場合ナレトモ此場合ハ隱居者及ヒ家督相續人ノ意思ニ瑕疵ナル場合ナリ此詐欺又ハ強迫ノ性質ハ既ニ總則編ノ法律行為ノ取消ニ關スル規定(第一一九條以下)アルヲ以テ莫解説ハ總則編ニ譲リ茲ニ之ヲ説カサレトモ隱居カ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スルハ別ニ法律ノ明文ヲ俟タスシテ明カルニ隱居者又ハ家督相續人カ他人ヨリ詐欺又ハ強迫ヲ受ケ之ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲スニ至ルコトハ往往アル所ノ事實ナリ此場合ニ於テモ詐欺又ハ強迫ヲ受ケラ普通ノ法律行為ヲ爲シタル者カ之ヲ取消スコトヲ得ルト同シタル際居ノ届出ヲ爲シタル隱居者又ハ家督相續人ニ之カ取消權ヲ與ヘアル可カラス
此取消權ハ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル後ニ於テハ隱居者又ハ家督相續人ノミニ屬シ其ノ者ニハ属セサレトモ未タ詐欺ヲ發見セヌ又ハ強迫ヲ免レサル間ハ右兩者ノ外尙ホ隱居者又ハ家督相續人ノ親族又ハ檢事ハ隱居ノ取消權ヲ有スルコトトセリ(第七五九條第二項)

此取消權ヲ設ケタル目的ハ主トシテ其瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ノ利益ヲ保護セント欲スルニ在リ故ニ其權利ヲ行使スルハ亦其瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ナラサル可カラス然レトモ瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ハ其意思ノ瑕疵アル所以ヲ知リ又ハ自由ニ意思ヲ表示シ得ルニ至リタル後ニ非ナレハ之ヲ取消スヲ得ナルナリ而シテ隠居ハ當ニ隠居者及ヒ家督相續人ニ利害關係アルノミナラス其他公私益ノ上ニ重要ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ表示者自身ニ於テ取消ヲ請求スルコトヲ得サル間ハ公益ヲ代表スル檢事及ヒ私ノ利害關係ヲ代表ス可キ隠居者又ハ家督相續人ノ親族ヲシテ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得セシム可キ必要アリ然レトモ隠居者又ハ家督相續人カ詐欺ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルコトヲ了知シ又ハ隠居ノ届出ヲ爲スモトヲ強要セラレタルモ既ニ此強迫ノ狀態ヲ脱シト得随意ニ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ル狀態ニ復シタルニ拘ラス本人ヨリ其取消ヲ請求セサルニ於テハ総合多少ノ利害關係ヲ有スル親族又ハ公益ヲ保護スル檢事タリトモ他ヨリ隠居ノ取消ヲ請求シテ却テ当事者ノ意思ニ反スル結果ヲ生スルコトナキニ非ス是ヲ以テ本法ハ唯隠居者又ハ家督相續人カ隠居ノ届出ヲ詐欺ニ因リテ之ヲ爲サシメタルコトヲ知ラス又ハ隠居ノ届出ヲ爲スコトヲ強要セラレタル狀態カ仍ホ存續スル間ノミ親族又ハ檢事ヲシテ隠居ノ取消ヲ請求スルコトヲ許シタル所以ナリ

親族又ハ檢事ノ有スル此取消權ハ其取消請求ノ後ニ隠居者又ハ家督相續人カ其任意ニ出テサル隠居ヲ追認シタルトキハ直チニ消滅スルモノトス蓋シ本人カ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ脱シタル後ニ於テ自ラ之ヲ取消サシシテ却テ追認ヲ爲シタル場合ニ於テ他ヨリ強テ家内ノ私事ニ干涉シ隠居ヲ取消サシム可キ理由ナク此場合ニ於テハ当事者ノ意思ニ從ハシメサル可カラス
隠居ノ取消權ハ本人カ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ起算シ一年ニシテ消滅ス然レトモ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レナル間ハ其請求權發生セサルモノナレバ其狀態ニシテ長ク存續スルニ於テハ此取消權ノ消滅ス可キ期ナク隨テ隠居者ノ身分變味ニ屬シ長ク確定セナルヲ以テ隠居届出ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅スルコトシタリ
此取消權ヲ設ケタル趣旨ハ一般ノ取消權ノ規定第一二六條ト同一ナレトモ隠

居ノ取消ハ身分上及ヒ財產上ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ隱居者ノ身分
曖昧ニ屬シ長タ確定セナルハ不都合ナルヲ以テ單ニ財產上ノ關係ニ止マル一
般ノ取消ノ場合ニ比シ一層速ニ其身分ヲ確定セシメンカ爲ミニ設ケタルニ外
ナラナルナリ然レトモ其取消權ノ性質ニ付テハ彼此同シカラサルモノアリ一
般ノ取消權ノ場合ハ時效ナレトモ本條第七五九條第一項ノ一年ノ期間ハ時效
ニ非スシテ法律カ設ケタル豫定期間ナレハ如何ナル場合ニ於テモ延長スルコ
トナシ故ニ此期間ハ時效ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルコトアラサルナリ之ニ
反シテ本條末項ニ規定スル十年ノ期間ハ法律カ時效ナルコトヲ明言セルヲ以
テ時效ニ關スル規定ニ從フ可キヤ論ヲ俟タナルナリ

○隱居取消ノ第三者ニ對スル效力 隱居カ取消サレタルトキハ總則ノ規定第
一二一條ニ從ヒ其效力ハ既往ニ遡及シ最初ヨリ隱居者ハ隱居ヲ爲サヌ家督相
續人ハ之カ相續ヲ爲ササシシモノト看做サレ隱居者ハ其戸主權ヲ回復シ其家
督相續人ハ再ヒ戸主ノ准定家督相續人ト爲リ若クハ他家ヨリ入りタル者ナル
トキハ他家ニ復歸ス而シテ家督相續人カ相續ニ因リテ得タル財產其他權利義

務ハ翠ヶテ之ヲ戸主權ヲ回復シタル隱居者ニ返還スルモノトス(第七六〇條)
以上ノ規定ニ依ルトキハ左ノ問題ハ如何ニ決定ス可キヤ

(一) 隱居者カ最初戸主タリシトキ負擔シタル債務ヲ相續ニ因リテ一旦家督相
續人カ承繼シタルニ隱居者カ戸主權ヲ回復シタルトキハ其債権者ハ何人ニ對
シテ之カ辨済ヲ請求スルコトヲ得ルカ此問題ハ最セ賭易スキモノニシテ隱居
カ取消サレ最初ヨリ之ナカリシモノト看做サルカ故ニ債権者ハ單ニ戸主權
ア回復ジタル者ノミニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得

(二) 隱居者カ暫時隱居セシ間ニ負擔シタル債務ハ如何此債務ハ隱居者カ戸主
權ヲ有セザリントキ負擔シタルモノナレドモ其身分ニ變更アルニ拘ラス戸主
權ヲ回復シタル隱居者カ辨済ス可キモノニシテ此債務ニハ毫モ家督相續人ハ
關係ヲ有セサルナリ

(三) 隱居カ取消シタル場合ニ於テ家督相續人カ暫時相續シテ戸主タリシト
キ負擔シタル債務ニ付テハ其債権者ハ何人ニ對シテ之カ辨済ヲ請求スルコト
ア得ルガ此問題ハ右取消ノ原則ニ從フトキハ家督相續人ハ隱居ノ取消ニ因リ

(ア)最初ヨリ相續シタルコトナカリモノト看做ナルカ故ニ其債權者ハ此家督相續人タリシ者ノミニ對シテ請求スルコトヲ得ルニ止マリ隠居ノ取消ニ因リテ再ヒ戸主ト爲リタル者ニ對シテハ請求ヲ爲スコトヲ得サレトモ通常債權者ハ其相手方カ戸主タル身分ヲ有スルコトニ重キヲ置キ其家ニ屬スル財産ニ著眼シテ債權者ト爲ルモノナレハ一朝隠居ノ取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨済ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトスルトキハ之カ爲メニ意外ノ損失ヲ被ルコトアリ是ヲ以テ隠居取消ノ場合ニ於テ債權者ノ利益ヲ保護シ取引ノ安全ヲ保タシメントスルニハ隠居ノ取消以前ニ家督相續人即テ其當時ノ戸主タル者ノ債權者ト爲リタル者ニシテ隠居ノ取消ニ因リテ戸主ニ復シタル者ニ對シテモ亦辨済ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ササル可カラス是レ債權者ノ保護スル爲メニ取消ノ效果ニ對シテ特ニ設ケタル例外ナリ然レトモ家督相続人カ相續以後隠居ノ取消以前負擔シタル債務ハ元來右取消ノ效果トシテ最初ヨリ家督相繼人タラサリシモノト看做ナル者カ負擔シタルモノナレハ其負擔ハ債權者カ戸主權ヲ回復シタル者ニ對シテ請求スルコトヲ得可キ例外ノ規定

(イ)設ケラレタルカ爲メニ免ルルモノニ非サルヲ以テ法律ハ特ニ但書ヲ以テ之ヲ明カニシタリ
以上ノ規定ハ債權者カ隠居取消ノ原因アルコトヲ知ラスシテ一時家督ヲ相續セシ者ヲ戸主ト信シテ取引シタル場合ニ關セリ債權者カ隠居取消ノ原因アルコトヲ了知シテ債權者ト爲リタルトキハ右ト同一ノ規定ニ依ルコト能ハス此場合ニ於テハ債權者ハ家督相續人ノ戸主タル身分ニ重キヲ置カヌシテ却テ其者ノ一身上ニ著眼シ後日隠居カ取消ナルトモ自己ノ利害ニ關係ヲ有セサルコトヲ豫期シタルモノト謂ハサル可カラサルヲ以テ此債權者ニヘ特別保護ヲ與ヘサル所以ナリ

(四)家督相續人カ其相續以前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬セル債務ハ如何家督相續人カ相續セサル以前ニ負擔シタル債務ニ付テハ其債權者ハ毫モ其家ニ屬スバ財產ニ著眼シタルモノニ非ナレハ此場合ニ於テハ戸主權ヲ回復シタル者ニ對シテ請求スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タスシテ唯家督相續人ニ對シテ請求スルコトヲ得ルニ過キサルナリ又其一身ニ專屬スルモノハ縱令家督

相續人タリシトキ債權シタルモノナリト雖モ是レ亦其家ニ關係ナキモノナレハ家督相續人ニ對シテ請求スルヨリ外アラサルナリ而シテ家督相續人ノ一身ニ專屬スル債務トハ事實問題ニ屬スルモノナレハ裁判所ノ査定ニ依リテ定マル可キナリ

○隠居及ヒ入夫婚姻ニ因ル戸主権喪失ノ第三者ニ對スル效力(第七六一條)

舊民法ノ規定財產取得編第三〇九條ニ於テハ隠居者カ債權者ヲ詐害スルノ意思ヲ以テ隠居セントスルトキハ債權者ハ之ニ故障ヲ申立テ隠居ヲ取消シムルヲ得ト雖モ隠居ハ人事ニシテ私益ニ關スル規定ナルニ私益即チ單純ナル財產關係ニ因リテ債權者ラシテ之ニ干渉セシムルハ其當ヲ得サルヲ以テ新民法ハ債權者ラシテ隠居ノ取消ニハ容喙ゼンメナルコトド爲セリ然リト雖モ隠居ヲ爲スコトハ隠居者ノ債權者及ヒ債務者ニ重要ナル利害關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ繼令隠居ノ效力ハ其居出ニ因リテ既ニ發生シタルモ未タ隠居ノ事實ヲ知ラサル者ニ對シテ其效力ヲ有スルモノトスルトキハ其債權者及ヒ債務者云之カ爲メニ往々意外ノ損失ヲ被ルコトヲ免レサルヲ以テ此等ノ者ヲ保護ス

ルカ爲メニ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲シタル後ニ非サレハ戸主ノ變更ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノト爲シタリ

入夫婚姻ニ因ラフ前戸主カ其戸主権ヲ喪失スル場合モ前戸主ノ債權者及ヒ債務者カ有スル利害關係ハ猶ホ隠居ノ場合ニ同シテヲ以テ法律ハ之ト同一ノ規定ニ依ラシメタリ

茲ニ一言注意ス可キユトアリ前戸主ノ債權者ニ對シテ前戸主又ハ家督相續人ヨリ隠居ヲ爲シタルコトノ通知ヲ爲シタルト否トニ拘ラス戸主ノ隠居後ニ於テ債權者ハ仍ホ隠居者ニ對シテ辨済ヲ請求スルヲ得可キコトハ家督相續人努力シテ規定セル所ナリ(第九八九條はレ他ナシ債權ハ對人權ナルニ骨キ之ヲ貴權シタル者ハ其生存中ハ其責任ヲ免ルルヲ得サルト法律ハ隠居者カ隠居シタリト雖モ財產ノ留保ヲ許シタルトニ因リ債權者保護ノ爲メニ設ケタルナリ而シテ此相續ニ關スル規定アルカ爲メニ右第七百六十一條ノ規定ハ債權者ノ爲メニ左程重大ナル利害ヲ感セシメサルニ至レリ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ

場合モ亦同シ

○廢家—第七百六十二條第一項 新ニ家ヲ立タル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ

入ルコトヲ得人(事編第二五一條裏面)

廢家ハ戸主權喪失ノ一原因タルナリ蓋シ家ナルモノハ之ヲ祖先ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳ヘ以テ其祖先ノ祀ヲ絶タサルコトヲ計ルハ我邦家族制度ノ本旨ナリ故ニ家ハ戸主一人ノ專有ニ屬スルモノニ非ス其家ヲ相續シテ戸主ト爲ルハ一方ニ於テ権利タルニ相違ナキモ他ノ一方ニ於テハ義務タリ而シテ祖先ヨリ承繼シタル家ヲ廢シ其祀ヲ絶ツコトハ我邦古來ノ慣習ニ從フモ容易ニ之ヲ許サナルナリ然レトモ法律ハ此原則ニ對シ二箇ノ例外ヲ設ケタリ

第一例外 戸主カ新ニ立タル家ヲ廢スルコトヲ得ル場合ナリ此場合ニ於テハ繼合戸主カ之ヲ廢シテ他家ノ家族ト爲ルトモ之カ爲メニ祖先ノ祀ヲ絶ツセノニ非ス且ツ其戸主ハ其家ノ創造者ニシテ自ラ其家ノ祖先ト爲ラントスルモノナレハ自ラ其創造者タルコトヲ止メント欲セハ之ヲ其意ニ任セサル可カラサルモノニシテ之ヲ許ストモ敢テ家ヲ重ンスル立法ノ本旨ニ背クモノニ非サルナ

リ之ニ反シテ一旦新立シタル家ハ廢スルコトヲ得タルモノトスルトキハ實際ニ於テハ往往困難ナル事情ヲ生スルコトアルヲ以テ此例外ヲ設ケタリ

第二例外 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ本家相續又ハ再興其他正當ノ事由アル場合ニ於テ其家ヲ廢スルコトヲ得第七六二條第二項人(事編第二五一條)

右ニ説キタルカ如ク家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者カ家ヲ廢スルトキハ其家ノ祭祀斷絶スルヲ以テ家ヲ廢スルコトヲ許ササレントモ特別ニ隱居ヲ許ス場合ニ於ゲルト同シク戸主カ本家ヲ相續スルカ再興スルカ又ハ其他正當ノ事由アルトキハ廢家ヲ許サナル可カラス而シテ本家ハ分家ニ比シ一層之ヲ重ンス可キコトハ論ヲ俟タサル所ナリ然レトモ此ノ如キ事由存スルトモ自由ニ廢家ヲ爲スコトヲ許ナス此場合ニ於テ廢家ヲ爲ス爲ミニハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要スルナリ

○廢家ノ家族ニ及ボス效力—第七百六十三條 戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入りタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル(事編第二五三條)

家族ハ戸主ニ從属スルモノナレハ戸主カ適法ニ居家ヲ爲シタルトキハ其家族ハ之ニ隨テ其家ニ入ルヨリ外アラサルナリ

○絶家 戸主カ死亡シ又ハ國籍ヲ失ヒタル等ノ場合ニ於テ其家督相續人ナキトキハ一家ハ斷絕スルヨリ外ナキナリ(第七六四條人事編第二六一條我邦從來ノ慣習ニテハ戸主死亡シテ其推定家督相續人ナキトキハ其遺族中ノ者ニ於テ其跡ヲ相續セシヲ以テ家族アル戸主死亡シタル場合ニ於テ家ノ絶ユルコトナカリシカ新民法ノ規定ニテハ繼承家族アリト雖モ其家族カ相續權ヲ有セサルトキ又ハ相續ヲ承認セサルトキハ其家ハ斷絕スルモノトセリ故ニ此場合ニ於テ其遺リタル家族ハ各一家ヲ創立スルヨリ外アラサルナリ然レトモ若シ家族中ニ親子、夫婦ノ關係アル者アルトキハ子又ハ妻ハ別ニ一戸ヲ創立セヌシテ其父若クハ母又ハ夫ニ隨テ其家ニ入ル可キハ當然ナリ

第三章 婚姻

此章ヲ分チテ四節トス第一節婚姻ノ成立、第二節婚姻ノ效力、第三節夫婦財產制

第四節離婚是ナリ此中夫婦財產制ハ財產ニ關ズル規定ナルヲ以テ之ヲ人事ニ關スル婚姻ノ章中ニ置カヌシテ財產法中ニ置キタル立法例ハ舊民法財產取扱編又ハ外國法律ニモ見ル所ナレドモ夫婦財產制ハ夫婦ノ身分ニ關スル所頗ル多ク身分ニ關スル事項ハ之ヲ親族編中ニ規定スルヲ至當トシ本法ハ之ヲ本章中ニ置キタル所以ナリ

第一節 婚姻ノ成立

本節ヲ分チテ二款トス第一款婚姻ノ要件第二款婚姻ノ無効及ビ取消是ナリ

第一款 婚姻ノ要件

婚姻ノ要件ハ之ヲ實體上ノ要件トニ區別スルコトヲ得其實體上ノ要件トハ第一當事者ノ意思表示、第二婚姻能力ヲ有スルコト、第三法律カ規定シタル場合ニ於テ或者ノ同意ヲ要スルコト是ナリ形式上ノ要件トハ婚姻ヲ爲スニ付キ要スル方式是ナリ

第一ノ要件 當事者ノ意思表示アルコトヲ要ス

實體上ノ要件ノ第一ナル當事者ノ意思ハ婚姻ヲ爲スニ付キ之ヲ要スルコト、言フヲ俟タサルヲ以テ法律ハ之ヲ一ノ要件トシテ之カ明文ヲ掲ケスト雖モ婚姻ノ無效及ヒ取消ヲ規定スルニ當リ間接ニ當事者ノ意思表示ヲ必要ナル旨ヲ示シタル(第七七八條第七八五條)

第二以下ノ要件ニ付テハ以下順次之ヲ叙述可キモノ凡ソ婚姻ニ關スル要件ハ悉皆同一ノ性質ヲ有スルモノニ非ス其中ニハ婚姻ノ性質上必要ナルモノアリ若シ之ヲ缺クトキハ其婚姻ハ最初ヨリ當然成立セツルナリ即チ當事者ノ意思表示ナキ場合第七七八條第一號ノ如キ婚姻ヲ爲スニ付キ要スル方式ニ從ハナル場合第七七五條第七七八條第二號ノ如キ是ナリ其他ノ要件ハ之ヲ缺クモ婚姻ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス換言スレハ其成立ニ瑕疵アルニ過キサレハ裁判所ニ之カ取消ヲ請求スルトキハ取消サルレトモ然ラサルトキハ其婚姻ハ有效ニ成立スルナリ

第二ノ要件婚姻能力 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコ

トヲ得ス(第七六五條人事編第三〇條)上同様マヌカ其集義ニ舉ヘテ得サム此規定ハ實體上ノ要件ナリ蓋シ男女身體ノ發達ハ人ニ因リ又國ニ因リテ異同アリト雖モ一般ニ論スルトキハ或年齡ニ至ラサレハ未タ十分ニ發達セサルモノニシテ一般ノ情況ニ從ヒ法律上一定ノ年齡ヲ定メ其年齡ニ達セサレハ婚姻スルコトヲ許ササルト爲スハ立法上ノ必要ナリ若シ法律カ婚姻ヲ爲スコトヲ得可キ年齡ヲ定メサルトキハ人人生理上婚姻ヲ爲スニトヲ得ルニ至ルトキハ婚姻ヲ爲ス可クシテ早婚ヲ防クコトヲ得ス而シテ早婚ハ種種ノ弊害アリテ識者ノ夙ニ痛論スル所ナリ是以テ立法者ハ我邦ニ於テハ男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ルトキハ婚姻ヲ爲ストモ差支ナキモノト認メタルナリ佛民法ニ於テハ男ハ滿十八年女ハ滿十五年)

第三ノ要件 配偶者アル者ハ重テテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七六六條人事編第三一條)

重婚ハ刑法第三五四條ニ於テモ禁スル所ニシテ此規定ハ一夫一婦ノ制度ヲ公認シタルナリ

第四ノ要件 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス(第767條、人妻編第三二條第一項)

男ハ前婚ノ解消セラレ若クハ取消ナレタルトキハ直ニ再婚ヲ爲スコトヲ得可シト雖モ女ハ懷胎シタル儘前婚姻カ解消セラレ若クハ取消サルコト往往アル所ニシテ若シ此場合ニ於テ若干月日ヲ經過セスシテ前婚ノ解消若クハ取消後直ニ再婚ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルトキハ再婚后若干日内ニ分娩シタル子ハ前夫ノ子ナリヤ將タ後夫ノ子ナリヤ知ムコト能ハサルヲ以テ法律ハ血統ノ混同ヲ豫防スルカ爲メニ第四ノ要件トシテ女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過セサレハ再婚ヲ爲スヲ得サルコトセリ

婚姻ノ解消トハ夫ノ死亡又ハ離婚ニ因リテ婚姻ノ消滅シタル場合ニシテ其取消トハ第七百七十九條以下ノ規定ニ從ヒテ婚姻ヲ取消シタル場合フ謂フ而ビテ此禁止ハ婚姻解消ノ總テノ場合ニ適用セラルモノニシテ舊民法人事編第三十二條ノ如ク夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ノ如キヲ除外例ト爲ササルナリ何トナレハ妻カ失踪セル夫ト事實上同居ヲ爲スモ其證據ヲ舉クルヲ得サル然レトモ右ノ規定ニハ一ノ例外アリ即チ女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合はテハ其分娩ノ日ヨリハ再婚ニ關スル制限ヲ適用セス若シ前婚中ニ懷胎シタルモノフ其解消若クハ取消後例ヘハ一箇月ニシテ分娩シタル場合ニ於テハ分娩後直ニ再婚スルコトヲ許ストモ前夫ト後夫トノ血統ノ混同ヲ生スルコトアラサルナリ

第五ノ要件 森通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(第768條、人妻編第三三條)

森通ハ風俗ヲ害スルコト最モ大ナルモノニシテ刑法第三五三條ニモ規定スル所ナレハ法律ハ相姦者間ニハ婚姻ヲ爲スコトヲ許ササルモノトセリ若シ其間

ニ婚姻ヲ爲スコトヲ許ストスルトキハ此ノ如キ悖德者ハ姦通ヲ以テ離婚ノ方法ト爲シ却テ惡縁ヲ遂ケントスル弊ニ陷サルコトナシトセス然レトモ法律ハ相姦者ニハ如何ナル場合ニ於テモ絕對ニ婚姻ヲ禁スルモノニ非ス姦通ニ因リテ離婚ノ宣告ヲ受ケタル場合ト姦通ニ因リテ刑ノ宣告ヲ受ケタル場合トニ限レフ

第一 姦通カ裁判上ノ離婚ノ原因タルコトハ第八百十三條第二號ニ規定スル所ナリ然レトモ其場合ハ有夫ノ婦カ姦通シタルトキニ限ルモノニシテ夫カ他ノ婦ト姦通ヲ爲シタルトモ是レ婦ノ爲メニ離婚ノ原因タラサルナリ故ニ此場合ニ於テ適用ヲ受クル者ハ有夫ノ婦カ他ノ男ト通シタル場合ニ限ルナリ而シテ法律カ此場合ニ於テ夫婦ノ間ニ規定ヲ同シサセサルハ有夫ノ婦カ姦通シタル場合ハ刑ニ處セラルルコトナキモ單ニ其行爲サヘアレハ離婚ノ原因ト爲ルニ反シテ夫カ有夫ノ婦ト姦通シタル場合ニ於テハ單ニ之ヲ爲シタルノミニテハ離婚ノ原因ト爲スニ足ラス其原因ト爲ル爲メニハ刑ニ處セラレタル場合ナラサル可カラサルモノニシテ夫婦ノ間ニ離婚ノ原因ニ此ノ如ク寛嚴ノ差アルシタリ

ト同シテ我邦從來ノ慣習及ヒ現在ノ情態ニ於テ未タ此點ニ關シ男女ヲ同一規定ノ下ニ置クコトヲ得サルヲ以テ此場合ニ於テ法律ハ特ニ妻ニ限リ姦夫ト離婚ヲ爲スコトヲ得サルモノトシタリ

此場合ノ適用ヲ受タルハ裁判上ノ宣告アルコトヲ要ス若シ實際姦通シタルコトアリテ之カ爲メニ協議上ノ離婚ヲ爲シタリトモ右離婚ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非ス是レ他ナシ此ノ如ニ忌ム可キ内事ノ陰密ハ法律カ敢テ干涉シテ之ヲ外ニ摘發スルトキハ却テ風俗ヲ害スルニ至ルヲ以テ法律ハ此ノ如キモノハ當事者ヨリ摘發シテ裁判上公認セラレタルモノノミニ止メ敢テ問ハサルコトトシタリ

第二 姦通ニ因リテ刑ノ宣告ヲ受ケタル場合刑法第三百五十三條ノ規定ニ依リテ有夫ノ婦姦通シタルトキハ其婦並ニ其相姦者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處セラルルモノナレハ此場合ニ於テ姦通者ノ雙方宣告ヲ受ケタルトキハ勿論維令其一方之カ宣告ヲ受ケタルトキニ於テモ後ニ至リ他ノ原因ニ因リテ離婚ノ宣告ヲ受ケタルト或ハ夫ノ死亡シテ婚姻ノ解消シタルト又ハ協議上ノ

離婚ヲ爲シタルトヲ間ハス姦通者ハ婚姻ヲ爲スコトヲ許サレサルナリ之ヲ要スルニ姦通ニ因リテ離婚ノ宣告ヲ受クルモ刑ノ制裁ヲ受ケサルコトアリ又刑ニ處セラレタルモ之ヲ原因トシテ離婚セラレサルコトアレトモ以上叙述シタル場合ノ一二該當スルトキハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ナルナリ

第六ノ要件 婚姻ヲ爲スニハ左ノ親族關係ヲ有セタルコトヲ要ス

(一) 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(第
七六九條、人事編第三四條、第三五條)

法律ハ或親族間ニ婚姻ヲ爲スコトヲ禁シタリ其親族ノ種類ニ依リテ絕對ニ禁シタルモノト否ラナルモノトアリ血族ハ直系ナルトキハ如何ニ其親等遠シト雖モ絕對ニ之ヲ許サヌ然レトモ其傍系ト姻族トニ付テハ絕對ニ婚姻ヲ許サルモノニ非ス或親等ヲ限リテ之ヲ禁シタリ姻族ニ付テハ以下續テ叙述ス可ク傍系ノ血族ハ三親等以下ノ者ニ非サレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス直系血族間ノ婚姻ハ亂倫ニシテ禽獸ノ所行ニ同シク人心ニ戾リ吾人ノ忍容スルコトヲ得ナル所ナリ又傍系親モ其親等ノ近キ者ハ直系親ニ於ケバト同シキモノニシク

近親間ノ婚姻ハ啻ニ倫理ヲ亂スノミナラス血統ヲ惡クシ人種ノ衰弱ヲ致スカ如キ弊アルヲ見ル

法文ニハ單ニ血族トアリテ其意味汎博ナレハ天然ノ血族間ハ勿論單血族ト雖モ其中ニ包含スルモノト謂ハサル可カラス故ニ繼父母ト繼子、嫡母ト庶子トノ間及ヒ養親及ヒ其直系尊族ト養子トノ間ハ同シク婚姻ヲ爲スコトヲ得サルナリ」然レトモ法律ハ養子ニ付テハーノ例外ヲ設ケタリ即チ養子ト養方ノ傍系血族トノ間ニ於ケル婚姻はナリ蓋シ養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ元來血縁アラサルモ法律上之ヲ血族ト看做シタル以上ハ養子ノ亡妻ノ姉妹又ハ其伯叔母ト婚姻スルカ如キハ名義上安當ナラサレトモ從來ニ在リテモ此等ノ者ノ間ニハ或ハ其家ノ子女ヲ一旦他家ニ入レテ其養子女ヲ或ハ養子ヲ離縁シテ兄弟姉妹若クハ叔姪ノ稱ヲ絶ナ更ニ再ヒ之ヲ養子ト爲スカ如キコトハ實際上往往見ル所ニシテ此等ノ者ノ間ニ婚姻ヲ許ストモ之カ爲メニ毫モ亂倫ト謂フ可キモノニ非サルヲ以テ實際上ノ必要アルヲ慮リ法律ハ此例外ヲ設ケタルナリ

(二) 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七七〇條、人事編第三六條

姻族關係カ直系ナルトキハ其關係カ繼續スル間ハ勿論縦合離婚ニ因リ若クハ夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルニ因リテ姻族關係カ止ミタル場合ト雖モ其間ニ婚姻ヲ爲スコトヲ許サス例へハ亡妻ノ母離婚シタル妻ノ母又ハ子ノ遺妻ト婚姻スルコトハ許サレサルナリ是レ婚姻ニ因リ親族關係ヲ生シ親子ニ等シキ關係ヲ生シタル者ノ間ニ婚姻ヲ許スハ人倫ニ背クヲ免レサレハナリ然レトモ姻族關係ノ傍系ニ付テハ之ト異ナリテ其親等ノ遠近ヲ問ハス例へハ亡妻ノ姉妹伯叔母ト婚姻ヲ爲スカ如キハ從來ノ慣習上許シタル所ニシテ又實際ノ必要上妻カ子ヲ遺シテ死亡シタル場合ニ於テ其妹ト婚姻シ之ヲシテ血緣アル甥姪^子ヲ養育セシムルカ如キハ子ノ利益ニシテ一家ノ幸福タルト此ノ如キ婚姻ヲ許ストモ血統ヲ亂スノ虞ナク亦人倫ニ背クコト至テ微少ナルト以テ此規定ヲ設ケタルナリ

(三) 養子縁組ヨリ生スル親族關係ニ付キ左ノ場合ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(第七七一條人事編第三十七條)

養子其配偶者直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ養

親カ其家ヲ去リタルカ又ハ養子カ離縁ト爲リテ親族關係カ止ミタルトキト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス
養子又ハ其直系卑屬ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於ケル婚姻ハ右ニ説キタル第七百六十九條ノ規定ニ依リテ既ニ禁セラレタレハ法文ニ謂フ所ノ養子又ハ其直系卑屬ト養親又ハ其直系尊屬トノ婚姻ハ親族關係カ存續スル場合ヲ指稱スルモノニ非シテ其關係カ止ミタル後ニノミ適用セラルルナリ而シテ養子ノ配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トハ或ハ直系ノ血族ナルコトアリ或ハ直系ノ姻族ナルコトアリ例へハ養親ノ家女ノ配偶者トシテ養子ヲ爲シタルトキハ其家女即チ養子ノ配偶者ト養親トハ血族關係ナリ然レトモ養子縁組後ニ其養子ノ妻トシテ他ヨリ嫁シタル者ノ如キハ養子ノ養親トハ直系ノ姻族ナリ其直系血族ナル場合ニ在リテハ第七百六十九條ニ依リ又直系姻族ナル場合ニ在リテハ第七百七十條ノ規定ニ依リテ婚姻ヲ禁セラレタレハ法文ニ此等ノ者ヲ掲ケタルハ離縁ニ因リテ養子ト養親及ヒ其直系尊屬トノ間ノ關係止ミ又ハ養子ノ配偶者又ハ養子直系卑屬カ養子ノ離縁ニ因リテ養子ト共ニ其家ヲ去リ

タルトキニノミ適用セラル可キモノトス此等ノ場合ニ於テ婚姻ヲ許ストキハ既ニ第七百七十條ニ付キ説キタルト同シク人倫ヲ亂スヲ免レサルヲ以テナリ以上第七百六十九條乃至第七百七十一條ニ説キタル所ハ要スルニ婚姻ヲ爲ニハ此等ノ親族關係アラサルコトヲ要スルモノニシテ之ヲ總括シテ第六ノ要件トス

第七ノ要件 婚姻ヲ爲スニハ左ノ者ノ同意アルコトヲ要ス(第七七二條人事編第三八條乃至第四二條)

(一) 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ満三十女カ満二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス
法律ハ未成年者カ普通ノ法律行爲ヲ爲スニスラ其保護ノ爲メ親權ヲ行フ者後見人及ヒ親族會又ハ後見人ノ同意ヲ要セシム婚姻ハ人生ノ大倫ニシテ財產權ニ關スル法律行爲ニ比シ一層重大ナレハ之ヲ爲スニハ一層保護セサル可カラサルヲ以テ父母ノ同意ヲ要スルコトト爲シタリ而シテ此制限ハ一家ノ秩序維持ノ爲メニハ年齡ノ如何ニ拘ラス常ニ父母ノ同意ヲ要スト爲スニ如カヌ

ト雖モ男子ハ凡ソ満三十年女子ハ満二十五年ニ達スレハ智能ノ發達完全シ相當ノ經驗ヲ得自ラ獨立ノ生計ヲ立ツルニ至リテモ仍ホ際限ナク父母ノ同意ヲ得ルコトスルハ甚タ酷ニ失シ又父母カ其權力ヲ濫用スルコトアラハ子ノ婚姻ヲ妨タルニ至ルヲ以テ法律ハ男子ハ満三十年女子ハ満二十五年ニ達スルトキハ婚姻ヲ爲スニ父母ノ同意ヲ要セサルコトヲ爲シタリ法律カ男女ノ間ニ年齡ノ區別ヲ立タルハ他ナシ墨ニ説キタルカ如ク女子ノ發育ハ男子ニ比シ一層早キヲ常トシ男子ノ如ク満三十年ニ至ルマテモ父母ノ許諾ヲ得ルコトヲ要スルモノトスルトキハ嫁期ヲ失シ適當ノ婚姻ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヲ以テナリ

茲ニ謂フ所ノ父母トハ實父母ハ勿論繼父母養父母及ヒ嫡母ヲ包含スレトモ繼父母嫡母ト其他ノ父母トノ間ニハ第七百七十三條ニ規定スルカ如ク同意ヲ爲ナサルトキニノ差異アリ又父母ハ家ニ在ル者ニ限ル家ニ在ラサル父母例ヘハ離婚離縁等ニ因リテ其家ヲ去リタル者ト雖モ法律上ハ其家ニ在ル者ト同一ノ親族關係ヲ有スト雖モ家

族及ヒ事實上ノ關係ハ家ニ在ル者ニ比シ大ニ隸ナラサル可カラサレハ法律ハ此等ノ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要セシメサル所以ナリ
父母共ニ家ニ在ルトキハ其雙方ノ同意ヲ得サル可カラス是レ一見スレハ父ハ親權ヲ行ヒ妻ハ其夫ノ權ニ服從ス可キモノナレハ父母ノ一致セサルトキハ父ハノ同意ノミヲ以テ足ルカ如シト雖モ此ノ如クスルトキハ一家ノ和睦ヲ缺クヲ以テ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テ父ノミノ同意ヲ以テ足レリト爲サヌ雙方ノ同意アルヲ要スト爲シタリ故ニ若シ父母一致セサルトキハ此要件ヲ缺クモノト謂ハサル可カラス

父母ノ一方カ死亡スルコトアリ、知レサルコトアリ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ一方ノ者ノ同意ヲ以テ足レリトスルヨリ外アラサルナリ
(二) 又父母共ニ死亡スルコトアリ、知レサルコトアリ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルコトアリ此場合ニ於テ婚姻ヲ爲ス可キ子カ成年人ナルトキハ何人ノ同意ヲ要セスシテ婚姻ヲ爲スコトヲ得然レトモ若シ其者ナルトキハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

子カ未成年者ナルトキハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
舊民法人事編ニ於テ父母ノ死亡シタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シト爲シタレトモ此ノ如キ場合ニ於テ祖父母ノ未タ老耄セサル者ナルトキハ實際ニ於テハ概シテ未成年者ノ後見人タル可ク其後見人タル場合ニ於テハ適當ノ判断ヲ與フルヲ期スルコト能ハサルヲ以テ新法ハ此ノ如キ場合ニ祖父母ノ同意ヲ得ルコトヲ削除シタリ
婚姻ヲ爲スニ付キ子カ父母ノ同意ヲ得ルコトハ前ニ説キタルカ如ク成年ニ達シタル者モ或年齢マテハ之ヲ要スルニ父母ノ在ラサル場合ニ於テ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ未成年者ニ限リタルハ蓋シ後見人、親族會等ハ未成年者ノ利益ヲ保護スルコト父母ノ如クナル能ハサルヲ以テ父母ノ同意ニ於ケバコリハ一層早ク其制限ヲ脱セシムル必要アリ故ニ此場合ニ於テハ之ヲ普通ノ法律行為ト同シク婚姻ヲ爲ス可キ者カ未成年ナルトキノミ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スト爲シタル所以ナリ實父女を養ひ育む事有リテ夫婦の實父女を父母カ子ノ婚姻ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ其子ハ婚姻ヲ爲スニ付キ要スル

條件ヲ缺クヲ以テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ナレトモ父母カ實父母ニ非シテ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其同意ニ付キ實父母ニ於ケルト同一ナル能ハス實父母ナルトキハ眞實ニ子ノ利害ヲ計ル可キヲ以テ非理ヲ唱ヘテ同意ヲ爲サツルコトハ之ナカル可シト雖モ血族ノ關係ナキ繼父母又ハ嫡母ニ在リテハ不當ナルコトヲ知リナカラ子ノ婚姻ヲ拒ムコト往往之アル所ナレハ法律ハ繼子庶子ヲ保護スル爲メ例外ヲ設ケ繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ヲ拒ミタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルトキハ婚姻ヲ爲スヲ得ルコトセリ(第七七三條人事編第三八條第三項)

(三) 禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(第七七四條)

禁治產者ハ後見人ニ付セラル(第八條)ヲ以テ若シ自ラ普通ノ法律行爲ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得可シ(第九條)ト雖モ後見人カ禁治產者ノ法定代理人タル權ハ禁治產者ノ療養監護及ヒ財產ノ管理ニ限ルモノニシテ人事ニ關スル行爲ノ如キハ其代理權ノ範圍外ニ在ルモノナルヲ以テ之ヲ明カ

ニスル爲メ特ニ本條ヲ設ケタルナリ
右ノ協合ハ禁治產者カ其精神ヲ回復シタル場合ヲ想像シタルモノナリ若シ然ラスシテ心神喪失中ニ婚姻ヲ爲シタルトキハ其婚姻ハ其意思ヲ有セナルモノナレハ最初ヨリ無効ナレハナリ

婚姻ノ形式上ノ要件

婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス第七七五條人事編第四三條、第四七條乃至第四九條第六七條從來婚姻ノ届出ニ付テハ明治八年十二月九日太政官達ニテ婚姻離婚ハ総令相對熟談ノ上タリトモ双方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其效ナキモノト看做ス可キ規定アリシテ雖モ其後司法省ノ伺ニ對シテ明治九年七月太政官ヨリ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦ヲ以テ論ス可シト指合シタルヲ以テ明治十年六月司法省ヨリ此旨ヲ各裁判所ニ達シタルヨリ以來財產關係若クハ刑事上ノ目的ニ付キテハ戸籍簿ニ登記セサル者ト雖モ夫婦ノ關係ヲ公認シ來リタルモノニシテ婚姻後數年間モ婚姻ノ届出ヲ爲サナリシ者モ夫婦ト看做ナル者アリ而シテ

來ノ方式ハ證人ヲ要セス單ニ戸主ヨリ届出ヲ以テ足レリトシ極メテ簡單ナリシニ付キ本法ハ外國ノ立法例ニ在ルカ如キ煩雜ナル方式ヲ採用セスシテ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツ可キコト爲シタリ

法律カ婚姻ニ付キ此方式ヲ要スト爲シタルハ婚姻ハ之ニ因リテ夫婦財產上ノ關係親族關係等ヲ生シ他ニ對シテ之ヲ公示ス可キ必要アルト又一ハ當事者ノ意思ノ確實ヲ保障スルノ目的トニ出テタルナリ若シ當事者カ法律ノ規定ニ違反シタル婚姻ヲ爲シ之カ届出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ之カ注意ヲ爲スコトアル可キナリ

婚姻ノ效力ニ付キテハ舊民人事編第六七條ノ規定ニテハ儀式ヲ行ヒタルニ因リ之ヲ生シ唯夫婦財產契約ニ付テノミ第三者ニ對シテハ婚姻届出後ニ非サレハ其效力ヲ援用スルコトヲ得ストシタレトモ本法ニ於テ婚姻ノ儀式ノ如キハ公示サレタルヲ以テ當事者カ何時之ヲ行ヒタルヤ他ノ之ヲ知ル能ハナルモノナレハ他ニ對シテハ勿論當事者間ニ在リテモ一般婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ヲ

主ノ同意ヲ得シテ爲シタル婚姻ノ届出ヲ受ケタルトキ之ヲ許ス可カラサルモノトシテ却下スルヲ得ナレハ本人ヲシテ反省セシムルカ爲スニ戸籍吏ヨリ一應ノ注意ヲ爲スコトシ若シ之ニ應セサルトキハ戸籍吏ハ届出ヲ受理セサル可カラサルコト爲シタリ右ノ場合ヲ除クノ外婚姻ニ關スル要件ヲ具備セシムトキハ戸籍吏ヨリ戸籍吏ニ於テ其届出ヲ受理スルコト能ハス隨テ其婚姻ハ許サレサルモノナレトモ戸籍吏カ誤リテ其婚姻ノ届出ヲ受ケタルコトアルトキ例へハ父母ノ同意ヲ得シテ婚姻ヲ爲シ又ハ婚姻年齢ニ達セシムトキハ其婚姻ハ此届出ニ因リテ效力ヲ生スルモノトス(最初ヨリ無効ナル婚姻ハ届出ヲ爲ストモ效力ヲ生スルモノニ非ス而シテ此場合ニ於テハ後ニ至リ取消スコトヲ得ヘキモ之ヲ取消ササルトキハ全ク有效ナルモノタリ)外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲シント欲スルトキハ日本ノ戸籍吏アラサルヲ以テ右ニ説キタル方式第七七五條ニ從フコト能ハス是ヲ以テ法律ハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトシタリ而シ

ア此場合ニ於テ右戸籍吏ニ届出スル規定ヲ準用スルモノトス第七七七條人
事細第五一條

第二款 婚姻ノ無効 及ヒ取消

新民法ニ於テ用フル所ノ無効ナル語ハ舊民法ノ所謂不成立ノ意味ヲ有シ又新民法ノ取消ナル語ハ舊民法ノ無効ナル意味ヲ有スルモノニシテ法律行為ノ無効トハ之ヲ譬フレハ生活ニ必要ナル機關ヲ具ヘサル人體ノ如ク到底生存スルコト能ハサルモノヲ謂ヒ又取消シ得可キモノトハ恰モ病體ノ如ク其病氣ノ爲メ竟ニ死亡スルニ至ルヤモ測ル可カラスト雖モ現ニ人トシテ生存セルカ如ク無効ナルモノハ最初ヨリ成立セサルモノ取消得可キモノトハ之ヲ取消マテハ有效ナルモノニシテ婚姻ニ付テモ他ノ法律行為ト同シク無効ナルモノ及ヒ取消シ得可キモノトセリ

○婚姻ノ無効――第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限り無効トス
一人進其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二、當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ(人事編第五五條、第五九條)
法律カ規定セル婚姻ノ無效ハ右二箇ノ場合ニ限レッ其一ハ當事者ニ婚姻ヲ爲

ス意思ナキトキ其二ハ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ是ナリ

第一ハ既ニ説キタルカ如ク普通ノ法律行爲ニ付キ當事者ノ意思ナキトキハ其行爲ハ全ク成立セサルト同シク婚姻ニ付テモ當事者ノ意思ナキトキハ例へハ人達心神喪失ニ因リ又ハ強暴ヲ受ケテ意思表示ヲ爲シタルトキハ全ク婚姻ヲ爲スノ意思ナキモノニシテ其婚姻ハ無効ナリ而シテ最初ヨリ成立セサルモノナレハ當事者カ之ヲ追認シタリトモ其追認ハ毫モ效力ヲ生スルモノニ非ス又當事者ノ何人ヨリモ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得ルハ論ヲ俟タサルナリ
第二ニ付テモ既ニ説キタルカ如ク婚姻ハ戸籍吏ニ届出ヲテ始メテ成立スルモノナレハ其届出前ニ至リテ縱令世間ニ行ハル儀式ヲ舉タルト雖モ是レ法律上未タ婚姻ト看做サナルナリ故ニ事實上夫婦ノ如キ關係ヲ生シ其間ニ子ヲ舉タルト雖モ其子ハ婚姻中ニ生シタルモノニ非スシテ全ク私生ノ子タルナリ而シテ婚姻ノ届出ニハ第七百七十五條ニ規定スルカ如キ一定ノ方式ヲ要シ若

シ此方式ヲ缺キタルモノナムトキハ戸籍吏ハ之ヲ受理スルコトヲ拒ムヲ得可シト雖モ若シ誤リテ之ヲ受理シタルトキハ其婚姻ハ完全ナルモノニシテ之カ爲メニ毫モ瑕疵ヲ生スルコト非サルナリ
○婚姻ノ取消 婚姻ノ取消ハ人ノ社會上ノ地位ニ重大ナル影響ヲ生スルモノナレハ他ノ法律行爲ノ如ク容易ニ之ヲ取消ス可キモノニ非ス又一般ノ廢能訴權ノ原則ヲ之ニ適用セサルモニシテ法律ハ特ニ婚姻ヲ取消スコトヲ得可キ場合其取消權ヲ有スル者及ヒ取消權行使ノ期間ヲ限定シタリ(第七七九條、人事編第五五條第二項第五六條、第五九條、第六〇條、第六三條)
婚姻ヲ取消スコトヲ得可キ場合ニ説キタル婚姻ヲ爲スニ付キ要スル第二乃至第七要件ヲ具備セサルトキ即チ婚姻適齡ニ達セシムヲ婚姻シタルトキ第七六五條第二要件配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキ(第七六六條第三要件女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ經過セシムヲ再婚シタルトキ第七六七條、第四要件姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者カ相姦者ト婚姻ヲ爲シタルトキ第七六八條、第五要件近親間ニ於テ婚姻ヲ爲シタルトキ(第七

六九條以下第六要件婚姻ヲ爲スニ付キ或者ノ同意ヲ得可キ規定アル場合ニ於テ其同意ヲ得シタル婚姻シタルトキ(第七七八二條第七七三條第七要件詐欺又ヘ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタルトキ(第七七八五條及ヒ増養子縁組ノ場合ニ於テ其縁組ノ無效又ヘ取消ヲ理由トスルトキ(第七七八六條ニ非サレハ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス(第七七八〇條人事編第五六條第五八條
婚姻取消ノ場合ハ之ヲ公益保護ノ爲ミニ設ケタルモノト私益保護ノ爲ミニ設ケタルモノトノ二種ニ區別スルコトヲ得可シ即チ右第二要件タル不適齢者ノ婚姻第三要件ノ重婚者ノ婚姻第四要件ノ婚姻ノ解消又ヘ取消後六箇月ヲ經過セシシテ爲シタル婚姻第五要件ノ相姦者ノ婚姻第六要件ノ近親間ノ婚姻ハ其一種ニ屬シ第七要件ノ婚姻ヲ爲スニ付キ或者ノ同意ヲ得可キ場合ニ其同意ヲ得シタル婚姻詐欺又ヘ強迫ニ因リテ爲シタル婚姻及ヒ増養子縁組ノ場合ニ於テ其縁組カ無效又ヘ取消ヲ爲リタルトキ(第七七八一條ノ理由トシテ取消サントスル婚姻ハ其第二種ニ屬ス而シテ此等兩者ノ間ニハ二箇ノ差異アリ公益上ノ取消原因ニ付テハ國家自身モ干涉シテ檢事ニ於テ其取消權ヲ有スレトモ私

認ニ因リテ其效力ヲ全フスルモノニ非スシテ其取消原因ハ長タ消滅スルコトナキヲ以テ原則トスルカ故ニ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期間モ亦概シテ無限ナルヲ原則トシ其婚姻ハ当事者ノ一方又ハ双方ノ死亡シタル後ト雖モ仍ホ之カ取消ヲ請求スルニトヲ得セシム然レドモ検事カ取消權ヲ有スルハ公益維持ニ外ナラサルモノニシテ違法婚姻ニ因リテ國ノ公益ノ害セラルルハ其婚姻關係ノ存續スルニ因ルモノナレハ夫婦ノ一方ニシテ死亡ニ因リ婚姻ノ既ニ解消セラレタル上ハ國カ之ヲ取消ス可キ必要アラサルナリ故ニ檢事カ取消權ヲ行フ場合ハ其期間ニ付キ制限ヲ設ケタリ。夫婦生ノ利益及弊害及不當利益ヲ有スル者トシタレハ其現實ノ利益ヲ有スル者トハ親族タル否トヲ問ハス此中ニ包含シ又財產上ノ利害關係ヲ有スル者モ此取消權ヲ有スルニ至レリ然レトモ既ニ隠居ノ取消ニ付キテ説キタルカ如ク財產上ノ利害關係ヲ有スル者ニ親族上ノ關係ニ容喙セシム可ギハ不可ナルヲ以テ新法ハ之ヲ削除シタリ。亦即ち前項の取消權を有する者モ夫婦の利害關係に就ては親族又ハ

重婚再婚相姦者間ノ婚姻ノ場合ニ於テハ右ノ者ノ外尚ホ當事者ノ配偶者ニモ婚姻ノ取消權ヲ與ヘタリ。夫婦の利害關係に就ては親族又ハ配偶者ニモ記偶者ノ一方カ婚姻關係ノ繼續中ナルニ拘ラス他ノ者ト重テ婚姻シタルトキハ他ノ一方ハ之カ爲メニ直接ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ之ニ取消權ヲ與フルハ當然ナリ。夫婦の利害關係に就ては親族又ハ配偶者ニモ婚姻カ解除セラレ又ハ取消サレタリトモ其解消又ハ取消後或期間内ニ分娩シタルトキハ其子ハ前夫ノ子ト看做サルモノナルコトハ曩ニ叙述シタルカ如ク前婚ノ解消又ハ取消後法定ノ期間ヲ經過セサル前ニ他ニ再婚シタル場合ニ於テ分娩スルトキハ血統ヲ亂ルノ恐アリテ之カ爲メニ前夫ハ利害關係ヲ有スルヲ以テ之ニ其取消權ヲ與フルハ當然ナリ。夫婦の利害關係に就ては親族又ハ配偶者ニ處セラレ又ハ離婚ノ宣告ヲ受ケタル者カ其相姦者ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ前夫モ亦利害關係人ナルヲ以テ法律ハ之ニ取消權ヲ與ヘタリ不適齡者ノ婚姻ノ取消期間。義ニ説キタルカ如ク公益上ノ取消原因ハ時ノ經過又ハ追認ノ爲メニ消滅ス可キモノニ非ナルコトヲ原則トスレトモ此原則ニ

ハ二箇ノ例外アリ

第一ノ例外ハ婚姻適齡ニ達セシテ婚姻シタル場合ナリ人事編ハ此點ニ付キ不適齡者ヨリ婚姻ノ取消ヲ請求スル場合ト不適齡者以外ノ者ヨリ之カ請求ヲ爲ス場合トノ區別セサレトモ新法ハ之ヲ區別シ不適齡者以外ノ者ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三箇月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得第七八一條人事編第五七條トセリ

此場合ノ婚姻ハ重婚相姦者間ノ婚姻ト異ナリテ其性質上許ス可カラナルモノニ非ス婚姻其モノハ許ス可キモノナルモ唯當事者ノ年齢カ婚姻適齡ニ達セラルニ由ルモノニシテ其瑕疵ハ事實上存セサルコトアルノミナラス時ノ經過ニ因リ必ス他日止息スルニ至ル可キカ故ニ不適齡者カ適齡ニ達シタル上ハ其婚姻ヲ取消サシムル原因存セサルナリ是ヲ以テ例外ヲ設ケタルナリ

不適齡者カ婚姻中適齡ニ達シタルトキハ最早其婚姻ニ瑕疵ナキモノト認ムル以上ハ此場合ニ不適齡者ヨリ其取消權ヲ請求スル場合ト其以外ノ者ヨリ之ヲ

爲ス場合トノ區別スルノ必要ナキモノノ如シト雖モ蓋シ不適齡者以外ノ者即チ父母戸主等ハ其意思完全ニシテ不適齡者カ適齡ニ達セサル前ニ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得可キモ不適齡者ハ適齡ニ達スルマテハ意思能力不充分ニシテ自ラ之カ取消ヲ請求スルヲ得サルコト多キヲ以テ法律ハ此場合ニ於テ適齡ニ達シタル後三箇月ノ猶豫ヲ與ヘタルナリ

舊民法ハ當事者ノ一方又ハ雙方カ不適齡ニシテ婚姻シタルト雖モ婦カ其婚姻ニ因リテ懷胎シタルトキハ最早其婚姻ノ之ヲ取消スコトヲ得スト爲シタレトモ新法ハ此ノ如キ區別ヲ採用セサルナリ是レ蓋シ婚姻中懷胎シタル子ノ利益ノ爲メニ非スシテ單ニ婚姻シタル者ノ保護ニ出ヌタルナリ

不適齡者カ適齡ニ達シタル後其婚姻ヲ追認シタルトキハ適齡後未タ三箇月ヲ經過セサル間ト雖モ其取消權ハ消滅ス是レ適齡ニ達シタル以後ノ取消權ハ専ラ不適齡ノ私益保護ノ目的ニ出ツルモノナレハ不適齡者自身ニ婚姻ヲ追認シタルトキハ依然之ニ其取消權ヲ認ム可キ必要アラナルナリ

第二ノ例外ハ女カ法律ノ規定第七六七條ニ違反シテ再婚シタル場合ニ係ル女

カ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ経過セシシテ再婚シタリト雖モ其婚姻ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ経過シ又ハ再婚後懷胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス(第七八二條)

婚姻ノ解消又ハ取消後六箇月ヲ経過スルトキハ其再婚取消ノ請求ヲ許ルス可キ理由最早存在セナルカ故ニ此取消權請求ノ期間ヲ右ノ如ク制限シタリ又前婚ノ解消又ハ取消後未タ六箇月ヲ経過セシシテ再婚シタリト雖モ其再婚後懷胎シタルトキハ右ノ六箇月ヲ経過セナルニ拘ラス其取消ヲ請求スルコトヲ得ス女ノ懷胎ニシテ再婚ニ生シタルコト明確ナルニ於テハ血統ノ混淆ヲ生ス可キ處ナキヲ以テ此場合ニ於テハ婚姻ノ取消ヲ許ス可キ理由消滅シタレハ情胎後ハ六箇月ノ期間内ト雖モ取消ヲ許サザルナリ

以上叙述シタル所ハ公益上ノ取消原因アルモノニ係ル是ヨリ説ク所ハ専ラ配偶保護ノ目的ニ出タル婚姻ノ取消ナリ其場合ハ(一)法律ノ定メタル場合ニ於テ父母後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ナリシ婚姻第七七二條(二)法律ノ規定ニ依テ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル場合(三)當事者ノ一方又ハ雙方ノ意思カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ生シタル婚姻四婿養子縁組ノ場合ニ於テ其縁組カ無効ト爲リ又ハ取消シタルトキ是ナリ(四)當事者ノ意思カ婚姻ヲ爲スニ付テハ家ニ在ル父母又ハ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ經可キニ(第七七二條)之ヲ經ナリシトキハ此等ノ者ハ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(第七八三條人事編第六〇條第六一條)

子カ婚姻ヲ爲スニ付テハ家ニ在ル父母又ハ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ要スルニ子カ其同意ヲ經シタルトキハ此等ノ者ハ其權利ヲ毀損セラレタルニ付キ之ニ其婚姻ノ取消權ヲ與フルハ至當ナリ舊民法人事編ハ此場合ニ於テ許諾ヲ受ク可キ者ニモ自己ノ爲シタル婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ許シタリ(第六〇條ト雖モ此場合ハ意思能力ノ不充分ナル婚姻不適齡者カ自ラ爲シタル婚姻ヲ取消ス場合ト異ナリテ自ラ父母後見人等ノ同意ヲ經スシテ爲シタル婚姻ヲ取消スコトヲ許スハ婚姻ヲ輕視スルニ至ルノ虞アリテ之ヲ許ス可キ理ナキヲ以テ新法ハ此場合ニ於テ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタル者ニハ其取消ヲ請求スルコトヲ許ササルナリ

第二 右ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ス可キ者ノ同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ

此ノ如キ同意ハ眞正ノ同意ニ非ナルヲ以テ父母、後見人及ヒ親族會ニ婚姻ノ取消權ヲ與ヘサル可カラス

以上二箇ノ場合ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス(第七八四條、人事編第六二條)

一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキ

二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ

三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ

(一) 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者即チ父母又ハ後見人及ヒ親族會カ自己ノ同意ヲ爲サナル婚姻アリタルコトヲ知リテヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ同意ヲ爲シタルモ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レテヨリ六ヶ月ヲ經過スルモ其取消權ヲ行使セナルトキハ之ヲ抛弃シタルモノトシ最早其期間後ハ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ許サス

(二) 此婚姻ノ取消ハ婚姻ヲ爲スニ付キ要スル同意ナキニ原因スルモノナレハ
同意ヲ爲ス可キ者後ニ至リ其婚姻ヲ追認スルトキハ是レ同意ヲ爲シタルニ等
シキヲ以テ此場合ニ於テ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ニ婚姻ノ取消ヲ許ス可キ
理アラナルナリ

(三) 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過スルトキハ総合其間ニ在リテ詐欺ヲ發見セ
ス又ハ強迫ヲ免レスト雖モ婚姻ノ取消權消滅スルモノトシタルハ婚姻ハ人事
其他種種ノ關係ヲ有スルニ付キ婚姻シタル者ヲシテ長々曖昧不定ノ地位ニ置
ク可カラサルヲ以テ法律ハ此場合ニハ二年ヲ經過シタルトキハ婚姻ノ取消ヲ
許サナルコトトシタリ

以上擧クタル(一)ノ場合ニ六ヶ月(二)ノ場合ニ二年ハ孰レモ取消權行使ニ付キ法
律ノ設ケタル豫定期間ニシテ時效ニ非ナルナリ故ニ以上ノ期間ハ如何ナル事
由アリトモ之ヨリ延長スルコト非ナルナリ例へハ時效停止又ハ中断ノ如キ事
由アリトモ之ニ關セス右ノ期間ニテ消滅スルモノトス

第三 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請

東スルコトヲ得第七八五條人事編第六三條第六四條
一般ノ法律行爲ヲ爲スニ付キ其意思表示カ詐欺又ハ強迫ニ因ルトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルト同シク婚姻ニ付テモ其意思表示カ詐欺又ハ強迫ニ因ルトキハ之カ取消ノ請求ヲ爲スコトヲ許ササル可カラス而シテ此場合ハ普通ノ場合ト同シク詐欺又ハ強迫ヲ受ケタル者ノミカ此取消權ヲ有スルモノニシテ其相手方ハ否ラサルナリ

此取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消滅スルモノトス而シテ是レ雖ニ説キタル同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ニ關スル規定ト其理由異ナルコトナシ

第四 婚養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無效又ハ取消ヲ理由トンテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無效又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻取消ヲ請求スルコトヲ妨ヶス(第七八六條人事編第一三三條)
婿養子縁組ナルモノハ一方ニ於テハ普通ノ養子縁組ノ性質ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ婚姻ノ性質ヲ有シ而シテ其結果ハ養家ニ於テ父母トノ間ニ親子ノ關係

ヲ生スルト同時ニ家女トノ間ニ夫婦ノ關係ヲ生スルモノニシテ縁組ノ無效又ハ取消ト婚姻ノ無效又ハ取消トハ互ニ相密著シタル關係ヲ有ス故ニ養子縁組カ無効ト爲リ又ハ取消サレタル場合ニ於テ婚姻ノミ繼續シ又ハ婚姻ノ無効ト爲リ又ハ取消サルル場合ニ養子縁組ノミ繼續スルコトスルハ當事者ノ意思ニ反シ相互ニ厭忌スルヲ通例トスルヲ以テ各當事者ハ婿養子縁組ノ無効ト爲リ又ハ取消サレシトキハ之ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲シ又婚姻ノ無効ト爲リ又ハ取消サレタルトキハ之ヲ理由トシテ養子縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ第八五八條然レトモ是レ唯一一方ノ無效又ハ取消ヲ原因トシテ他ノ一方ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ト云フニ止マリ之ヲ請求スルト否トハ固ヨリ當事者ノ任意ナレハ婚姻ノ無効ト爲リ又ハ取消サレタルニ拘ラス養子縁組ハ依然繼續スルコトヲ得可ク又養子縁組ノ無効ト爲リ又ハ取消サレタル場合ニ婚姻ハ之ヲ繼續スルコトヲ得可キナリ以上ノ場合ニ於ケル婚姻ノ取消ノ訴訟ハ獨立ノ本訴トシテ之ヲ提起セシテ縁組ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ提起スルコトヲ得可キモノトス民事訴

訴法ノ規定ニ從フトキハ同一ノ被告ニ對スル原告ノ請求數箇アル場合ニ於テ其各請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有シ且フ法律ニ於テ同一種類ノ訴訟法第一九一條ルニ付キ例へハ婚姻無効ノ訴ト禁治產ニ關スル訴ト其訴訟手續同一種類ナルヲ以テ其管轄同一ナルトキ(同一ナラサルコトアリ)此二者ヲ併合シテ提起スルコト許サル可キモノナレトモ人事訴訟手續法明治三十一年六月法律第一三號ニ於テ婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ハ法律カ例外ヲ設ケタル場合ノ外ハ之ヲ他ノ訴ト併合シテ提起スルコトヲ許サレサルヲ以テ右兩訴ノ如キハ之ヲ併合シテ提起スルコトヲ得サルナリ然レトモ婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴及ヒ養子縁組ノ無効又ハ取消ノ訴ハ之ヲ併合シ若クハ互ニ反訴トシテ提起スルコトヲ得ルナリ(人事訴訟手續法第七條)

茲ニ説キタル取消權ハ際限ナク長ク存セシム可キモノニ非ス當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月ヲ経過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス可シ而シテ時ノ經過ハ義ニ説キタルカ如ク取

○婚姻ノ取消ノ效力 隱居ヘ義ニ説キタルカ如ク之ヲ取消シタルトキハ總則ノ規定第一一二一修ニ從ヒ最初ヨリ隱居セサルモノノ如ク無効ト爲ルモ婚姻ハ之ヲ取消ストモ其效力ハ將來ニノミ存シ既往ニハ遡及セサルナリ(第七八七條)
人事編第六六條今之ヲ詳言スレハ婚姻ハ取消サレタリトモ其以前ノ關係ハ依然有效タルモノニシテ夫婦ハ則チ夫婦タリシナリ其間ニ生レタル子ハ嫡出子ニシテ婚姻ノ取消サレタルカ爲メニ毫モ變更スルコトナシ若シ此場合ニ於テ普通ノ法律行爲ノ如ク最初ヨリ無効ナルモノトスルトキハ其婚姻ニ因リテ生レタル子ノ如キハ最初嫡出子ナリシ者モ私生子ト爲ルモノニシテ之カ爲メニ其享受スヘキ利益ヲ失ヒ其不幸云フ可カラサルナリ
以上ハ婚姻ノ取消カ身分關係ニ及ボス效力ナルカ婚姻取消ノ效ニシテ財產上ニ及ブモノアリ其財產ニ關スル取消ノ效力モ亦既往ニ遡及セサルヲ原則トス若シ婚姻取消ノ效力ヲ既往ニ遡及スルモノトスルトキハ當事者ノ各自ヨリ婚姻中ニ得タル物ヲ悉ク返還シ其他總テ舊狀ニ復セサルヲ得ナルモノニシテ頗

ル混雜ヲ生スルヲ以テ本法ハ財產ニ關シテモ婚姻取消ノ效力ハ將來ニノミ生スルコトト爲セリ故ニ例ヘハ夫カ從來其配偶者ノ財產ヨリ得タル果實第七九九條ハ之ヲ返還スルコトヲ要セス又妻ハ夫ノ負擔シタル婚姻中ノ費用第七九八條ヲ賠償スルコトヲ要セサルヲ原則トシ唯婚姻取消ノ當時ニ有セル當事者各自ノ特有財產第八〇七條ヲ分離スルニ止マル然レトモ之カ爲メ當事者ノ一方カ不當ノ利得ヲ爲スコトハ許ス可カラナル故ニ善意ナル當事者即チ婚姻ノ當時其取消原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財產ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ之カ返還ヲ爲ス可キコトシタリ惡意ノ當事者即チ婚姻ノ當時其取消原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ善意ノ當事者ト異ナリテ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還シ尙ホ其相手方カ善意ナリシトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス蓋シ取消ノ原因アルコトヲ知リテ婚姻シタル者ハ惡意ノ受益者ナレハ之ヲ善意ノ當事者ノ如ク保護スルノ必要ナク毫モ之ニ取消ノ爲メ利益ヲ受クシム可キ理由存セナルナリ是ヲ以テ此場合ニ於テハ婚姻ニ因リテ得タル一切ノ利益例ヘハ其財產ニ因リテ自己ノ債務

ヲ辨済シタルトキハ其債務額及ヒ其法定ノ利息婚姻中ノ費用ヲ相手方カ負擔シタルトキハ其費用ノ自己ノ部分ニ屬スルモノ及ヒ其法定ノ利息等ヲ返還スルコトヲ要ス

第二節 婚姻ノ效力

本節ニ規定スル所ハ妻カ夫ノ家ニ入ルコト夫婦ノ権利義務及ヒ夫婦ノ契約ニ關スル原則ニ過キス而シテ法律カ夫婦ノ権利義務ニ付テ規定シタル所ハ最モ必要ニシテ且フ强行シ得可キ性質ノモノノミヲ掲クルニ過キシテ其道徳上ノ範圍ニ屬スルモノノ如キハ全ク之ヲ規定セス而シテ婚姻ノ效力ノ發生時期及ヒ妻ノ能力ニ關シテモ本節ニ於テ規定ス可キモノナリト雖モ既ニ婚姻ノ成立ト題スル節中ニ婚姻效力ヲ生スル時期ヲ規定シ又妻ノ能力ニ關スルコトハ民法ノ總則編ニ規定シタルヲ以テ茲ニ之ヲ規定セサル所以ナリ又婚姻ニ因リテ親族關係ヲ生スレトモ是レ本編總則ノ規定スル所ナレハ復タ茲ニ說カサルナリ

○夫婦家ヲ同シウスル義務 婚姻ヲ爲シタルトキハ妻カ夫ノ家ニ入ルコトアリ又夫ハ妻ノ家ニ入ルコトアリ普通ノ場合ニ於テハ妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル然レトモ入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル(第七八八條人事編第二四三條)夫婦ハ共同生活ヲ爲ス可キモノナレハ事實上生活ノ場所ヲ同シウスルト其ニ亦法律上ノ家ヲ同シウセナル可カラス是ヲ以テ孰レカ一方ノ家ニ入ラサル可カラサルヤ論ヲ埃タサルナリ而シテ家族制度ヲ維持スル爲タニハ普通ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ家ニ入ル然レトモ家ノ血統ニ屬スル男子ナキトキハ其血統ヲ有スル女子ニ於テ之ヲ承繼スルコトアリ是レ婿養子又ハ入夫ノ必要アル場合ニシテ此場合ニ於テ夫カ妻ノ家ニ入ルハ家族制度ニ關スル自然ノ結果ナリ夫婦中ノ孰レカ其一方ノ家ニ入リタルトキハ其入リタル家ノ氏ヲ稱シ其家ニ屬スル身分待遇等ヲ受タルモノトス例へハ妻平民ナルモ其入リタル夫ノ家ニシテ華族ナルトキハ華族ノ待遇ヲ受ク可シ

○夫婦ノ同居ニ關スル權利義務 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ又夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムル義務アリ(第七八九條人事編第六五條第八四條第八五條夫婦ノ同居ヲ爲スコトハ其相互ノ權利タリ妻ハ夫ニ隨從ス可キモノナレハ夫ガ選定シタル居所ニ隨フ可キモノニシテ離合其居所カ外國ナリトモ之ニ隨從スルコトヲ拒ム不得サルナリ又夫ハ妻ヲ引取ルノ義務ヲ負フカ故ニ其選定シタル居所ニ妻カ隨從セントスル場合ニ之ヲ拒ムコトヲ得ス換言スレハ妻ノ意ニ反シテ之ト別居ヲ爲スコトヲ得サルナリ

夫婦カ右ノ義務ニ背戾シタルトキ換言スレハ妻カ夫ト同居スルコトヲ肯セサルトキ又ハ夫カ妻ヲシテ同居ヲ爲サシメサルトキハ如何ナル制裁アリヤ妻カ夫ト同居ヲ爲スコトヲ肯セナルトキハ夫ハ妻ニ對シ扶養ノ義務ヲ負ハサルコトハ疑フ容レス何トナレハ第九百六十一條ノ規定ニ從ヘハ扶義ノ義務者ハ扶養権利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付ス可キ選擇權ヲ有スルニ其權利者カ扶養義務者ノ意ニ反シテ其家ニ引取ラセサルヲ以テ此場合ニ於テ扶養権利者ハ自ラ扶養ノ權利ヲ主張スルコトヲ得サルハ言フアエタサルナリ又夫カ妻ヲシテ同居ヲ爲サシメサル場合カ若シ第八百十三條第六號ノ場合即チ配遇者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルモノナルトキハ妻

ハ之ヲ理由トシテ離婚ヲ請求スルヲ得可キコトモ亦論ヲ俟タサルナリ

然レトモ此等二箇ノ制裁ハ前ニ舉ケタル義務ノ違背者ニ加フル直接ノ制裁トシテハ未タ以テ足レリトセザルナリ換言スレハ此制裁ハ義務ノ直接履行ヲ求メントスル配偶者ノ爲メニハ毫モ效力ヲ有セサルナリ若シ妻カ夫ト同居スルコトヲ頑然拒ミタルトキハ強力ヲ用キテ強制スルコトヲ得可キヤ此問題ハ佛民法ニ於テモ存スル所ナルカ種梗論カ一般ニ認容セラル所ナリ凡ソ義務ニシテ法律ニ規定セラレタル以上ハ有效ナル制裁ナカル可カラサルモノニシテ若シ其制裁ナシトスルトキハ其義務ハ有名無實ナリ於是乎若シ妻カ夫ト同居フ爲スコトノ義務ニ背キタル場合ニハ妻ヲ強制シテ夫ト同居セシムルノ一方法アルノミ而シテ其方法ハ公力ヲ假ルヨリ外アラナルナリ是レ同居ノ義務ノ違背ニ對スル最モ有力ノ制裁タルナリ普通法ニ從フトキハ或事ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ者カ其義務ヲ履行セサル場合ニ於テ公力ヲ假リ之ヲ強制シテ其履行ヲ爲シムルコトヲ得ナルハ勿論ナリト雖モ然レトモ此原則ハ財産權ニ關スル義務ニ違背シタル場合ニ非サレハ適用スルコトヲ得サルナリ然ルニ今茲ニ論

スル問題ハ財產權ニ關セサル義務違背ナリ而シテ債務者カ債權者ニ對シテ債務者カ債權者ニ對シテ
ヒタル財產權上ノ義務ニ違背シタル場合ニ於テ債務者ノ自由及ヒ身體ヲ拘束ス可カラサルコトハ論ヲ俟タサレトモ此ノ如キ場合ニ於テハ其義務ノ違背ニ對シテハ他ノ對價ヲ以テ償フコトヲ得可シ換言スレハ之カ爲メニ生シタル損害ハ金錢ヲ以テ賠償スルヲ得可シト雖モ妻カ同居ノ義務ニ違背シタルトキハ其權利者ノ爲メニハ如何ナル對價アルカ金錢ヲ以テ損害賠償ヲ爲スヘキヤ此場合ニ於テハ夫ノ受ケタル害ハ金錢ヲ以テ賠償スルコト能ハス他ノ適當ナル方法ヲ以テセサル可カラサルモノニシテ其方法ハ公力ヲ指テ他ニ適當ナルモノアラナルナリ然レトモ此說ニハ反對説ナキニ非サルナリ
○扶養ノ義務||第七百九十九條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ(人事編第八四條)

章トシテ別ニ詳細ナル規定ノ設アルヲ以テ今茲ニ細説セサルナリ木屋八

○妻ノ後見人タル義務第七百九十一條　妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セバルトキ第九〇〇條ハ未成年者ハ後見ニ服スルコトヲ要スルモノニシテ其後見人ハ第九百一條ノ規定ニ從ヒ親權ヲ行フ者遺言ヲ以テ之ヲ指定シ第九百三條ノ規定ニ從ヒ月主其後見人ト爲リ又ハ第九百四條ノ規定ニ從ヒ親族會ニ於ア後見人ヲ選任スルヲ例トスルヲ以テ若シ妻ニシテ未成年者ナルトキハ普通ノ規定ニ從ヘハ夫以外ノ者ニ於テ右ニ掲クルカ如ク親權ヲ行ヒ又ハ後見人ノ職務ヲ行フヲ得可ケレトモ妻ノ爲メニハ夫カ最モ能ク其利益ヲ保護ス可キ者ナレハ此場合ニ於テ他ノ者ヲ擄キ夫ヲシテ妻ノ後見人ノ職務ヲ行ハシムルヲ可トシ此規定ヲ設ケタリ然レトモ夫自身カ未成年者ナルカ若クハ禁治產者ナルトキハ妻ノ爲メニ後見人ノ職務ヲ行フコト能ハナルヲ以テ其場合ニ於テハ他ニ後見人ヲ選定スルコトヲ要スルハ論ヲ埃タサルナリ

○夫婦間ニ於テ爲シタル契約第七百九十二條　夫婦間ニ於テ契約ヲ爲タシテトキハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スニトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス財產取得編第三五條第三六條第一〇九條第二項第三六七條)

夫婦間ニ於テハ他人間ニ於ケルト異ナル關係アリテ契約ヲ爲スニ當リテモ或ハ妻ハ夫ニ威壓セラレテ充分ナル意思ヲ述フルヲ得ナルコトアリ又夫ハ妻ノ愛ニ陷溺シテ不知ノ間ニ意思ノ自由ヲ奪ハル等ノコトアルヲ以テ夫婦間ニ爲シタル契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコトヲ得可キモノトシタリ他國ノ立法例ニ於テハ或法律行為ニ限リテ夫婦間ニ之ヲ爲スコトヲ禁スルモノアリ例へハ佛國民法第千九十六條第千五百九十五條ニ於テハ夫婦間ニ於テ爲シタル贈與及ヒ賣買ハ之ヲ禁セリ又賣買ヲ許スモ贈與ハ禁スルモノアリ或ハ二者共ニ禁スルニハ非ナルモ之カ取消ヲ許スモノアリ本法ハ賣買贈與其他總ノ契約ハ有償タルト無償タルトハス又其目的物ノ金錢タルト金錢以外ノ物タルトヲ問ハス原則トシテ之ヲ爲スコトヲ許スモ婚姻中ハ一方

ノ意思ヲ以テ之カ取消ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリオモ精たる體則中ニ一文右契約ノ取消ハ婚姻中ニ在リテノミ之ヲ許ス可キモ婚姻ノ解消又ハ取消後ニ在リテハ當然有效ノモノト爲リ最早取消スコトヲ得サルナリ又右契約ノ取消ハ夫婦ノ間ニ於フノミ之ヲ許スト雖モ之カ爲メニ第三者ニ效力ヲ及ホシ其權利ヲ害スルコトハ許ス可キニ非サレハ但書ノ規定ヲ設ケタリ故ニ例へハ妻カ所有セシ不動産ヲ夫ニ賣渡シ夫ハ之ヲ第三者ニ賣渡シタリセンカ妻ハ婚姻中ニ爲シタル右ノ賣買ヲ取消スコトヲ得可シト雖モ既ニ第三者ニ輻轉シタル不動産ヲ取戻スコトヲ得サルナリ

第三節 夫婦財產制

舊民法ハ夫婦ノ財產關係ノ規定ヲ夫婦財產契約ト稱セシモ本法ハ之ヲ改メテ夫婦財產制ト稱セリ蓋シ夫婦財產契約ト稱スルヨヒ重ニ夫婦カ其婚姻ヲ爲スニ當リテ任意ニ爲シタル契約ヲ指稱スレトモ今本節ニ規定スル所ハ多クハ法律ノ定メタル財產制ニシテ當事者ノ契約ヲ以テ定ムルヨシニ關スル規定甚

タクケレハ之ニ舊民法ノ題號ヲ採用スルハ其當ヲ失スルヲ以テナリ夫婦ハ婚姻ヲ爲スニ當リ任意ニ其財產關係ニ付キ契約ヲ爲スコトヲ得可シト雖モ夫婦ノ關係ハ専ラ情誼ニ依リテ成立スルモノナレハ其婚姻ヲ爲スニ當リ一其財產關係ヲ契約スルコトハ必ス可カラス而シテ其契約ヲ爲シタル場合ニモ其契約ニ付キ一般ノ契約ニ關スル規定ノ外別ニ法律上ノ制限ヲ設ケルコトノ必要アリ是レ夫婦財產制アル所以ナリ夫婦カ婚姻ヲ爲セル其間ノ財產關係ノ契約ハ婚姻ノ從タル契約ナリ若シ主タル契約ナル婚姻ニシテ無效又ハ取消ト爲リタルトキハ亦隨テ從タル財產關係ノ契約モ無効又ハ取消ト爲ル可シ此ノ如キ場合ニ主タル物ノ消滅シテ從タル物ノミ在立ス可キ道理アラナルナリ然レトモ從タル契約ニシテ法律ニ反シ又ハ善良ノ風俗ニ悖ルカ爲メ無効又ハ取消ト爲リタルトモ之カ爲メ主タル契約婚姻ニ毫モ影響ヲ及ホス可キモノニ非ス此場合ニ於フハ婚姻ハ成立シ隨フ支辨ス可キ費用ヲ要スルコト勿論ナレハ夫婦ハ財產上ノ契約ヲ爲ナシシテ婚姻シタルモノト看做シ開大法定ノ財產制ニ從ヒテ婚姻ヲ爲シタル

モノト看做シ此制ニ付キ定ムタル規定ニ従フ可キナリ

此款ニ於テハ契約上ノ財産關係ト法定ノ財產制トニ通ス可キモノラ規定セリ

○夫婦ノ財產關係ヲ支配スル原則—第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ
其財產ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財產關係ハ次款ニ定ムル所ニ
依ル（人事編第四二二條第一項第四二四條）
右ニ説キタルカ如ク夫婦ハ自由ニ契約ヲ爲シ其婚姻中ノ財產關係ヲ定ムルコ
トヲ得可シト雖モ其契約力有效ナル爲メニハ婚姻ノ届出前ニ爲シタルモノナ
ラナル可カラス 縦合當事者カ其間ノ財產關係ヲ定ムル契約ヲ爲シタリト雖
モ其契約ニシテ婚姻届出後ニ成立シタルモノナルトキハ完全ナル效力ヲ有セ
ス法律ハ此場合ニ於テハ別段ノ契約ヲ爲シタルモノト看做サルヲ以テ夫婦
ハ財產關係ニ付キテハ法定ノ財產制ニ從ハサルモノ可カラス何故ニ夫婦間ノ財產
關係ヲ定ムル契約ハ婚姻ノ届出前ニ爲シタルモノニ非テシハ有效ナル別段ノ

契約ヲ爲シタルモノト看做サルカ是レ前ニ説キタルカ如ク婚姻後ニ在リテハ夫
婦ノ一方ハ他ノ一方ノ意思ヲ抑制スルコトナキヲ保セサレハ婚姻後ニ財產契
約ヲ爲サン歟其一方ハ他ノ一方ノ意思ヲ壓抑シテ自己ニ利益ニシテ他ノ一方
ニ不利益ナル條款ヲ以テ契約ヲ爲サシムルノ恐レアレハナリ是ヲ以テ法律ハ
婚姻ノ届出前即チ夫婦タラントスル男女ノ各自特立不羈ノ精神ヲ以テ財產上
ノ契約ヲ取結フコトヲ得ル時ニ之ヲ爲ス可キモノトシ隨テ婚姻後ニ契約ヲ爲
シタラン歟其契約ハ雙方ノ自由ナル意思ニ當テタルモノト看做サルナリ
夫婦カ婚姻ヲ爲スニ當リ其財產契約ヲ爲ササルトキハ法定ノ財產制ニ從フ可
キモノニシテ其規定ハ最早夫婦ノ意思ヲ以テ左右スルコトヲ許ナナルナリ但
シ婚姻ノ届出前ナレハ夫婦ハ法定ノ財產制ニ異ナリタル契約ヲ爲スコトヲ得
可キハ以下叙述スルカ如シ

定メ以テ當事者ノ據ル可キ標準ヲ示セリ今佛法ノ定ムル所サ舉クレハ同法ハ
大別スレハ四個人制度ヲ設ク當事者ヲシテ其中一ヲ選擇スルコトヲ得ルモノ
トシタリ第一夫婦財產共通ノ制佛民法第一三九九條乃至第一五二五條第二財
產不共通ノ制第一五二九條乃至第一五三五條第三財產分離ノ制第一五六六條
乃至第一五三九條第四嫁資法第一五四〇條乃至第一五八一條是ナリ第一ハ佛
法ニ於ケル法定財產制ニシテ婚姻ノ當時何等ノ契約ヲ爲サナルトキハ當事者
ノ當然從ハナル可カラアルモノナリ

○財產契約ノ登記—第七百九十四條夫婦カ法定財產制ニ異ナリタル契約ヲ
爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承
繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス財產取得編第四二二條第一項
夫婦間ニ法定財產制ニ異ナリタル契約ヲ爲サナルトキハ夫婦ハ法定財產制ニ
從フ可キヲ以テ別ニ之カ登記ヲ爲スコトヲ要セサレトモ若シ夫婦ニ於テ法定
財產制ニ異ナリタル別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ之ヲ第三者ニ對抗スルコト
ヲ得セシメサル可カラス而シテ之ヲ第三者ニ對抗スル爲ミニハ公示ノ方法ナ

カラサル可カラス其方法ニ付キテハ諸國ノ立法例一定セス或ハ公證人ヲシテ
證書ヲ作ラシムルモノアリ佛民法第一三九一條或ハ婚姻證書中ニ附記セシム
ルモノアリ本法ハ此等ノ方法ニ倣ハスシテ一般ニ財產權ニ關スル事項ノ公示
方法トシテ登記ノ方法ヲ採用スルヲ以テ婚姻ヲ爲スニ當リ取結ヒタル財產契
約ニモ登記ヲ以テ第三者ニ對抗スル方法ト爲シタリ此登記ハ之ニ因リテ獨リ
第三者ニ對抗スルニ必要ナルノミナラス夫婦ノ承繼人ニモ對抗スルニ必要ナ
リ夫婦ノ承繼人其家督相續人遺產相續人ニ對シテハ普通ノ法律行爲ナレハ登
記ヲ爲サナルトモ對抗スルコトヲ得ルヲ當トスレトモ此場合ニ於テハ其承繼
人ハ夫婦ノ財產ニ對シ重大ナル利害關係ヲ有スルノミナラス夫婦カ死亡シタ
ル際ニハ其財產ヲ整理ス可キ者ナルカ故ニ之ニ豫メ夫婦財產契約ノ如何ヲ知
ラシメ置クハ必要ナルヲ以テナリ

此登記ハ婚姻ノ届出マテニ之ヲ爲サナル可カラス若シ之ヲ其時期迄ニ爲サナ
ルトキハ第三者ハ別段ノ契約ナキモノト看ル可キナリ然レトモ其場合ニ於テ
ハ夫婦ヨリ其契約ヲ其承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ止マリ承

繼人及ヒ第三者ヨリ夫婦ニ對抗スルコトヲ得ルハ陰ヲ埃タナルナリ
○外國人ノ夫婦財產制ニ第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財產制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年内ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(財產取得編第四二五條法例第一五條)

外國トノ間ニ新結セル舊條約廢止セラレ治外法權ノ撤去セラレタル以上ハ吾民法カ吾國ニ居住スル外國人ヲ支配ス可キヲ以テ吾邦ニ於テハ外國法ニ從ヒテ婚姻ヲ爲シタル外國人ノ夫婦間ノ財產契約ハ如何様ニ認ム可キヤフ定ムルハ必要ナルヲ以テ法例第十五條ニ於テ夫婦財產制ハ婚姻ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依リ緯令國籍ヲ變更シタリトモ之カ爲メ毫モ變更セサルモノトシタリ例ヘハ佛國人カ自國ノ法律ニ從ヒテ婚姻ヲ爲シタル後吾邦ノ國籍ヲ取得シ若クハ吾邦ニ居住シタルトキハ其本國ニ於ケル如何ナル制度ニ依リテ契約シタルトモ又何等ノ契約アモ爲サヌシテ婚姻ヲ爲シタリトモ此場合ニ於テ

ハ其法定ノ財產制ニ從フ其契約又ハ佛國ノ法定財產制ハ吾邦ニ於テ其夫婦ノ爲メ有效タル可キナリ而シテ外國人カ其本國ニ於ケル法定財產制ニ從フタルトキハ猶ホ吾邦人カ本國ノ法定財產制ニ從ヒテ婚姻シタルトキノ如ク別ニ其契約ヲ登記スルコトヲ要セサルナリ然レトモ若シ其本國ノ法定財產制ニ異ナリタル別段ノ契約ヲ爲シタルモノナルトキハ吾邦人カ法定財產制ニ異ナリタル別段ノ契約ヲ爲シタルモノナルトキニ於テ登記ヲ爲ササレハ第三者ハ夫婦間ノ契約如何ノ知ルニト能ハサルト同シタル外國人夫婦間ノ契約ヲ了知スルニト能ハナルヲ以テ此場合ニモ登記ヲ爲スニ於テハ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ之カ對抗ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

以上ノ登記ハ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メヨリ一箇年内ニ爲テナル可カラス

夫ノ本國法トハ夫ノ現在ノ本國法ヲ指スカ將タ夫ノ結婚當時ノ本國法ヲ指スカノ誕生ス可シト雖モ是レ法例第十五條ヲ規定スルトキ既ニ決セラレタルモノニシテ吾法例ハ夫ノ現在ノ本國法主義ヲ採ラスシテ其結婚當時ノ本國法主

義ヲ採リタルモノナレハ茲ニ謂フ所ハ夫ノ婚姻當時ノ本國法タリ故ニ外國人カ婚姻ノ後其國籍ヲ變更シ而シテ更ニ其國籍ヲ日本ニ變更シ又ハ日本ニ居住シタルトキハ第一ノ本國ノ法定ノ財產制ニ從ヒタルモノナルトキハ更ニ日本ニ於テ之カ登記ヲ爲スコトヲ要セサレトモ若シ其財產契約ニシテ第二ノ本國法ノ財產制ト同シキモノナルトキハ更ニ日本ニ於テ之ヲ登記セサル可カラス外國人カ婚姻ヲ爲シタル後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキ一箇年内ニ右ノ登記ヲ爲サナルトキハ其承繼人及ヒ第三者ハ夫婦カ其本國ノ法定財產制ニ從ヘルモノト視ル可キヤ將タ日本ノ法定財產制ニ從フ可キモト視ル可キヤ此場合ニ於テハ以上ノ外國人ハ其本國ノ法定財產制ニ從フモノトセサル可カラス何トナレハ法例第十五條ニハ前ニ述フルカ如ク夫婦財產制ハ婚姻當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ルトアリ且フ夫婦間ニ於ケル財產關係ハ婚姻ヲ爲ストキ契約又ハ法定制度ニ依リテ定マル可キモノナレハ若シ右ノ場合ニ於テ日本ノ法定制度ニ從フ可キモノトスルトキハ婚姻ノ當時一旦定マリタルヲ變更スルニ至レハナリ是レ次條ニ規定スルカ如ク許ス可カラサル所

ナリ
○婚姻中ニ於ケル財產關係ノ變更—第七百九十六條。夫婦ノ財產關係ハ婚姻届出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス第一項財產取得編第四二二條
義ニ說キタルカ如ク夫婦財產關係ハ婚姻前ニ之ヲ定ムルコトヲ要シハ其時期迄ニ定メナルトキハ夫婦間ノ財產關係ハ法定ノ制度ニ從フ可キモノナルニ若シ婚姻届出後ニ於テ當事者カ最初定メタル其財產關係ヲ自由ニ變更スルコトヲ得ルモノトスルトキハ右ノ夫婦財產關係ハ婚姻前ニ定ム可シトノ規定ハ徒法ニ歸ス可キナリ何トナレハ配偶者ノ意思ヲ抑制スル夫婦ノ一方ハ其配偶者ヲシテ強ヒテ自己ニ不利益ナル約款ノ變更ヲ承諾セシメ新ニ利益ナル契約ヲ取結フニ至ル可ケレハナリ加之前契約ノ變更ハ則チ一ノ契約ナレハ婚姻前ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルヤ前ニ說キタル規定ヲ推究スルニ於テ其理自ラ明カナリ

然レトモ法律ハ以上ノ規定ニ對シテ二箇ノ例外ヲ設ケタリ即チ左ノ如シ

(一) 夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其

財産ヲ危クシタルトキハ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第七九六條第二項財產取得編第四三二條婚姻前ニ定メタル夫婦間ノ財產關係ハ如何ナル場合ニ於テモ變更スルコトヲ得ナルモノトスルトキハ一方カ他ノ一方ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ例へハ投機業ヲ營ミ又ハ放蕩ノ爲メニ浪費スルカ如キ其管理ノ方法ヲ誤リ其財產ヲ危クスルコトアルトモ如何トモスルコト能ハス現ニ自己ノ財產ノ滅盡スルヲ目撃シナカラ之ヲ救濟スルノ途アラサルナリ是ヲ以テ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ他ノ一方ハ其財產ノ安全ヲ謀ルカ爲メ自ラ之カ管理ヲ誤リスコトヲ得ルモノトセリ此場合ニ於テモ法律ハ當事者力隨意ニ財產管理・變更ヲ爲スコトヲ許サス必ス裁判所ニ請求セサル可カラサルコトトセリ

舊民法ニ於テハ夫カ妻ノ財產ヲ危クシタル場合ニ於テ妻ニ其財產ノ管理ヲ爲スコトヲ許スニ止マリ夫ニハ妻ト同一ノ權利ヲ與ヘサレトモ別段ノ契約ヲ以テ夫婦間ノ財產關係ヲ定ムルニ當リ妻カ夫ノ財產ヲ管理スルコトスルトモ妨ケナキヲ以テ其場合ニ於テ妻カ夫ノ財產ヲ危クスルコトナシトセ

斯然ルニ斯ル場合ニ夫カ妻ノ財產ヲ危クスル場合ト同シク夫ヲ保護スル必要アルヲ以テ新法ハ廣ク夫婦ノ一方カ云云ト言ヒテ單ニ夫カ妻ノ財產ヲ危クシタル場合ニ限ラサルナリ

(二) 夫婦カ財產共有ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ右第一ノ場合ニ於ケル請求スルコトヲ得第七九六條第三項財產共有ノ場合ニ於テハ單ニ夫婦ノ一方カ他ノ一方ヨリ危クセラレタル其財產ノ管理ヲ爲スノミニテハ未タ以テ原所有者ノ利益ヲ保護スルニ足レリトセス此場合ニ於テハ共有財產ノ分割ヲ爲スコトヲ許ササル可カラス

○管理者變更及ヒ其有財產分割ノ登記 婚姻中ニ財產ノ管理者ヲ變更シ又ハ最初ノ契約ニ基キテ其有セル財產ヲ分割スルトキハ既ニ爲セル登記ノ事實ニ變更ヲ加フルモノナルヲ以テ之ヲ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルニハ登記ヲ要スルコトハ論ヲ埃タサルナリ而シテ財產管理者ヲ變更ハ或ハ最初ニシタル契約ノ結果ニ基クコトアリ或ハ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財產ヲ危クスルヨリ他ノ一方カ自ラ其財產ヲ管理スルカ爲メナルコトアリ又其有財產ノ分割モ或ハ

最初ノ契約ノ結果ニ基クコトアリ或ハ右ニ掲ケタル原因ニ基クコトアレトモ其就レノ場合タルヲ間ハス既ニ爲シタル登記ニ變更ヲ生スルモノナルトキハ登記セザルトキハ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ハ其變更ヲ知ラサルナリ

第一款 法定財產制

法定財產制トハ夫婦カ婚姻ヲ爲スニ當リ其財產關係ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サリシトキ法律ノ規定ニ因リ當然從フ可キモノヲ謂フナリ財產制ニ付テハ種種ナルモノアレトモ本法ハ舊民法ノ如ク佛國法學者ノ所謂財產不共通法ヲ以テ最モ吾國情ニ適スルモノト認メ之ヲ採用シタルナリ財產不共通法トハ夫婦ハ各別ニ自己ノ財產ヲ有シ夫又ハ戸主タル妻ハ其配偶者ノ財產ヲ使用收益スルコトヲ得ルモノヲ謂フ此制ニ於テ夫婦各自ニ財產ヲ所有スルカ如ク各自ノ債務ハ各自之ヲ負擔スルナリ而シテ夫婦間ニ於テ財產ヲ共通スルコトハ夫婦生活ノ共同ヲ完全ナラシムモノニシテ最モ婚姻ノ性質ニ適應ス可シト雖モ婚姻ハ往往解除セラルコトアルモノニシテ共通ノ財產ハ其際之ヲ分割

スルニ混雜ナル計算ヲ要シ濫訴ノ弊アルヲ免レス財產分離ノ制ハ之ト正反對ナルモノニシテ婚姻解除ノ際ノ如キハ別ニ複雜ナル關係ヲ生スルコトナキニ引替ヘ婚姻中夫婦間ノ平和ヲ害スルノ弊アルヲ免レサルナリ故ニ本法ハ其中間ニ在ル財產不共通ノ制ヲ採リタル所以ナリ

○婚姻中ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タルトキハ妻之ヲ負擔ス(人事編第二六條、財產取得編第四二六條)

吾邦ニ於テハ夫シタルモ其妻カ戸主タル場合ヲ除クノ外ハ婚姻中ノ費用例ヘハ衣食住ニ關スルモノ子ノ教育費及ヒ養育費等ハ夫ノ負擔トスルヲ常トスルカ故ニ法律カ之ヲ其負擔ト定メタルハ至當ナリ而シテ夫ハ此費用ヲ負擔スルノ結果トシテ其配偶者ノ財產ヨリ生スル果實ヲ取得スルコトヲ得可ク又夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財產ニ付キテハ法律上夫ノ財產タルコトノ推定ヲ受クルモノトス妻カ戸主タルトキモ亦同シキナリ

以上ノ規定ハ夫婦間及ヒ近親間ノ扶養ノ義務ニ變更ヲ生スルコトナキナリ故

ニ夫又ハ女戸主カ婚姻中ノ費用ヲ負擔ス可キ義務アルニ拘ラス貧困ニ陥ルリ
自活スルコト能ハサルニ至リタルトキハ妻又ハ女戸主ノ夫ハ第七百九十九條及
ヒ第八章扶養ノ義務第九五四條以下ノ規定ニ依リ夫又ハ女戸主ニ對スル扶養ノ
義務ヲ負ヘルコトハ依然タルナリ

○特有財産ノ使用収益權——第七百九十九條 夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財產ノ使用及ヒ収益ヲ爲ス權利ヲ有ス(財產編第五〇條乃至第六六條財產取得編第四二六條、第四二七條、第四三三條、第四三四條)

本法ノ法定財產制トシテハ夫婦間ノ財產ノ共有ヲ認メス總テ各自ノ特有ト爲シタレトモ夫婦共同生活ノ費用ノ如キハ之ヲ分割スルコトヲ得サルヲ以テ義シ説キタルカ如タ夫ノ負擔トシ妻カ戸主タルトキハ妻ノ負擔ト定メタル所以ナルカ夫又ハ戸主ニ之ニ換フル利益ヲ受ケシメサル可カラサルヲ以テ法律ハ夫ニ妻ノ有スル特有財產ヲ用方ニ從ヒテ之ヲ使用シ又之ヨリ生スル収益ヲ得セシムルコトト爲シタリ妻カ戸主タルトキ亦同シキナリ

此場合ニ於テ夫カ有スル權利ハ妻ノ財產ノ使用収益ニ止マルカ故ニ夫ハ妻ノ

財產ノ元本ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス又妻カ自己ノ營メル商業ヨリ得タル利益ノ如キモ亦收益スルコトヲ得サルナリ而シテ収益ノ重ナルモノハ果實ヲ得ルニ在リ果實ノ何タルコトハ民法第八十八條、第八十九條ニ規定セリ彼ノ終身定期金ノ如キハ之ヲ果實ト云フヲ得サルヲ以テ是亦夫ニ於テ取得スルコトヲ得サルナリ

夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財產ヨリ生スル果實ヲ得レントモ若シ其配偶者ニシテ債務ヲ負擔スルトキハ其利息ハ自己ノ特有財產ノ果實中ヨリ辨済スルコトヲ許サナル可カラス是ヲ以テ第二項ノ規定ヲ設ケタルナリ

○使用貸借ニニ關スル規定ノ準用——第八百條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ夫又ハ女戸主カ其配偶者ノ財產ノ使用及ヒ収益ヲ爲ス場合ニ準用セラル(財產編第六九條第七〇條、第八六條乃至第九五條財產取得編第四二七條)

夫又ハ女戸主ハ使用貸借ノ借主カ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔スルカ如ク其配偶者ノ特有財產ノ通常ノ必要費ヲ負擔シ又借主カ借用物ヲ原狀ニ復シテ之

ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得ルカ如ク夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ特有財産ニ工作ヲ施シタル等ノコトアルトキヘ之ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得可シ

○妻ノ財産ノ管理—第八百一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス、夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハナルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス(財産取得編第四二八條)

配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權ハ夫又ハ女戸主ニ屬セシメタルニ拘ラス夫ハ常ニ妻ノ財産ヲ管理ス而シテ其妻カ戸主タル場合ト否トヲ問ハサルナリ財産ノ使用收益ノ權利ヲ夫又ハ女戸主ニ與ヘタル理由ハ右ニ説キタル如ク此等ノ者カ婚姻中ノ費用ヲ負擔スルニ在ルカ故ナレトモ財産ノ管理ハ必スシモ妻カ戸主タル場合ニ於テ妻カ之ヲ爲スノ宜シキヲ得タリト云フ得ス財產管理ノ能力ハ一般ニ夫ハ妻ニ優レルヲ以テ之ヲ必スモ戸主權ノ行使ト相伴ハシムルコトヲ要スルモノニアラス是ヲ以テ妻ノ財産ハ常ニ夫ニ於テ管理スルコトト爲シタリ然レトモ夫カ瘋癲白痴等ナル場合ニ於テ妻ノ財産ヲ管理スルヲ得サルコトアリ其場合ニ他ニ規定ナキニ於テハ夫ノ法定代理人人カ無能

力ナル夫ニ代ラテ妻ノ財産ヲ管理スルコトト爲ラン然レトモ元來妻ハ自己ノ財産ヲ管理スル能力ヲ有セナルニ非ス唯一家ノ便宜上夫カ妻ノ財産ヲ管理スルヲ可トスルヨリ夫ヲシテ管理セシムルモノナレハ此場合ニ夫以外ノ者カ妻ノ財産ヲ管理スルトキハ却テ其者ト妻トノ間ニ意見合ハサルコト等アリテ紛糾フ生スルコトナシトセ是ヲ以テ此場合ニ於テハ夫ノ法定代理人人ヲシテ妻ノ財產ヲ管理セシムルヨリハ妻自身ヲシテ之ヲ管理セシムルニ如カサルヲ以テ第二項ノ規定ヲ設ケタリ

○妻ノ財産ニ於ケル夫權ノ制限—第八百二條 夫カ妻ノ爲ミニ借財ヲ爲シ妻ノ財産ヲ譲渡シ之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超ニテ其貸貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要す但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラス財產取得編第四二九條乃至第四三一條

夫ハ妻ノ財產ノ管理者ナルヲ以テ一般ノ管理行為ニ關シテハ妻ノ意思ニ反シテ自己ノ有スル權利ニ因ルテ之ヲ爲スコトヲ得可シト雖モ然レトモ妻ノ財產ニ付キ重大ナル管理行爲及ヒ處分ヲ爲メハ夫ノ權限ニ屬セザルモノトセリ若

シ此等ノ行爲ヲモ夫カ其權利トモテ爲スコトヲ得ルモノトスルトキハ夫ハ妻ノ財産ニ付キ全權ヲ有シ夫ニ殆ト妻ノ財産ヲ與ヘタルニ異ナラサルナリ是ヲ以テ法律ハ妻ノ爲メ其財産ニ關スル重大ナル法律行爲ニ付キ夫ノ權限ヲ制限セリ即チ第一、妻ノ爲メ借財ヲ爲スコト、第二、妻ノ財產ヲ讓渡スコト、第三、妻ノ財產ヲ擔保ニ供スルコト、第四第六百二條ノ期間(樹木ノ栽培又ハ伐採ヲ目的トスル山林ニ付テハ十年其他ノ土地ハ五年建物ハ三年動産ハ六ヶ月)ヲ超エテ貸貸ヲ爲ストキハ夫ハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ然レトモ管理權ノ範圍内ニ於テ果實ヲ處分スルハ全ク夫ノ權利ニ屬シ何人ノ承諾ヲ要ス可キニ非ス例ヘハ田畠ヨリ生スル收穫ヲ賣却シテ其代價ヲ收ムルカ如キ是ナリ但シ果實ノ處分ト雖モ管理ノ目的ノ範圍外ニ涉ルトキハ普通ノ財產讓渡ト同シク妻ノ承諾ヲ得サル可カラス例ヘハ貸家賃ヲ拋棄シ果實ヲ他人ニ贈與スルカ如キ是ナリ

舊民法ニ於テハ妻カ禁治產者ナルトキハ親族會ノ同意ヲ得其失踪ノ場合ニハ裁判所ノ許可ヲ得テ此等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得可セ旨ヲ規定スト雖モ本法ハ禁治產者タル場合ハ後見ノ章第九〇二條第九二三條第九二四條第九二九條第
九三一條等ニ規定シアリ又失踪ノ場合ニ關シラハ失踪ノ條中第二八條ニ規定シアルヲ以テ法律ハ復タ茲ニ之カ規定ヲ設ケサルナリ
本條但書ハ殆ト入夫カ妻タル女戸主ノ財產ヲ管理スル場合ニ限リ其適用ヲ見ル可シ否ラスンハ夫ハ果實ノ所有者タル可ケレハナリ但シ當事者カ大體ニ於テ法定財產制ヲ採リ唯妻ノ財產ノ果實ノ全部又ハ一部ヲ夫ニ與ヘサルコトヲ約シタルトキハ亦本條但書ノ適用ヲ受ク可キナリ
○妻ニ對スル擔保提供ノ義務　夫ハ妻ノ財產ニ關シ廣大ナル權限ヲ有スルニ付キ若シ夫カ其管理ノ方法ヲ誤リ其財產ヲ危クスル場合ニ於テハ屢ニ說キタルカ如ク(第七九六條)妻ヘ自カラ其財產ヲ管理スルコトヲ得可シト雖モ夫ノ管理ノ失當未タ甚シキニ至ラス若クヘ妻カ自ラ管理ヲ爲スニ不適當ナル場合ニ於テ夫ノ管理權ヲ剥奪セスシテ別ニ妻ヲ保護スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス舊民法擔保編第二〇四條(民法第二一二一條)ノ如キハ法律上ノ抵當權ナルモア設ケ妻ハ婚姻ニ因リテ當然夫ノ不動產ノ上ニ抵當權ヲ有シ夫カ其財產ノ管

理ヲ誤リタルトキノ擔保ヲ有スレトモ本法ハ舊法及ヒ佛民法メ如ク法律上モ抵當權ナルモノヲ認メシテ別ニ妻ノ爲ミニ夫ヲシテ擔保ヲ供セジメテ之ヲ保護スルコトシタリ即チ夫カ妻ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルトノ規定ヲ設ケタリ第八〇三條擔保編第二〇四條第一號第二一六條第二二二六條)

此規定ハ失踪者ノ財產ノ管理ニ關スル第二十九條後見人ニ關スル第九百三十三條ノ規定ト其趣ヲ同シウスルモノニシテ妻ハ當然擔保權ヲ有スルモノニ非ス妻ヨリ之カ請求ヲ爲シ裁判所カ其請求ヲ正當ナリト認タル場合ニ限り此擔保權ヲ有スルナリ而シテ又其擔保ノ種類ノ如キ法律ハ豫メ之ヲ定メサルヲ以テ裁判所ノ適當ト認ムルモノナレハ如何ナル物ヲモ擔保ニ供セシムルコトヲ得可キナリ

○日常ノ家事ニ關スル妻ノ代理權—第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之

ア以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(財產取得編第四三四條第一項)
夫ハ妻ノ財產ヲ管理スルモ妻カ夫ノ財產ヲ管理スルコトナキハ義ニ説キタル
カ如クナレハ日常ノ家事ニ付テモ妻ノ之ヲ取扱フトキハ夫ヨリ一一之カ委任
ヲ爲ササル可カラサルモノナレトモ此ノ如キモノハ其性質上夫ノ不在ナルト
否トヲ問ハス妻カ之ヲ取扱フト常トスルモノナレハ法律ハ日用ノ家事例ヘハ
家族カ日常要スル飲食品衣服家具炭薪油等ノ如キモノニ關シテハ夫ノ爲メ權
利ヲ得義務ヲ負フコトヲ得ルモノトセリ若シ此場合ニ妻カ夫ノ代理權ヲ有セ
ナルモノトスルトキハ夫ハ一妻ニ其代理權ヲ授與セサル可カラサルモノニ
シテ夫ノ爲ミニハ甚タ不便ヲ感シ第三者ノ爲ミニ其利益ヲ保護スルニ甚タ充
分ナラサルナリ故ニ法律ハ此規定ヲ設ク日常ノ家事ノ爲メ妻ノ名ヲ以テ負ヒ
タル債務ハ夫ニ於テ之ヲ辨済セサルヲ得サルモノトセリ

然レトモ右法律上ノ代理權ハ夫ノ爲メ妻ニ對シテ制限ヲ爲スエトヲ許サル
ハカラス妻ノ性質一家ノ都合等ニ依リ大カ妻ニ代理權ヲ與フルヲ欲セサルコ
トアリ又ハ妻カ代理ヲ爲ス能ハサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ純然タル

委任ノ場合ニ於ケルカ如ク夫ハ其代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得ルモノトセリ例ヘハ全ク妻ハ自己ノ代理人ニ非サル旨ヲ宣言シ若クハ金額若干圓以上ニ付テ代理權ヲ與ヘサル旨ヲ定ムルカ如キ是ナリ此場合ニ於テ其制限ヲ知ラサル第三者ニ對シテハ其制限ノ效力ヲ及ホナシメ第三者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ナレハ但書ノ規定ヲ加ヘタリ

○財產管理ノ程度——第八百五條　夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス財產取得編第八四條、第四二七條

他人ノ財產ヲ管理スル者其他他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲ス者ハ一般ノ原則トシヲ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テハ爲ス可キヲ常トス(第六四四條、第九三六條)然レトモ夫婦間ニ在リテハ一般ノ原則ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ之ヲ責ムルハ人情ニ適セサルヲ以テ此場合ニハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テスルノ義務ヲ負ハシメタリ

○委任ニ關スル規定ヲ法定財產制ニ準用スル場合——第八百六條、第六百五十

四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ準用スル

法律ハ第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ヲ夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ準用スルコトシタルカ故ニ夫ノ管理權又ハ妻ノ代理權カ消滅シタル場合例ヘハ婚姻解消シタルニ依リニ於テ急迫ノ事情アルトキハ夫若クハ妻又ハ其相續人ハ配偶者又ハ其相續人カ自ラ財產ヲ管理シ得ルニ至リ又ハ日常ノ家事ヲ執ルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲シヲ要ス又夫ノ管理權又ハ妻ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ配偶者ニ通知シ又ハ配偶者カ之ヲ知リタルトキニ非ナレハ之ヲ以テ配偶者ニ对抗スルコトヲ得ス是レ夫婦間ノ代理關係ハ委任ニ基クモノニ非ナルヲ以テ委任ニ關スル規定ハ當然適用セラルルモノニ非ス因リテ委任ニ關スル規定ヲ茲ニ準用スルコト爲シタル所以ナリ

○財產權ノ推定——第八百七條　妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ有セル財產及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財產ハ其特有財產トス夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナ

ラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス(財產取得編第四三五條)
 夫婦ハ各別ニ財產ヲ所有スルヲ得可キコトハ幾ニ説キタルカ夫婦ハ同居スル
 ヲ常トスレハ孰レカ夫ノ財產ニシテ孰レカ妻ノ財產ナルカ實際鑑別シ難キコ
 ト熟シトセス此場合ニ於テ一一直接ノ證據ヲ舉ケシムルコトハ頗ル難シ故ニ
 以上ノ規定ハ如何ナルモノア以テ妻又ハ入夫ノ特有財產ナルカラフ定タルモ
 ノニシテ即ナ妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ有セル財產及ヒ婚姻中自己ノ名義ヲ以
 テ取得シタルモノハ其特有財產トシタリ而シテ夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナ
 ラサルモノハ夫又ハ女戸主ノ財產ト推定シタリ(夫婦財產制)
 此夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財產トハ財產ニシテ夫婦中ノ者ニ屬ス
 ルコトハ分明ナレトモ其中ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサルモノヲ指ス義ニジ
 ア夫婦以外ノ家族カ所有スル財產迄夫婦ノ一方ニ屬スルト云フニハ非サルナ
 ヲ家族ト雖モ夫婦ト同シタリ特有財產ヲ有スルコトヲ得ルモノナレハ家族カ其
 名義ヲ以テ得タル財產ハ其特有財產タルナリ而シテ戸主ノ有ニ属スルカ家族
 並属スルカ分明ナラサルモノハ戸主ニ属ストノ推定ヲ受タルコトハ第七百四
 条

十八條ニ付キ既ニ説キタル所ナリ若シ夫カ戸主タルトキハ第七百四十八條ノ
 規定アルニ依リ之ヲ以テ夫ト妻及ヒ妻以外ノ家族トノ間ニ於ケル財產上ノ關
 係ヲ定ムルコトヲ得可ケレハ妻モ戸主タル夫ノ家族タルヲ以テ夫婦ノ爲メニ
 ハ本條ハ重複ノ規定タル可シト雖モ夫カ戸主タルサル場合ニ於テハ夫婦間ニ
 於ケル財產ノ推定ハ本條ニ依リテ定マリ可キナリ

第四節 離 婚

婚姻ハ死亡又ハ離婚ニ因リテ解消ス其死亡ニ因リテ婚姻ノ解消スルコトハ分
 明ナルカ故ニ別ニ法律ノ規定ヲ要セス是レ自然ニ行ハルルナリ然レトモ離婚
 ニ付テハ法律ノ規定ヲ俟チテ始メテ行ハルルモノナルカ故ニ法律ハ特ニ本節
 ヲ設ケタリ而シテ佛法佛民法第二二九條第二三一條千八百八十四年七月改正
 第二三〇條第二三二條ノ如キハ裁判上ノ離婚ヲ認ムルニ止マリ協議上ノ離婚
 ハ許ササレドモ本法ハ其二者共ニ之ヲ認メタリ是レ吾國從來ノ慣習ニ基ク所
 ナレハ法律ニ之ヲ設ケルハ極メテ必要ナリ

離婚ニ關スル外國ノ法制ハ區區ニシテ之ヲ畧説スレハ左ノ如シ

(一) 自由離婚制 此制ハ當事者ノ意思ニ因リテ離婚ヲ爲スコトヲ許スモノナリ此種ノ制度ハ又別レニアト爲ル其一ハ配偶者一方ノ意思ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ許スモノナリ(此離婚法ハ昔時羅馬ニ行ハレタレトモ近代文明諸國ニ行ハルニコトナシ其二ハ配偶者双方ノ合意ヲ以テ離婚ヲ許スモノ(白耳義地馬諾威、普魯西、巴丁、羅馬尼、埃太利耶蘇正教以外ノ宗徒等是ナリ)

(二) 裁判上ノ離婚制 此制ハ法律ニ定メタル一定ノ事由アルニ因リ裁判所ニ於テ離婚ヲ宣告スルモノナリ此制モ亦二ニ分ル其一ハ裁判上ノ離婚ヲ認ムメト同時ニ夫婦ノ協議ヲ以テスル自由離婚ヲ認ムモノ(白耳義地馬、諾威普魯西等是ナリ其二ハ裁判所ニ於テ宣告スル外協議ニ因リテ離婚ヲ爲ストヲ許ササルモノ英佛瑞西、瑞典、露西亞、塞耳比亞、索遜其他燭逸ノ域州及ヒ和萬等是ナリ

(三) 離婚禁止制 此制ハ當事者ノ協議ヲ以テスルハ勿論裁判所ノ宣告ヲ以テスルモ一切離婚ヲ許ササルモノ(西班牙、葡萄牙、伊太利及ヒ千八百十八年ヨリ

離婚ヲ許ササル諸國ニ於テハ裁判上ノ別居又ハ協議上ノ別居ヲ認ム
千八百八十四年ニ至ル佛國等ナリ(佛國ハ現行千八百七年ノ民法ニハ裁判上ノ離婚ヲ認メタルニ其後千八百十八年ヨリ千八百八十四年マテハ離婚ハ一切之ヲ禁シ千八百八十四年ニ至リ復タ裁判上ノ離婚ヲ許ス千八百七年ノ民法ヨリ少シク其場合ヲ擴張シタリ)

第一款 協議上ノ離婚

○協議離婚—第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得人事編第七八條)

協議離婚トハ夫婦双方ノ承諾ニ依リ婚姻關係ヲ解除スルノ謂ナルヲ以テ協議上ノ離婚ハ配偶者双方ノ意思ニ基クコトヲ要ス是レ第一要件タルナリ若シ配偶者ノ双方又へ一方ニ於テ意思欠缺スルトキ若クハ意思ニ瑕疵アリタルトキハ總則ノ規定ニ依リ其離婚ハ無効ト爲リ又ハ取消スコトヲ得而シテ離婚ニ付テハ婚姻ニ關スルカ如ク取消ノ原因ヲ限定セサルカ故ニ一般ノ法律行爲ノ原

則ニ從ヒ之ヲ取消スコトヲ得可シ第一二〇條乃至第一二六條蓋シ當事者ノ異意ニ出テタル協議上ノ離婚ハ夫婦カ互ニ共同生活ヲ持續スルコトヲ欲セサルモノナルカ故ニ此場合ニ法律ヲ以テ之ヲ拘束スルモ到底婚姻ノ目的ヲ達スルコト能ハス而シテ婚姻ハ素ト當事者ノ契約ニ成ルカ故ニ又其契約ヲ以テ之ヲ解除ニルコトヲ得可キハ理ノ當然ナルヲ以テ協議上ノ離婚ヲ認メタリ○父母、親族會後見人ノ同意—第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻付キ同意ヲ得ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス八事編第七九條此規定ハ滿二十五年ニ達セサル者カ離婚ヲ爲スニ付キ要スル第二ノ條件ナリ滿三十年ニ達セサル男子二十五年ニ達セサル女子カ婚姻ヲ爲スニハ父母又或場合ニ於テハ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルニ付キ此等ノ者カ離婚ヲ爲スニ付テハ亦父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルハ至當ナリ而シテ婚姻ト離婚トニ付テハ唯年齢ニ差異アルノミ蓋シ滿二十五年ニ達セサル者ハ自己ノ意思ノミニ依リ離婚ノ如キ重大ナル行爲ヲ爲スハ其當ア

得ナルコト猶ホ婚姻ヲ爲スニ於ケルカ如シ

○禁治產者ノ離婚 禁治產者カ離婚ヲ爲スニハ猶ホ其婚姻ヲ爲ス場合ニ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサルカ如ク其同意ヲ得ルコトヲ要セサルナリ(第八一〇條、第七七四條)

禁治產者ノ後見人ノ職務ハ最ニ説キタルカ如ク専ラ禁治產者ノ療養看護ト財產上ノ行爲トニ止マリ其身分上ノ行爲ニハ關セサルナリ而シテ其身分上ノ行為ニ關シテハ禁治產者カ事實上心神ヲ恢復セル時ニ於テハ完全ノ能力ヲ有スルカ故ニ其間ニ爲シタル離婚ハ有效タル可ク而シテ之ニ反シテ其心神喪失中ニ爲シタル離婚ハ意思ノ欠缺セルモノノレハ無效タル可シ仍テ此場合ハ婚姻ノ場合ト異ナルコトナキヲ以テ之ニ關スル規定ヲ茲ニ準用スルコトシタリ○離婚ノ方式上ノ要件 協議上ノ離婚ハ婚姻ニ於ケルト同シク之ヲ要式ノ行為ト爲シム時居出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス若シ此方式ヲ缺キ離婚ノ届出ヲ爲ササルトキハ其離婚ハ絕對無効ナリトス而シテ其届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコト

ア要スト爲セリ蓋シ離婚ハ婚姻ノ效力ヲ解除スルモノナルヲ以テ婚姻ニ於ケルト同一ノ方式ヲ以テ爲ナシム可キコト當然ナレハナリ(第八一〇條人事編第八〇條第八九條)

○離婚届出ニ對スル戸籍吏ノ義務＝第八百十一條 戸籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非ナレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ(人事編第八〇條、第八九條)

此規定ハ婚姻ニ關スル第七百七十六條及ヒ第七百七十八條第二號ノ規定ト其旨ヲ同シウスルモノニシテ戸籍吏カ婚姻ノ場合ニ於ケルカ如ク離婚カ法令ノ規定ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非ナレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス而シテ戸籍吏ハ離婚ノ届出ヲ受理スル際其届出カ第七百七十五條第二項ニ規定スル條件ニ適合スルヤ否ヤ又其届出ヲ爲シタル者カ滿二十五年ニ達セサル者ナルトキハ離婚ニ付キ父母後見人又ハ親族會カ同意ヲ表シタルヤ否ヤヲ調

査シ若シ其届出ニシテ以上ノ規定ニ違反スルモノアルトキハ之ヲ受理スルコトヲ得ス尙ホ其外戸籍法其他ノ法令ニ付テハ戸籍吏ニ於テ注意セサル可カラス而シテ戸籍吏ノ注意ニシテ周到ナルニ於テハ違法ノ離婚アルコトナカル可キカ如シト雖モ戸籍吏ニ於テ離婚ノ違法ナルニ氣付カスシテ其届出ヲ受理スルコトナシトセス其場合ニ於テ一離婚ヲ以テ無効ナリト爲ストキハ實際既ニ夫婦ノ關係ヲ絶ナタル當事者カ再ヒ夫婦ト爲リ又離婚後既ニ再婚ヲ爲シタル者モ之ナシトセサルニ此等ノ再婚カ重婚ト爲ルカ如キハ實ニ不便ナリトス故ニ此等ノ場合ニ於テハ之ヲ單ニ戸籍吏ノ責任ト爲シ離婚ハ之カ届出ヲ爲シタル以上ハ其效力ヲ妨ケラルルコトナキモノトセリ然レトモ縱令離婚ノ届出ヲ爲シ且フ之カ受理セラルルトモ當事者ノ一方又ハ雙方離婚ヲ爲スノ意思ナカリシトキハ絕對ニ無效タルコトハ猶ホ婚姻ニ於ケルト同一ナリ又其外總則ノ規定ニ從ヒ無効ノ原因アルトキハ他ノ法律行爲ト同シク無効タルヤ論ヲ埃タナルナリ

法律ハ婚姻ニ付テ數多ノ取消原因ヲ認メ之ヲ第七百七十九條以下ニ規定シ

タリト雖モ離婚ニ付キ之ヲ明言セサルハ法律カ此等ノ原因ヲ認メサルモノニシテ離婚ハ一般ノ法律行爲ト同シク總則ノ規定ニ從ヒ詐欺強迫等ニ因リタルトキニ非サレハ取消スコトヲ得サルナリ法律カ婚姻ト離婚トニ付キ此ノ如ク差異ヲ設ケタルハ婚姻ヲ爲シ夫婦關係ヲ生セントスルコトヲ妨クルハ之ヲ離婚ヲ爲サント欲スル當事者ヲ強テ夫婦タラシムルニ比スレハ其害尙ホ輕キヲ以テナリ

○協議上ノ離婚後ニ於ケル子ノ監護—第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス父カ離婚ニ因リテ婚姻ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ヘ母ニ屬ス前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ権利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ(人事編第九〇條)

離婚ノ效力ニ付キ離婚ニ因ル親族關係ノ消滅ハ第七百二十九條ニ之ヲ規定シ又離婚ニ因ル家族關係ニ變更ハ戸主及ヒ豪族ノ章中ニ之ヲ規定セルヲ以テ本款ニハ復タ此等ノ規定ヲ掲ケス唯親子ノ關係ニ對スル離婚ノ效力ノミヲ茲

ニ規定セリ

人事編ノ規定ニ依レハ子ノ監護ハ夫婦ノ協議ヲ許ナサレトモ法律カ協議上ノ離婚ヲ許ス以上ハ子ノ監護モ亦之カ協議ヲ許サツルトキハ協議離婚ノ性質ニ伴リ且ツ實際上甚大不便ナルヲ以テ本法ハ夫婦ノ協議ヲ以テ子ノ監護ヲ定ムルヲ得ルコトセリ故ニ夫婦離婚ヲ爲シ妻カ夫ノ家ヲ去リタルトキノ戸籍ハ父ノ家ニ存シナカラ協議上其家ヲ去リタル母其子ヲ監護スルコトヲ得可ク又入夫若クハ婿養子ノ場合ニ於テハ子ノ戸籍ハ母ノ家ニ置キテ其家ヲ去リタル入夫若クハ婿養子其子ヲ引取りリテ之カ監護ヲ爲スコトヲ得可キナリ然レトモ若シ夫婦ノ協議調ハサルトキ其子ノ監護ハ父母孰レカ之ヲ爲ス可キヤ蓋シ子ノ監護ハ婚姻中ニ在リテハ親權ヲ有スル父之ヲ爲スヲ原則トシ父カ親權ヲ行ハサル場合ニ限リ母其監護ヲ爲スハ親權ヨリ生スル普通ノ原則ナリ(第八七條、第八七九條)而シテ夫婦離婚ヲ爲シタル場合ニ於テモ子ノ監護ハ妻カ離婚ニ因リテ婚姻ヲ去リタルトキハ父ニ屬シ夫カ入夫又ハ婿養子ノ場合ニ於テ婚姻ヲ去リタルトキハ母ニ屬スルモノタリ

以上ノ規定ハ單ニ子ノ監護ノミニ圖スルモノニシテ其監護以外ニ於テハ毫モ親權ニ影響ヲ及ボサナルコト固ヨリナリ故ニ親權ノ他ノ效力其他父母ノ權利義務等ハ以上ノ規定ノ爲メニ毫モ變更アルモノニアラス是ヲ以テ第五章ノ規定ニ從ヒ親權ヲ行フ者ハ或ハ子ノ監護權ヲ失ヒ其義務ヲ免ルルコトアルモ其教育ヲ爲スノ權利義務子ノ懲戒其代表及其財產ノ管理ノ如キハ親權ヲ有スル者ノ權内ニ屬ス可クシテ本條ノ規定ニ依リテ監護權ヲ有スル者ニ屬セサルナリ

第二款 裁判上ノ離婚

夫婦間如何ニ不和ヲ生シ離婚ヲ爲サント欲スルトモ其一方カ之ヲ承諾セナルトキハ他ノ一方ハ之ヲ強ユルコトヲ得ス其場合ニ於テハ裁判所ニ之カ請求ヲ爲スヨリ外アラサルナリ然レントモ協議上ノ離婚ニ付テハ如何ナル原因ニ基キテ之ヲ爲ストモ當事者ノ自由ニ委シ唯其間ニ協議サヘ調ヘハ離婚ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ法律ハ毫モ其間ニ干涉ヲ爲サナレトモ當事者カ裁判所ニ訴ヘテ離婚ヲ爲スニハ法律カ定メタル原因アルニ非サレハ許サナルナリ

- 裁判上ノ離婚ノ原因——第八百十三條　夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
- 一　配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二　妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三　夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ
- 四　配偶者カ偽造賄賂猥褻竊盜強盜詐欺取財受寄財物費消贋物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五　配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六　配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七　配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八　配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 九　配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十 增養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離縁若クハ縁組ノ取消アリタルトキ(人事編第八一條第十八條第一四八條)

第一ノ原因 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキハ他ノ一方ハ第七百八十條ノ規定ニ從ヒ其重婚ヲ取消スコトヲ得ト雖ヨ夫婦ハ互ニ愛情ヲ有シ誠實タラサル可カラサルニ既ニ其義務ニ背キ重キモテ他人ト婚姻ヲ爲ス者ニ對シ他ノ一方カ離婚ヲ求ムルハ固ヨリ當然ナリ而シテ此場合ニ於テハ重婚ヲ取消シタルト否トヲ問ハサルナリ

此場合ニ於テハ必ス姦通アル可ケレハ重婚ノ場合ハ第二ノ原因タル姦通ノ中ニ包含スルヲ以テ別ニ一原因トシテ存スルノ必要ナシト云フ者アル可シト雖モ夫ノ姦通ノ如キハ離婚ノ原因ト爲ラス且重婚ハ曼ニ説キタルカ如ク當然無效タルモノニ非ス若シ之ヲ取消サナルトキハ有效タル可ク而シテ重婚者ハ夫婦トシテ通スル者ナレハ之ヲ以テ姦通ト稱スルヲ得サルナリ故ニ重婚ヲ獨立ノ原因ト爲シタル所以ナリ

第一ノ原因 妻ガ姦通ヲ爲シタルトキ 夫婦ハ互ニ貞操ヲ守リ誠實ナラサル可カラサルニ妻カ他ノ男ト通スルハ婚姻ヨリ生スル重大ナル義務ニ背クモノナルカ故ニ法律カ姦通ヲ以テ離婚ノ原因ト爲シタルハ當然ナリ姦通ハ配偶者ノ孰レカ爲シタルトモ同シク婚姻ヨリ生スル義務ノ違背ナレハ夫婦ノ間ニハ差異ヲ設タル理ナシト云フ者アランカナレトモ吾邦從來ノ慣習トシテハ夫カ其妻ノ外ニ妾ヲ蓄フルコトヲ許セトモ有夫ノ婦カ他ノ男ト通スルコトヲ許サルヲ以テ此點ニ付テハ夫婦同一ナル能ハス歐米諸國ニ於テハ昔時ハ本法ト同シク妻カ姦通シタル場合ノミニニ於テ姦通ヲ離婚ノ原因ト爲シタルトモ近來ハ之ヲ改メテ夫ニ對シテモ此制裁ヲ加フルコトシタル所多シ且ツ妻ノ姦通ハ血統ノ混亂ヲ生スルノ虞アリテ夫ノ姦通ヨリ其弊害重大ナルヲ以テ姦通ハ夫ニ對シテハ夫カ他ノ有夫ノ婦ト通シ刑ニ處セラレタル場合第三ノ原因ノ外ハ離婚ノ原因タラサルモノト爲シタリ而シテ姦通ハ妻ニ對シテハ妻カ之ニ因リテ刑罰ニ處セラレタルト否トヲ問ハス離婚ノ原因タルナリ

第三ノ原因 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑罰ニ處セラレタルトキ 姦淫罪ハ刑法第三

百四十八條第三百四十九條及ヒ第三百五十三條ニ規定スルモノニシテ夫カ有夫姦強姦又ハ幼女姦淫ノ罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ妻ハ之ヲ理由トシテ離婚ヲ求ムルコトヲ得可シ此場合ハ第一第二ノ原因ト同シク夫ハ婚姻ヨリ生スル義務ニ背キタルノミナラス之ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキハ事既ニ一家内ノ私事ニ止マラス國家ノ認メテ罪惡ト爲シタルモノニシテ直接ニ妻ノ名譽ヲ害スルコト大ナルヲ以テ之ヲ離婚ヲ求ムルコトヲ得ル原因ト爲シタリ

第四ノ原因 配偶者カ爲造賄路猥褻盜盜詐欺取財受寄財物費消贓物ニ關スル罪若クハ刑法第百七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁銅三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 凡ソ犯罪ハ皆其者ノ爲メ耻辱ナルノミナラス其耻辱ヲ親族ニ迄及ボスマノナルカ故其配偶者カ犯罪人ト夫婦タルコトヲ欲セサルハ普通ノ人情ナリ然レトモ如何ナル微罪ニテモ之ヲ犯シタルトキハ離婚ノ原因ト爲ストキハ離婚ヲ證ニスル嫌アリ而シテ又罪ニ依リテハ他ノ一方ノ耻辱タラサルモノモ

アル可ケレハ法律ハ破廉耻罪ニ因リ輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキ及ヒ其他ノ罪ニ因リテ重禁銅三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキノミ之ヲ原因トシテ離婚ヲ求ムルコトヲ得ノモノトセリ以上列記シタル罪ハ破廉耻罪ト稱スルモノナリ

第五ノ原因 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ 夫婦タル者ハ互ニ相親和シ相信愛シテ同居ヲ爲スノ權利義務アルモノナルニ一方カ他ノ一方ニ對シ虐待ヲ爲シ例ヘハ殴打暴行ノ如キ所爲ヲ爲シテ肉體上ノ痛苦ヲ感セシメ或ハ侮辱ヲ爲シテ其名譽ヲ毀損シ其程度ニシテ同居ヲ爲スニ堪ヘサルカ如ク重大ナルトキハ之ヲ離婚ノ原因トシテ許ササル可カラス而シテ如何ナル所爲カ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ侮辱ナルカハ事實問題ニ屬スルヲ以テニ裁判官ノ判定ニ任セサル可カラス

第六ノ原因 配偶者ノ惡意ノ遺棄 夫婦ハ互ニ扶養ノ義務アリ第七九〇條又同居スルノ義務アリ(第七八九條然ルニ其一方カ他ノ一方ヲ遺棄スルカ如キハ其義務ニ背クモノナルヲ以テ之ヲ離婚ノ原因ト爲スハ當然ナリ唯此場合ニハ

遺棄シタル者ニ惡意アルコトヲ要ス何トナレハ例へハ夫カ商業ニ失敗シ一時妻子ヲ遺棄シテ其影ヲ隱スカ如キハ止ムヲ得サル事情ニシテ此ノ如キハ惡意ヲ以テ妻ヲ遺棄シタルモノ見ルヲ得サレハ之ヲ以テ離婚ノ原因ト爲スコト得サレハナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テモ夫カ妻ニ對シ音信ヲ通シ給養ヲ爲スコトヲ得ルニ拘ラス之ヲ爲サシテ他ニ家ヲ構ヘ妻ヲ苦ヘテ妻ヲ顧ミサルカ如キコトアルトキハ惡意ノ遺棄ト謂フ可キナリ又妻カ夫ニ對スル場合モ亦同シキナリ例へハ妻カ貧困ニ迫リ病床ニ呻吟スル夫ヲ遣シテ逃亡スルカ如キモ惡意ヲ以テ夫ヲ遺棄シタルモノト謂フコトヲ得可キナリ

第七ノ原因 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ此場合ノ原因ハ尊屬親ノ行爲ニシテ配偶者ノ行爲ニ非サレトモ吾邦ノ慣習トシテ直系尊屬親ハ實際上殆ト親子ノ如ク居住ヲ同シウシテ永久ニ仕事ス可キ者ナレハ若シ配偶者ノ直系尊屬親ヨリ虐待セラレ若クハ重大ナル侮辱ヲ受クルトキハ是レ殆ト配偶者ヨリ直接ニ虐待セラレ若クハ侮辱ヲ受クルニ同シクシテ家内ノ平和ハ到底之ヲ維持スルコト能ハサルノミナラス其者カ之ヲ痛

苦ニ堪ヘサルヲ以テ之ヲ離婚ノ原因ト爲シタルナリ
第八ノ原因 配偶者カ自己ノ直系尊屬親ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ此場合ハ自己カ虐待セラレ若クハ侮辱ヲ受ケタルニ非スシテ自己ノ直系尊屬親カ配偶者ヨリ虐待セラレ若クハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルニ在レトモ吾邦ニ於テハ自己ノ直系尊屬親ニ對シテハ最モ尊敬シテ仕事ス可キモノナルニ配偶者カ之ニ對シテ重大ナル侮辱ヲ加ヘ若クハ虐待ヲ爲スカ如キハ其ノ子孫カ袖手傍観スルニ忍ヒナルハ普通ノ情ナレハ此ノ如キ場合ニ於テ其配偶者カ夫タルト妻タルトヲ問ハス寧ロ之ト離婚ヲ爲シテ其配偶者ト關係ヲ絶タシムルハ止ムヲ得サルヲ以テ法律ハ之ヲ離婚ノ原因ト爲シタルナリ

第九ノ原因 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ人事類第八一條第六號ニ於テハ失踪ヲ以テ離婚ノ原因ト爲シタルトモ本法ニ於テハ第三十一條ノ規定ニ從ヒ失踪者ハ死亡者ト看做シタルカ故ニ其宣言アリタルトキハ當然婚姻ハ解消ス可シ而シテ本法ニ於テハ失踪ハ不在者ノ生死カ七年間分明ナラ

ナルトキニ非サレハ宣言スルコトヲ得サル規定(第三〇條)ナルヲ以テ之ヲ離婚ノ原因トスルトキハ其期間餘り長キニ失シ其間徒ニ空閑ヲ守ラシメア再婚ヲ爲スコトヲ許ササルハ甚タ酷ニ失シ人情ニ反セリ是ヲ以テ法律ハ三年間生死ノ分明セサルトキハ離婚ヲ求ムルコトヲ得ルモノトセリ又生死分明ナラサル者ニ付テ云ヘハ益シ此ノ如ク長キ間生死分明セサル者ハ多クハ既ニ死亡セルカ然ラサレハ實際ニ於テハ惡意ノ遺棄ニシテ單ニ之カ證明ヲ爲スコト能ハナベナラン又良シ已ムコトヲ得サル事情アリトスルモ其配偶者ハ以上說クカ如ク三年間モ空閑ヲ守リタレハニ離婚ヲ許スハ當然ナリト謂フ可シ

第十ノ原因 増養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ緣組ノ取消アリタルトキ 増養子縁組ノ場合ニ於テ婚姻ト縁組トハ互ニ關係ヲ有スルモノナリト雖モ素ト二箇ノ行爲ナレハ縱令増養子縁組カ取消サレ又ハ無效ト爲リタリトモ之カ爲婚姻マテ當然解消スルモノニアラス然レトモ緣組ノ當時ニ於ケル當事者ノ意思ハ婚姻スル爲メニ養子縁組ヲ爲シ養子縁組スル爲メニ婚姻ヲ爲シタルモノナレハ悟

養子離縁ト爲リタルトキハ之ヲ原因トシテ離婚ヲ許ササル可ラス又離婚アリタルトキハ之ヲ原因トシテ離縁ヲ許ササル可ラス第八六六條第九號增養子ノ離縁ト爲リタルニ拘ラス離婚ヲ許ササルコトスルトキハ吾邦ノ如ク家族制度ヲ採リ家系連綿センコトヲ欲スル場合ニ於テ養子カ其家ヲ去ルニ當リ妻モ亦常ニ之ニ從ヒテ去ル可キコトト爲リ其結果遂ニ其家ニ系統ノ男女ナク其家系ヲ絶フニ至ルヲ以テ法律ハ右ノ場合ニ離婚ヲ求ムルコトヲ得ルモノトセト爲リタル場合ト同視シ養子ノ離縁ヲ以テ離婚ノ原因ト爲シタルナリ

右ハ増養子ノ離縁ト爲リタル場合ニ關ス若シ否ラヌシテ養子カ家女ト婚姻シタル場合ニ於テハ明ニ養子縁組ヲ以テ婚姻ノ條件ト爲シタルニ非サルモノ多クノ場合ニ於テ當事者ノ意思此ニ在ル可キヲ以テ法律ハ此場合ヲ增養子ノ離縁

以上ノ原因存スルトキハ何人カ離婚訴權ヲ行使スルコトヲ得可キヤ法律ハ夫婦ノ一方ノミニ其訴権ヲ與ヘタリ婚姻取消ノ訴ノ如キハ各當事者ノ外其戸主親族又ハ檢舉ニ於テ之ヲ提起スルコトヲ得可シ(第七八〇條以下)ト雖モ離婚ノ

場合ニ於テハ當事者一方ノ外ハ何人ト雖モ之カ訴ヲ提起スルコトヲ得ス法律
カ離婚ノ場合ニ夫婦ノ一方ノミニ此訴權ヲ與シタルハ是ビ益シ婚姻ハ夫婦間
ノ行為ニシテ以上舉ケタル離婚ノ原因ノ如キハ配偶者ノ一方ニ於テ痛苦不名
譽等ヲ忍ヘハ他ノ者カ敢テ干涉ス可キモノニ非サルヲ以テ其一方ニ非ナレハ
離婚ヲ請求スルコトヲ得タルハ論ヲ俟タサルナリ然レトモ吾邦ニ於テハ從來
往往月主其他一方ノ直系尊屬ヨリ離婚ヲ求ムル法規慣例明治六年七月第二百
四十七號布告訴答文例第十五條ナキニ非ナルヲ以テ特ニ之ヲ明言シタルナリ
○離婚請求權ノ消滅原因

- (一) 第八百十三條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行
爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス(第八一四條第一項)
(二) 第八百十三條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又
其直系尊屬ノ行爲ヲ有想シタルトキ亦同シ第八一四條第二項)告説^{アラカル}テ犯
夫婦ノ一方カ其他ノ一方ノ重婚ヲ爲スコト夫カ妻ノ姦通ヲ爲スコト又ハ妻カ
夫ノ姦通罪ヲ犯スコトニ同意シタルトキ又ハ配偶者ノ一方カ其他ノ一方ノ破

廢恥罪若クハ重禁錮三年以上ニ當ル罪ヲ犯スコトニ同意シタルトキノ如キハ
自己モ亦此非行ニ干與シタル者ナムヲ以テ敢テ他ヲ責ムルコトヲ得ス而シテ
此場合ニ於テハ一方カ他ノ一方ノ以上ノ罪ヲ犯スニ當リ共ニ之ヲ犯シ又ハ其
犯罪ヲ帮助シタル場合ト自己ハ其犯罪ニ干與セシシテ單ニ同意ヲ表シタル場
合トヲ問ハス其孰レノ場合ニ於テモ離婚訴權ヲ提起スルコトヲ得タルモノトス
又第八百十三條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ敢テ他ノ一方若
クハ其直系尊屬ノ行爲ニ同意シタルニ非スト既モ其行爲アリタル後ニ至リ之
ヲ宥恕シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス例ヘハ一方カ他ノ非行ア
リタル一方ヨリ既往ノ事ヲ謝シ將來ヲ慎シムヘキ証書ヲ受取リタルカ如キハ
離婚訴權ヲ拠棄シタルニ外ナラナルヲ以テナリ

(三) 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同
一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス(第八一五條人
事権第八二條)

第八百十三條第四號ノ場合ニ於テ一方ノ犯罪行爲ノルヲ以テ他ノ一方ニ離婚

ヲ求ムルコトヲ許シタルハ配偶者ニ此等ノ犯罪行爲アルキハ之カ爲ミニ自己マテ耻辱ヲ受タルカ爲メナルニ自己モ亦配偶者ト同一ノ行爲アリテ處刑ヲ受ケタルトキハ自ラ其耻辱ヲ被ル者ナルカ故ニ此場合ニ配偶者人處刑ヲ理由シテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ許ササルハ固ヨリ當然ナリ。集解(註)卷之四第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ経過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス。其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ経過シタル後亦同シ(第八六條)。

夫婦間ノ愛情ハ他人間ニ在リテハ恕スヘカラサル事由モ容易ニ之ヲ宥ムルコト多シ故ニ離婚ノ原因アルコトヲ知リナカラ一年間モ收テ離婚ノ請求ヲ爲ササルハ之ヲ默示ノ宥恕アリタルモノト看做スニ充分ナル可シ是ヲ以テ一年ノ後ニ至リ離婚ノ訴ヲ提起スル者アラハはレ名ヲ裁判上ノ離婚ノ原因ニ假リテ其他ノ理由ニ基キ離婚ヲ欲スル者ナラン其事由ヲ知ラサル場合ニ於テモ其事由發生シテヨリ既ニ十年モ經過スルトキハ一方ノ非行ニ對スル感情ハ既ニ

薄ク異ニ其原因ノ爲メニ離婚ヲ請求セント欲スル者ハ稀ナル可ク體ヲ其離婚ヲ請求スル者ハ是レ亦名ヲ離婚ノ原因ニ假ルモ他ノ理由ニ因リア之ヲ欲スルフラン殊二十年前ノ行爲ハ之ヲ證スルコト極メテ難ク徒ニ離婚ノ訴ヲ提起シ其結果他ノ聞クヲ厭フ可キ内事ヲ他ニ發露スルニ止マルニ至ル可キヲ以テ特ニ十年ノ後ハ離婚ノ訴ハ一切許ササルコトトセリ況ヤ配偶者カ實際ニ於テハ其事實ヲ知レルモ之ヲ知ラナリシト主張センニハ之カ反對ヲ證スルコト能ハアル場合多カアル可キニ於テアヤ

五) 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス(第八一七條)

第八百十三條第九號ハ配偶者ノ生死不分明カ離婚ノ原因ナルカ故ニ若シ其生死分明ト爲リタルトキハ既ニ其生死カ三年以上不分明ナリシ後ト雖モ最早離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ許ナス是レ訴權ノ原因ノ消滅ハ訴權自ラノ消滅ヲ來ス可キコト當然ニシテ言フテ俟タタル所ナレトモ一旦法律上ノ原因カ發生シタル以上ハ以テ離婚ヲ請求スルコトヲ得可キカ如キ疑念ヲ生スルヲ以テ此疑

念ア監防 セルカ爲此規定ヲ設ケタリ離婚ニ關スル第八百七二條參照
 (六) 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離縁又ハ綠組取消ノ請求アリタルトキ
 ハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル
 離婚ノ訴ハ當事者カ離縁又ハ綠組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三个月ヲ
 經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタムトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス(第八
 一八條人事編第一四八條)

培養子綠組ノ場合又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ハ義ニ説キタルカ
 如ク婚姻ト綠組トハ互ニ條件ヲ成スラ以テ離縁若クハ綠組ノ取消アリタル
 ドキハ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得可ク又離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ
 ハ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得可シ然レトモ此場合ニ於テハ孰レモ互ニ他ノ
 訴ノ裁判ノ確定ヲ待フ可キ必要アラサルノミナラス却テ當事者ハ離縁ノ訴ノ
 裁判ノ確定スルヤ直チニ離婚スルコトヲ欲ス可ク又離婚ノ訴ニ付テモ亦同シ
 故ニ離婚又ハ綠組取消ノ請求ヲ附帶シテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得可キヨ
 トトセリ又此等ノ訴ハ互ニ反訴トシテ提起スルコトモ得可シ(人事訴訟手續法

第七條

培養子ノ離婚又ハ家女ト婚姻シタル養子ノ離縁若クハ綠組取消アリタルコト
 フ知リタル後三个月ヲ經過シタルトキ又ハ三个月以内ナリト雖モ其離婚訴權
 ブ拋棄シタルトキ離婚ノ訴ヲ許ナサルハ第七百八十六條第二項ノ場合ト其趣
 旨ヲ同シウスルモノニシテ且ツ其場合ト權衡ヲ保タシムルカ爲メナリ
 ○裁判上ノ離婚後ニ於ケル子ノ監護—第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ
 裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナ
 リタル處分ヲ命スルコトヲ得(人事編第九〇條)

第八百十二條ニ協議上ノ離婚ノ效力トンク子ノ監護ノコトヲ規定セルカ子ノ
 監護ノコトハ裁判上ノ離婚ノ場合ト協議上ノ離婚ノ場合ト之カ規定ヲ異ニ
 可キ理由ナキヲ以テ法律ハ子ノ監護ハ協議上ノ離婚ニ付キ規定シタルモノア
 ズニ準用スルコトシリ唯一ノ協議上ノ離婚ト異ナル所ハ協議上ノ離婚ニ
 付テハ裁判所カ子ノ監護ニ干涉フ爲スコトナシト雖モ裁判上ノ離婚ニ付フハ
 裁判所ハ子ノ利益ヲ圖シ場合ニ依リテ第八百十二條ノ規定ニ從ハサル處分ヲ

命スルコトヲ得ルモノトセリ故ニ裁判所カ當事者ノ協議ニ依リ又ハ法律上ノ規定ニ依リ子ノ監護ヲ爲ス可キ者カ其子ノ爲メニ不利益ナリト認ムルトキハ右協議又ハ法律ノ原則ニ反シテ裁判所ニ於テ子ノ利益ト認ムル者例へハ第三者ニ其監護ヲ命スルコトヲ得可キナリ

第四章 親子

親子ノ關係ハ實親子ノ如ク自然ノ血縁ニ因リテ生スルモノアリ或ハ元來其關係ナキモ養親子又ヘ繼父母及ヒ繼子若クハ嫡母及ヒ庶子ノ如ク法律ノ規定ニ因リテ生スルモノアリ而シテ自然ノ關係ニ因リタルモノアリ故ニ法律ハ本章ヲ二節ニタルモノトハ其間自ラ異ナラナルヲ得サルモノアリ故ニ法律ハ本章ヲ二節ニ分テ第一節ヲ實子トシ第二節ヲ養子トセリ繼父母ト繼子、嫡母ト庶子トノ關係ハ總則ノ外別ニ規定ヲ要ス可キモノナキヲ以テ本章之ヲ掲クス

第一節 實子

實子トハ自己ノ生ミタル者ヲ謂フ實子ハ或ハ嫡出ナルコトアリ或ハ私生ナルコトアリ婚姻ヲ爲シタル男女ノ間ニ生レタル者ヲ嫡出子ト謂ヒ婚姻外ニ生マレタル者ヲ私生子ト謂フ而シテ婚姻外ニ生マレタル子ト雖モ父ノ認知ヲ得タル者ハ之ヲ庶子トス

本節ヲ分テ二款トス第一款嫡出子第二款庶子及ヒ私生子是ナリ

第一款 嫡出子

○嫡出子タル法律上ノ推定——第八百二十條　妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定（人事物編第九一條嫡出子トハ婚姻ヲ爲シタル男女ノ間ニ生レタル者ヲ謂フコトハ既ニ説キタリ然レトモ子カ果シテ父母ノ婚姻中ニ胚胎セシカハ直接ニ之ヲ知ルコト能ハツルナリ故ニ嫡出子タル身分ヲ主張スル爲ミニ必ス直接ノ證據ヲ舉ケナル可ラアルコトトスルトキハ實際殆ト其證據ヲ舉クルコト能ハナルニ至ラン故

ニ法律ハ一般ノ推定ヲ設ケ其推定以外ニ於テハ純然タル事實問題ト爲シ其
法律カ推定シタル場合ト雖モ亦反證ヲ以テ之ヲ打破スルコトヲ得ルモノトセ
リ

法律ハ嫡出子ニ付テハ二箇ノ推定ヲ設ケタリ(一)妻カ婚姻中ニ懷胎シタル者ハ
夫ノ子ト推定シ(二)婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日
ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定シタリ

第一ノ推定 妻ハ婚姻中稀ニ夫以外ノ男ト通スルコトナキニ非サレトモ是レ
例外ナルカ故ニ苟モ有夫姦ニ因リテ生レタル證據ナキ以上ハ其子ヲ夫ノ子ト
推定スルハ固ヨリ當然ナリト謂ハサル可ラス

第二ノ推定 母ノ夫ノ子タルコトノ推定ハ其子ノ婚姻中ニ懷胎シタルモノナ
ルコトノ明カナル集合ナラサル可ラス然レトモ果シテ母ノ婚姻中ニ懷胎シタ
ルモノナルヤ否ヤハ往往ニシテ明カナラサルコトアリ例へハ婚姻成立後百八
十日乃至二百五十日間ニ生レタリトセんカ其子ハ婚姻後ニ懷胎シタルモノナ
ルヤ將タ其以前ニ懷胎シタルモノナルヤ容易ニ之ヲ斷定スルコト能ハス又確

婚若クハ夫カ死亡シタル後三百日前後ニ於テ妻カ生ミタル子ハ婚姻中ニ懷胎
シタル者ナルカ將タ婚姻解消後ニ懷胎シタル者ナルカ是レ亦分明セサルコト
多シ是ヲ以テ此點ニ付キ法律上ノ推定ヲ設クル必要アリ権家ノ説ニ依レハ懷
胎ヨリ分娩ニ至ルマテノ期間ハ其最短期二百日ヨリ最長期三百日ニ至ルマテ
ヲ通常トス稀ニ三百日以上三百二十日以内ニ於テ分娩スルモノアリ或ハ百八
十日以上二百日以内ニ於テモ生育スルコトヲ得可キ狀態ニテ生ルルコトナキ
ニ非スト云フ然レトモ是レ例外ニ屬シ普通ニ非ナルナリ故ニ本法ハ其普通ノ
場合ヲ取リテ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ
三百日以内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定シタリ

右法律カ推定シタル期間外ニ於テ生レタル子ハ全ク事實問題ニ屬シ子ノ嫡出
ナルコトヲ主張スル者ヨリ之カ證據ヲ舉クルニ於テハ其子ハ嫡出子トセラル
可ク之ニ反シテ法律ノ推定シタル期間内ニ生レタル子ト雖モ父ニ於テ自己ノ
子タラサルコトヲ立證スルニ於テハ嫡出子タラサルモノト判定セラル可キモ
ノトス

母カ夫ト通シ婚姻成立前ヨリ同居ヲ爲シテ懷胎シ婚姻中ニ分娩シ又ハ婚姻解消後モ依然同居ヲ爲シテ三百日後ニ分娩シ他ノ男ト通シタル形跡ナキトキハ其子ハ母ノ夫ノ子ト看做ナル可シト雖モ其子ハ當然法律上ノ推定ヲ受タルコト能ハス第一ノ場合婚姻前ノ懷胎ニ於テハ其父母カ認知シタルトキハ第八百三十六條ノ規定ニ從ヒ嫡出子タル身分ヲ取得ス可シ第二ノ場合婚姻解消後ノ懷胎ニ於テハ第八百三十五條ノ規定ニ從ヒ父及ヒ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得可キニ過キサルナリ

○再婚後ニ生レタル子ノ父ノ定メ方 第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム(人事訴訟手續法第三〇條)

女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ナル旨ハ義ニ第七百六十七條ニ付キ説キタルカ女カ此規定ニ違背シテ六ヶ月以内例ヘハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ三十日ニシテ再婚ヲ爲シ

タル場合ニ於テ後婚成立ノ日ヨリ二百日以後ニ分娩シタルトキハ其分娩ハ前婚解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日以内ニシテ其子ハ一方ニ於テハ第八百二十條第二項ノ規定ニ依リ前婚姻中ニ懷胎シタルモノトノ推定ヲ受ク可シト雖モ其子ノ一方ニ於テハ再婚成立ノ日ヨリ二百日以後ニ分娩シタルモノナルヲ以テ同條ニ依リ後ノ婚姻中ニ懷胎シタルモノトノ推定ヲモ受タルモノニシテ此場合ハ法律上相衝突セル二様ノ推定アリテ其子カ前夫ノ子ナルカ後夫ノ子ナルカ以上説キタル法律ノ規定ニ依リテ定ムルコト能ハサルトキハ事實ニ依リテ定ムルヨリ外アラナルナリ是ヲ以テ法律ハ本條ノ規定ヲ設ケタリ此場合ニ於テ子ノ父ヲ定ムル手續ハ人事訴訟手續法第三十條ニ依ラサル可ラス

○夫ノ子ニ對スル否認訴権 第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得人事訴訟第一〇〇條
妻ニ説キタルカ如ク婚姻中ニ懷胎シタル子ヲ以テ夫ノ子ト爲シ又婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ヲ婚姻中ニ懷胎シタルモノトスルハ法律上ノ推定ニ過キシテ其推定ハ反證ア

ルトキハ之ヲ證ヘスコトヲ許ス此權利ヲ稱シテ否認訴權ト謂フナリ
此否認訴權ヲ行フ者ハ夫ニ限リ妻ハ子カ夫ノ子ニ非サルコトヲ主張スル訴權
ア有セサルナリ何故ニ夫ノミニ此權利ヲ與ヘテ妻ニ之ヲ與ヘサルヤノ疑問起
ル可シ蓋シ子カ何人ノ胤ナルカハ父母ニ非サレハ之ヲ知ルコト能ハス然レト
モ母カ此場合ニ於テ子カ其夫ノ子ニ非サルコトヲ主張スルハ則チ婚姻中他ノ
男ト姦通シ又婚姻前ニ於テ私通ヲ爲シタリト主張スルニ同シ而シテ此ノ如キ
不品行ヲ法廷ニ於テ主張スルノ權利ヲ妻ニ與フルハ害アリテ益ナキカ故ニ妻
ニハ此訴權ヲ與ヘサルナリ又子其他之カ爲メ利害關係ヲ有スル者アルモ此等
ノ者ニ此訴權ヲ與ヘサルヲ原則トスレトモ夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人
ハ親族會ノ同意ヲ得テ此否認訴權ヲ行フコトヲ得人事訴訟手續法第二八條又
夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セシシテ第八百二十五條ノ期間内ニ死亡
シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族
ニ限り否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得而シテ夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡
シタル場合ニ於テモ亦右ノ利害關係人ハ其訴訟ヲ受繼クコトヲ得可キモノト

シタリ同法第二九條

○否認訴權行使ノ方法——第八百二十三條前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

否認訴權ハ裁判所ニ訴ヲ提起スルコトニ依リテ之ヲ爲ス(人事訴訟手續法第二七條而シテ其訴ニ於テ夫ノ對手ト爲ス可キ者ハ子又ハ其法定代理人ナリ然レトモ子ハ多ク未成年ニシテ夫カ子ノ法定代理人タルヲ通例トス此場合ニ於テハ夫ト子トハ利害相反スルヲ以テ裁判所ハ子ノ特別代理人ヲ選任セナル可カ
ラス

否認訴權ノ對手ハ否認ノ結果母ノ不品行ヲ證スルニ在ルヲ以テ之ヲ對手ト認
スマ相当ナルニアラスマヤト云フ者アランカナレトモ此訴ニ於テハ自然母ノ不
品行ヲ證セサル可カラサレトモ其直接ノ目的トスル所ハ子カ果シテ夫ノ胤ナ
リヤ否ヤヲ定ムルニ在ルカ故ニ子ヲ對手トスルハ當然ナルヲ以テ法律ハ以上
ノ如ク規定シタリ

○否認權ノ消滅

(一) 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失
ズ第八二四條)

夫カ子ノ出生後其嫡出ナルコトヲ承認スルハ是レ否認權ヲ行使セサルノ意思
ヲ表示シタルモノニシテ即チ否認權ノ拋棄ニ外ナラサレハ此場合ニ否認權ノ
消滅スルモノトスルハ當然ナリ

承認ニ因リ否認權ノ消滅スルハ子ノ出生後ニ於テ爲シタルモノナルコトヲ要
シ其未タ出生セサル前ニ於テ承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ否認權ハ之ニ因リ
テ消滅スルコトナシ法律ハ何故ニ子ノ出生ノ前後ニ依リテ此ノ如キ區別ヲ爲
シタルカ蓋シ懷胎中ニ在リテハ妻ハ往往自己ノ非行ヲ蔽フカ爲メニ懷胎ノ時
期ア夫ニ秘隠スルコトナシセス而シテ子ノ出生前ニ於テハ其胚胎ノ時ヲ定
ムルコト最モ難キカ故ニ子カ實際出生シタル後ニ非ナレハ其果シテ自己ノ胤
ナルヤ否ヤヲ推知スルニ由ナクシテ動モセレハ妻ノ非行ヲ知ラスシテ不當ニ
之ヲ承認シ子ノ出生後ニ至リ之ヲ悔ユルコトナシトセサルヲ以テ否認權カ之

ニ因リテ直チニ消滅スルコトトスルハ夫ノ利益ヲ保護スルノ御ヤニ過クレハ
ナリ

(二) 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ
要ス(第八二五條人事編第一〇二條人事訴訟手續法第二七條乃至第二九條)

否認ハ其性質上子ノ出生後猶豫ナク之ヲ爲ス可キモノナルニ自己ノ子ニ非サ
ル者ト親子ノ如キ關係ヲ保チ敢テ其狀態ヲ繼續スルハ默示ノ承認アリタルモ
ノト看做シテ不可ナキノミナラス長キ間子ノ身分ヲ曖昧ニ付スルハ公益上許
ヘ可カラサルコトニ屬セリ又出生後年月ヲ經ルニ隨ヒ證據ノ湮滅ヲ來シ子ノ
身分ヲ確定スルコト極メテ困難ナルニ至ル可キヲ以テ法律ハ子ノ出生ヲ知リ
タル後一年ヲ経過シタルトキハ否認ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ許ササルモノ
トセリ

此期間ハ法律カ定メタル特別ノ期間ニシテ時效ニ非ナルナリ

(三) 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算
ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス夫カ禁

治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治產ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知タル時ヨリ之ヲ起算ス(第八二六條)
 前ニ舉タル普通ノ規定ノミナトキハ否認權行使ノ期間ヤ時效ニ非ナルカ故ニ無能力者ノ爲ミニモ時效ノ如ク停止スルコトナキモノニシテ能力者ニ對スルト同シク否認訴權行使ノ期間ハ一年ナリ然ルニ否認權ハ夫ノ一身ニ專屬ス可キモノニシテ法定ノ代理人カ代ハリヲ之ヲ行使スルコトヲ許ガナルヲ以テ夫カ未成年者ナルトキハ充分ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス何トナレハ夫ハ未成年者ナルトキト雖モ固ヨリ自ラ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ非スト體毛人事訴訟手續法第三條第三十九條然レトモ未成年者ハ自己ノ利害ヲ圖ルクト深カラス且ソ世故ニ惜レサルカ故ニ或ハ否認ノ訴ヲ提起セシンテ一年ノ法定期間ヲ徒過セシムルコトナキヲ保セサレハナリ是ヲ以テ夫カ未成年者タル場合ニ於テハ別ニ期間ノ猶豫ヲ與フルノ必要ヲ認メ一年ノ期間ハ其未成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス可キモノトセリ然レトモ未成年者ニ於テ其子ノ生マレタル時ニハ未タ未成年者ナルモ其子ノ出生ヲ知リタル時ニハ既ニ成年ニ

達スルコトアリ此場合ニハ固ヨリ一般ノ規定ニ依ル可キモノナレハ未成年者ニ關スル特別ノ規定ヲ適用セサルナリ

夫カ禁治產者ナル場合ニ於テハ人事訴訟手續法第二十八條ノ規定ニ從ヒ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得可シト雖モ本人モ其禁治產ノ取消アリタル後子ノ出生アリタルコトヲ知リタル時ヨリ起算シテ一年間ハ自ラ其訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ法律カ禁治產取消ノ時ヨリ其期間ヲ起算セシシテ其後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス可キモノト爲シタルハ蓋シ是レ禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルカ故ニ子カ生レタルモ之ヲ知ラナルコト多ク又之ヲ知レルモ忽チ之ヲ忘却スルコト多キカ故ナリ然レトモ若シ夫カ禁治產取消前ヨリ子ノ出生ヲ知リテ之ヲ忘却セサル場合ニ於テハ禁治產取消後直チニ子ノ出生ヲ知レルモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ實際禁治產取消ノ時ヨリ其期間ヲ起算ス可キナリ人事訴訟手續法ノ規定ニ從ヒ禁治產者ノ法定代理人カ本人ニ代ハリヲ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルニ法律カ本人ニモ尙ホ此訴權ヲ與ヘタルハ蓋シ後見

人ハ或ハ子カ禁治產者ノ子ニ非サルコトヲ知ラス或ハ之ヲ知ルモ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ欲セス或ハ其子カ夫ノ子ナルヤ否ヤヲ確知スルコト能ハサルヲ以テ遂ニ否認ノ訴ヲ提起セサルコトアル可シ殊ニ民法第九百二條ノ規定ニ依レハ夫カ禁治產者タルキハ妻カ其後見人タルヲ原則トスルカ故ニ人事訴訟手續法第二十八條ノ規定ハ實際其效用ナキコト多カル可シ

又禁治產者本人カ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルニ法律ハ何故ニ其法定代理人人ニモ之カ訴權ヲ與ヘタルカ蓋シ禁治產者カ病癒ハテ禁治產ノ取消ヲ受クルコトバ實際甚タ多カラサル可ク且ツ禁治產ノ間數年ノ歲月ヲ要スルコト多カル可シ然ルニ夫ノ子ニ非サル者カ其嫡出子トシテ權利ヲ行フトモ夫以外ノ者ハ否認權ヲ有セサルカ故ニ親族其他ノ利害關係人ハ袖手傍観セサルヲ得サルモノニシテ此ノ如キハ禁治產者ヲ保護スルニ充分ナラサルヲ以テ後見人ニモ此訴權ヲ與ヘタル所以ナリ
禁治產者ノ後見人ハ以上ノ如ク本人ニ代ハリテ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルニ未成年者ノ後見人ニハ何故ニ之カ訴權ノ行使ヲ許ササルカ蓋シ未成年カ

子ヲ生ムノ年齢ニ至レハ數年ニシテ成年ニ達ス可キカ故ニ後見人ニ其訴權ノ代理行使ヲ許ナサルモ未成年者カ成年ニ達シタル後自ラ之ヲ行使スルトキハ其利益ヲ保護スルコトヲ得ヘシト雖モ禁治產者ハ何時禁治產ノ宣告カ取消サルルヲ豫メ計リ知ル可カラス動モ斯レハ其終身之カ取消ヲ受ケサルコトアリ故ニ其後見人ニ否認訴權ノ代理行使ヲ許ササルトキハ十分ニ本人ヲ保護スルニ至ラサルヲ以テ未成年者ノ後見人ニ此訴權ノ行使ヲ與ヘサルニ拘ラス禁治產者ノ後見人ニ與ヘタル所以ナリ

第二款 庶子及ヒ私生子

私生子トハ婚姻外ニ於テ生レタル者ヲ謂ヒ庶子トハ父カ認知シタル私生子ヲ謂フ外國ノ立法例佛國中ニハ亂倫ノ子法律上婚姻ヲ禁セラレタル近親間ニ生レタル者)及ヒ姦通ノ子等ハ一般ノ私生子ト法律上待遇ヲ異ニスルモノナシトセナレトモ此等ノ者ノ父母ニハ過失アリトモ其間ニ生レタル子ニハ何等ノ罪ナキモノナルニ法律上其子ノ待遇ヲ異ニスルハ是レ親ノ罪ヲ子ニ嫁スルモノ

ニシテ子ニ對シ甚タ酷ナレハ立法上採用ス可カラセルヲ以テ本法ニハ此ノ如
キ區別ハ認メアシナリ
法律上庶子ヲ認ムルハ昔時ニ在ヲ長キ間妻ナル者ヲ認メタル結果トシテ庶
子ヲ認メタル慣習ニ從ヒ本法ニ之ヲ認メタルナリ然レトモ庶子トハ妻トシテ
庶ハレタル婦女ノ生ミタル子ニシテ父カ認知シタル者ノミヲ指スニ非シテ
廣ク婚姻セナル婦女ノ生ミタル子ニシテ父ノ認知シタル者ヲ稱スルナリ
○私生子ノ認知—第八百二十七條 私生子ハ其父母又ハ母ニ於テ之ヲ認知ス
ルコトヲ得受カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス人車編第九六條第九八條明
治六年一月十八日第二十一號布告妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一
切私生子ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事)

私生子ハ婚姻以外ニ於テ生レタル子ナレハ法律上當然其父アルモノニ非サル
ヲ以テ父カ私生子ヲ認知スルハ至當ノ規定ナリト雖モ現ニ分娩ヲ爲シタル母
カ之ヲ認知スルハ一見奇ナルカ如シ人車編ニハ母カ私生子ヲ認知スル規定ナ
シト雖モ世間母ノ知レタル子チシトセス例之ハ棄子其他出生ノ届出ヲ爲サナ

ル子ノ如キ是ナリ其出生ノ届出ヲ爲ササルコトニ付テハ若シ其當時必ス母ノ
氏名ヲ届出ツ可キモノトスルトキハ身分アル者ハ己レノ非行ヲ恥チ或ハ其屆
出ヲ爲サシテ子ヲ無籍トスルコトアル可ク或ハ他人ノ子ト偽リテ之ヲ届出
テ其甚シキニ至リテハ其子ヲ棄ツルカ如キコトナシトセナルヲ以テ本法ニ於
テハ特ニ母ノ認知ヲ認メタル所以ナリ

私生子認知ノ手續ハ戸籍法第八十條乃至第八十四條ニ規定セリ

認知ハ父又ハ母ノ權利ニ屬スレトモ若シ父又ハ母カ任意ニ認知ヲ爲ササルト
キハ子ハ法廷ニ訴ヘテ認知ヲ求ムルコトヲ得可シ(第八三五條)
父カ認知シタル私生子ハ特ニ之ヲ庶子ト稱セリ是レ既ニ說キタルカ如ク從來
ノ慣習ニ從フタルモノナルカ庶子ト私生子トノ間ニハ家督相繼ヲ爲ス權利第
九七〇條第九七二條)ノ如キ大ナル差異アリ

茲ニ注意ス可キコトアリ庶子トハ父ニ對スル名稱ナルカ故ニ父母ノ認知ヲ受
ケタル同一ノ子ト雖モ父ニ對シテハ庶子ナリ然レトモ母ニ對シテ云フトキハ
私生子ナリ故ニ母ノ相續開始ノ場合ニ於テ子ノ相續權ヲ定ムルニ當リ其私生

子中ニ父カ認知シタル者ト否ラサル者トアルモ其間ニ毫モ區別アルコトナシ
 ○認知ノ能力——第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力
 者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(人事編第九九條)
 私生子ノ認知ヲ爲スカ如キハ其子ノ父本人ニ非ナレハ其真否ヲ判別スルコト
 能ハス本人自ラ爲ス可キモノニシテ其性質上法定代理人ノ同意ヲ要ス可キモ
 ノニ非ヌ蓋シ未成年者ト雖モ其既ニ子ヲ生ムノ年齢ニ達シタル者ノ如キハ妥
 當ノ思慮ヲ有スル者ナル可ク又禁治產者ト雖モ其一時心神ヲ回復セル者ハ認
 知ヲ爲ナシムルモ弊害アラサル可キヲ以テ此規定ヲ設ケタリ
 此規定ハ第七百五十六條ト其趣旨ヲ同シウシ疑ヲ防クカ爲メニ設ケタルナリ
 ○認知ノ方式——第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ
 之ヲ爲ス認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得人事編第九九條戸籍法第
 八〇條乃至第八四條

認知ヲ爲スノ方法ニ簡例ナハ居出一ハ遺言是ナリ
 本法ハ身分ニ關スル行爲ハ總ナ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要スル主義ヲ採

リタルカ故ニ私生子ノ認知ニ付テモ亦他ノ身分上ノ行爲即チ隠居婚姻離婚養
 子縁組及ヒ離縁等ノ如ク原則トシテ之ヲ届出ラサル可カラス然レドモ認知ヲ
 身分上ノ他ノ行爲ノ如ク届出ノミニ限ルトキハ往往ニシテ認知ヲ爲スノ意思
 アリテ之ヲ爲ササル者アル可シ例之ハ臨終ニ自己カ生ミタル子ヲ認知セント
 欲スルモ既ニ之カ届出ヲ爲スノ邊ナクシテ死亡スルコトナシトセス而シテ認
 知ハ他人カ爲スコトヲ得ナルモノナルカ故ニ其子ハ遂ニ認知ヲ得ルコト能ハ
 ナルニ至ル可シ是ヲ以テ遺言ニ依リテモ認知ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ此
 遺言アリタルトキハ遺言カ效力ラ生シタル日ヨリ十日内ニ遺言執行者ハ戸籍
 法第八十三條ニ依リ其届出ヲ爲ササル可カラス
 ○成年ノ子ニ對スル認知——第八百三十條 成年ノ子ハ其承諾アルニ非ナレハ
 之ヲ認知スルコトヲ得ス

普通ノ場合ニ於ケル認知ハ法定ノ方式ヲ以テ爲シタル私生子ノ父又ハ母タル
 コトノ任意ノ白白ニシテ子ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セサルノ單獨行爲ナレト
 モ成年ノ子ヲ認知スルコトハ往往子ニ於テ之ヲ欲セサルコトアリ例之ハ子ハ

現在社會ニ於テ相當ノ地位ヲ有スルニ舉賤ノ者カ之ヲ認知スルトキハ子ノ爲メ却テ不利益ナル結果ヲ生スルコトアル可シ否ラサルモ一旦法律上親子ノ關係ヲ生スルトキハ扶養ノ義務其他子ノ爲ミニ不利益ナル結果ヲ生スルコトアル可シ父又ハ母カ子カ成年ニ達スル迄モ之ヲ認知スルコトヲ爲ササルハ子ニ對シ十分ノ義務ヲ盡シタリト云フコトヲ得サレハ子ノ意思ニ反シテモ子ヲ認知シテ親子ノ關係ヲ明カニシ以テ父母カ之ヨリ生スル利益ヲ受ケントスルセ保護ス可キノ限りエ非サルナリ唯未成年ノ子ハ未タ自己ノ利害ヲ深ク研究スル十分ノ智識經驗ヲ有セナルカ故ニ父又ハ母ノミノ意思ニテ認知ヲ爲ムコトヲ許セトモ父又ハ母カ一旦認知シタル後ニ於テハ其認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得可シ(第八三四條是)以テ未成年者ニ對シテ認知ヲ爲ストキニハ其承諾ヲ必要トセサルモ親子ノ關係ナキ者カ認知ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テハ後日之ヲ爭フコトノ餘地ヲ與ヘタリ然ルニ成年者カ認知ヲ受クルトキハ十分ニ自己ノ利害ヲ研究スルノ智識經驗備ハレル者ト見ルコト得可キヲ以テ之ヲ認知スルニハ其承諾ヲ得可キモノトシタリ

○胎兒及ヒ亡兒ニ對スル認知—第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限リ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第二條第一〇四條)

第一條ニ規定スル如ク人ハ出生後ニ非サレハ法律上ノ人格ヲ具ヘサルヲ原則トスレトモ法律ハ此原則ニ對シ數多ノ例外ヲ設ケタリ例之ハ胎兒ハ損害賠償ノ請求權第七二一條家督相續第九六八條遺產相續第九九三條遺贈第一〇六五條等ニ付キ既ニ生マレタルモノト看做サレ胎兒ヘ個リニ權利ノ主體ト爲ルコトヲ得可シ而テ胎兒ノ認知ハ直接ニ右原則ノ例外タルニ非スト雖モ認知ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做サレ庶子カ享有スルコトヲ得可キ利益ヲ享有スルコトヲ得ルヲ以テ其精神ニ於テハ同シク第一條ノ例外タルニ外ナラス若シ認知ニ付キ此規定ナキニ於テハ父カ女子(庶子)ト胎内ニ在ル男子トヲ遺シテ死亡シタルトキ男子ハ未タ生レヌシテ認知ヲ受ケサルカ爲メ父ノ家督相續並

女子ニ在リ然レトモ此規定アルカ爲メ父ノ死亡後ニ生マレタル子ト雖モ胎内ニ在ルトキ認知ヲ受ケタルトキハ庶子ト爲ルヲ以テ先キニ生ナレタル女子ニ優リテ家督相續權ヲ有スルニ至ル可シ但シ胎兒カ認知ヲ得タル結果トシテ右ノ如キ利益ヲ受クルハ生存シテ生マレタルトキニ限ル若シ其子カ死體ニテ分娩シタルトキハ曾テ初メヨリ法律上ノ人格ヲ具ヘサルモノニシテ認知ノ效ナク其子ハ家督相繼其他ニ關スル利益ヲ受クルコト能ハサルナリ(第九六八條第二項而シテ法律カ胎兒ノ認知ニ關スル規定ヲ設ケタルハ蓋シ子ノ胎内ニ在ル間ニ父カ死ニ瀕スルトキハ若シ胎兒ノ認知ヲ認メサルニ於テハ胎兒ハ分娩スルトモ竟ニ認知ヲ受クコト能ハサルニ至ル可シ是レ既ニ胎内ニ存シナカラ唯其出生ノ遲キカ爲メ此利益ヲ受ケサルハ實ニ不幸ト云フ可シ是ヲ以テ法律ハ特ニ此規定ヲ設ケタルナリ

通常ノ場合ニ於テ父カ認知ヲ爲スニハ母ノ承諾ヲ要セスト雖モ子カ未タ胎内ニ在ルニ當リテハ認知セント欲スル者ノミノ意思ニ依リ其果シテ異ノ父ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ子ノ既ニ生マレタル後ニ於テヨリモ一層困難ニシテ即ノ

意思ニ反シテハ不當ノ認知タルヤモ知ル可カラサルヲ以テ母ノ名譽利益ニ關スルコト最モ大ナルカ故ニ其承諾ヲ要スルコト爲シタリ

法律上ノ人格ハ死亡ニ因リテ消滅ス可キコトハ固ヨリ論ヲ埃タル所ナリト雖モ死亡シタル者ニ對シテ之カ例外ヲ設ケサルトキハ私生子カ認知ヲ受ケタル前ニ子孫ヲ遺シテ死亡シタルトキハ父又ハ母ハ其孫又ハ曾孫ヲ認知スルコト能ハサルカ故ニ法律ハ假リニ死亡シタル子ヲ認知シテ其利益ヲ其孫曾孫等ニ及ホスコトセリ此場合ニ於テ孫又ハ曾孫等ハ自身ニ認知ヲ受クルニ同シケレハ其孫曾孫等カ成年人者ナルトキハ其意ニ反シテ迄モ認知ス可キモノニ非ずレハ此場合ニ於テ前候ノ場合ノ如ク此等ノ者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

法律カ死亡シタル子ヲ認知スルコトヲ許スハ其子カ直系卑屬ヲ有スル場合ニ限ルカ故ニ若シ死亡シタル子カ直系卑屬ヲ遺ササリシ場合ニ於テハ父又ハ母ハ死亡シタル子ヲ認知スルコトヲ得ス此場合ニ於テ死亡シタル子ノ認知ヲ爲スハ専ハテ認知ヲ爲ス者カ自ラ其子ノ相續權ヲ取得スルノ目的ヲ以テスルノ

外何等ノ法律上ノ目的ヲ認ムルコト能ハス而シテ父又ハ母カ直系卑属ナク死
亡シタル子ヲ認知シタリトテ其者ハ之カ爲メ毫モ利益ヲ受タルコトアラナル
ガリサムニテ
○認知ノ效力ニ第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ週リテ其効力ヲ生ス但第
三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス
認知ノ效力ハ認知ヲ爲シタル者ト認知セラレタル者トノ間ニ親子ノ關係ヲ認
ムルニ止マルカ故ニ認知ニ因リテ認知者ノ血族ト被認知者トノ間ニ於テ亦其
親族關係ヲ生ス例ハ認知シタル者ノ父母ハ認知セラレタル者ノ祖父母タリ
認知シタル者ノ嫡出子又ハ他ノ庶子又ハ私生子ハ認知セラレタル者ノ兄弟姉
妹ト爲ル可シ而シテ事實ニ於テハ出生ノ時既ニ定マレル故ニ原則トシテ認知
ハ出生ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生スルモノトセリ然レトモ認知アリタル前ニ第
三者カ既ニ権利ヲ取得シタルトキ例ハ父カ隠居ヲ爲シタルトキ男子ナキリ
以テ女子相續第九七〇條第一項第二號ヲ爲シ又ハ其者ニ子ナキカ故ニ親族其
他ノ者ヲ以テ相續人ト爲シ其後ニ至リ父カ私生ノ男子ヲ認知シタリトセンカ

若シ認知カ出生ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ストノ規定ノミナルトキハ隠居ノ當時
既ニ男子アルカ故ニ女子ハ之ニ先ナテ相續ヲ爲スコトヲ得ス亦子ニ非ナル者
ハ尙ホ更ラナリ然レトモ私生子ノ認知ニシテ此ノ如キ効力ヲ生ス可キモノト
セハ之カ爲メ一旦相續人ト爲シタル者ノミナラス其者ノ債權者其他ノ第三者
ニ至ル迄意外ノ損害ヲ受クル者アル可シ故ニ此弊ヲ防クカ爲メ但書ノ規定ヲ
設ケタリ

○認知取消ノ禁止—第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取

消スコトヲ得ス
認知ハ單獨行為ナルヲ以テ認知者ハ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得可キモノナリ
トノ疑ヲ生ス可キ恐レナシテセナレトモ認知ハ父又ハ母カ自己ノ子タルコト
ヲ自白スルモノニシテ之ニ因リテ人ノ身分定マル重大ナル行為ナビハ父又ハ
母カ輕シク認知ヲ爲シ復タ後ニ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトスルトキハ其認
知セラレタル者ハ勿論其他ノ利害關係人ニ至ルマテ不慮ノ損害ヲ受タルコト
ナシトセス之ヲ以テ一旦認知ヲ爲シタル以上ハ後チ之ヲ取消スコトヲ得ナル

モノトセリ而シテ實際ニ於テ私生子ノ認知ヲ爲スハ之ヲ爲ス者ノ爲メ多クハ
恥辱タル可キモノナルカ故ニ異ニ過チヲ之ヲ爲スカ如キハ極メテ稀レナル可
タ一旦爲シタル認知ヲ取消サント欲スルハ一旦ハ其良心ニ驕ラレテ認知ヲ爲
シタルモ後日自己ノ利益ノ爲メ其認知ノ不利益ナルコトヲ覺リテ之ヲ取消サ
ントスルニ在ルナラン法律ハ此ノ如キ取消ヲ許ルス可キモノニ非ス然レトモ
此規定ハ完全ノ效力ヲ以テ爲サレタル認知ノ取消シ得可カラサルニ止マリ其
認知ニシテ無效若クハ取消ノ原因アル場合ニ於テハ總則編ノ規定ノ適用ヲ受
クルコドヲ妨ケサルヤ論ヲ埃タサルナリ

○認知ニ對スル反對事實ノ主張——第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認
知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得人事訴訟手續法第二七條第三九條】
認知ハ單獨行為ナルヲ以テ或場合【第八三〇條第八三一條ヲ除クノ外ハ認知者
ノ單獨意思ノミヲ以テ完全ノ效力ヲ生ス可シト雖モ其認知ニシテ事實ニ反ス
ルコトアルトキ例へハ真ノ親ニ非サル者カ己レノ子ナリト認知シタルカ如キ
場合ニ於テハ其認知ヲ受ケタル子其他利害關係人ニ其反對ヲ主張スル道ヲ得
シ

セシメサル可カラス否ラサレハ利害關係人ハ不當ニ其利益ヲ毀損セラル可キ
セ毫モ救濟ノ道ヲ有セナレハナリ子ノ外ノ利害關係人トハ子ノ親族戸主家族
等ヲ指スモノナルモ法律ハ如何ナル者カ利害關係人ナルカラ指定セサルヲ以
テ何人ト雖モ之ニ利害關係ヲ有スルモノハ認知ノ取消ヲ請求スルコトヲ得可
シ

○子ノ父母ニ對スル認知請求權——第八百三十五條 子其直系卑屬又ハ此等ノ
者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得
子又ハ其直系卑屬カ父又ハ母ノ認知ヲ求ムルノ權利ハ通常之ヲ父又ハ母ノ親
索ノ權利ト稱ス子カ親ヲ搜索スルノ權利ハ外國ノ立法例ハ區區ニシテ一定セ
ス母ヲ搜索スルノ權利ハ概シテ之ヲ許スト雖モ父ニ對シテハ裁判上ノ認知ヲ
求ムルコトヲ許サナル所アリ吾邦ニ於テモ從前ニ在リテハ明治六年一月十八
日第二十一號布告ノ本文ニ妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル兒子ハ私生ニシテ
其之ヲ生シタル婦女ノ引受ト規定シ其但書ヲ以テ男子ヨリ已ノ子ト見留メ候
上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子ハ男子ヲ父トスルヲ可得事ト

アルヲ以テ子ハ母ノ認知ヲ求ムルコトヲ得可シト雖モ父ニ付ヲハ父カ其認知
ヲ爲サタル場合ニ於テ子ヨリ之カ認知ヲ求ムルコトヲ得可キ規定アラカリシ
ナリ佛民法第三四〇條カ私生子ニ父ノ搜索權ヲ認メタルハ其舊法ニ於テ之ヲ
認許シ其舉證ノ方法トシテ母カ其分娩ノ際爲シタル陳述ヲ以テ最モ強キモノ
ト爲シタルヨリ母カ多數ノ男子ニ接シタル者ナルトキハ其分娩ノ際或バ最モ
富裕ナル者ヲ其子ノ父ト稱シ或ハ名譽アル者ヲ其子ノ父ナリト指定スルニ至
リ其弊害ノ甚シキヲ以テ私生子ノ父ノ搜索ハ絕對ニ之ヲ禁シタレトモ是レ法
律上其立證方法トシテ採用シタルモノハ宜シキヲ得サルニ出テタル弊害ニシテ
父ノ搜索ヲ爲スコトヲ許シタルヨリ生シタル弊害ニ非サルナリ而シテ父ニ對
シテハ母ニ對スルヨリ立證上困難ナルニ止マリ其認知ヲ求ムルコトニ付キ父
ト母トノ間ニ區別ヲ立ツ可キ理ナク父ニ對シテモ其證據ヲ舉ケタル以上ハ父
ノ搜索ヲ許スハ毫モ弊害アルヲ見ナルナリ加之子ノ利益ヲ保護スル爲メ當然
ノ規定ト云ハサノ可カラズ

此訴權ヲ有スル者ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限ル而シテ子ノ外其直系

卑屬ニ之ヲ與ヘタルハ蓋シ子カ死亡シタル後ハ其直系卑屬カ之ヲ請求スルコ
トア得ルモノトキサルトキハ此等ノ者ニ於テ認知ヲ求ムルノ道ナケレハナリ
茲ニ一ノ疑問アリ嫡出子ハ父母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得可キヤ本條ハ
庶子及ヒ私生子ノ歎子ニ在ルカ故ニ庶子又ハ私生子カ父又ハ母ニ對シテ認知
ヲ求ムルヲ得可キコトヲ規定シタルニ止マリ嫡出子ニ關セサルナリ而シテ嫡
出子ニ付テハ之ヲ規定シタル前歎第八二〇條乃至第八二六條ニハ本條ノ如キ
規定ナキカ故ニ嫡出子ハ父母ノ認知ヲ求ムルヲ得サルカノ疑問生ス可シ而シ
テ婚姻中ニ懷胎シタル子嫡出子ト雖エ父又ハ母カ其歎出ヲ爲ナス若クハ事實
ヲ許リ他人ノ子トシテ歎出ヲ爲スコトナシトセス此ノ如キ場合ニ於テハ其歎
出ヲ爲ス可キ父又ハ母ハ戸籍法第二百十條第二百十一條若クハ第二百十五條
ニ依リ過料又ハ重禁錮ニ處セラル可キモノニシテ歎出ヲ爲ス可キ者ニハ罪過
アレトモ其子ニハ毫モ咎ム可キ所ナク且ツ正當ノ婚姻外ニ於テ生マレタル庶
子又ハ私生子ヲハ認知ヲ求ムルコトヲ得可キニ正當ノ婚姻ニ於テ生マレタル
嫡出子カ認知ヲ求ムルコトヲ得サル可キ道理ナキヲ以テ本條ヲ援用シ嫡出子

モ父母ノ認知ヲ求ムルコトヲ得可キモノト論セタル可カラス
○嫡出子タル身分ヲ取得ニ第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス(人事編第一〇三條乃至第一〇五條)

元來嫡出子ト其他ノ子トノ差異ハ其父母ノ間ニ正當ノ婚姻アリテ生マレタルト否トニ在リ故ニ嫡出子ニ非サル子即チ庶子又ハ私生子ト雖モ其出生後ニ至リ其父母タル者ノ間ニ正當ノ婚姻アリタルトキハ父母ハ其野合ノ過失ヲ之因リテ補修シタルヲ以テ法律カ之ニ恩典ヲ與ヘ其懷胎ヲ以テ適法ノ懷胎ト看做シ而シテ父母ノ過失ノ結果ヲ罪ナキ子ニ及ホサラシムルハ極メテ至當ノ處置ナリ然ラサレハ同一ノ父母ノ間ニ生マレタル子ニシテ婚姻前ニ生マレタルモノハ私生子トシ婚姻後ニ生レタル子ハ之ヲ嫡出子トシ先キニ生マレタル者ノ權利ハ却テ後チニ生マレタル者ノ權利ニ劣ルニ至ル此ノ如キハ不倫タルノ感ナキニ非サルナリ故ニ法律ハ私生子ニ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身

分ヲ取得セシムルコトトセリ
法律ハ私生子カ嫡出子タル身分ヲ取得スル二種ノ場合ヲ認メタリ即チ其一ハ父母共ニ婚姻前ニ認メタル子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル場合第一項)他ノ一ハ婚姻前ニ父母共ニ其子ヲ認知セス又ハ其號レカ一人カ之ヲ認知セサルモ其婚姻後之ヲ認知スルトキハ其時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得スル場合第二項是ナリ

右第一ノ場合即チ父母共ニ婚姻前ニ認知シタル場合ニ於テ嫡出子タルノ身分ハ婚姻ノ日ヨリ之ヲ取得シ其第二ノ場合即チ婚姻中ニ父母カ認知シタル場合ニ於テハ其認知ノ時ヨリ之ヲ取得シシテ第二ノ場合ニ於テハ其效力既往ニ遡及スルコトアラナルナリ例へハ婚姻ノ當時未タ認知セラレタル齡十歳ノ男子(甲)ト其當時既ニ父母ノ認知ヲ得タル五歳ノ男子(乙)アリトセんニ此場合ニ於テ甲ハ乙ヨリ年長ナレトモ父ヲ相續スルニ當リ第九百七十條第四號ノ規定ニ從ヒ其順位乙ニ劣レリ而シテ又婚姻後更ニ一人ノ男子(丙)出生シタリトスレハ丙ハ其相續ノ順位ニ付キ乙ニハ劣レトモ甲ニハ優レリ若シ此場合ニ婚姻中

トキハ他ノ嫡出子闇ヲ乙丙ノ權利ヲ害スルニ至リ第八百三十二條但書ノ精神
ヲ背馳スルヲ以テ此場合ニ於タル嫡出子タル身分ノ取得ヲ認知ノ時ヨリ效力
ア有スルコトシタルナリ

以上ハ子カ生存セル場合ニ闇スレトモ子カ死亡ノ後其子又ハ孫ノ存スル場合
ニ於フハ其子又ハ孫ニモ亦同一ノ利益ヲ受ケンメサル可カラズ(第八三一條第
二項第八三五條は)以テ法律ハ父母カ認知シタル私生子ハ父母ノ婚姻ノ當時
ニ在リテハ既ニ死亡シ其子又ハ孫ノミ存スルトキ父母ノ婚姻ノ結果其子又ハ
孫ハ當然嫡出ノ孫又ハ曾孫タル身分ヲ取得スルコトシ又父母ノ婚姻ノ後既
ニ死亡シタルノ子又ハ孫ノ爲ミニ認知シタルトキハ其時ヨリ其子又ハ孫ハ
父母ノ嫡出ノ孫又ハ曾孫タル身分ヲ取得スルコトシタリ

第一節 養子

カ養子制度ノ存廢ニ付ヲハ學說及ヒ立法例固ヨリニ歸セス佛伊諸國ノ如キハ現今法律上養子制度ヲ認許スト雖モ人民ノ之ヲ實行スルコト極メア寧シ又英米諸國ニ於フハ法律上養子ナル者ヲ公認セシシテ全ク之ヲ人民ノ德義ニ一任セリ吾邦ニ於ラハ家族制度ヲ採リ家ヲ以テ社會ノ基礎ト爲スニ依リ養子制度ノ必要ヲ感スルコト殊ニ甚シタシテ古來ヨリ此制度ヲ認ノタリ維新前ニ於ケル武士ノ如キハ實子^男ナタ亦養子^男ナタシテ死亡シタルトキハ其扶持召上ケラレ武士トシテノ家ハ廢滅スルニ至リ武士ハ他ノ農工商等ニ比シ養子ノ必要ナリシコト言フヲ埃及タルナリ而シテ養子制度ハ益其弊多キカ爲メ尙ロ之ヲ禁スルルヲ可トスルノ論者ナキニアラスト雖モ苟モ家族制度ノ存スル以上ハ之ヲ禁スルコト困難ナルノミナラス縱合之カ爲メ弊害アルコトヲ認ムルトモ現今盛ニ行ハル所ノモノヲ俄カニ廢止セントスルトキハ人民ヲシテ不自由設ケテ可及的之ヲ矯正シ依然養子ノ制ヲ存シタリ

縁組ノ效力第四款離縁是ナリ

第一款 縁組ノ要件

養子縁組ノ要件ハ之ヲ實質上ノ要件及ヒ形式上ノ要件ニ分フコトヲ得
養子縁組ノ實質上ノ要件ハ縁組當事者ノ意思表示縁組ノ能力及ヒ或者ノ同意ヲ要スルコト是ナリ形式上ノ要件トハ縁組ヲ爲スニ付キ要スル方式是ナリ

○縁組ノ實質上ノ要件

(一) 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得第八三七條人事編第一〇六條
外國ノ立法例ニ依レハ其多數ハ養子制度ヲ以テ實子ナキカ將タ之ヲ失ヒタル者ヲ憫ムノ趣旨ニ基クモノトシ隨テ通常實子ヲ養クルコト能ハナル年齡ニ達シタル者ノミヲシテ養子ヲ爲スコトヲ得セシムル主義ニ基キ四十歳乃至六十歳ノ年齡ニ達セサレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ通例ト爲スモノノ如シ然レトモ吾邦ニ於テハ固ヨリ單ニ實子ナキ者ヲ憫ミテ養子制度ヲ認ムルニ至

タタルモノニ非サレハ外國多數ノ立法例ノ如ク縁組ノ要件トシヲ殊更ニ養親ノ年齡ヲ高クスルコトヲ要スル理ナシ而シテ從來ノ慣習ニ於テ早ク養子ヲ爲スコトヲ認メタリ徳川時代ニ於テハ其箇條中ニ……當人幼少ナリトモ存命ノ内ニ養子ヲ願フニ於テハ長年ノ者タリトモ相續申付不苦候事トアリテ養親ノ年齡ニ制限ヲ設ケサレトモ縁組ハ一身一家ニ取リテ重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ未タ成年ニ達ヒサル者ヲシテ隨意ニ養子ノ爲スコトヲ得セシムルカ如キハ頗ル危險ニシテ立法上其當ヲ得タルモノト云フヲ得ス是ヲ以テ法律ハ養親カ成年ニ達セサレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルモノトシタリ
曩ニ説キタルカ如ク從來養子ナル語ハ男子ノ他ニ收養セラル者ノミヲ指稱シ女子ニ付テハ別ニ養女ナル語ヲ用ヒシト雖モ本法ニ於テハ男女ノ間ニ別ニ用語ヲ異ニセス養子ナル語ノ中ニ男女ヲ包含セシメタルヲ以テ他ノ女子ヲ收養スル場合ニモ養子ト稱スルコトニ注意セサル可カラス
家族制度ヲ探レル國ニ於テハ家ヲ重ンスルカ故ニ戸主ニ子ナキ場合ニ於テハ養子ヲ爲スコトヲ必要トスト雖モ本法ニ於テ養子ヲ認ムルハ必スシモ家督相

續ノ必要ノミニ止マラサルヲ以テ養子ヲ爲ス者ハ戸主ニ限ラサルナリ故ニ家族ト雖モ成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得可シ是レ第八百三十九條ニ於テ家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ其外女婿ト爲ス爲メニ養子ヲ爲スコトヲ得可キ旨ヲ規定シ又第七百五十條ニ於テハ家族カ養子ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ若シ家族カ右ノ規定ニ違反シテ養子ヲ爲シタル場合ニ於テハ其家族ハ離籍セラレ養子ハ養親ニ從ヒテ其家ニ入ル可キコトヲ規定スル所ニ依リ法律カ認ムル所ナルコト明カナリ而シテ養子ヲ爲ス者カ既ニ婚姻ヲ爲シタルト否トヲ問ハサルナリ

(二) 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(第八三八條人事編第一〇六條)養子ヘ之ヲ以テ實子ニ擬シ其間親子ノ關係ヲ生スルモノナレハ已レヨリ年長ナル者ヲ以テ養子ト爲ストキハ自然ニ反ス又尊屬ノ中ニハ養親ヨリ年少ナル者(叔父叔母)アル可シト雖モ此ノ如キ者ヲ養子ト爲ストキハ尊卑ノ順序ヲ紊亂スルモノナルカ故ニ法律ハ尊屬又ハ年長者ヲ養子ト爲スコトハ之ヲ禁レタリ外國ノ立法例竝ニ吾邦古代ノ法令中ニハ養親ノ年齢ハ養子ノ年齢ヨリ

十五歳以上年長ナルコトヲ要ス可キ規定アレトモ吾邦近代ノ慣習ニ於テ此ノ如キ條件ヲ必要トスルハ頗ル實際ニ適セサルモノナルヲ以テ單ニ養親ノ年齡カ養子ニ優レルヲ以テ足レリトシ別ニ其間ノ年齡ニ關シテ條件ヲ設ケサリシナリ
尊屬トハ直系尊屬即チ父母、祖父母等ハ勿論兄姉伯叔父母等從來俗ニ所謂目上。ト稱スル親族ハ其血族ナルト姻族ナルトヲ問ハス皆此等ヲ總稱スルナリ
卑屬ハ他ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ルモノニシテ孫又ハ曾孫ヲ自己ノ養子ト爲スコトヲ得ルハ勿論庶子私生子又ハ他家ニ在ル嫡出子ト雖モ之ヲ養子ト爲スコトヲ得可キナリ(第八四一條第二項參照)
(三) 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲ス爲ニスル場合ハ此限ニ在ラス(第八三九條人事編第一〇七條)
從來ニ在リテハ一人ニシテ數人ノ養子ヲ爲スコト其例少カラサリシヲ以テ此要件ハ從來ノ慣例ニ反セリ蓋シ立法者カ養子ヲ認ムル趣旨ハ必スシモ家督相續ノ必要ニノミ基クモノニ非サルコトハ既ニ説キタルカ如シト雖モ然レト

モ元來養子ノ主タル目的ハ家督相續人ヲ得ント欲スルニ在リ故ニ家督相續人カ女子ナル場合ニ於テハ女子ヲシテ相續ヲ爲サシムルハ通常人ノ欲セサル所ナルカ故ニ更ニ男子ヲ養子トセント欲スルコトハ吾邦ノ人情ニ適セリ之ニ反シ既ニ家督相續人タル男子アル者カ更ニ男子ヲ以テ養子ト爲スカ如キハ必要ナキコト多クシテ或ハ法定ノ推定家督相續人ノ相續權ヲ侵害ス否ラサルトモ少クモ家族ノ平和ヲ害スルノ恐レアルヲ免レス而シテ家督相續ノ目的ヲ以テセナル養子ハ多クハ女婿ト爲ス爲メニスルニ在ルカ故ニ此場合ニ於テハ幾人ノ養子ヲ爲スモ不可ナルコトナシ又女子ヲ養フハ多ク家督相續ノ目的ノ爲メニセサルカ故ニ是レ亦制限ヲ設クル必要アラサムヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケ之ヲ第三ノ要件ト爲シタリ

本條ノ規定アルカ爲メニ間接ニ第九百七十三條ノ規定ハ徒法ニ歸スルコトアリ第九百七十三條ノ規定ニ從ヘハ法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子綠組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルコトナシ依テ姉妹ノ兩女子アル場合ニ於テ父カ妹ニ對シ婚姻ヲ爲ストモ相續權ハ依然姉ニ存ス可シ然ルニ本

條ノ規定ニ於テハ家督相續人タル男子アル場合ニハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ナレトモ法定ノ推定家督相續人カ女子ナル場合ニハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ルモノニシテ此場合ニハ養子カ嫡出子タル身分ヲ取得シテ法定ノ推定家督相續人ト爲ル可ク而シテ養子シタル後ニ於テ法定ノ推定家督相續人タリノ者ノ妹ト婚姻スルコトハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ其者ト婚姻スルトキハ唯養子綠組ト同時ニ婚姻スルト其後ニ於テ婚姻スルトノ差異アルノミニンテ養子綠組後ニ於テ法定ノ推定家督相續人タリシ者ノ妹ト婚姻シタル場合ハ第九百七十三條ノ精神ニハ明カニ反セリ然レトモ本條ノ規定アルニ因リ右ノ如ク養子綠組ヲ爲シ其養子カ法定ノ推定家督相續人ト爲リタル後婚姻スルヲトア得可キナリ

(四) 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了タル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス(第八四〇條人事編第一〇八條)

後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ其任務終了スルヤ二箇月間ニ其管理ノ計算

ヲ爲スコトヲ要ス可キモノニシテ毫モ被後見人ノ財産ヲ私スルコトヲ許サヌ
然ルニ後見人カ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ許スキハ被後見人ノ財産ニ付
キ不正ノ行爲ヲ爲シタルヲ蔽ハシカ爲メニ之ヲ其養子ト爲シ以テ親族會其他
ノ監督ヲ免レントスル者アルニ至ルヲ以テ法律ハ此ノ如キ弊害ヲ豫防スルカ
爲メ第一項ノ規定ヲ設ケタリ

右ノ規定ニ對シ法律ハ一ノ例外ヲ設ケタリ即チ後見人カ遺言ヲ以テ被後見人
ヲ養子ト爲ス意思ヲ表示シタル場合はナリ此場合ハ第八百四十八條ニ規定ス
ル所ニシテ後見人カ後見ノ繼続中又ハ其計算ヲ終ラサル以前ニ死亡シタル場合ニ
於テハ後見人カ其親權ヲ利用シテ被後見人ノ財産ヲ私々計算ヲ曖昧ニス
ルカ如キ意思ヲ推定スルコトヲ得サルヲ以テ此場合ニハ被後見人ヲ養子ト爲ス
コトヲ禁ス可キ理由アラサルナリ

(五) 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス夫
婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八四一條人事編第一一〇條は表示セシムニ依テ前二文ハ意思表示の外ノ事例
外國ニ於テハ配偶者アル者ト雖モ獨立シテ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルコトヲ
得ル所アリト雖モ吾邦ノ慣習ニ於テハ夫婦獨立シテ養子縁組ヲ爲スコトヲ許
ナリシヲ以テ本法ニ於テモ此ノ如キ養子縁組ハ許ササルコトセリ詳言ス
レハ配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス夫
婦ノ一人カ養子ヲ爲シ他ノ一人カ之ヲ其養子ト爲ササルカ如キコトハ許サレ
サルナリ故ニ縁組ニ付テハ夫婦兩人ノ同意アル者ニ非サレハ養子ト爲スコト
ヲ得ス若シ其中一人ノ之ヲ欲セサル者ハ養子ト爲スコトヲ得ス何トナレハ養
子ト養親トノ間ハ血族タル親子ト同一ノ關係ヲ生スルモノナレハ夫婦各別ニ
養子ヲ爲シ夫婦ノ一方ニハ子ニシテ他ノ一方ニハ子ニ非サルカ如キ關係ヲ生
セシムルハ養子制度ノ本旨ニ反スルノミナラス家族ノ平和ヲ害スルコト少カ
テナレハナリ又養子ト爲ル可キ者ニ配偶者アルトキハ其夫婦ノ關係ヲ存シナ
カラ其中一人ノミヲ養子ト爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ之ヲ許スハ婚姻ノ性
質ニ反スルモノト云フ可シ

夫婦ノ一方ノ子ヲ引取リテ養子ト爲ス場合ニ於テ例ヘハ夫婦ノ一方カ私生子又ハ前婚ノ子ヲ有スル場合ニ於テ養子ト爲ル可キ者ハ既ニ夫婦ノ一方トハ親子ノ關係アルモノナレハ之ヲ收養スルニ當リ夫婦共ニ之ヲ養子ト爲スノ必要ナタ唯其一方ノ承諾ヲ得レハ足レリトセリ

○配偶者アル者ノ縁組ヲ爲ス場合ニ於ケル意思表示——第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得人編第一一〇條
養子ヲ爲サントスル者又ハ養子ト爲ラントスル者ニ配偶者アルトキハ其當事者タル夫婦各自ノ意思表示アルコトヲ要スルハ前條ニ規定スル原則ナレトモ夫婦ノ一方カ心神喪失等ノ事由ニ依リ意思ヲ表示スルヲ得ナルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テモ夫婦各自ノ意思表示ヲ必要トスルトキハ實際上養子縁組ヲ爲サント欲スルモノ能ハサルナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルノ必要ヲ生スルコトハ往往之アル所ナレハ法律ハ實際ノ必要便宜ヲ圖リ此ノ如キ場合ニハ一方ノ意思表示ヲ以テ他ノ一方ノ意思表示ニ代フルコト

ト爲シタリ

(六) 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之二代ハリノ縁組ノ承諾ヲ爲ズコトヲ得羅父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八四三條人事編第一一五條第一一九條)

養子縁組ハ其縁組當事者ノ身分ニ重大ナル效果ヲ生スルモノナルヲ以テ其各當事者ノ任意ノ意思表示アルヲ必要トスルコトハ當事者保證ノ爲メ當然ナリト雖モ吾邦ニ於テハ幼少ノ者ヲ養子ト爲ス慣習アルヲ以テ此ノ如キ者カ養子タルヘキ場合ニ於テハ本人ノ爲シタル意思表示ハ法律上之ヲ其意思ト看做シ難キコト多カル可キカ故ニ法律ハ滿十五年以下ノ者カ養子ト爲ル可キ場合ニテハ其家ニ在ル父母之二代ヲ意思表示ヲ爲スコトヲ許シタリ而シテ養子ノ意思表示ヲ代表ス可キ父母ハ其家ニ在ル者ニ限ルコトハ子カ婚姻ヲ爲ス際父母ノ同意ヲ得ル場合ニ同シキナリ

第八百四十六條 依リ第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトシタルヲ以テ父父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタ

ルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ意思ノミヲ以テ足レリトシ又父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

家ニ在ル父母中ニハ繼父母及ヒ嫡母ヲモ包含スレトモ此等ノ者ハ子ト血縁ヲ有スル者ニ非ナルヲ以テ子ノ利益ヲ慮ルコト實父母ノ如クナラサルコトハ言フヲ、族タサレハ法律ハ繼父母又ハ嫡母カ濫リニ其繼子又ハ庶子ヲ他人ノ養子ト爲スノ弊ヲ防カシム爲メ其承諾權ヲ制限シテ之ニ親族會ノ監督ヲ加ヘタリ此法律ノ精神ハ繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサル場合ノ規定第七七三條ト其趣旨ヲ同シウスルナリ

(七) 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ満十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八四四條人事編第一一六條第一項)

養子緣組ハ養親又ハ養子ノ爲ミニ血族關係ト同一ノ關係ヲ生スルモノ(第七二七條)ニシテ養親ノ父母ハ養子ノ祖父母ト爲リ又養子ト爲リタル者ハ法律上兩

後其實父母ニ對スルヨリモ養父母ニ對スル關係却テ密ナルニ至ル可ケレハ右孰レノ場合ニ於テモ其父母ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルモノトセルハ當然ナリ而シテ養子緣組ノ場合ハ子カ婚姻ヲ爲ス場合ト異ナリテ右ノ如キ關係ヲ有スルカ故ニ父母ノ承諾ヲ得ルニ付キ年齢ニ制限ヲ設ケナルナリ(第七七二條第一項是ヲ以テ養子ヲ爲ス可キ者ハ何歳ニ至ルモ其家ニ父母アルトキハ之カ承諾ヲ得サル可カラス

養子ト爲ル可キ者ニ付テハ既ニ説キタルカ如ク満十五年以下ナルトキハ其者ノ爲シタル意思表示ハ法律上有效ナラサルモノト爲シ其家ニ在ル父母之ニ代リテ綠組ノ承諾ヲ爲ス可キコトト爲シタレトモ満十五年以上ト爲リタル者ハ自ラ有效ノ意思ヲ要スルコトト爲シタリ之ヲ以テ満十五年以下ノ子ニ對シテハ父又ハ母ハ其意思ニ反シテ之ヲ他人ノ養子ト爲スコトヲ得可シト雖モ満十五年以上ノ子ハ之ト異ナリテ其意思アルニ非ナレハ之ヲ他人ノ養子ト爲スコトヲ得サルナリ

此規定ニ付テモ第八百四十六條ニ依リ第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七

百七十三條ノ規定ヲ準用ス

(八) 緑組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラン
ト欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他
家ニ入ルハ此限ニ在ラス(第八四五條)

本法ハ養子綠組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ
入ラントスルニハ一旦其實家ニ復籍スルコトヲ要セシテ養家又ハ婚家ヨリ
直チニ養家ニ入ルコトヲ許ス(第七四一條)以テ此ノ如キ者カ更ニ他家ノ養子ト
爲ル場合ニ於テ前條ノ規定ノミナルトキハ實家ノ父母ハ養子ト爲ル者ノ爲メ
ニ其家ニ在ル父母ニ非サルヲ以テ其同意ハ之ヲ要セサルモノナリト雖モ此協
合ニ於テモ前條ト同一ノ理由ニ依リ自己ノ子ヲ他人ノ養子ト爲スモノナルカ
故ニ其同意ヲ得ルコトヲ要ストスルハ至當ナリ然レトモ夫婦養子ノ場合ニ於
テハ妻ハ當然第八四一條夫ニ隨フ可キモソノナルカ故ニ此場合ニ於テ實家ノ父
母ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトスルトキハ夫婦ノ關係ヲモ絶タサル可ム
ラサルニ至リ實際ノ不便時少ナラサムヲ以テ妻カ夫ニ隨ヒテ他家ノ養子ト爲

ル場合ニハ其實家ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要セナルモノトセリ
又本條ノ場合ニ於テモ第八百四十六條ニ依リ第七百七十二條第二項第三項及
ヒ第七百七十三條ノ規定ヲ準用ス(人事編第一一五條第二項第三項第一一六條
第二項第三項第一一七條乃至第一二〇條)

以上ハ實質上ノ要件ニ關スルモノナリ是ヨリ第二ノ要件ニ移ラン

○綠組ノ形式上ノ要件

(一) 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ綠組ニ之ヲ準用ス(第八四七
條人事編第一一三條第一二一條第一二四條)

本條ハ婚姻ニ關スル二箇ノ規定ヲ養子綠組ニ準用スルモノナルカ其第七百七
十四條ハ禁治產者ノ綠組ノ能力ニ關スルモノニシテ事ロ實質上ノ要件ニ關セ
リ禁治產者ハ一時其心神ヲ回復セルトキニ於テハ後見人ノ同意ヲ得スシテ婚
姻ヲ爲スコトヲ得ルト同シク綠組ヲ爲スコトヲ許セリ是レ婚姻ニ關シテ說
キタル所ト同趣旨ナレハ今復タ茲ニハ述ヘサルナリ

綠組ノ方式ニ付ナモ婚姻ニ於ケルト同シク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其

效力ヲ生ス。但シ、其遺言ニ附ヤハリ開示セシム者、或種類ニ漏出ハシム者を除キ、其届出ノ方法及ヒ證人等モ婚姻ニ關スルト同一ナレハ是レ亦茲ニ復説セザルナリ。

(二) 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ヘリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク綠組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス(第八四八條人事編第一〇六條第二項第一一二條第一二三條)。綠組ハ契約ヲ以テス可キモノトシ遺言ヲ以テ養子ト爲スノ意思ヲ表示スルコトハ諸國多數ノ立法例ノ認メサル所ナリト雖モ其家ヲ重ンスル吾邦ニ於テハ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スコトヲ許スハ實際ニ於テ其必要アルノナラス從來ノ慣習ニモ存スル所ニシテ子ナキ者カ死ニ臨ミ嗣子ナキヲ憂ヒテ他人ノ子ヲ養子ト爲シ其家ヲ嗣カシメント欲スルハ人情ノ常ナリ此場合ニ於テ普通ノ手續ニ依リテ養子ヲ爲サント欲スルモ既ニ其暇ナク又ハ若シ子ナクシテ死亡セハ

養子ヲ爲サント欲スルモ苟モ實子ノ生ルルニ於テハ之ヲ欲セザルコト稀ナリトセス而シテ何人モ自己ノ死期ヲ確認スルコト能ハサルカ故ニ若シ子ナクシテ死シタルトキハ某ヲ養子トス可ク若シ生存中ニ子ヲ舉ケタルトキハ之ヲ養子トセサル可キ意思ヲ有スルトキハ遺言ヲ以テ養子ヲ爲シ而シテ生前子ヲ舉ケタルトキハ其遺言ヲ取消シ以テ其希望ヲ貫徹スルコトヲ得可シ此ノ如キ場合ニ於テ既ニ養子ノ届出ヲ爲シタリトセンカ其後實子ヲ舉クルトモ之カ爲メ既ニ得タル養子ノ相續權ヲ害スルコト能ハス是ヲ以テ遺言養子ヲ認ムハ實際上ノ必要ニ適セリ。

法律ハ遺言養子ヲ認ムルト雖モ遺言其モノカ直ニ養子綠組ノ效力ヲ生スルニ非ス遺言ハ單ニ養親ノ意思表示タルニ遇キサレハ遺言養子ヲ爲シタル者死亡シタル後其養子ト爲ル可キ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依ル其法定代理人カ之ニ承諾ヲ爲サナルトキハ其養子綠組ハ效力ヲ生スルモノニ非ス而シテ此等ノ者カ之ニ承諾ヲ爲シタルトキハ普通ノ綠組ト同一ノ方式ヲ以テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス但シ此場合ニ於テハ養親タル可キ者存在セサルヲ以テ之ニ

代リテ届出ヲ爲ス者アルコトヲ要ス即チ遺言執行者第一一〇八條乃至第一一二條是ナリ
本條ニ所謂遺言カ效力ヲ生シタル後トハ遺言ハ遺言者ノ生存中ハ決シテ其效力ヲ生スルコトナク其死亡ノ時ニ於テ其效力ヲ生スルヲ常トスレトモ若シ遺言カ條件附ナルトキハ其條件成就ノ時ニ於テ始メテ其效力ヲ生ス可キモノ第
一〇八七條トスルヲ以テ右ノ場合ヲ指シタルナリ
遺言ニ因ル養子縁組モ亦届出ニ依リテ始メテ其效力ヲ發生スルコト普通ノ縁組ト相同シト雖モ遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス可キモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ縁組ハ遺言者死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スルコトセリ隨テ遺言者ニ對スル相續權其他嫡出子タル身分ヨリ生スル權利義務ハ總テ遺言者死亡ノ時ニ遡リテ發生ス可キナリ又以テ養子縁組モ亦同ス
○養子縁組ノ届出ニ對スル戸籍吏ノ義務 第八百四十九條 戸籍吏へ縁組カ第七百四十一條第一項第七百四十四條第一項第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理

スルコトヲ得ス第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス人
事編第一一三條第三項第一二一條第二項
養子縁組ノ届出ニ對スル戸籍吏ノ義務ハ婚姻ノ届出ニ關スル規定第七七六條
ト全ク其趣意ヲ同シウスルモノニシテ戸籍吏ハ養子縁組カ法令ニ違反セサルコトヲ認メサル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルナリ而シテ法令トハ第七百四十一條第七百四十四條第七百五十條第八百三十七條乃至第八百四十八條又他ノ法令トハ戸籍法及ヒ附屬命令華族令等ヲ謂フナリ
養子縁組ノ場合ニ於テモ婚姻ノ場合ニ於ケルト同シク戸籍吏ニ於テ養子縁組カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スルトキ之カ注意ヲ爲シタルニ拘ラズ當事者カ其届出ヲ爲サントスルトキハ戸籍吏ハ敢テ之ヲ拒ムコトヲ得シテ受理セサル可カラズ
○外國ニ在ル日本人間ノ縁組 第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス(人事編

第一二五條 法例第八條第一九條
外國ニ於テ日本本人間ニ養子縁組ヲ爲ス規定ハ日本人間ニ外國ニ於テヌル婚姻ニ關スル規定第七七七條ト全ク其趣意ヲ同シウスルモノニシテ外國ニ於テ日本本人間ニ養子縁組ヲ爲サント欲スルトキト雖モ本國ニ於テ其届出ヲ爲スコトハ原則ナレトモ斯クスルトキハ當事者ノ不便勘カラナルヲ以テ外國ニ於テ其手續ヲ爲スコトヲ得ル便法ヲ與ヘサル可カラス即チ外國ニ在リテハ且籍吏ニ代フルニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ヲ以テシニ其届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ而シテ此場合ニ於テ日本ニ於ケルト同シク第七百七十五條第八百四十八條及ヒ第八百四十九條ノ規定ハ準用セラルルナリ

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

養子縁組モ亦婚姻ノ如ク其法定ノ要件ノ欠缺ニ因リテ或ハ無効ト爲リ或ハ取消シ得可キ場合ヲ生スルシテ養子縁組ノ無効ト爲リ又ハ取消シ得可キ場合ヲ生スルハ法律カ茲ニ規定シタル場合ニ限定セルカ故ニ本款ニ定ムル場合ノ外

○養子縁組カ無効ト爲リ又ハ取消サルルコトアラサルナリ

○縁組ノ無効ト第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス
一 人達其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲タル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルコトナシ(人事編第一二七條同第一二九條明治八年十二月九日太政官達第二百九號同十年六月十九日司法省丁第十四十六號達)

縁組ノ無効ノ規定ハ全ク婚姻ノ無効ニ關スル第七百七十八條ノ規定ト異ナルコトナシ故ニ再ヒ茲ニ叙述セナルナリ

○縁組ノ取消ニ第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百七十九條ト異ナルコトナケレハ今茲ニ叙述セス

○縁組ヲ取消スコトヲ得可キ場合

(一) 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ経過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス(第八五三條人事編第一二八條)
成年ニ達シタル者ニ非ナレハ養子ヲ爲スヲ得ナルコトハ曩ニ説キタル第八百三十七條ニ規定スル所ナリ然ルニ此規定ニ背キテ未成年者カ養子ヲ爲シタルトキハ其利益ノ爲メ之カ取消ヲ許ササル可カラス即チ其養親自身又ハ其法定代理人ハ裁判所ニ其縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得可シ而シテ此取消權ヲ有スル者ハ右兩者ニ限リテ他ノ者例ヘハ養親ノ親ノ如キニ之ヲ與ヘサルハ蓋シ第八百三十七條ノ規定ハ公益ノ爲メノ規定ニ非シテ主トシテ養親ノ利益ヲ保護スルニ出テタルモノナレハ固ヨリ當然ナリ而シテ養親カ未成年者中縁組ヲ取消サシテ成年ニ達シタル後仍ホ之ヲ取消スノ意思ナク反テ其縁組ヲ繼續スルノ意思アルトキハ養親ハ既ニ養子ヲ爲スノ能力ヲ有スルニ至リタル者ナルカ故ニ敢テ其縁組ヲ取消スコトヲ要セス是ヲ以テ法律ハ養親カ成年ニ

達シタル後六箇月ヲ経過シタルトキ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ養子ヲ爲スノ意思繼續スルモノト認ムヘキカ故ニ復タ其縁組ノ取消ヲ許ササルナリ
(二) 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第八五四條人事編第一二八條
何人ト雖モ尊屬又ハ年長者ヲ養子ト爲スヲ得ナルコトハ第八百三十八條ニ規定スル所又法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スヲ得テルコトハ第八百三十九條ニ規定スル所ナリ然ルニ此等ノ規定アルニ拘ラズ之ニ背キテ養子ヲ爲シタルトキハ其制裁トシテ之カ取消ヲ許ササル可カラス而シテ此場合ニ於テ法律ハ其取消權ヲ獨リ其養親ニ與フルノミナラス養子其戸主又ハ其親族ニ與ヘタリ而シテ前ノ場合ト異ナル所以ハ以上ノ規定ハ私益ノ保護ニ非ヌシテ公益ニ關スルヲ以テナリ但シ此場合ニ於テ法律カ婚姻ニ關スル第七百八十條ノ規定ノ如ク検事ニ之カ取消權ヲ與ヘサルハ當事者戸主及ヒ親族等ニ於テ此憲法ノ養子縁組ヲ承認スルニ於テハ敢テ國家カ之ニ干

沙スルノ必要ナシト認シタレハナリ時モ承認た事ニ致セバ此モ同族皮之ニ平
以上ノ規定ハ公益ニ關スルモノナルカ故ニ普通ノ取消ノ場合ノ如ク期間ノ經
過又ハ追認ニ依リテ消滅スルコトナシ故ニ綠組アリタル後幾多ノ年月ヲ經過
スルモ又ハ當事者ノ一方又ハ雙方死亡シタル後ト舉モ仍ホ之カ取消ヲ請求ス
ルコトヲ得可シ強ニ其證實猶御事。問。其證據ニ就キ或人主張セバ其子又ハ其
(三) 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル綠組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取
消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲
シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ
能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非ナレハ其效ナシ養子カ成年ニ達セス又ハ能
力ヲ回復セナル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間
ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス第八四五五條人事
編第一二八條第一項第一三〇條三十一年、財產ノ繼承並モ賄理ハ各當事者
遺言ヲ以テ養子ヲ爲ス場合第八四八條ヲ除ク外後見人ハ其後見ノ繼續中又ハ
任務終了後ト雖モ其管理ノ計算ヲ終ラナル前ニ其被後見人ノ養子ト爲スヲ得
得ナリ

ナルコトハ第八百四十條ニ規定スル所ナリ然ルニ此規定ニ反シテ綠組ヲ爲シ
タルトキハ其制載シテ之カ取消ヲ許ナツル可カラス而シテ此取消權ヲ有ス
ル者ハ養子及ヒ其利益ヲ圖ル可キ實方ノ親族ニ限リ其他ノ者ハ之ヲ有セナル
ナリ是レ他ナシ此規定ハ義ニモ說キタルカ如ク専ラ被後見人ノ財產上ノ利益
ヲ保護スルニ出テタルヲ以テナリ

第八百四十條ノ規定ハ元來後見人カ未成年者ヲ養子ト爲シテ其財產ニ付キ私
曲ヲ行フノ恐レアルヲ以テ之ヲ豫防スルカ爲メニ設ケタルモノナレトモ若シ
後見終了シテ後見人カ其管理ノ計算ヲ終リタル後養子ニシテ依然養子タラン
コトノ意思ヲ有スルトキハ此時ニ當リテハ養子綠組ヲ禁シタル原因既ニ消滅
シテ養子ハ新ニ養子ト爲ルコトヲ得ルモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ取テ違
法タリシ綠組ヲ取消ス可キ理アラナルナリ是ヲ以テ管理ノ計算カ終リタル後
養子カ追認ヲ爲シ又ハ六箇月ヲ經過シタルトキハ復ク其綠組ヲ取消スコトヲ
得ナルモノトセリ

後見人カ管理ノ計算ヲ爲スハ被後見人カ成年ニ達シタルトキ又ハ其整治産者

ナル場合ニ於テハ禁治産ノ宣告ヲ取消サレタルトキニ於テス可キカ故ニ養子
カ未タ成年ニ達セス又ハ禁治産中ニ在リテハ総令追認ヲ爲シタリト雖モ其追
認ハ普通ノ場合ニ於ケルト同シタ追認タル效力ヲ生セサルナリ(第一二四條第
一項)

被後見人ノ未タ成年ニ達セス又ハ禁治産ノ宣告ノ取消サレタル間換言スレハ
被後見人カ無能力ナル間ニ於テ管理ノ計算ヲ爲スコトアリ例へヘ後見人カ被
後見人ヲ其養子ト爲ストキハ爾後後見人ニ非シテ更ニ養子ノ親權者トシテ
其財産ヲ管理スルモノナレハ原則トシテ此場合ニ於テハ養子カ成年ニ達シタ
ル後ニ非サレハ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要セサレトモ親權力半途ニシテ親
權ヲ失ヒテ他ノ者カ後見人ト爲ル可キトキハ養子ノ無能力者タル間ニ於テ管
理ノ計算終ル可ケレトモ此場合ニ於テハ養子ハ未タ自ラ其計算力正當ナルヤ
否ヤヲ判断スルコト能ハサルモノナレハ第一項但書ノ期間ハ計算終了ノ時ヨ
リ起算セスシテ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ起算スルコト
トセリ

(四) 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲サナリシ配偶者ヨリ
其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組ノリタルコトヲ知リタ
ル後六ヶ月ヲ経過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス(第八五六條人事
編第一二八條)

配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スヲ得サルコトハ第
八百四十一條ニ規定スル所ナリ然ルニ配偶者アル者其配偶者ト一致セスシテ
縁組ヲ爲シタルトキハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ヲシテ其縁組ヲ取消スコトヲ
得セシメサル可カラス而シテ此場合ニ於テ爲シタル縁組ハ同意ヲ爲シタル配
偶者ト其縁組ノ對手人トノ間ニ於テノミ效力ヲ有スルモノニシテ同意ヲ爲サ
サル配偶者ニ對シテハ固ヨリ有效ナラアル以テ此場合ニ於テ同意ヲ爲ササ
リシ配偶者ニ其配偶者ノ爲シタル縁組ヲ取消サシムモノトセリ

同意ヲ爲サナリシ配偶者カ其縁組ヲ明カリ追認シタルトキハ其縁組ハ最初ヨリ
夫婦一致シテ爲シタルト同様ノ效力ヲ生ス又縁組アリタルユトノ知リテヨリ
六箇月ヲ経過スルモ依然取消ヲ請求セサルトキハ是レ其縁組ニ同意シタル

ト看做スカ故ニ後日之ヲ取消スコトヲ許ササルナリ是ヲ以テ此場合ニ於ケル追認ハ二様ノ效力ヲ含有ス其一ハ其配偶者カ自己ノ同意ヲ得シテ爲シタル縁組ヲ自己ノ爲メニ引受タル行爲ニシテ其縁組ハ追認ニ依リテ始メテ其效力ヲ生ス(第一二三條第一項其二ハ配偶者ノ爲シタル縁組ノ取消權ノ拋棄是ナリ)

本條ノ規定ハ主トシテ同意ヲ爲ササル配偶者ノ利益ヲ保護スルニ在リテ公益ニ關スルモノニアラサレハ縁組ノ取消權ヲ有スルハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ノミニシテ其他ノ者ハ之ヲ有セサルナリ

(五) 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルキ亦同シ第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス第八五七條人事編第一三二條成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十四條ニ規定スル所縁組又ハ婚姻ニ

譲リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十五條ニ規定スル所又父母共ニ知レナルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十六條ニ規定スル所ナリ然ルニ同意ヲ要ス可キ者ノ同意ヲ得シテ縁組ヲ爲シ又縊合同意アリトスルモ其同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル場合ニ於テ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ請求スルコトヲ得可キハ固ヨリ當然ナリ而シテ此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十三條ト其趣意ヲ同ギウスルカ故ニ法律ハ縁組ノ取消ノ場合ニ亦婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十四條ノ規定ヲ準用スルコト爲シタリ即チ(一)同意ヲ爲スノ權利ヲ有セシ者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキ(二)同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ縁組届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ其取消權ノ消滅スルコト是ナリ茲ニ一ノ問題アリ第八百四十三條第二項ニ依レハ繼父母又ハ嫡母カ十五年未

浦ノ者ニ代ハリ養子ト爲ル可キ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス然ルニ右ノ規定ニ反シ親族會ノ同意ヲ得シテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テ戸籍更カ過テナ其届出ヲ受ケタルトキハ其縁組ハ有效ナリヤ否ヤ是ナリ

(六) 増養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ

縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無效ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六个月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス(第八五八條人事編第一三三條)

此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十六條ノ規定ト其精神同一ナリ而シテ其理由ハ既ニ婚姻ノ取消ニ付テ叙述シタレハ今復タ茲ニ説カサルナリ

此取消權ヲ有スル者ハ縁組及ヒ婚姻ノ當事者即チ養親增養子及ヒ増養子ノ妻タル者是ナリ

唯此場合カ婚姻ノ取消ノ場合ト異ナルハ其取消權ノ行使ノ期間ナリ婚姻ニ付テハ三个月ナルニ縁組ノ取消ニ付テ六个月トシタルハ婚姻ニ付テハ當事者カ

夫婦タルコトヲ欲セサルトキハ其無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三个月以上モ之ヲ駁過スルコト能ハサル可キモ縁組當事者間ノ關係

ハ婚姻ノ如ク速ニ確定セシム可キ必要アルヲ見サルヲ以テナリ

○縁組ヲ取消スコトヲ得可キ第七ノ場合及ヒ縁組取消ノ效力—第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百

八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六个月トス(人事編第六二條第一三一條第一二條)

(4) 婚姻ノ場合第七八五條ト同シク縁組ノ場合ニ於テモ詐欺又ハ強迫ニ因リ

テ縁組ヲ爲シタル者ハ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得而シテ其理由ハ婚姻ニ關スル第七百八十五條ニ就キ叙述シタルハ今復説セサルナリ唯此場合カ

婚姻ノ取消ノ場合ト異ナル所ハ婚姻ノ取消權ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル後三个月ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトセシモ縁組ニ付テハ其期

間ヲ前條ニ於テ叙述シタル理由ニ從ヒ六个月ト爲シタルニ在ルノミ

(ロ) 縁組取消ノ效力縁組取消ノ效力モ婚姻取消ノ效力第七八七條ト同シク

既往ニ過ラナル原則トシ唯縁組ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサ
リシ當事者カ縁組ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受タル限度ニ於テ
其返還ヲ爲スコトヲ要シ惡意ノ當事者ハ縁組ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返
還スルコトヲ要シ尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ
任セアル可カラス而シテ此理由カ縊ニ婚姻ノ取消ノ效力ニ付テ叙述シタレハ
是亦茲ニ復説セナルナリ

第三款 縁組ノ效力

本款ニ於テハ縁組ニ因リ養子ト養親及ヒ其親族トノ身分ニ生スル關係ト縁組
カ養親ノ家ニ及ホス關係トヲ規定ス

○親族關係ノ發生——第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身
分ヲ取得ス(人事編第一三四條第一三五條)

養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ養親ノ血族ト總テ親族關
係ヲ生スルコトハ吾邦古來ノ慣習ナルヲ以テ縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ

取得スルモノトセリ而シテ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ
日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルコトハ法律カ親族ノ總則第
七二七條ニ於テ既ニ認タル所ナレハ養子ト養親トノ間ニ於テ縁組ノ日ヨリ
實親子ニ等シキ關係ヲ生シ養子ヲ嫡出子トスルハ當然ナリ

養子ハ嫡出子ニ等シキカ故ニ權利相續權ヲ始メ扶養ノ義務婚姻ノ障礙第七百
六十九條但書ノ例外アリ等ニ關シ實子ト毫モ異ナルコト非サルナリ然レトセ
之カ爲メニ養子ハ實家ニ於ケル親族關係ヲ失フニ非ス實家トノ關係ハ依然存
スルモノナレハ養子ハ實方ノ親族關係ト養方ノ親族關係ト二様ノ親族關係ヲ
有スルナリ

○養親ト家ヲ同シウスルコト——第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ
家ニ入ル(人事編第一三四條) 既ニ養子ハ實家ニ入ル時ニ實家ノ親族關係ヲ
縁組ニ因リテ養子ト養親トノ間ニ親子ノ關係ヲ生スルコトハ第七百二十七條
ニ規定スル所ナレトモ第七百三十三條ニ子ハ父ノ家ニ入ル父ノ知レサル子が
母ノ家ニ入ルトアリテ養子ハ養親ニ對シテ子タルト同時ニ亦仍ホ實父母ニ對

ジアモ子タルヲ以テ以上ノ規定ニ因リテハ養子ハ當然養親ノ家ニ入ルモノト云フコトヲ得ス故ニ本條ヲ以テ之ヲ明カニシ吾邦從來ノ慣習ノ如ク養子ハ縁組ニ因リテ當然養親ノ家ニ入ルモノトセリ蓋シ吾邦ノ養子ハ主トシテ家ヲ繼カシムル爲メニ出フルモノナルカ故ニ養子カ依然其實家ニ在リテハ其目的ヲ述スルコト能ハナルヲ以テナリ

第四款 離 緣

離縁ナル語辭ハ從來婚姻ノ解除及ヒ養子縁組ノ解除ニ區別ナク用ヒタリト雖モ民法ハ婚姻ノ解除ニ付テハ離婚、養子縁組ノ解除ニ付テハ常ニ離縁ナル語辭ヲ用ヒタレハ離縁ト稱スルトキハ婚姻ノ解除ニ關係ナキコトニ注意セナル可カラス。

離縁ヲ許スコトハ各國ノ立法例中或ハ之ヲ認ムルモノアリ或ハ否ラナルモノアリ佛國伊國等佛法系ノ諸國ハ離縁ヲ認メサレトモ獨逸諸州英國獨逸民法第1768條其他獨逸法系ノ諸國ハ當事者一方ノ請求ニ因リ養子ヲ爲ス時同一裁判上ノ離婚ノ如ク法律ハ其場合ヲ限定シ猥ニ之ヲ許ナサルナリ

ノ方式ヲ以テ離縁ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセリ吾邦ニ於テハ從來養子縁組ノ解除ハ婚姻ノ解除ト同シク之ヲ許シタレハ本法ハ此舊慣ヲ認メ或ハ當事者ノ協議ニ因リ或ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ離縁ヲ許スコトトセリ其當事者ノ協議ニ出ナタルモノヲ協議上ノ離縁ト謂ヒ裁判所ノ宣告ヲ以テスルモノヲ裁判上ノ離縁ト謂フ而シテ協議上ノ離縁ハ恰ニ當事者間ニ協議調フトキハ離縁ヲ爲スコトヲ得ルカ如ク養子縁組ニ付テモ亦當事者間ニ協議サヘ調フトキハ其原因ノ如何ヲ問ハス離縁ヲ爲スコトヲ得可シ之ニ反シテ裁判上ノ離縁ハ獨ホ裁判上ノ離婚ノ如ク法律ハ其場合ヲ限定シ猥ニ之ヲ許ナサルナリ

第一 協議上ノ離縁

(一) 實質上ノ要件

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得養子カ十五年未滿ナルトキヘ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ離縁組ノ承諾ヲ爲ス権利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲ナント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得(人事編第一三七條)

本條第一項ハ離婚ニ關スル第八百八條ニ相當スルモノニシテ縁組ノ當事者ハ既ニ叙述シタルカ如ク其原因ノ如何ニ拘ラズ協議調フトキハ離縁ヲ爲スコトヲ許ス蓋シ法律カ協議上ノ離縁ヲ許シタルハ養子縁組ハ之ニ因リテ養子ト養親トノ間ニ親族關係ヲ生セシムルモノナリト雖モ此關係タルナ専ラ當事者ノ協議ニ因リ人爲ヲ以テ成リタルモノナレハ當事者カ之ヲ絶タント欲スルニ於テハ其意思ニ反シテ強フ之ヲ繼續セシム可キ公益上ノ必要アルヲ見ス若シ之ヲ許ササルコトスルトキハ却テ其一家ノ不和ヲ見ルヲミナラス吾邦ニ於テハ當事者間ニ協議調フトタル離縁ハ慣習上之ヲ許シタルヲ以テ本法ニ於テモ之ヲ許スコトト爲シタリ

十五年未滿ノ者カ養子ト爲ラント欲スルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリヲ縁組ノ承諾ヲ爲シ其父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノミノ意思ヲ以テ之ニ代ヘ父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會及ヒ後見人ノ意思ヲ以テ之ニ代ヘ實家ノ然ナリ

父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意アルヲ要スルコトハ第八百四十三條第八百四十六條ニ規定スル所ナレハ協議上ノ離縁ニ付テモ最初爲シタル縁組ノ場合ト同シタ此等ノ者トノ協議ヲ必要トスルハ當然ナリ

婚姻ニ付テハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ離婚ヲ爲スコトヲ許ササレトモ縁組ハ養親カ死亡シタル後ト雖モ養子カ其解除ヲ爲ナント欲スルトキハ之ヲ許スコトトセリ是レ蓋シ婚姻ハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ既ニ解消セラタルモノニシテ復タ之ヲ解除ス可キ目的存セサレトモ養子縁組ハ之ニ反シ専ラ親族關係及ヒ家族關係ノ發生ヲ目的トシ其關係ハ養親ノ死亡ニ因リテ解消セラルモノニ非サレハ養親死亡ノ後ニ在リテモ仍ホ此關係ヲ解クコトヲ許ス可キ必要アリテ此ノ如キハ實家及ヒ養家ノ爲メ便宜ナルコトアリ故ニ此場合ニ於テハ戸主カ養親ニ代リテ同意ヲ爲ス可キモノトセリ然レトキ是レ様ニ叙述スルカ如ク養子カ家族タル間ニ限ルモノニシテ既ニ養子カ戸主ト爲リタルトキハ最早離縁ヲ爲スコトハ許サレサルナリ(第八百七十九條)

○父母・親族會後見人ノ同意 — 第八百六十三條 満二十五年ニ達セナル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第一三八條)此規定ハ離婚ニ關スル第八百九條ニ相當スルモノニシテ成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ス若シ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ之ニ代ヘ父母共ニ知レタルトキ、死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ實家ノ父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意第八四三條第六條ノルヲ要ス之ヲ以テ満二十五年ニ達セナル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニ付テハ亦父母後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルハ至當ナリ而シテ離縁ト離縁トニ付テハ唯年齢ニ差異アルノミ法律カ成年以上ノ者ニモ同意ヲ

得ルコトヲ必要トシタルハ蓋シ離縁ハ普通ノ法律行爲ト異ナリテ一層重要な效果ヲ有スルモノナルヲ以テ満二十五年ニ達セナルカ如キ者ハ離縁ヲ輕卒ニ決行スルコトノ虞アルヲ以テナリ
○禁治產者ノ離縁 禁治產者カ離縁ヲ爲スニハ猶ホ其縁組ヲ爲ス場合ニ後見人ノ同意ヲ要セナルカ如ク第八四七條其同意ヲ得ルコトヲ要セナルナリ(第八六四條ノ止マリ其身分上ノ行為ニ關セサルナリ而シテ禁治產者ノ身分上ノ行為ニ關シテハ禁治產者カ事實上精神ヲ同後セル時ニ在リテハ完全ノ能力ヲ有スルカ故ニ其間ニ爲シタル離縁ハ有效タル可シ之ニ反シテ其心神喪失中ニ爲シタル離縁ハ意思ノ欠缺スルモノナレハ無效タル可シ依テ此場合ハ婚姻ノ場合ト異ナルコトナキヲ以テ茲ニ之ニ關スル規定ヲ準用スルコトシタリ其證

協議上ノ離縁ハ緑組ニ於ケルト同シタ要式ノ行爲ト爲シ之ヲ戸籍吏ニ届出フ
ルニ因リテ其效力ヲ生ス若シ此方式ヲ缺キ離縁ノ届出ヲ爲サアルトキハ其離
縁ハ絶對無効ナリ而シテ其届出ニ關スル手續ハ婚姻ノ届出ニ關スルモノト毫
モ異ナラナルヲ以テ法律ハ離縁ノ場合ニ婚姻ニ關スル第七百七十五條ヲ準用
スルコトトシタリ第八六四條人事編第一三九條

○離縁届出ニ對スル戸籍吏ノ義務——第八百六十五條 戸籍吏ハ離縁カ第七百
七十五條第二項第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反
セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス戸籍吏カ前
項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲ノニ其效力ヲ
妨ケラルルコトナシ(人事編第一三九條)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十一條ニ相當スルモノニシテ戸籍吏ハ離婚ノ場
合ニ於ケルカ如ク離縁カ法令ノ規定ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレ
ハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルモノトセリ而シテ此規定ハ其實質ニ至リテ
モ亦始ト離婚ニ關スルモノト同一ナルヲ以テ今復タ茲ニ之カ説明ヲ爲サ
テ亦始ト離婚ニ關スルモノト同一ナルヲ以テ今復タ茲ニ之カ説明ヲ爲サ

第一 条刑上人離縁

親親ト養子トノ間ニ如何ニ不和ヲ生シ離縁ヲ爲サント欲スルトモ其一方カ之
ヲ承認セサルトキ即チ當事者間ニ離縁ノ協議調ハサルトキハ他ノ一方ヲシテ
之ヲ強ニムコトヲ得ス此場合ニ於テハ裁判所ニ之カ請求ヲ爲スヨリ外アラサ
ルナリ然レトモ憂ニ説キタルカ如ク協議上ノ離縁ニ付テハ如何ナル原因ニ基
キテ之ヲ爲ストモ當事者ノ自由ニ委シ法律ハ其間ニ毫モ干渉ヲ爲ササレトセ
當事者カ裁判所ニ訴ヘテ離縁ヲ爲スニハ法律カ定メタル原因アルニ非サレハ
之ヲ許サルナリ

○裁判上ノ離縁ノ原因——第八百六十六條 緑組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ
限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ナシ以テ遺棄セラレタルトキハ離夫トセリ
- 三 親親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

- 四 他ノ一方カ重禁制一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 五 養子ニ宗名ヲ改シ又ハ家産ヲ領クヘキ重大ナル過失アリタルトキ
 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ
 七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラヴァルトキ
 ○八 他ノ一方カ自己ノ直系尊属ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱
 ハタチ加ヘタルトキ

九 塔養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ男女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ(人事編第一四〇條第一項第一四一條)

第一ノ原因 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第五號ニ相當シ唯茲ニハ同居ニ堪ヘナルコトヲ缺クノミ法律カ離縁ニ之ヲ缺キタルハ蓋シ夫婦ハ元來同居スヘキモノナリト雖モ親子ハ必スシモ然ルモノニ非サルヲ以テナリ故ニ養子カ養親ニ對シテ又ハ養親カ養子ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ之ヲ受

ケタル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起ヌルコトヲ得此ノ如キ場合ニ於テ仍本親子タル關係ヲ繼續セシムルハ堪フ可カラサル痛苦アル可ケレハナリ而シテ如何ナ他所爲カ虐待ナルカ又重大ナル侮辱ナルカハ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テニ裁判官ノ査定ニ依ラサル可カラヌ

第二ノ原因 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ此原因ハ離婚ハ闕スル第八百十三條第六號ニ相當シ其理由モ毫モ異ナル所ナキヲ以テ今復ダ茲ニ説明セサルナリ

第三ノ原因 養親ノ直系尊属ヨリ虐待父ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第七號ニ相當ス但シ同條第七號ニハ配偶者ノ直系尊属ヨリ云云トアレトモ離縁ニ付テハ養親ノ直系尊属ヨリトアルカ故ニ離婚ニ付テハ夫カ妻ノ直系尊属ヨリ若クハ妻カ夫ノ直系尊属ヨリ虐待ヲ受ケタルヲ問ハス其孰レノ場合ニ於テモ離婚ノ原因ヲ爲レトモ離縁ニ付テハ養子カ養親ノ直系尊属ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキニ限リ離縁ノ原因ト爲リ養親カ養子ノ直系尊属ヨリ虐待ヲ受ケタリトテ離縁ノ原因タラナ

ルナリ何トナレハ配偶者ノ直系尊属ハ他ノ一方ノ姻族ナレトモ養親ト養子ノ直系尊属トハ何等ノ親族關係ヲ有キアルヲ以テナリ而シテ法律カ養親ノ直系尊属ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタル場合ヲ離縁ノ原因ト爲シタルハ他ナシ養子ニ常ニ敬事ス可キ養親ノ直系尊属ヨリ虐待ヲ受タルトキハ其家ニ在ルニ堪ヘサル可キヲ以テナリ

第四ノ原因 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處キラビタントキ此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第四號ニ相當ス而シテ級組ノ當事者ノ一方カ刑法上ノ罪人ト爲ルトキハ他ノ一方ノ爲メ大ナル不名譽タル可キモノニシテ此ノ如キ場合ニ仍ホ強テ養子ノ關係ヲ離縁キシムルハ甚タ酷ニ失ス然レトモ如何ナル微罪ヲモ離縁ノ原因ト爲スハ其當ヲ得サルヲ以テ法律ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキト爲シタル離婚ノ場合ト離縁ノ場合トニ依リテ刑期並ニ罪質ニ區別ヲ爲シタルハ蓋シ夫婦ノ間ハ親子ニ比シ一層親密ナラサル可カラサルモノナレハ一方カ犯罪アリテ處刑ヲ受ケタルトキハ他ノ一方ニ於テ之ヲ憐ミ之ヲ助ク可キモノナルヲ以テ夫婦ハ破廉耻最モ甚シキ場合及ヒ罪

慰ノ最モ重キモノニ限リ離婚ノ原因トセリ之ニ反シテ養親ト養子トノ間ハ此ノ如キ關係アル可キモノニ非サルヲ以テナリ

第五ノ原因 養子ニ家名ヲ漬シ又ハ家産ヲ領クヘキ重大ナル過失アリタムトキ
キ 養子ヲ爲スハ多クハ其家ノ家督ヲ相繼セシムルニ在リ然ラサルモノ永ク其家族ノ一員ト爲ス可キモノナレハ養子ニシテ其家ノ名ヲ漬シ又ハ家産ヲ領クルカ如キ重大ナル過失アルトキハ是レ養親カ養子ヲ爲シタル目的ニ反スルモノト云フコトヲ得可シ故ニ此ノ如キ場合ハ離縁ノ原因ト爲ササル可カラス養子ノ如何ナル行爲カ其家ノ名ヲ漬スカ又ハ家産ヲ領ク可キモノナルヤハ寡ノ貧富其品位等ニ依リテ異ナルモノニシテ各人同一ナラサルモノナレハニ事實ニ就キテ之ヲ決セサル可カラス

第六ノ原因 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ 養子ヲ爲スハ家督ヲ相續セシムルカ又ハ家産ヲ助ケシムルニ在リ然ルニ逃亡シテ三年以上モ復歸セサルトキハ養子ヲ爲スノ目的ニ反スルヲ以テ此場合ニ於テ離縁ヲ許スハ當然ノコトニ屬ス

第七ノ原因 養子ノ生死カ三年以上分明ナラナルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第九號ニ相當ス而以テ既ニ叙述タルカ如ク養子ハ芝ラシガ家督ヲ相續セシメ然ラナルモ家事ヲ助ケシムルモノナルニ其生死ニシテ三年以上モ分明セサルトキハ養子ヲ爲シタルノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ其養子ヲ離縁シ更ニ養子ヲ爲スコトヲ許サナル可カラズ
第八ノ原因ハ他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第八號ニ相當スルモノニシテ其理由全ク同一ナレハ再ヒ茲ニ叙述セザルナリ
第九ノ原因 増養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルトキ此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第十號ニ相當シ全ク其裏面ヲ規定シタルモノニシテ其趣旨同一ナルヲ以テ今復タ茲ニ説カナルナリ
以上ノ原因アルトキニ限リ養親又ハ養子ヨリ裁判所ニ離縁ノ訴ヲ提起スル時

トア得尙ホ此外ニ於テハ第八百七十六條ニ定メタル原因アルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトア得ルモ其他ノ理由ニ依リテハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得タルナリ 誓證ニ關スル事項八十四个方面第一項を除キ餘皆之ニ適用スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第一四三條) 本件ノ事例ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第一四三條) 本件ノ事例ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトセリ即チ養子ノ實家ニ在ル父毋若シ父母ノ一方カ知レタルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ヨリ其付キ意思ヲ代表スル者ヨリ之カ訴ヲ提起スルコトア得ルモノトセリ即チ養子ノ實家ニ在ル父毋若シ父母ノ一方カ知レタルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ヨリ其幼者ニ代リテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトア得而シテ父母ノ一方カ繼父母又ハ嫡

母ナルトキハ其意思ニ加ナルニ親族會ノ同意ヲ以テタルコトヲ要ス第八四三條第八四六條
義親又ハ養子ガ禁治產者ナルトキハ其心神ヲ回復キル場合ニ在リナハ後見人ノ同意ナクシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得可シ而シテ其心神喪失中ニ在リテハ人事訴訟手續法第二十五條ニ依リ養親カ禁治產者ナルトキハ其後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得又養子ガ禁治產者ナルトキハ賣方ノ直系尊屬又ハ賣家ノ戸主カ其訴ヲ提起スルコトヲ得ルコトセリ○離縁請求權ノ消滅原因

(一) 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行為ヲ有怨シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヌ第八六八條
此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第二項ノ規定ニ相當スルモノニシテ第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合トバ、當事者一方ノ虐待又ハ侮辱ニ基づクモノニ非サレハ此特別保護ヲ受タル當事者ニ於テ離縁ノ訴ノ原因タル不良ノ行爲ヲ有怨スル以上ハ強キヲ此訴權ヲ存セシムル理由アラナルナリ

(二) 第八百六十六條第四號重禁錮一年以上ノ處刑ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行為ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得セシムル所以ハ主トシテ此者ヲ保護セントスル趣旨ニ基クモノニシテ敢テ公益上ノ理由ニ基クモノニ非サレハ此特別保護ヲ受タル當事者ニ於テ離縁ノ訴ノ原因タル不良ノ行爲ヲ有怨スル以上ハ強キヲ此訴權ヲ存セシムル理由アラナルナリ

第二項第一四〇條第二項)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第一項及ヒ第八百十五條ニ相當スルモノニシテ其理由モ全ク同一ナレハ今復タ茲ニ叙述セナルナリ

(三) 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號自己ノ直系尊屬ニ對スル他

ノ一方ノ虐待又ハ侮辱ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ超過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ超過シタル後亦同シ(第八七〇條)此規定ハ離婚ニ關スル第八百六十六條ニ相當スルモノニシテ其規定ノ性質全ク同一ナルハ茲ニ復説セス

(四) 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ超過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ超過シタル後亦同シ(第八七一條)

第八百六十六條第六號ハ養子逃亡シテ三年以上復歸セサル場合ナルカ養子カ復歸シタルトキハ離縁ノ原因消滅シタルモノノ如シト雖モ三年以上モ逃亡ヲ爲スカ如キ養子ハ養親ニ於テ之ヲ信認スルコト能ハサル可キヲ以テ復歸シタル後ト雖モ仍ホ其離縁ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ然レトモ養子ノ復歸シタルコトヲ了知シタルニ拘ラス長キ間離縁ノ請求ヲ爲テスシテ後年ニ至リ突然離縁ノ請求ヲ爲スコトアラハ是レ多クハ口實ヲ養子ノ逃亡ニ藉リテ

實際他ノ理由ニ依リテ離縁ヲ爲ナント欲スル者ナラン故ニ法律ハ養親ニ養子ノ復歸後長年月看過スルコトヲ許サス養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ超過シタル後ハ復タ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ許サルモノトセリ若シ又養親カ養子ノ復歸シタル事實ヲ知ラサル場合ニ於テモ其事由發生シテヨリ既ニ十年ヲ超過シタルトキハ養子ノ非行ニ對スル感情ハ既ニ薄ク真ニ此原因ノ爲メニ離縁ヲ請求セント欲スル者ハ稀ナル可ク而シテ養子ニ十年前述亡シタルノ過失アリトスルモ今仍ホ同様ノ非行アル可キ者ト看做シ難ク又養子ニ於テハ養親カ養子ノ復歸シタルヲ知レルコトノ證據ヲ舉クルコト能ハサルナリ故ニ法律ハ養子復歸ノ時ヨリ十年ヲ超過シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ許ササルモノトセリ

(五) 第八百六十六條第七號三年以上養子ノ生死カ分明セサルトキノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス第八七二條

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十七條ト全ク同一ナルヲ以テ茲ニ復説セサルナ

(六) 第八百六十六條第九號ノ事由(離養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトモ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキニ因ル離縁ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六个月ヲ經過シ又ハ離縁請求ノ権利ヲ拠棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス(第八百七三條第二項人車編第一四八條)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十八條第二項ト同趣旨ナリ唯離婚ノ請求ノ期間ハ三个月ナルニ茲ニ規定スル離縁ノ請求期間ヲ六个月ト爲シタル差異アルノミ是レ養子縁組ノ取消ニ關シテ説キタル第八百五十三條第八百五十五條第八百五十八條第二項ト同一ノ理由ニ基キタルモノナレハ茲ニ復説セサルナリ

○第八百六十六條第九號ノ場合ニ於ケル離縁訴權行使ノ方法—第八百七十三條第一項 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得(人事編第一四八條)

此規定ハ第八百十八條第一項ト同趣旨ニジテ殆ト其裏面ヲ規定シタルニ過ぎナレハ茲ニ復タ其理由ヲ叙述セサルナリ

以上叙述シタル所ハ裁判上ノ離縁ニ關スル規定ナルカ協議上ノ離縁及ヒ裁判上ノ離縁ニ通スル特別規定アリ之ヲ左ニ叙述セン

(一) 戸主タル養子ノ離縁—第八百七十四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス但隠居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス(人事編第一四五條)
戸主タル養子ノ離縁ヲ許ストキハ一家ノ戸主ア廢スルニ至ル夫レ家族制度ヲ執ル一家ノ戸主權ハ一家ヲ管理スル絶對ノ権利ナレハ既ニ戸主ト爲リタル上ハ戸主ニ如何ナル事由アルモ其意思ニ反シテ他ヨリ之ヲ排斥スルコトヲ許サス隨テ養子カ戸主ト爲リタル後モ亦養子ヲ離縁シ戸主權ヲ排斥セシムルコトヲ得ス然レトモ養子カ隠居ヲ爲ストキハ再ヒ家族ト爲ルカ故ニ之ヲ離縁スルトモ毫モ戸主權ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ隠居ヲ爲シタル養子ヲ離縁スルコトハ恰モ家族タル他ノ養子ヲ離縁スルコトヲ得ルト同シク許ササル可カラス唯養子カ隠居ヲ爲スニハ法定ノ條件第七五二條乃至第七五五條ヲ具備セサル

可カラサルコトハ勿論ナリ而シテ戸主カ隠居ヲ爲スニハ繼合法定ノ條件ヲ具備スト雖モ戸主獨リ任意ニ之ヲ爲スニ止マリ如何ナル事由アルトモ他ヨリ戸主ニ對シ訴ヲ以テ隠居ヲ爲サシムルコトヲ得ス故ニ戸主タル養子ニ離縁ノ原因生シタルトキハ法定ノ條件ノ具備シタル場合ニ於テ養子カ任意ニ隠居ヲ爲シタル後ニ非ナレハ離縁ヲ爲スコトヲ得サルナリ

此規定ハ一見スルトキハ從來ノ慣行ニ反スルカ如シト雖モ其實然フナルナリ從來養子カ戸主タルトキ之ヲ離縁セントスルニ戸主ノ僅離縁スルコトヲ許ナス一旦戸主ヲ廢シテ養子ヲ離縁スルヲ例トセリ故ニ戸主タル養子ヲ離縁スル訴訟ニ廢戸主離縁請求ト題スルモノ多カリシナリ

(二) 離縁ノ效力 第八百七十五條
養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル権利ヲ害スルコトヲ得ス
養子カ離縁シタル場合ニ於テ第七百三十九條ノ規定ニ從ヒ實家ニ復縁シタルトキハ爾後實家ニ於テ如何ナル關係ヲ有スルカ曾テ養子タラサル以前實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルカ將タ復縁後新ニ之ヲ取得スルモノナルカ養子ハ離縁スル

組ニ因リ實家ニ於ケル親族關係ヲ失ヒタルモノニ非ス之カ爲メニ養家ニ於ケル親族關係ヲ増シタルモ實家ニ於ケル關係ハ依然タルナリ例ヘハ實家ノ父母兄弟姉妹ハ同シク父母兄弟姉妹ナリ又實家ニ於テ嫡出子又ハ庶子タルシナランニハ養子縁組ノ後モ同シク實家ノ父母ノ嫡出子又ハ庶子タルナリ故ニ離縁ノ後養子カ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルトハ右ノ親族關係ヲ指スニ非シテ養子カ實家ニ於テ其身分ニ付キ有セシ權利義務等ヲ回復スルコトヲ云フニ外ナラサルナリ例ヘハ養子ハ實家ニ復縁シテ相續權ヲ有シ親權及ヒ戸主權ニ服スルカ如キ是ナリ若シ養子カ離縁ニ因リ實家ニ復縁シタルトキ以前有セシ權利ヲ回復スルコトナクシテ復縁ノ時ヨリ新ニ其家ニ入リタル者ト同一ノ權利ヲ有スルモノトスルトキハ次男ニシテ實家ニ兄(長男)ト弟(三男)トアリタル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ兄(長男)死亡シタル後離縁シテ實家ニ復縁シタリトセん歟此場合ニ於テハ三男カ父ノ相續權ヲ有ス可シ又次男ニシテ實家ニ兄(長男)ト妹トアル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ實家ニ於テハ兄死亡シタルヲ以テ妹一他ヨリ培養子ヲ爲シタル後ニ至リ離縁シテ實家ニ復縁シタリトセ

ン歟此場合ニ於テハ婿養子相繼權ヲ有ス可シ然レトモ他家ノ養子タリシ者ハ本條ノ規定ニ依リ曾テ實家ニ於テ有セシ身分ヲ同復スルカ故ニ第九百七十條

第一項第五號ノ規定ニ從ヒ當然實家ノ相繼權ヲ有ス可シ

然レトモ養子離縁ノ爲メ實家ニ於テ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ侵害スルコトアルニ拘ラス離縁シタル者カ其權利ヲ同復スルコトヲ得ルモノトスレハ第三者ハ意外ノ損失ヲ被ルコトアル可キヲ以テ法律ハ但書ヲ設ケ第三者ノ權利ヲ保護シ實際上ノ弊害ヲ豫防セリ故ニ前ニ舉ケタル例ニ於テ養子離縁ノ際弟三男又ハ妹婿カ既ニ父ノ相續ヲ爲シタル後ナルニ於テハ養子タリシ者ハ此相續人ヲ排斥シテ相續ヲ爲スコトヲ得ナルナリ

(三) 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要(第八七六條)

夫婦カ共ニ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻シタル場合ニ於テ養家一方ノミヲ離縁スルヲ得可キコトハ既ニ叙述セリ然レトモ夫婦ノ一方ノミ他

ノ養子ト爲リテ居リナカラ離縁シタル者ト依然夫婦ノ關係ヲ存スルコトハ許ス可キニアラサルナリ何トナレハ本法ノ規定(第七四五條第七六四條第二項第七八八條ニ依リ夫婦家ヲ異ニスルコトヲ得ナレハナリ若シ夫婦中ノ夫ノミ離縁ト爲リタル場合ニ於テハ妻ハ當然夫ニ隨ヒテ其家ニ入り之ト同時ニ離縁ト同シク其養家ニ對スル親族關係ヲ脱スルモノナレハ此場合ニ於テハ何等ノ支障ヲ生セサルナリ之ニ反シテ妻ノミ離縁セラレテ養家ヲ去リタルトキハ夫ハ固ヨリ當然妻ノ家ニ入ルモノニ非ス是ヲ以テ夫ハ此場合ニ於テ養家ニ對スル離縁組關係カ若クハ妻ニ對スル婚姻關係カ孰レカ其一ヲ絶タサル可カラス然レトモ法律上此ノ如キ場合ニ夫カ絶ツ可キモノヲ豫メ指示シテ夫ノ自由ヲ拘束スルコトハ人情ニ反シ其當ヲ得サルヲ以テ本法ハ夫ヲレテ離組關係ヲ絶ツ可キカ將タ婚姻關係ヲ絶ツ可キカニ付キ夫ニ選擇權ヲ與ヘ或ハ協議ニ依リ或ハ裁判所ニ請求シテ離縁又ハ離婚ノ號レカヲ爲スコトヲ要スルモノトセリ

第五章 親 権

○親權ノ性質 親權トハ法律カ子ノ身分及ヒ財產ニ關シテ其家ニ在ル父又ハ母ニ對シテ附與シタル權利及ヒ義務ノ集合ナリ此定義ニ從フトキハ親權ヲ有スル者ハ子ト家ヲ同シウスル父母ニ限ルカ故ニ繼母父ト雖モ子ト家ヲ同シウセナル者ハ此權利ヲ有セス而シテ祖父母其他ノ尊屬親ハ勿論戸主ノ如キモ父母ニ非ナル限りハ親權ヲ有セス又家ニ在ル父母カ繼父母又ハ嫡母ナムトキハ親權ヲ有スト雖モ其權利ハ實父母養父母ノ如ク完全ナラスシテ制限セラル所アリ(第八七八條)而シテ子ニ付テ云ヘハ親權ニ服スル者ハ嫡出子タルト庶子タルト私生子タルトニ付キ區別ヲラサルナリ

親權ニ服スル子ノ年齢ハ之ヲ成年ニ達スル迄ト限ラサルカ故ニ其年齢ニ付テハ制限ナシト雖モ法律ノ規定上成年者ニ對スル親權ノ效力ハ極メテ薄弱ナリ独立ノ生計ヲ立フル成年者ハ親權ニ服セス第八七七條然レトモ獨立ノ生計ヲ立タル成年ノ子ト雖モ婚姻第七七二條協議上ノ離婚第八〇九條養子縁組(第八四條協議上ノ離縁第八六三條)ヲ爲スニ付フハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

法律ノ親權ヲ設ケタル趣旨ハ親權ヲ有スル者ノ直接ノ利益ノ爲メニ非シテ親權ニ從フ者ノ直接ノ利益ノ爲メナリ元來親ハ其子ヲ養育シ教育スルノ義務アリ而シテ其養育教育ノ義務ヲ盡スニハ能ク其子ヲ養育シ得ルノ狀態ニ在ラシメナル可カラス蓋シ親ヲシテ能ク其子ヲ教育シ得ルノ狀態ニ在ラシメント欲セハ先ツ親ニ之ヲ制御スルノ權ヲ與ヘサル可カラス換言スレハ監護ノ權ヲ與ヘテ父母ノ住家ヲ去リタル子ヲ歸家セシムルノ權力ヲ得セシメ又懲戒ノ權ヲ與ヘテ重大ナル不行跡ノ子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ルノ權力ヲ得セシムルコトヲ要スルカ如キ是ナリ又子自ラ其利益ヲ保護スルノ能力ナキカ故ニ父又ハ母ハ之ニ代ハリテ其利益ヲ保護ス而シテ親權ハ此點ニ付テハ子ノ利益ヲ保護スルヲ以テ其目的ト爲スカ故ニ親權ヲ行フ者カ爲ス行為ノ範圍ハ子ノ利益ヲ害セナル限度トシ其不利益タル可キ行爲ハ決シテ之ヲ許ササルナリ

親權ノ設定ノ目的ハ右ニ説クカ如ク主トシテ子ノ直接ノ利益ノ爲メナレトモ又國家及ヒ父母モ亦之カ爲メニ間接ノ利益ヲ有ス其國家ノ利益トシテハ親權

ノ設定ナキトキハ教育ナキ不良ノ徒ヲ培シ國家ノ自存及ヒ發達ヲ妨ク可ク財
産管理ノ能力ナキ者ノ財產ヲ拋擲スルハ國家經濟ノ利益ヲ害スルナリ又親權
ヲ行フ者ノ利益トハ子カ完全ニ發達スルト否トハ親ノ利益ニ重大ノ影響ヲ及
ホスコトハ言ヲ埃タサルナリ

親權ハ子ノ保護ノ爲メニ設ケラレ後見ノ制度セ亦然ルモノニシテ未成年者ノ
爲メニハ保護ニ付キ二箇ノ方法アリト雖モ子カ其家ニ於テ父母ヲ有スルトキ
ハ親權ニ依リテノミ保護ヲ受ケ此場合ニハ後見ヨリ生スル保護ヲ受ケサルナ
リ其後見ヲ以テ未成年者ヲ保護スルハ父母ナキトキニ限ルナリ然レトモ母ノ
ミ存スルトキト雖モ母ニシテノ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ其財產ノ管理
並付テハ母アルニ拘ラス後見ノ開始ヲ見ル可シ(第八九九條、第九〇〇條第一
號)故ニ未成年者ノ爲メニハ二箇ノ保護アリト雖モ同時ニ二箇重複ノ保護ヲ受
タルニアラサルナリ

○親權ト戸主權 親權ヲ行フ者カ一家ノ戸主ナルトキハ親權ト戸主權ト同一
人ニ集マルカ故ニ此等二者ノ衝突ヲ見ルコトナシト雖モ若シ親權ヲ行フ者ノ

外ニ戸主アルトキハ親權ニ服スル者ハ同時ニ戸主權ニモ服セサル可カラサル
モノニシテ此二者ハ相互ニ衝突スルニアラサルカノ疑ナキ能ハス然レトモ深
ク新法ヲ檢覈スルトキハ決シテ衝突スルモノニアラサルナリ先ツ親權ハ子ノ
身上及ヒ財產上ノ利益ヲ圖リテ之ヲ設ケ戸主權ハ家ノ利益ノ爲メニ之ヲ設ケ
タルモノナルカ故ニ其目的自ラ同シカラサルモノナリ例ヘハ子ノ教育懲戒其
財產ノ管理等ハ専ラ親權ノ作用ニ屬シ毫モ戸主權ニハ關係ヲ有セサルナリ戸
主權ハ家族ノ居所ヲ定メ其婚姻、養子縁組ヲ許否シ其他家族カ其家ヲ辭シテ他
家ニ入り他家ヨリ其家ニ入ルニ付キ同意ヲ表シ又ハ不同意ヲ唱フルノ權ヲ有
スルニ過キス換言スレハ戸主權ハ家ノ管理ヲ以テ目的トシ親權ハ人ノ保護ヲ
以テ目的ト爲ス而シテ前者ハ其效力家ノ全體ノ利害ニ影響ス可キモノノ外ヲ
出テス後者ハ其效力専ラ各箇人人ノ身上財產ニ對スルモノニシテ其目的效力
ヲ異ニスルカ故ニ二者衝突シテ家内ノ平和ヲ破ルノ恐アラサルナリ然レトモ
戸主ハ家族ノ居所ヲ定ムル權ヲ有シ(第七四九條親權ヲ行フ者モ亦同一ノ權ヲ
有ス)第八八〇條又家族カ婚姻又ハ縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ要シ尙ホ其外

家ニ在ル父母親權ヲ行フ者ノ同意ヲモ要ス可キア以テ其一方カ定メタル居所ト他ノ一方カ定メタルモノト同シカラサルコトアル可ク又ハ縁組ニ付テモ兩者ノ意見同シカラサルコトアル可シト雖モ此等ノ場合ニ於テハ親權者カ戸主ノ定メタル居所又ハ婚姻又ハ縁組ニ關スル其意見ニシテ未成年者ノ爲甚タ不利益ト認メ戸主カ與フ可キ制裁ヲ甘受シテ子ノ居所ヲ定メ婚姻又ハ縁組ヲ爲スヲ得ルコトハ成年ノ家族カ之ヲ爲スト敢テ異ナルコトナシ故ニ此等ノ事項ニ關シテモ兩者ノ間ニ衝突アル可キ謂レナキナリ
本章ハ之ヲ分チテ三節トス即チ第一節總則第二節親權ノ效力第三節親權ノ喪失是ナリ

第一節 總 則

此節ニ於テ親權ヲ行フ者及ヒ親權ニ服スル者ハ何人ナルヤラ定ム
○親權ニ服スル者及ヒ親權ヲ行フ者——第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス父カ知レサルトキ死

亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ(人事編第一四九條)

(一) 親權ニ服ス可キ者ハ未成年ノ子ニ限ル可キヤ或ハ未成年成年ヲ間ハサル可キヤハ諸國ノ立法例異ナル所ナリト雖モ其多クハ未成年ノ子ニ限ル然レトモ稀ニ一層制限シ未成年者ニシテ未タ自治產ノ宣告ヲ得ナル者ニ限り既ニ之ヲ得タル者ハ未成年者ナリト雖モ親權ニ服セサルコトトスルモアリ舊民法人事編ハ何等ノ制限ヲモ設ケヌシア廣ク親權ハ父之ヲ行フ云云ト規定シタレハ解釋上成年ノ子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノト爲シタレトモ是レ從來ノ慣習ニ反スルヲ以テ新法ハ以上ノ立法例ト我國情トニ基キ原則トシテ親權ニ服スル者ハ子ノ成年ト未成年トヲ分タナルコトトシタレトモ其例外トシテ獨立ノ生計ヲ立フル成年者ハ親權ニ服セサルモノトシタリ而シテ獨立ノ生計ヲ立フルヤ否ヤハ固ヨリ事實問題ニシテ裁判官ノ査定ニ任ス可キモノナレトモ獨立ノ生計ヲ立フルトハ自己ノ資産若クハ勞務ニ因リテ生活スルヲ云フ獨立ノ生計ヲ立テナル成年者ハ其戸主タルト家族タルト又婚姻ヲ爲シタル者ト否ト

ヲ問ハス常ニ親權ニ服スルモノトス獨立ノ生計ヲ立テサル成年者カ婚姻ヲ爲シ子ヲ娶ケタルトキハ己レ自身ハ親權ニ服スレトモ之ニ拘ラス其子ニ對シヲハ親權ヲ行フコトヲ得若シ親權ニ服スル未成年者カ婚姻ヲ爲シテ子ヲ舉ケタルトキハ其子ニ對スル親權ハ其父タル未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者之ニ代ハリテ親權ヲ行フ然レトモ親權ノ效力ハ懲戒權ヲ除クノ外ハ單ニ未成年者ニ付テノミ存スルモノトセリ第八七九條乃至第八八五條故ニ成年者ニ對スル親權ノ效力ハ實際ニ於テハ至テ薄弱ナリ

(二) 親權ヲ行フ者ハ原則トシテハ其家ニ在ル父ナリ然レトモ私生子ノ如ク父カ知レナルトキ父カ死亡シタルトキ又ハ分家ヲ爲シ廢絕家ヲ再興シ他家ノ養子ト爲リ養子カ離縁ヲ爲シ入夫カ離婚ヲ爲シタル等ニテ其家ヲ去リタルトキ又ハ不在心神喪失等ニテ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ可キモノトセリ

古昔羅馬ニ於テハ親權ノ設定ハ専ラ父ノ利益ノ爲メニスルノ精神ニ出ナタレトモ近世諸國ノ立法ニ於テハ主トシテ子ノ利益ノ爲メニスルノ主義ヲ取レル

カ故ニ子ノ天然ノ保護者タル父及ヒ母ニ親權ヲ屬セシメタリ然レトモ是レ父母同時ニ之ヲ行フニ非シテ母ハ以上叙述スルカ如ク父カ親權ヲ行フコト能ハナルトキニ限り之ヲ行フナリ而シテ親權ハ父又ハ母ト雖モ子ト家ヲ同シウスル者ニ限ル故ニ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル子ニ對シテハ實家ノ父母ハ親權ヲ行フコトヲ得ス又子カ家ヲ去リタルニ非シテ親權ヲ行フ者カ分家若クハ本家相續ノ爲メ又ハ離縁若クハ離婚シテ其家ヲ去リタル場合ニ於テモ親子家ヲ異ニスルヲ以テ親權ヲ行フコトヲ得サルナリ而シテ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ實家ノ親權ヲ脱スルト同時ニ養家ノ親ノ親權ニ服スルモノトス

法律カ親權ヲ行フ者ヲ家ニ在ル父又ハ母ニ限リタルハ蓋シ我邦從來ノ慣習ニ依レハ家ヲ異ニスル父又ハ母ハ子ニ對シテ十分ナル權力ヲ有セナル者ニシテ苟モ家族制ヲ存スル以上ハ全ク此慣習ヲ庶外ニ措クコト能ハサルヲ以テナリ故ニ他ニ在リテ繼父若クハ養親ト家ヲ同シウスル者ハ其愛情ヨリ言ヘハ血縁アル實父カ親權ヲ有シテ可ナルモノノ如シト雖モ子ヲ其家風ニ適スル様訓戒

スルカ如キニ至リテハ家ヲ同シウスル父人ミ適當ニシテ他ニ在ル實父ハ權力ヲ有セナムヲ以テ右セシム可キモノニ非ス此ノ如キ事ニ關シテハ實父ハ權力ヲ有セナムヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ

○繼父母及ヒ嫡母ニ特別ナル規定——第八百七十八條 繼父繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス(人事編第一五〇條乃至第一六〇條)【繼父母又ハ嫡母モ親權ヲ有スト雖モ此等ノ者ハ子ト自然ノ血縁ヲ有セサルヲ以テ愛情ニ乏シク相敵視スルコトナシテセナルモノニシテ此等ノ者ハ子ノ十分ナル保護者ニ非サルヲ以テ繼父母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後見ニ關スル規定ヲ準用シ此等ノ者ハ後見人ト同一ノ權力ヲ有スルニ止マル者トセリ

第二節 親權ノ效力

○監護及ヒ教育ヲ爲スノ權利及ヒ義務——第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年者ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ(人事編第一五

○條第一五一條

監護及ヒ教育ハ專ラ子ノ身上ニ關スルモノニシテ法律カ親權ノ制ヲ設ケタルハ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲サシムルニ在リテ子タ此等ノ保護ヲ受クルハ專ラ未成年ノ間ニ在リ故ニ此規定ハ未成年者ノミニ關ス而シテ監護トハ監督保護ニシテ子ノ教育ヲ圖ルニ在リ故ニ別ニ之カ説明ヲ爲スヲ要セザレトモ教育ニ付テハ親權者ハ如何ナル程度ニ子ヲ教育セシム可キヤ例ヘハ高等教育ヲ授ク可キヤ又ハ中等教育又ハ下等教育ニ止ム可キヤ等ハ各人ノ身分及ヒ資力ニ應ス可キモノナレハ法律ハ別ニ之カ程度ヲ定メス又其教育ノ方法モ同シク其身分費力及ヒ子ノ性質等ニ依リテ定ム可キモノナレハ法律ハ之ヲ前者ト共ニ一親權者ノ判断ニ任スルコトトセリ

子ノ監護及ヒ教育ハ一方ニ於テハ父又ハ母ノ權利ナレドモ又他ノ一面ヨリ言フトキハ其義務タルナリ

茲ニ注意ス可キハ親ハ小學校令ニ依リ子ハ小學校ニ入ラシム可ギ義務アリ而シテ親ハ其義務ヲ盡スヲ以テ其子ニ對シ教育ニ關スル義務ヲ盡シタリ謂フ

ヲ得ス小學校令ヨリ生スル親ノ義務ハ公法上ノ義務ニシテ子ト親トノ關係ニ非ス之ニ反シテ親權ヨリ生スル義務ハ私法上ノ關係ニシテ親子間ノ權利義務ヲ規定シタルモノナレハ身分ノ高キ者資力ヲ有スル者ハ其身分資力ニ相應スル教育ヲ爲ナシム可キ義務アルモノニシテ公法上ノ義務ナル小學校ニ入ルルヲ以テ足レリトセス尙ホ高等ノ教育ヲ受ケシメナル可カラサルナリ此規定ハ既ニ説キタルカ如ク子ノ身上ニ關スルニ止マリ其財產ニ關セナレハ子ノ教育ハ必シモ親ノ費用ヲ以テス可シト云フニアラサルナリ子ノ教育ノ費用ハ原則トシテハ子ノ財產ヲ以テ之ヲ支拂ス可ク唯其財產ナキトキニ非サレハ父ハ其費用ヲ負擔セツバナリ(第九五九條)

○居所指定ノ權 第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス(人事編第一五〇條)

戸主カ其家族ノ居所ヲ指定スル權ヲ有スルコトハ雖ニ第七百四十九條ニ付キ説キタル所ナルカ親權者モ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ指定スルコトヲ得

ケタリ

親權者カ戸主ニ非サルトキハ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ定ムル者二人アルヲ以テ其間ニ意見ノ衝突アルトキハ孰レノ意見ニ從フ可キヤ例へ戸主ハ其家ニ居ラシメント欲シ親權者ハ東京ノ學校ニ入ラシメントシタルカ如キ場合ニ於テ親權者ハ原則トシテハ戸主ノ意見ニ從フ可シト雖モ若シ戸主ノ意見ニ從ヒ家ニ留ハルヲ以テ子ノ爲メ不利益ナリトスルトキハ親權者ハ自己ノ意見ニ從ヒ子ノ自己ノ指定シタル場所ニ居ラシムルコトヲ得可シ然レモ戸主ハ固有ノ戸主權ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於テ戸主カ其權利ヲ實行セント欲スルトキハ之カ實行ヲ妨クルコトヲ得サルモノナレハ法律ハ實行ノ爲シ得ラル限リ實行セシム可キモノトセリ故ニ子カ親權者ノ意見ニ從ヒタルトキハ戸主權者ハ自己ノ戸主權ニ服従セサル者カ未成年者ナルニ於テハ之ヲ離籍スル

コトヲ得ナントモ(第七四九條第三項此場合ニ於テハ第七百四十九條第二項ノ規定ニ從ヒ扶養ノ義務ヲ免ル可シ)

義ニ叙述シタルカ如ク親権ノ效力ノ成年ノ子ニ及フハ懲戒権ノミナレハ本條ノ規定スル所モ未成年者ノミニ關スルナリ

未成年ノ子カ父又ハ母ノ居所ノ指定ニ從ハナルトキハ如何ナル制裁アルカ親權者カ戸主ニ非サルトキハ自己ノ權ニ服セサル子ニ對シテハ戸主ノ如ク扶親義務ヲ免ルルコトヲ得ス而シテ民法ニハ別ニ其制裁ヲ設ケサレハ唯本條規定ノ強制ノ方法トシテハ公力ニ訴ヘテ之カ實行ヲ爲スコトヲ得可シ例ヘハ訴訟ヲ提起シ若クハ警察ノ力ニ頼ルコトヲ得可ケレトモ本條ハ唯其權利ノ本則ヲ定メタルニ止マリ其強制ノ方法ノ如キハ本法ノ關スル所ニ非サルナリ
○兵役ノ出願ヲ許否スル權利——第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第一五〇條)
此規定モ第八百七十九條ノ適用ニ過キス而シテ徵兵令明治二十二年法律第一號第一二條ニ依レハ十七歳以上ノ男子ハ兵役ヲ出願スルコトヲ得ルヲ以テ未

成年ノ子カ兵役ヲ出願セントスルトキハ是レ大ニ子ノ身上ニ重要ノ影響ヲ有スルモノナレハ未成年ナル場合ニ限リ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得可キモノトセリ

○懲戒権——第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リテ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得人事編第一五一條第一五二條非證事件手續法第九二條)

此懲戒権ハ姫ニモ叙述シタルカ如ク未成年者ニモ關スルモノニシテ其作用ハ法律ニ於テハ之ヲ一定セス或ハ叱責スルコトアリ或ハ殴打バコトアリ或ハ室内ニ監禁スルコトアリテ此ノ如キハ一一ニ親權者一己ノ所有ニ在リト雖モ其程度ニ至リテハ餘リ甚シクシテ慘酷ニ陥リ爲メニ子カ創傷ヲ受タルカ如キハ法ノ許ナナル所ナリ故ニ必要ナル範圍ニ於テ云ヒ實ニ已ムヲ得サル場合ニ於テ相當ノ程度ニ於テ懲戒ヲ加フルコトセリ而シテ其程

度ハ全ク事實問題ニ屬スルモノナレハ一ニ裁判官ノ査定ニ任セナル可カラス
若シ親權者カ其程度ヲ失シ親權ヲ濫用スルコトアラハ其權利ノ作用ハ子ノ保護
ト爲ラスシテ却テ害ト爲ル可ケレハ此場合ニ於テハ第八百九十六條ニ規定ス
ル制裁ヲ受ク親權者ハ其權利ヲ喪失スルコトアル可キナリ親權ノ濫用甚シク
シテ子ヲ殴打創傷シ又ハ慘酷ニ監禁制縛シテ衣類飲食ヲ屏去スル等苛刻ノ所
爲アルトキハ啻ニ親權者ハ其權利ヲ喪失スルノミナラス刑法ノ制裁殴打創傷
又ハ擅二人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ受ク可キヤ論ヲ埃タサルナリ何トナレハ懲罰
ヲ加フルノ權利ハ國家ニ專屬スルモノニシテ箇人カ擅ニ之ヲ爲スコトヲ得可
カラサレハナリ故ニ父又ハ母ノ専斷ニ依ル懲戒權ハ必要ナル範圍ヲ脱セサル
コトニ注意セサル可カラス

親權者ハ自己ノ専斷ヲ以テ爲ス懲戒ノ外尙ホ進ミテ子ヲ懲戒場ニ入ルコト
ヲ得可シ然レトモ之カ爲メニハ特ニ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス而シテ懲
戒場トハ民法ニ於テハ如何ナル場所ナルコトヲ定メスト雖モ刑法第七九條第
八〇條第八二條ニ所謂懲治場ノ如キモノヲ指スモノニシテ感化院ノ如キモノ

ハ此中ニ算セナルナリ何トナレハ懲戒場ハ子ノ罪惡ヲ懲戒矯正スル目的ヲ有
スル場所タル可シト雖モ感化院ハ之ト異ナリ其の目的寧ロ教育ニ屬スルモノニ
シテ之ニ入ルルカ如キハ別ニ裁判所ノ許可ヲ受クルノ必要アラサレハナリ而
シテ懲戒場ニ入ルルノ期間ハ法律ニ於テ之ヲ制限シ如何ナル場合ニ於テモ其
最長期ハ六箇月ヲ超過セサルコトセリ又一旦裁判所カ定メタル期間ト雖モ
父又ハ母ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノトセリ蓋
シテ懲戒場ニ入ルルコトハ實際ニ於テハ殆ト刑罰ヲ行フニ等シク全ク子ノ自由
ヲ束縛スルモノナレハ其期間長キニ失スルトキハ却テ害アルヲ以テ之カ期間
ヲ制限シタルナリ故ニ若シ六箇月ノ入場ニテ尙ホ懲戒ニ不足ナリトセハ一旦
其期間ヲ經過シタルトキ出場シタル上更ニ裁判所ノ許可ヲ得テ法ノ許セル範
囲内ニ於テ入場セシムルモ可ナリ
子ヲ懲戒場ニ入ルル可キ裁判所ノ決定ニ對シテハ其裁判ニ因リテ權利ヲ害セ
ラレタリトスル者即チ父又ハ母及ヒ子ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
非訟事件手續法條二〇條又檢事モ同シテ抗告ヲ爲スコトヲ得同第九二條

○營業ノ許可取消又ハ制限ノ権利——第八百八十三條 未成年ノ子ハ親権ヲ行
フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非ナレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス父又ハ母ハ第六條
第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得人事編
第二一六條第二二一條財産編第五五〇條第一項)

此規定モ亦第八百七十九條ノ適用ニ過キナルモノニシテ子ノ職業ニ付テノ得
失及ヒ其種類如何ハ猶モ教育ニ於ケルト同シク重大ナル關係ヲ有スルモノナ
ルカ故ニ法律ハ親権者之ヲ許可可キモノトセリ一旦許可シタル職業ト雖モ親
権者ニ於テ若シ其子カ之ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ其許可ヲ取消シ若ク
ハ其範囲ヲ制限スルコトヲ得可キモノトセリシテ其職業ハ單ニ商法ニ於ア
謂フ所ノ營業ノミヲ指スニ非シテ廣々職業ニ就クコトヲ云フ故ニ學校ノ教
員ト爲ルモ又ハ醫師工匠ト爲ルモ此中ニ包含セラルルナリ

民法第六條ハ未成年ノ子カ營業ヲ許セタル場合ノ能力ヲ規定シ其何人カ之
ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限不可キヤハ之ヲ親族編ニ謹リタルモノ
ニシテ本條即チ之ヲ規定セルナリ

此規定モ成年者ニハ關セス未成年者ノミニ適用ス可ギコトハ論テ矣タルナリ
○子ノ財產ニ對スル權利——第八百八十四條 親権ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ
子ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行為ニ付ギ其子ヲ代表ス但其子ノ行
爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人
事編第一五三條第一五四條)

是マテ叙述シタル所ハ主トシテ子ノ身上ニ關スル規定ナリシカ是ヨリ說ク所

本條以下第八九四條ニ至ルマテハ專ラ其財產ニ關スルナリ而シテ財產ニ關ス
ル親権ノ效力ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得可シ即チ一ハ財產ヲ管理スルコ
ト一ハ子ニ對スル法定代理權ニシテ他ハ一ハ子ノ法律行為ニ同意ヲ與フルコ
ト是ナリ

子ノ財產ヲ管理スル權限ハ處分ナル語辭ニ對スル權ノニシテ民法ノ總
則編其他諸所ニ散見スル所ナレハ茲ニ之ヲ詳説ヲ爲ス必要ナシト雖モ財產ヲ
管理トハ其保存改良利用ヲ目的ト爲シ財產ノ利益ヲ圖ルコトヲ謂フナリ未成年
ノ子カ財產ヲ有スルトギハ自ラ之ヲ管理スル能力ヲ有シテ然フ既テ何人カ

民法親族 親権・親帯・能力

二六七

未成年ノ子ニ代リテ管理セサル可カラス是ヲ以テ法律ハ此管理ヲ親権ヲ行フ者ニ與ヘタリ

此管理権ハ子ノ一切ノ財産ニ及フ原則トスレトモ二箇ノ例外アリ即チ(一)營業ヲ許サレタル未成年者ハ第六條ノ規定ニ從ヒ營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルカ故ニ其營業ニ關シテハ未成年者自ラ之ヲ管理シ親権者ハ其權利ヲ行フコトヲ得ス(二)第三者カ無償ニテ子ニ財産ヲ與ヘ親権ヲ行フ父又ム母ヲ收束之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ第八百九十二條ノ規定ニ依リ親権者ハ子ノ財産ノ管理権ヲ有セサルナリ

此管理権ハ親権者ノ権利タルト同時ニ義務タルヲ以テ親権者ハ原則トシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス然レトモ父母ノ中母ノミハ例外トシテ之ヲ辭スルコトヲ得可シ(第八九九條)

○法定代理權 未成年ノ子ハ自ラ財産ニ關スル法律行為ヲ爲スコト能ハナルヲ以テ父又ハ母ハ其法定代理人ト爲ル而シテ此権利ノ範圍ハ極メテ廣ク苟モ事ノ財產ニ關スルモノハ一切未成年者ヲ代表スルモノニシテ啻ニ財產ノ管理

ニ付テノミナラス子ノ一切ノ財產ノ處分ニモ及フ而シテ唯母ニ付テノミ制限
第八八六條アルニ止マリ父ニ付テハ制限ナキヲ以テ父ハ如何ナル行為ト雖モ獨斷ニテ爲スコトヲ得可シ例ヘハ父ハ其獨斷ニテ子ニ屬スル不動産ヲ讓渡ノ子ノ爲メニ借財ヲ爲スコトヲ得可シ然レトモ茲ニ唯一ノ例外アリ即チ子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生ス可キ場合ニ於テハ父ハ獨斷ニテ爲スコトヲ得斯の場合ニハ子ノ同意ヲ得サル可カラス例ヘハ子ヲ他人ノ雇人ト爲スカ如キ是ガリ是レ蓋シ子ノ身體ノ自由ヲ束縛スルノ結果ヲ生ス可キヲ以テナリ人ノ自由ヲ束縛スルハ重要ナレハ父母ト雖モ子ノ承認ナクシテ此ノ如キ契約ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ

本條ノ規定ハ未成年ノ子ハ自己ノ財產ニ付キ全夕何等ノ行為ヲモ爲スコトヲ得サル旨ヲ意味スルモノニ非ス未成年ノ子ト雖モ自ラ法律行為ヲ爲スヲ得可シコトハ既ニ第四條ニ規定スル所ナレハ同條ニ從ヒ未成年ノ子カ法定代理人ノ同意ヲ得テ自ラ爲シタル法律行為ハ有效タルナリ又第五條ノ規定ニ從ヒ豫メ法定代理人ヨリ處分ヲ許サレタル財產ニ付テハ未成年者ハ隨意ニ之ヲ處分

スルコトヲ得可キナリ故ニ本條ノ規定アルヲ以テ一概ニ未成年者ハ常ニ財産ニ關スル法律行爲ニ付テハ父又ハ母ヨリ代表セラル可シト謂フコトヲ得ナルナリ

又右代表權及ヒ同意權ニ關スルモノハ原則トシテ財產ニ止マルモノナルカ故ニ婚姻離婚養子縁組離縁轉籍分家他家ノ相續又ハ再興等子ノ人事ニ關スルモノノ如キ外特ニ明文ヲ以ク代表權ヲ規定シタルモノノ外ニハ一切代表權ヲ有セサルナリ

○子ノ配偶者ノ財產管理權——第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財產ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ之ニ代ハリテ其財產ヲ管理ス

夫ハ妻ノ財產ヲ管理スラ自ラ管理スル能力ヲ有セサルモノナレハ他人ノ財產ヲ管理シ得可キモノニ非サルヤ言ヲ俟タサルナリ而シテ多數ノ立法例ニ於テハ子ハ婚姻ヲ爲シタル後ニ於テモ其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服スルコトシタルヲ

以テ子カ未成年ナルトキハ婚姻ヲ爲シタルニ拘ラズ父又ハ母カ其財產ヲ管理スルモノナレハ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代リテ其配偶者ノ財產ヲ管理スルモノトセリ(未成年者カ其妻ノ法律行爲ヲ許可スルハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定第一八條第四條^ヲ參照ス可シ)

○母ノ管理權ニ對スル制限——第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ゲタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 營業ヲ爲スコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五 相続ヲ拋棄スルコト

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト(人事編第一五三條第一五四條第一五七條

第一項

人事権ノ規定ニ依ルトキハ未成年ノ子ノ財産ノ管理ニ付キ親権ヲ行フ父ト母トノ間ニハ母カ其管理ヲ辭スルコトヲ得ルノ外別ニ差異ナシト雖モ新法ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ爲ス場合ニ大ナル制限ヲ加ヘタリ諸國ノ立法例ニ於テハ父カ子ヲ代理スル權ヲ殆ト後見人ニ於ケルト同シク制限シタルモノ多シト雖モ我邦ニ於テハ外國ノ立法例ニ倣ハス既ニ第八百八十四條ニ付キ説キタルカ如ク子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生ス可キ場合ノ外ハ全ク制限ヲ加ヘサルコトト爲シタレハ父ハ自己ノ財産ニ於ケルト同シク子ノ財産ヲ處分スルコトヲ得可シト雖モ母カ親権ヲ行フ場合ニハ父ト同一ナル權限ヲ有セス是レ蓋シ女子ハ概シテ男子ニ比シテ智慮十分ナラサルヲ常トシ其性質脆弱ナルヲ以テ他ノ誘惑スル所ト爲リ子ノ利益ヲ反スル行爲ヲ爲ス可キ危險一層大ナル可ケレハナリ是ヲ以テ法律ハ母カ親権ヲ行フニ當リ子ノ代理人トシテ重要ナル行爲ヲ爲ストキ及ヒ子カ其行爲ヲ爲スニ當リ之ニ同意ヲ爲ストキハ特ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ然レトモ母ハ親権ヲ行フ者ナルカ故ニ

之ヲ後見人ト同視セス故ニ本條ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ後見人カ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス可キ行爲第九二九條ニ比メレハ其數少ナキナリ今左ニ本條列記ノ各號ノ事項ニ付キ敍述セシム

- (一) 營業ヲ爲スコト 營業ニ付テハ別ニ定義ヲ與フル必要ナシト雖モ未成年者カ資本ヲ投シテ商工業等ヲ營ムトキハ第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ親権ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受ケサル可カラサレトモ母カ之ヲ許可スルニハ親族會ノ同意ヲ要ス是レ蓋シ一旦營業ヲ許ストキハ未成年者ハ其營業ニ付テハ全ク成年者ト同一ノ能力ヲ有スルニ至ルカ故ニ此許可ハ未成年者ノ爲メ至大ノ影響ヲ生スレハナリ
- (二) 借財又ハ保證ヲ爲スコト 借財ハ之ヲ爲ストキハ未成年者ノ財産ニ影響ヲ生ス可キモノナレハ其危險ナルコト言フラ埃タナルナリ又保證ハ單ニ借財ニ關スルモノノミナラス其他總ノ保證ヲ包含スルモノニシテ其危險ナルコトハ借財ヲ爲スニ異ナラス若シ債權者ヨリ其債權ノ執行ヲ受クルトキハ保證ハ素ト無償ナルヲ常トスルカ故ニ未成年者ノ財産ニ危險ヲ與フルコトハ却テ

借財ヨリ大ナルコトアリ故ニ此等重大ナル債務ヲ負擔スルトキハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトセリ。又ハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトセリ。又ハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトセリ。

(三) 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行為。此行為ハ例ヘハ賣買、貿入、抵當權ノ設定、贈與、權利ノ拋棄等其無償行為タルト有償行為タルト間ハス。其行為ニシテ權利ノ喪失ヲ目的トスルモノナレハ皆此中ニ包含ス可キナリ。但シ動產ト不動產トニ付テハ唯一ノ差異アリ不動產ナルトキハ其如何ナルモノタルヲ問フコトナケレドモ動產ナルトキハ單ニ重要ナルトキニ限レリ。

母カ親權ヲ行フ場合ト後見人カ被後見人ニ代リテ此種ノ行為ヲ爲ス場合トニハ一ノ差異アリ。後見人ノ場合ニハ權利ハ得喪ヲ目的トスルトキ例之ヘバ他ヨ第一二條第一項第三號ドアレトモ母カ親權ヲ行フ場合ニハ單ニ權利ハ喪失ヲ目的トスル行為トアリテ其行為ノ範圍ニ廣狹アリ。

又茲ニ一ノ注意ヲ要スルモノアリ即チ後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行為ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スレトモ母カ親權ヲ行フ場合ニ訴訟行為スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スレトモ母カ親權ヲ行フ場合ニ訴訟行為スル可カラス。

(四) 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコトヲ和解及ヒ仲裁契約ハ其目的常ニ必スシモ權利ヲ喪失セシムルニ在ラサレトモ實際ニテ未成年者ノ不動產又ハ重要ナル動產ノ喪失ヲ目的トスルトキ例之ヘバ他ヨリ未成年者ノ不動產ニ對シ所有權確認ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ母カ其訴訟ニ於テ認諾ヲ爲ストキハ其行為ハ全ク未成年者ノ不動產ノ喪失ヲ目的トスルニ外ナラナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ此第三號ニ包含スルモノト解釋セナル可カラス。

(五) 相續ヲ拋棄スルコトヲ相續ヲ爲スコトハ相續人ノ爲メ却テ不利益ナルコトアリ。例ヘハ相續ニ屬スル債務カ其財產ヨリ超過スルカ如キ場合はナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テハ相續ニ付キ單純承認(第一〇二二條ヲ爲ツスジ

ヲ限定承認(第一〇二五條ヲ爲シ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ被相續人ノ債務ヲ引受タルコトヲ得ルモノナレハ相續ニ因リ直接ニ金錢上ノ損害ヲ受ケサルコトヲ得ルカ故ニ相續ハ概シテ相續人ノ爲メ利益アルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ之ヲ拋棄スルハ未成年者タル相續人ノ利益ヲ拋棄スルモノナレハ之カ爲メニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ而シテ此規定ハ相續カ未成年者ノ爲メニ不利益ナル場合ヲモ包含スルモノニシテ法律ハ別ニ相續カ利益ナル場合ト不利益ナル場合トヲ區別セザルナリ此不利益ナル場合ニ在リテ母カ獨斷ニテ之ヲ拋棄セント欲スルハ固ヨリ當然ナリト雖モ母ノ認見又ハ違算ナキニ非サルヲ以テ相續ヲ拋棄スルトキハ總テノ場合ニ於テ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

(六) 贈與又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト 此等ノ行爲ハ無償取得ノ原因ニシテ未成年者ノ爲メニハ利益ノミアリテ不利益ナキヲ常トスレハ母カ獨斷ニテ之ヲ拒絶スルハ未成年者ノ爲メ不利益ナルコトト爲シ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

以上ノ規定ハ母カ自ラ右ノ行爲ヲ爲ス場合ノミナラス子カ之ヲ爲スニ付キ同意ヲ表スル場合ニモ親族會ノ同意ヲ得サル可カラス是レ母自ラ爲スモ子ヲシテ之ヲ爲サシムルモ其危險ニ於テハ異ナル所ナクレハナリ

○母カ權限外ニ爲シタル行爲ノ效力 〔第八百八十七條 規權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス(前項ノ規定ハ第二十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス財產編第五四七條第一項)〕 母カ前條ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定ヲ設ケタルハ全ク未成年者ノ利益ヲ保護スルニ在リ故ニ若シ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ此等ノ行爲ヲ爲シタルトキハ未成年者ノ利益保護ノ爲メニ制裁ナカラサル可カラス是ヲ以テ法律ハ母ノ爲シタル行爲ハ取消スコトヲ得ルモノトセリ例へハ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年者ニ代リテ營業ヲ爲シ借財若クハ保證ヲ爲シ又ハ不動産ヲ賣却シタルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ取消スコトヲ得可シ又未成年者カ前條規定ノ行爲ヲ爲スニ當リ第四條第一項ニ從

法定代理人タル母ノ同意ヲ得タリト雖モ母カ其同意ヲ爲スニ付キ前條ノ規定
ニ從ヒテ親族會ノ同意ヲ得サリシニ於テハ是レ亦未成年者ノ保護タラサルヲ
以テ其行爲ハ同シク取消スコトヲ得ルモノトセリ

此取消權ヲ有スル者ハ子又ハ其法定代理人ナリ而シテ此取消權ハ未成年者ノ
爲シタル行爲ニ關シ第四條第二項ニ規定シタル取消權ト其性質ヲ同シウスル
カ故ニ總テ同一ノ規定ニ從フ可キモノトセリ即チ此場合ニ第十九條ヲ準用ス
ルヲ以テ其行爲ハ相手方ハ未成年者カ能カ者ト爲シタル後一箇月以上ノ期間
ヲ定メテ之ヲ追認スルヤ否ヤヲ催告スルコトヲ得若シ其期間ニ確答ヲ爲サナ
リントキハ追認シタルモノト看做ナルモノトス又其取消ノ方法取消ノ效力
取消權ノ時效等ニ付テ一般ノ法律行爲ノ取消ニ關スル第百二十一條乃至第
百二十六條ノ規定ニ依ル可キモノトセリ

○親權者ト未成年者ト及ヒ同一ノ親權ニ服スル未成年者間ト利益相反スル場
合ニ於クル代理規定——第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子
ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母カ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スル
百二十六條ノ規定ニ依ル可キモノトセリ

コトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ
場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前
項ノ規定ヲ準用ス

親權ヲ行フ父又ハ母カ子ノ法定代理人タルコトハ既ニ叙述シタルカ親權ヲ行
フ父又ハ母ト子トノ間ニ利益相反スルコト往往之アル所ナリ此場合ニ於テ仍
ホ父又ハ母ヲ子ノ法定代理人ト爲ストモ其性質上子ノ利益ヲ保護スル代理人
ニ非ナルナリ而シテ本法代理ノ總則第一〇八條ニ於テモ既ニ何人ト雖モ同一
ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコ
トヲ得スト規定セルモノニシテ此規定ノ精神ハ親權者カ子ヲ代理スル場合ニ
モ貫クコトヲ要ス可キモノナルカ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母ト子ノ利益ト相反
スル行爲ニ付テハ親權者ハ其法定代理人ノ權利ヲ行フコト能ハス然レトモ此
場合ニ於テハ本人カ無能力者ニシテ自ラ行爲ヲ爲スコトヲ得ナルカ故ニ親權
ヲ行フ父又ハ母ヨリ子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求ス
ルコトヲ要スルモノトセリ(後見人ト被後見人ト利益相反スル場合ニ關シテモ

同一ノ趣旨ニ基ケル規定第九一五條第四號アリ
又親権ヲ行フ父又ハ母ト子ト利益相反スルニ非シテ同一ノ親権ニ服スル數人ノ子アリテ其子ノ間ノ利益相反スル場合ノリ此場合ニ於テ同一ノ親権者カ利益相反スル子ヲ代理スルコトトスルトキハ右ニ舉ケタル代理ノ總則ノ規定ニ反スルヲ以テ此場合ニ於テモ父又ハ母ハ其何レカ一方ノ子ノ代理人タルニ止マリ他ノ一方ノ爲ミニハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要スルモノトセリ
親族會ニ對シテ未成年者ノ特別代理人選任ノ請求ヲ爲ズ者ハ獨リ親権ヲ行フ父又ハ母ナリ而シテ親権者カ子ト利益ノ相反スル行爲ニ付キ子ノ特別代理人ノ選任ヲ請求スルハ自己ノ爲メ不利益ナリト爲シ其選任ノ請求ヲ爲サナルトキハ親権者以外ノ者カ此手續ヲ爲スコトヲ得可キヤ若シ他ノ者カ親族會ニ對シテ特別代理人選任ノ請求ヲ爲スコト能ハサルモノトスルトキハ之カ爲メニ子ノ不利益ヲ受クルコト尠少ナラナル可シ或ハ法文ニハ親権ヲ行フ父又ハ母カ云云トアリテ其他ノ者ノ規定ナキヲ以テ親権者以外ノ者ハ此手續ヲ爲スコト可キヤノ問題ヲ生ス可シ

ヲ得スト論スル者アリ或ハ親権者カ此請求ヲ爲サナルトキハ親族會等ノ請求ニ因リ第九百四十四條ノ規定ニ從ヒ親族會ヲ開キ特別代理人ノ選任ヲ爲スコトヲ得ト説ク者アリ但シ父又ハ母カ此手續ヲ爲サヌシテ親権ヲ濫用シタルトキハ第八百九十六條ノ規定ニ依リ之ニ對シテ親権ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ父又ハ母カ親権ヲ濫用スルニ至ラスシテ單ニ特別代理人ノ選任ノ請求ヲ爲サナルノミナルトキハ右ノ如ク其選任ハ如何シテ之ヲ爲ス可キヤノ問題ヲ生ス可シ
○管理ニ關スル責任ノ程度——第八百八十九條 親権ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス(人事編第一五三條)
後見人及ヒ一般ノ受任者ニ在リテハ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ被後見人若クハ委任者ノ財産ヲ管理シ後見人ニ付テハ第九百三十六條受任者ニ付テハ第六百四十四條ノ規定アリ其他他人ノ事務ヲ管理スル者特定物ヲ引渡ス可キ債

務者ニ關スル第四百條組合員ニ關スル第六百七十一條親族會員ニ關スル第九百五十三條遺言執行者ニ關スル第千百十四條ハ皆書良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其財産ヲ管理スルコトヲ要スルモ親子ノ間ニ在リテハ其趣ヲ異ニシ父又ハ母ニ善良ナル管理者ノ注意ヲ責ムルハ人情ニ適セサルナリ此場合ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理スルト同シタ(第八〇五條)自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ子ノ財産ヲ管理スレハ足レルモノトセリ

此規定ハ父又ハ母カ獨リ其子ノ財産ヲ管理スル場合ニ止マラス第八百八十五條ノ規定ニ從ヒ子ノ配偶者ノ財産ヲ管理スル場合ニモ適用ス但シ父又ハ母カ子ノ配偶者ノ財産ノ管理ニ付キ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スハ子ト其配偶者トノ間ニ財産ノ管理ニ付キ何等ノ規定ナキトキニ限ル若シ契約上ノ財產制ニ於テ夫カ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キ旨ヲ定メタルトキハ父又ト母ハ其趣旨ニ從ヒ子ニ代リテ善良ナル管理者ノ注意ヲ要ス可キヤ勿論ナリ母カ第八百八十六條ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得テ子ノ爲メニ或行爲ヲ爲シ又ハ子カ或行爲ヲ爲スニ同意シタルトキハ母ハ親族會ノ同意ヲ得タルノ故

ヲ以テ全ク其責任ヲ免レ其責ハ親族會ニ歸スルカ如キ疑フ生スルノ處ナシトセス是ヲ以テ特ニ本條第二項ヲ設ケ母カ親族會ノ同意ヲ得タルトキト雖モ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲ス可キ義務アルコトヲ示シタルナリ例ヘハ母カ子ノ不動産ヲ夫ニ賣却スルニ當リ故意又ハ過失ニテ普通ノ價格ヨリ低廉ナル代金ヲ以テシ親族會亦之ヲ輕ニ看過シタルトキハ親族會ハ第九百五十三條ノ規定ニ從ヒ未成年者ニ對シテ損害賠償ノ責任アルハ言フ俟タサレトモ母モ亦其責任ヲ負ハサル可カラス

○管理ノ計算――第八百九十九條 子カ成年ニ達シタルトキハ親権ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財產ヲ管理ノ費用ハ其子ノ財產ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス(人事編第一五六條)

從來ノ慣習ニテバ親カ子ノ財產ヲ管理スルトキ計算ヲ爲スカ如キコトアラナレトモ苟モ民法上親子財產ヲ異ニスルコトヲ認ムル以上ハ子ノ財產ヲ管理スル者ヲシテ其計算ヲ爲サシムルハ固ヨリ當然ナリ故ニ子カ成年ニ達シタルト

キハ子ハ自ラ財産ヲ管理ス可キヲ以テ父又ハ母ハ速ニ其管理セシ財産ノ計算ヲ爲シ現在ノ財産ハ子ニ引渡ササル可カラス
計算ヲ爲ス可キ期間ニ付テハ法律ハ別ニ之ヲ厳格ニ定メス唯遇澁ナクト命シタルニ遇キス之ヲ後見人カ第九百三十七條ニ依リ後見終丁ノ後二箇月内ニ計算ヲ爲ササル可カラサルニ比スルトキハ自ラ寛大ナリ又後見人ハ計算ノ結果引渡ス可キ金額ニ對シテハ後見終丁ノ時ヨリ利息ヲ附ス可キ義務(第九四〇條)ヲ負ヘトモ親権者ハ此ノ如キ義務ヲ負ハサルナリ
本條ニハ子カ成年ニ達シタルトキトアリテ此規定ハ子カ成年ニ達シタルトキ「ミニ適用シ其他ノ親権ノ消滅ノ場合例へハ親カ其家ヲ去リ親権喪失宣告ヲ受ケ又ハ母カ財産ノ管理ヲ辭シタルカ如キ場合ハ適用ヲ受クルモノニ非ス蓋シ此場合ニ於テハ子ハ直ニ後見ニ服スルカ(第九〇〇條)故ニ後見ノ開始ト同時に後見人ハ被後見人ノ財産ヲ調査第九一七條スルヲ以テ此場合ニハ管理ノ計算ヲ命ス可キ必要アラサルナリ

普通財産ノ管理者カ財産ノ管理ヲ爲スハ其收支ヲ計算シテ殘存スルモノハ之

ヲ本人ニ返還ス可シト雖モ親権者カ子ノ財産管理ノ計算ヲ爲スハ之ト異ナリテ子ノ養育及ヒ財産管理ノ費用ハ子ノ財産ノ収益ト之ヲ相殺シタルモノト爲シ子ノ財産ヨリ生スル収益ハ如何ニ多クシテ子ノ養育及ヒ子ノ財産ノ管理費用ヲ支出シテ幾多ノ剩餘ヲ生スル場合ニ於テモ亦其反對ノ結果ヲ生スル場合ニ於テモ換言スレハ親権者ニ利益ナル場合ト不利益ナル場合トヲ間ハス子ノ財産ヨリ生スル収益ニ付テハ收支ノ計算ヲ爲スコトヲ要セツルナリ蓋シ親ハ子ニ對シ扶養ノ義務ヲ負フモノナレハ其間柄ハ固ヨリ尋常私人間ノ如キ關係ナラサレハ之ヲシテ一收支ノ計算ヲ爲サシムルハ人情ニ背キ又吾邦ノ實際ニ適セナルヲ以テ以上ノ如ク規定シタルナリ

○第三者カ無償ニテ子ニ與ヘタル財產ノ収益—第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財產ニ付テハ之ヲ適用セス
第三者カ無償ニテ子ニ財產ヲ與ヘ其収益ヲ積立テテ子ノ生長シタル後ノ一定ノ資本ト爲サシメント欲スルコトアリ或ハ其収益ヲ以テ特ニ子ノ爲メニ或物

ヲ買ハシメント欲スルコトアリ或ハ其收益ヲ以テ子ノ教育資金ト爲サント欲スルコトアル可シ此等ノ場合ニ於テモ尙ホ法律ノ規定ヲ以テ子ノ財産ノ収益ト其扶養及ヒ財産ノ管理ノ費用ト相殺ス可キモノトスキハ贈與者ハ其相殺セラル可キコトヲ嫌ヒテ遂ニ子ニ財産ヲ與ヘナルニ至ルコトアル可シ是レ子ノ爲メニ不利益タヽ可ケレハ若シ贈與者カ前條ノ規定ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ子ノ利益ヲ保護シ且フ贈與者ノ意思ヲ貫徹セシムルカ爲メニ其財產ニ付テハ相殺ノ規定ヲ適用セサルモノトシタリ

此規定ノ適用ヲ受ケシムルカ爲メニハ贈與者ニ於テ親権者カ自己ノ贈與シタル財產ト扶養及ヒ財產管理ノ費用ト相殺セサランコトノ意思ヲ特ニ表示セナル可カラス若シ其意思表示ナキトキハ當然前條ノ規定ノ適用ヲ受ク可キナリ

○財產管理權ニ對スル例外——第八百九十二條無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親権ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメナル意思ヲ表示シタルトキハ其財產ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサリシトキハ裁判所ハ子其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ

選任ス第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スルノ必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セナルトキ亦同シ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

此規定モ亦前條ノ規定ト同趣旨ニシテ子ノ利益ヲ保護スル爲メニ設ケラレタリ第三者カ子ニ財產ヲ贈與スルニ當リ其親権者カ浪費者等ニシテ之ヲ消費スルコトヲ虞レ其財產ノ管理ヲ親権者ニ委スルコトヲ欲セサルコトアリ若シ此場合ニ於テ法律ノ規定第八百四條ニ從ヒテ強テ親権者ヲシテ之ヲ管理セシムルモノトスキハ第三者ハ遂ニ子ニ贈與ヲ爲サナルニ至ルコトアリテ子ノ不利益ト爲ル可キヲ以テ法律ハ特ニ本條ヲ設ケ子ニ贈與ヲ爲スニ當リ贈與者カ其贈與財產ヲ親権者ヲシテ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ親権者ニ之ヲ管理セシメナルモノトシタリ

右ノ場合ニ於テ贈與者カ財產ノ管理者ヲ指定シタルトキハ其者ヲシテ管理者ト爲ス可キハ當然ナリト雖モ若シ贈與者カ其管理者ヲ指定セサリシトキハ別ニ之ヲ選任セサル可カラス是ヲ以テ子其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所カ

其管理者ヲ選任スルコトシタリ

贈與者カ財産ノ管理者ヲ指定セシ場合ト雖モ其者ノ權限カ消滅シタルトキ又ハ其者カ不適任若クハ遠方ニ旅行スル等ノ爲メ管理フ繼續スルコト能ハスシテ之ヲ改任スル必要アルトキニ於テ贈與者カ更ニ管理者ヲ指定セナル場合ニ於テハ裁判所ヲシテ之ヲ選任セシムヨリ外アラサルナリ

第三者カ本條ノ規定ニ依リ指定シタル管理者ハ委任契約ニ依ル受任者ナルカ故ニ委任ニ關スル規定(第六四三條以下)ノ適用ヲ受ク可ク裁判所ニ於テ選任セラレタル管理者ハ本條ノ規定ニ依リ不在者ノ財產管理者ニ關スル第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス可キコトトセリ

○管理終了ノ場合ニ於ケル管理繼續ノ義務——第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財產ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ革用ス(人事編第二〇二條乃至第二〇四條)

委任契約ニ因ル代理人ハ委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理

スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要シ委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非ナレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得タルコトハ第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ニ規定スル所ナルカ此規定ハ父又ハ母カ子ノ財產ヲ管理スル場合ニモ適用スルワ妥當トスルカ故ニ本條ノ規定ヲ設ケタリ是レ夫婦財產制ニ關シ第八百六條ニ規定スル所ト同一ノ趣旨ニ基クナリ

○管理ヨリ生スル債権ノ特別時效——第八百九十四條 親権ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財產ノ管理ニ付テ生シタル債権ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス子カ未タ成年ニ達セナル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス(人事編第二一一條)
債権ハ十年ニシテ時效ニ罹ルヲ一般ノ原則トスレトモ法律ハ親権ヲ行フ父若クハ母又ハ親族會員カ子ノ財產ノ管理中子ニ對シテ負擔シタル債務モ親権者カ子ニ

對シテ有スル債權も管理權消滅ノ時ヨリ五年ニシテ時效ニ因リ消滅スルモノトセリ若シ此特別ナル規定ナキトキハ子カ親權者ニ對シテ有スル債權ニ付テ云ヘハ例ヘハ親權者カ子ノ財產ノ管理中其財產ヲ消費シタリトセシニ此消滅時效ハ債權發生ノ時ヨリ十年ニシテ完成ス可ケレハ子カ成年ニ達シタルトキ計算ノ結果子ニ支拂フ可キ金額アリトセハ子ノ成年ニ達シタル後即チ管理權消滅後十年間モ子ハ其債權ニ付キ請求權ヲ有スルニ至ル可クシテ普通ノ規定ハ前ノ場合ノ如キニ於テハ未成年者ヲ保護スニル足ラス又後ノ場合ニ於テハ親權者ハ長キ間財產管理ノ勞ヲ取りタル後十年間モ尙ホ其管理ノ計算ニ付キ責任ヲ負フカ如キハ親權者ノ遂甚大ナリト謂フ可シ故ニ法律ハ彼此ノ利害ヲ折衷シテ右ノ如キ規定ヲ設ケタルニ外ナラサルナリ

以上ハ子カ親權者ニ對シテ有スル債權ニ付テ叙述シタリト雖モ親權者カ子ニ對シテ有スル債權モ亦同シカラサル可カラス若シ此間ニ不同ノ規定アルトキハ或ハ親權者ノ債權ハ消滅シタルニ拘ラス其債務ハ依然存スルカ如キ不公平ノ結果ヲ生ス可ケレハナリ

本條ノ規定ハ獨リ子ト親權者トノ間ニ生シタル債權ニ付テノミナラス亦子ト親族會トノ間ニ財產ノ管理ニ付キ生シタル債權ニモ適用ス可キモノトセリ親族會モ子ニ對シテ財產權上ノ責任ヲ負フコトアリ例ヘハ親族會カ不注意ニア母ノ行為ニ同意第八八六條シタルカ爲メ子ニ損害ヲ生スルヨトアリ又ハ親族會ノ不注意ニテ第八百八十八條ノ場合ニ不適任ナル特別代理人ヲ選任シタルニ因リテ子ニ損害ヲ生スルコトアリ而シテ親族會員ハ單ニ親族タルカ爲メ又ハ未成年者ニ緣故アルカ爲メニ其會員ト爲リタル者ナレハ右ノ如キ場合ニ於テ此等ノ者ヲシテ普通ノ規定ニ從ヒ其責任ヲ長ク免レシメサルモノトスルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テ以上ノ如ク規定シタルナリ

時效ノ起算點ハ子カ成年ニ達スルニ因リ管理權ノ消滅シタルトキハ其消滅ノ時ヨリ之ヲ起算ス若シ其成年ニ達セサル前ニ例ヘハ親權喪失ノ宣告ヲ受ケ管理ヲ辭シ(母ニ限ル)又ハ其家ヲ去ルニ因リテ管理權消滅シタルトキハ後任ノ法定代理人ノ就職シタル時ヨリ之ヲ起算スルモノトス

○子ニ代リテ戸主權及ヒ親權ヲ行フ權利——第八百九十五條 親權ヲ行フ父

又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリヲ戸主權及ヒ親權ヲ行フ(人事編第二五七條)
義ニ説キタル如ク外國ノ立法例ニ於テハ未成年者ト雖モ婚姻ヲ爲シタルトキ
ハ之ニ因リテ親權ヲ脱スレトモ本法第八七七條ニ於テハ未成年ノ子カ自ラ子
ヲ有スル場合ニ於テハ自ラ親權ニ服シナカラ自己ノ子ニ對シテハ親權ヲ行フ
コトヲ得ルコトト爲リ奇怪ナル結果ヲ呈スルニ至リ事理甚タ其當ヲ得ナルヲ
以テ本條ノ規定ヲ設ケ未成年ノ子カ子ヲ有スルトキハ其子ニ對シテハ未成年ノ
子ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代リテ親權ヲ行フコトトセリ又未成年
ノ子カ戸主ナルトキモ其戸主權ヲ行フ者ナカル可カラサルカ故ニ親權者ヲシ
テ之ニ代リテ其親權ヲ行ハシムルコトセリ(親權ヲ行フ者在ラサルトキハ後
見人被後見人ニ代リテ戸主權ヲ行ヒ又ハ之ニ代リテ親權ヲ行フ又戸主權ハ後
見人在ラサルトキハ親族會之ヲ行フ)第九三四條第七五一條

第三節 親權ノ喪失

舊民法人事編ノ草案ニハ本節ニ該當スル規定アリシモ確定ノ法文ニハ削除セ

ラレタリ其削除セラレタルハ蓋シ我邦ノ慣習トシテ親カ子ニ對シテ親權ヲ行
フニ外ヨリ干涉スルハ不都合ナリト云フニ在ラン然レトモ親權ヲ規定シテ父又
ハ母ニ其權利ヲ與ヘタルヲ以テ父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナ
ル場合ニ於テ之ヲシテ依然親權ヲ行ハシムルハ子ノ爲ミニ不利益ナルコト論
ヲ挿タルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ヲシテ子ノ親族又ハ檢事ノ請
求ニ因リテ親權ノ喪失ヲ宣告セシムルハ啻ニ子ヲ保護スルノミナラス公益上
亦此ノ如クスル必要アルヲ以テ本節ノ規定ヲ設ケタルナリ

○親權喪失ノ宣告—第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不
行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告
スルコトヲ得
親權ノ喪失ハ親權者カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキニ限ル而シテ
親權ノ濫用又ハ不行跡トハ頗ル漠然タル事實ニシテ如何ナルモノカ其標準ト
爲ル可キカハ法律ニ於テ之ヲ定メサレトモ親權ノ濫用トハ親權者カ法律ノ認
メタル範圍ヲ超エテ其親權ヲ行ヒ又ハ法律カ認メタル範圍内ニ於テモ親權行

便ノ方法其當ヲ得サルヲ謂フ例へハ子ヲ懲戒スルニ當リ殴打シト創傷ヲ爲ス
カ如キ監護教育ノ方法其當ヲ失シ又ハ財産ノ管理其當ヲ得サルカ如キ場合是
ナリ又著シキ不行跡トハ例へハ飲酒好色其度ヲ失シテ家事ヲ顧ミサルカ如キ
ヲ謂フモノニシテ此等ノ事實ハ總ヲ裁判所ノ認定ニ依ルコトトセリ
親權ノ喪失ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ子ノ親族又ハ檢事ニ限リ子ハ自ラ之力
請求ヲ爲スコトヲ得ス法律カ子ニ此請求權ヲ與ヘサル所以ハ他ナシ子トシテ
親ヲ訴フルハ名分ノ上ニ於テ許ス可カラサルヲ以テナリ

此請求ニ關スル裁判所ノ管轄ハ親權者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所
ナリ人事訴訟手續法第三一條

○財產管理權ノ喪失—第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ
因リテ其子ノ財產ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ
其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權
ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

此規定ハ夫婦ノ財產關係ニ付キ規定セラレタル第七百九十六條第二項ト其趣

旨ヲ同シウスルモノニシテ親權ノ濫用カ其全部ニ亘ラスシテ單ニ財產ニ關ス
ル親權ノ行使方法ヲ誤リタル場合ナリ例へハ子ノ教育監護等ニ關スル親權行
使ノ方法ハ宜ヲ得ルト雖モ親權者カ子ノ財產ヲ費消シ又ハ子ノ財產ヲ以テ危
險ナル商業ヲ營ミタルカ如キ場合ニ於テハ必シモ親權全部ヲ喪失セシムル
ノ要ナク唯財產ノ管理權ヲ奪へハ弊ヲ防クニ足ル故ニ法律ハ此ノ如キ場合ニ
於テハ親權者ノ財產ノ管理權ノミヲ喪失セシムルコトト爲セリ

此場合ニ於テモ管理權ノ喪失ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ親權喪失ノ請求ノ
場合ト同シク子ノ親族又ハ檢事ニ限ル人事訴訟手續法第三一條

父カ親權者ナル場合ニ於テ親權ヲ喪失シタルトキ母アルトキハ母之ヲ行フハ
當然ナリ母ナキトキ又ハ母カ之ヲ辭シタルトキ若クハ母カ之ヲ行フコト能ハ
ナルトキハ後見人カ子ノ財產ノ管理ヲ爲スモノトス第九〇〇條第一號

○失權宣告ノ取消—第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキ
ハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得

法律カ親權全部ノ喪失又ハ財產管理權ノミノ喪失ヲ宣告セシムル規定ヲ設ケ

タルハ已ムヲ得ナルニ出テタルモノニシテ其原因ニシテ止ミタルトキハ仍ホ
其喪失ヲ繼續セシム可キ理アラナルヲ以テ此場合ニ於テハ親権ヲ回復セシム
可キコト當然ナリ而シテ此場合ニ於テハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因
リ失権ノ宣告ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ(人事訴訟手續法第三二條)

失権ノ宣告カ取消サレタルトキハ後見ハ終了シ又失権ノ宣告ヲ受ケタル者カ
父ニシテ其権利カ母ニ移リシ場合ニ於テハ父ハ再ヒ之ヲ行フモノトス

○母ノ財産管理權ノ抛弃——第八百九十九條 親権ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭ス

ルコトヲ得人事権第一五七條 第二項

親権ハ曩ニ説キタルカ如ク権利タルト同時ニ義務タルカ故ニ親権者カ之ヲ辭
スルコトヲ得ナルヲ原則トス然レトモ女子自然ノ性質ト吾邦實際ノ狀態トニ
依リ婦人ニハ往往財產ノ管理ニ適當ナラサル者アルヲ以テ母ニ限リ財產ノ管
理ヲ辭スルコトヲ許セリ若シ之ヲ許ナシシテ強ア母ヲシテ子ノ財產ヲ管理セ
シムルコトトスルトキハ却テ子ノ爲メニ不利益ト爲ル可キヲ以テナリ
法律カ許シタル此抛弃ハ單ニ財產ノ管理ニ限ルモノニシテ財產ニ關セサル子

ノ身上ニ係ル事ニ付テハ母ハ父ト同シク其親権ヲ行ハサル可カラス而迄テ法
律カ母ニ財產ノ管理權以外ノ親権ノ抛弃ヲ許ササルハ他ナシ子ノ身體ヲ保護

スルハ親最ニ之ニ適シ之ヲ他人ニ委シテ親カ顧ミサルトキハ子ノ利益ニ反ス
ルコト大ナルノミナラス法律ハ母ヲ以テ子ノ身上ノ保護ヲ爲スニ不適當ト認
メサルヲ以テナリ

母カ子ノ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ第九百條ノ規定ニ依リ後見人ヲ置クモ
ノニシテ母ハ子ノ身上ノ保護ヲ爲シ後見人ハ其財產ヲ管理ス(第九三五條)

第六章 後見

後見トハ親権ヲ脫シタル未成年者及ヒ禁治產者ノ身體及ヒ財產ヲ保護監督ス
可キ職務ナリ凡ソ秩序整然タル社會ニ在リテハ自ラ己ノ身體及ヒ財產ヲ保
護スル能力ナキ者ヲ保護セス之ヲ顧ミシテ可ナルモノニ非ス未成年者及
ヒ禁治產者ノ如キハ自ラ其身體及ヒ財產ノ保護ヲ爲スコト能ハサル者ナレハ
法律上之ヲ保護スル機關ヲ設ケサル可カラス本章ニ規定スル後見ハ即チ此等

ノ者ヲ保護スルノ機關ニ外ナラサルナリ而シテ未成年者ハ總ナ此後見ニ依リ保護ヲ受クルニ非ス前ニ説キタルカ如ク其家ニ父又ハ母アルトキハ其親權ニ服シテ保護ヲ受ケ後見ヲ受クルコトナシ未成年者カ後見ニ依リ保護ヲ受クルハ其家ニ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權者カ管理權ヲ有セサルトキニ限ルナリ

後見ハ未成年者及ヒ禁治產者保護ノ爲メ公益上設定セラレタル一ノ職務ナレトモ之ヲ以テ直ナニ公ノ職務ト云フコトヲ得サルナリ何トナレハ國家ハ之カ規定ヲ設ケタレトモ自ラ其事務ニ干渉セサルモノニシテ後見ノ機關ハ私ノ機關ニ屬シ國家ノ機關ニ非サレハナリ然レトモ後見ノ機關タル後見人後見監督人又ハ親族會員ト爲ルノ義務ハ國家ニ對スル公法上ノ義務タルナリ故ニ此等ノ機關ニ選定セラレタル者ハ正當ノ事由ナキトキハ之ヲ辭スルコトヲ得サルナリ(第九〇七條第九一六條第九四六條)後見ノ職務ハ無償ニテ之ヲ行フヲ原則トス故ニ其職務ヲ執ル者ニシテ如何ニ長キ間如何ニ煩雜ナル事務ヲ執ルトモ之カ報酬ヲ請求スルコトヲ得サルナリ

唯後見人ニ對シテハ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ與フルコトアレトモ其場合モ甚タ制限セラレ且ツはレ後見人ノ權利ニハ非サルナリ(第九二五條)本草ヲ分チテ四節トス第一節ヲ後見ノ開始トシ如何ナル場合ニ後見ハ開始セラルルヤフ規定シ第二節ヲ後見ノ機關トシ如何ナル機關ヲ以テ後見ヲ行ハシム可キヤヲ規定シ第三節ヲ後見ノ事務トシ後見人ノ職務權限及ヒ責任等フ明カニシ第四節ヲ後見ノ終了トシ其任務カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ權利、義務ヲ規定シタリ

第一節 後見ノ開始

○後見開始ノ場合—第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ

二 禁治產ノ宣告アリタルトキ(第八條人事編第一六一條、第二二四條第一項)
後見ニ付セラルル者ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ限ルモノニシテ其他ニ於テハ

如何ナル場合ニ於テモ後見ニ付セラルルコト絶エアラサルナリ例へハ成年者ニシテ自ラ其身體、財産ノ保護ヲ爲スコト能ハサルトキハ若シ其者カ單禁治產者(心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者)タル可キ者ナルトキハ第十一條ノ規定ニ從ヒ法律上特別ノ保護ヲ受クレトモ此場合ニハ保佐人ヲ附スルモノニシテ後見ニハ非サルナリ

第一 未成年者ノ後見

曩ニ親權ノ性質ニ付キ説キタルカ如ク未成年者ハ親權ニ依リテ保護ヲ受ケ亦後見ニ依リテモ保護ヲ受クレトモ同時ニ兩者ノ保護ヲ受クルニ非ス未成年ノ子カ其家ニ於テ父又ハ母ヲ有スルトキハ親權ニ依リテノミ保護ヲ受ケ若シ其父及ヒ母カ知レサルトキ死亡シタルトキ、父及ヒ母カ最初ヨリ子ノ家ニ在ラサルトキ、其家ヲ去リタルトキ、其他父及ヒ母カ家ニ在ルトモ共ニ親權ヲ行フコト能ハサルトキニ於テノミ後見ノ開始アルモノトス又親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキニ於テモ其開始アルモノトス曩ニ第八百九十七條ニ付キ説キタルカ如ク親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危クシタル

トキハ其管理權ヲ喪失セシメラルコトアリ又母ハ子ノ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル第八九九條モノニシテ此等ノ場合ニ於テハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルヲ以テ他ニ子ノ財產ヲ管理スル者ナカラサル可カラス是ヲ以テ子ノ保護ノ爲メニ後見開始スルコトシタリ但シ此第二ノ場合ニ於テハ後見ノ事務ハ制限セラレ未成年者ノ財產ニ關スル權限ノミヲ有シ其他未成年者ノ身上ニ關スル事ニ付テハ權限ヲ有セサルナリ(第九三五條曩ニモ説キタルカ如ク親權ヲ行フ父又ハ母カ未成年ノ子ノ財產ノ管理權ヲ喪失シタリトモ其身上ニ關スル保護ハ依然親權者ニ於テ爲ス可キモノトス

第二 禁治產者ノ後見

心神喪失ノ常況ニ在ル者カ禁治產者タルニハ第七條ノ規定ニ依リテ裁判所ノ宣告ヲ受ク而シテ此宣告ヲ受ケタル者ハ第八條ニ依リテ後見ニ付セラルルモノニシテ其之ニ付セラルル時期ハ禁治產ノ宣告アリタル時トス而シテ禁治產ヲ宣告シタル決定ハ人事訴訟手續法第五十二條ニ依リ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ其效力ヲ生シ

又法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノトス

第二節 後見ノ機關

後見ノ機關ハ四アリ第一、後見人第二、後見監督人第三、親族會第四、裁判所是ナリ其親族會ハ後見ノ爲メノミニ設ケラレタルニ非スシテ其他後見ノ事務ニ屬セナル多クノ事務ヲモ掌ルヲ以テ之ヲ後見ノ章中ニ置カスシテ別ニ一章ヲ設ケ之ヲ規定セリ

(一) 後見人ハ後見ノ最も重ナル機關ニシテ其理事者ナリ(二) 後見監督人ハ後見人ノ事務ヲ監督スルモノナレトモ時トシテハ之ニ代ルコトアリ(第九一五條)

(三) 親族會ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ合議體ヨリ成ル機關ニシテ或ハ後見人後見監督人ヲ選定シ或ハ之ヲ監督シ或ハ之ヲ指揮シ右第一第二ノ機關ヲシテ十分ニ其職務ヲ盡サシムルコトヲ圖ルモノトス(四) 裁判所ハ總テ此等ノ機關ニ對シテ最上ノ監督權ヲ有スルモノニシテ國家ヲ代表シ公益ノ名義

第一款 後見人

○遺言後見人——第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス「親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得人事編第一六四條第一六五條」

此規定ハ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ未成年者ノ後見人ヲ指定シタル場合ニシテ法律ハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年者ノ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有スルコトセリ然レトモ父又ハ母カ一時親權ヲ有セシコトアルニ於テハ之ヲ喪失シタル後ニ於テモ後見人指定ノ權アルモノニ非ス又父及ヒ母共ニ順次

親權ヲ行ヒタル場合ニ於テ其順ノ前後ヲ問ハス孰レノ指定シタル後見人モ有效ナリト云フニ非ス法律ハ唯最後ニ親權ヲ行ヒタル者カ指定シタル者ヲ以テ有効ナルモノトセリ最後ニ親權ヲ行フ者ハ父ナルコトモアレハ母ナルコトモアル可シ父母共ニ生存スルトキハ父親權ヲ行ヒ父カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタルトキハ母之ヲ行フヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ其中一人タラサル可カラス蓋シ最後ニ親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ後見ハ畢竟親權ノ延長シタルモノニ外ナラサルヲ以テ父カ死亡スルモ母カ親權ヲ行フトキハ別ニ後見人ヲ置クノ必要ナシ父ハ豫メ後見人ト爲ル可キ者ヲ指定シ置キテ母ノ死後ニ之ヲ後見人ト爲ストスルトキハ二人ノ親權ヲ行フカ如キ者ヲ生セナルモ何年ノ後ニ在リテ後見人ト爲ル可キカハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得ス母カ長ク生存スルトキハ其間ニハ曾テ父ノ指定シタル後見人ハ死亡スルコトモアル可ク又其他身上ニ非常ノ變動ヲ生スルコトモアル可クシテ當ニ親權ヲ行フ父ヲシテ後見人ヲ指定セシムルコトスルトキハ此ノ如ク不都合アルヲ以テ最後ニ親權ヲ行フ者ヲシテ後見人ヲ指定セシメ成ル可ク

實際ノ必要ニ應シテ適當ノ人ヲ擧タルヲ得セシメタル所以ナリ

最後ニ親權ヲ行フ者ニ限り後見人指定ノ權利ヲ有シ又最後ニ親權ヲ行フ者ニ

何人ト雖モ其指定ノ権利ヲ有ストノ原則ニ對シ二箇ノ例外アリ

第一 最後ニ親權ヲ有スル者ト雖モ管理權ヲ有セタルトキハ後見人ヲ指定スルノ權ナシ擬ニ説キタルカ如ク親權ノ中ニハ子ノ身上權及ヒ管理權ノ二者ヲ包含スレトモ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ(第八九七條)管理權ノ喪失ヲ宣告セラレタルトキ又ハ母カ財產ノ管理權ヲ辭シタルトキハ親權ヲ行フ者ハ其一部身上權ノミヲ行フニ過キサルナリ而シテ親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルハ其承繼人ヲ定ムルニ外ナラサルニ此場合ニ於テ管理權ヲ行フ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルモノトスルトキハ親權ヲ行フ者ハ自己ノ有セサル職務ニ付キ其承繼人ヲ指定スルモノト云フ可シ是レ全ク本法ノ精神ニ背クモノナルヲ以テ此例外ヲ認ケタルナリ

第二ノ例外ハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ兼メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ノ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコト是ナリ母カ最後ニ親權ヲ

行フトキハ父ト同シタ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ然レトモ若シ其母ニシテ父ノ生前ニ於テ豫メ管理權ヲ辭シタルトキハ母カ父ノ死後殘存シテ親權ヲ行フトモ是レ其一部身上權ヲ行フニ遇キスシテ財産ノ管理權ハ有セサルヲ以テ母ハ此場合ニ於テハ第一ノ例外ニ付キ叙述シタル理由ニ依リ自己管理權ヲ有セヌシテ管理權ヲ有スル後見人ヲ指定スルコトヲ得セシム可キ理アラサルヲ以テ此場合ニ於テハ母アルニ拘ラス母ナキ場合ト同シク父カ後見人ヲ指定スルコトヲ得可キモノトシタリ
親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ遺言ヲ以テスル場合ニ限ル之ヲ法律カ遺言ニ限リタルハ元來後見人ノ指定ハ自己ノ死亡後ノ爲ミニスルニ非サレハ爲ストヲ得サルモノナレハナリ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母カ其家ヲ去リタルニ因リ其子ニ後見人ヲ要スル場合ニ於テハ從來親權ヲ行ヒタリシ者カ其家ヲ去ルニ臨ミ後見人ヲ指定スルノ權アラサルナリ此場合ニ於テハ第九百五條ノ規定ニ從ヒ親族會之ヲ選任スルモノトス又遺言指定ハ遺言者カ遺言ノ當時ニ於テ指定ノ權利アルモノナルコトヲ要スルコト小論ヲ缺タス(第一〇)

六三條故ニ遺言ヲ爲ス當時ニ於テ本條ノ資格ヲ有セサルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セス又其指定ハ遺言者カ其死亡ノ當時ニ於テ指定ノ權利アルモノナルコトヲ要ス例へハ遺言指定ヲ爲シタル後父又ハ母カ親權又ハ管理權ヲ喪失シ又ハ其家ヲ去リタル後ニ於テ死亡シタルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セナルナリ

○禁治產者ノ後見人――第九百二條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後見人ト爲ル妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル(人事編第二二十四條第二項第三項)

本條ハ禁治產者ニ對シテ法律上當然後見人ト爲ル者ヲ規定シタルモノナリ未成年者ノ後見人ハ既ニ説キタルカ如ク先ツ之ヲ指定スル親權者ノ指定ニ依リテ定マル可シト雖モ禁治產者ノ後見人ハ之ニ反シテ先フ法定後見人ヲ定メ其後見人ナキ場合ニ於テ始メテ親族會之ヲ選任スルモノトス

禁治産ノ宣告ハ成年者ニ對シテ爲スヲ通例ナリトスレトモ然レトモ未成年者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非ナレハ未成年者ニ對シテモ其宣告ヲ爲スコトアル可シ而シテ未成年者ニ對シテハ父又ハ母アルトキヘ父又ハ母カ之ニ對シテ親權ヲ行ヒ父又ハ母ナキトキハ後見人アリテ之ヲ保護スルヲ以テ別ニ未成年ノ子ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトノ必要ナキモノノ如シト雖モ未成年者ノ行爲ハ其成年ニ達シタル後五年ヲ經過スルトキハ最早之ヲ取消スコトヲ得ス第一二四條第一項第一二六條禁治産者ノ行爲ハ禁治産取消ノ後其行爲ヲ爲シタルコトヲ覺知シタル時ヨリ五年ヲ經過スルニ非ナレハ其取消權ハ消滅セサルモノナリ第一二四條第二項第一二六條又未成年ノ間ニ禁治産ノ請求ヲ爲サレハ其者カ成年ニ達シタル後禁治産ノ宣告ヲ受クルマテ其者ハ能力者ニシテ保護ヲ欲クニ至ル可シ然レトモ未成年ノ間ニ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ成年ニ達スルトモ其宣告ノ取消ナレサル間ハ禁治産者トシテ保護ヲ受クルノ利益アリ是ヲ以テ未成年者ニ對シテモ禁治産ノ宣告ヲ爲ス所以ナリ

未成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ父又ハ母アルトキハ父又ハ母カ未成年者ニ對シテ親權ヲ行ヒテ之ヲ保護スルヲ以テ未成年者カ成年ニ達スルマテノ間ハ父又ハ母ハ後見人ノ名稱ヲ有スルノミニシテ其實ヲ行フコトアラサルナリ故ニ父又ハ母ハ禁治産者カ未成年ノ間ハ總テ後見人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルコトナシト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタルトキハ爾後一般ノ後見人ト同シク總テ後見ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノトス例ヘハ父ハ未成年ノ禁治産者ノ不動産ヲ自己ノ獨斷ニテ處分スルコトヲ得可シト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタル後ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非ナレハ之ヲ處分スルコトヲ得サルナリ又禁治産者カ未成年中ハ父又ハ母ヘ後見監督人ノ監督ヲ受クルコトナシト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタル後ハ其監督ニ服スルコトヲ要ス」以上ノ如ク禁治産者ニ對シテ其父又ハ母ヲ以テ法定ノ後見人ト爲シタルハ家ニ在ル父又ハ母ハ子ノ爲メ最モ能ク其利益ヲ保護スル者ナルヲ以テナリ以上ハ一般ノ原則ナリト雖モ既ニ婚姻セル成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其配偶者ヲ以テ後見人ト爲セリ蓋シ夫婦ハ共同ノ生活ヲ爲シテ

互ニ相愛スルノ情アリ又互ニ相扶クルノ義務アルモノニシテ父母ニ比シテ一層親密ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲシテ後見人ノ職務ヲ行ハシムルハ最モ其當ヲ得タリト云フ可シ但シ配偶者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ他ノ一方カ第九百七條ノ規定ニ依リ後見人タルコトヲ辭シ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ後見人タルコト能ハサルトキハ亦親權者ヲシテ其後見人タラシムルコトトセリ

又夫カ未成年者ナルトキハ妻其後見人タラスシテ親權者其後見人ト爲ル是レ他ナシ子カ未成年ナルトキハ禁治產ノ宣告ヲ受ケナル場合ニ於テハ父又ハ母カ親權ヲ行フモノナレハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ親權者カ其後見人ト爲リテ之ヲ保護スルハ至當ノ事タルヲ以テナリ

○未成年者及ヒ禁治產者ノ後見ニ共通スル規定—第九百三條(前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲ル)人事編第一六六條第二二四條第三項
此等ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲ル本條ノ規定ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ共通スルモノナルカ未成年者ニ對シテ

ハ遺言ニ依リテ指定セラレタル者ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲シ禁治產者ニ對ジテハ其禁治產者ノ何者タルカニ依リ父母夫若クハ妻ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲スコトハ前二條ニ規定スルカ如シ然レトモ時トシテハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定セサルコトアル可ク或ハ父母夫妻ノ孰レモナキ場合アル可シ縱合之アリトモ後見人タルコト能ハサル場合アル可キヲ以テ此場合ニ於テハ後見人タル可キ者ヲ定メサル可カラナルモノニシテ本條ハ此等ノ場合ニ於テ其無能力者カ家族ナルトキ其戸主ヲ以テ後見人ト爲スコトトシタリ

戸主ト爲ルニハ成年者タルヲ要セス之ニ反シテ後見人ト爲ルニハ成年者タルヲ要ス第九〇八條第一號故ニ戸主カ未成年者タル場合ニハ家族ノ後見人ト爲ルコト能ハサルコトハ論ヲ埃タサルナリ然レトモ戸主カ未成年者ナル場合ニハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者カ若クハ其後見人タル者アル可クシテ此場合ニ於テハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者若クハ戸主ノ後見人カ第八百九十五條又ハ第九百三十四條ニ從ヒ當然家族ニ對シテ後見人タル可キナリ然レトモ此場合ニハ親族會ニ於テ別ニ後見人ヲ選定ス可シトノ說ナキニシモアラサルナリ(民

法修正案参考書

○法定後見人 第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラナルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス(人事権第一六七條第二二四條第四項)

前三條ニ規定スル遺言後見人又ハ法定後見人アラナルトキ縦合之アリトモ第九百七條ノ規定ニ依リ後見ヲ辭シタルカ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ後見人タルコトヲ得ナルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選任スルコトセリ此ノ如キ場合ニ裁判所ヲシテ後見人ヲ選任セシム立法院例ナキニ非スト雖モ此場合ニ後見人ノ選任ヲ親族會ニ委スルハ我邦ノ人情ニ最モ適セザルヲ以テナリ

○後見人選任ノ爲メ親族會招集ノ義務 第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ後見人カ其任務ヲ辭シ親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隸居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父母又ハ後見人ハ選潘ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス(人事権第一六八條第二二四條第四項)

本條ハ現在後見人タリ又ハ親權ヲ行フ者カ自己ノ意思ニ因リテ其任務ヲ辭ス

ル場合ニ於テハ直チニ後見人ヲ選任ス可キ必要アルヲ以テ之ヲ選任スル親族會ヲ招集セナル可カラナルコトヲ規定ス此場合ニ於テ親族會ヲ招集スルニ付キ義務ヲ有スル者ハ第一、親權ヲ行フ母カ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ、義ニ説キタルカ如ク(第八九九條親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル)以テ此場合ニ於テハ第九百條第一號ニ依リ後見開始ヲラルルヲ以テ從來親權ヲ行ヒタル母カ親族會ヲ招集スルハ當然ナリ第二、後見人カ其任務ヲ辭シタルトキ、後見人ハ其就任ノ前後ヲ問ハス正當ノ事由アルトキハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ル(第九〇七條方故ニ後見人カ之ヲ辭シタルトキ其後任ノ者ヲ選任スルカ爲メニ之ニ親族會招集ノ義務ヲ負ハシムルハ當然ナリ第三、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リタルトキ、父又ハ母カ親權ヲ行フハ子ト同一ノ家ニ在ルトキニ限ル(第八七七條然ルニ父又ハ母カ養子縁組婚姻本家相續再興其他ノ原因ニ因リテ家ヲ去リタルトキハ親權ヲ失フヲ以テ此場合ニ於テハ後見人選任ノ必要アリ而シテ從來親權ヲ行ヒタル者ニ後見人選任ノ爲メ親族會招集ノ義務ヲ負ハシムルモ亦當然ナリ)第四後見人タル戸主カ隸居ヲ爲シタルトキ、戸主カ法

種上家族ノ後見人タルハ同主タルノ資格アルノ故ヲ以テナリ故ニ若シ隣居ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ退タルキハ之ト同時ニ後見人タルノ資格ヲ失フ可キヲ以テ此場合ニ於テハ後任後見人ヲ選任ス可キ必要アリ而シテ此場合ニ於テモ前戸主ヲシテ親族會ヲ招集セシムルハ相當ナリ
以上ノ場合ハ總テ親權者又ハ後見人ノ意思ニ因リテ無能力者ノ後見人ヲ選任ス可キ必要生シタルカ故ニ法律ハ此等ノ者ニ親族會招集ノ義務ヲ負ベシメタル所以ナリ其意思ニ非シテ後見人ヲ選任ス可キ必要ノ生シタルトキ例ヘハ親權者カ親權若クハ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ後見人タル能力ヲ失ヒ若クハ免職セラレタル場合ニ於テハ法律ハ此等ノ者ニ後見人ノ選任ヲ要求スルノ義務ヲ負ハシム可キ理由ナキヲ以テ後見監督人ヲシテ之ヲ請求セシムルコトトセリ第九一五條第二號

親權者又ハ後見人カ自ラ親族會ヲ招集スル場合ハ既ニ親族會ノ設アリ場合ナリ(第九四九條之ニ反シテ被後見人ノ爲メニ未タ親族會ノ設カクシテ始メテ之ヲ招集スル場合ニハ之ヲ裁判所ニ請求セサル可カラス

○後見人ノ員數——第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス(人事編第一六二條第二二六條)

羅馬法及ヒ外國ノ立法例ニ於テハ往往二人以上ノ後見人ヲ許セトモ(佛蘭西民法第四百十七條ニハ後見人ノ外副後見人アリ)我邦ニ於テハ此ノ如キ立法例ヲ採用セス二人以上ノ後見人ヲ許ストキハ實際ニ於テハ便利ナルコトアル可シト雖モ後見人ハ親權ニ類スル權利ヲ行フモノニシテ親權ヲ行フ者ヲ一人ナリトスルトキハ後見人モ亦一人トセサル可カラス然レトモ後見人ニシテ二人以上アルトキハ其間ニ意思ノ衝突ヲ生シ隨テ家族上ノ紛議ヲ來シ又ハ各自其責任ヲ他ニ譲リテ被後見人ノ爲メニ不利益ナルコト多カル可キヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ一人ト爲シタリ而シテ後見人ハ其任務繁忙ニ堪ヘタルカ如キ場合ニ於テハ第九百二十六條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用スルコトヲ得ルカ故ニ實際ニ於テハ左程大ナル不都合アルヲ見サルナリ
○後見人ノ辭任——第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト
三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ
存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四 繁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者直系血族及ヒ
戸主ハ此限ニ在ラズ

五 此他正當ノ事由人事編第一六三條第一項第一七八條第二二五條第二二一
六條)

後見人ノ職務ハ原則トシテハ法律上拒辭スルコトヲ得ナル負擔タリ然レトモ
此原則ニハ他ノ原則ノ如ク例外アリ或特別ノ場合ニ於テ法律ハ後見人カ其任
務ヲ辭スルコトヲ許セリ後見人ノ任務ヲ辭スルコトハ法律カ後見人タル可キ
者ニ與ヘタル恩典ナリ故ニ後見人タル可キ者ニシテ此恩典ヲ拋棄セント欲セ
ハ拋棄スルコトヲ得可シ然レトモ後見人タル可キ者カ其免除ノ権利ヲ拋棄セ
タルトキハ當然後見人タルモノトス而シテ後見人カ其任務ヲ辭スルコトハ就

任ノ前後ヲ問ハス故ニ後見人カ免除ノ事由アルニ拘ラス就職シタルトキハ之
ヲ以テ絕對ニ其免除ノ権利ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得サルナリ

法律ハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得可キ事由五箇ヲ規定セリ即チ左ノ如シ
(一) 軍人トシテ現役ニ服スルコト 軍人トシテ其恩典ヲ受クルハ現役ノ者ニ
限ル故ニ豫備後備役ニ在ル者ハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス法律カ現役
ニ在ル軍人ニ此恩典ヲ與ヘタルハ他ナシ現役ニ服スル軍人ハ通常軍隊ニ在ル
者ナルカ故ニ他ノ事務ヲ執ルコト能ハサルコト多ク又軍人ノ紀律ハ他ノ官吏
ニ比シ數層峻嚴ナルカ故ニ後見人タルモ毫モ其本分ノ職ヲ怠ルコト能ハス故
ニ此ノ如キ者ヲシテ後見人タラシムルトキハ却テ被後見人ノ爲メ不利益タル
コトアリ又後見人タルコキ者ニ付テ云ヘハ嚴重ナル固有ノ職分アル者ニ後見
ノ任務ノ如キ重大ナル責任ヲ負ハシムルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テナリ

(二) 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト 現役ニ在ル
軍人ヲ除クノ外他ノ官吏公吏等公務ニ從事スル者ハ被後見人ノ住所ノ市又ハ
郡内ニ於テハ公務ノ餘暇ニ於テ後見人ノ任務ヲ爲スコトヲ得可シト雖モ若シ

後見人カ被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ヲ執ルトキハ其任地ヲ離ルルコト能ハナル場合アル可ク之ニ強テ後見人ノ任務ヲ執ラシムルトキハ公務ノ妨ト爲ル可クシテ此ノ如キ者カ後見人タルトキハ十分ニ其任務ヲ盡スト能ハスシテ被後見人ノ爲メ不利益タル可ク又後見人タル可キ者ニ付テ云ヘハ甚タ苛酷ナルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ許セリ

公務ニ從事スルトハ官吏、公吏カ職務ヲ執ル場合ノミヲ指スニ非スシテ公證人執達吏、議會議員等カ公務ヲ以テ繼續シテ自己ノ業務ヲ執ルコトヲモ云フナリ
 (三) 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト遺言ヲ以テ親權者ヨリ指定セラレタル後見人第九〇一條其他法律ノ規定ニ依リ後見人タル可キ者(父母、夫、妻第九〇二條戸主第九〇三條其他ノ者第九〇四條)カ法律ノ規定シタル事由(本條及ヒ次條アリ)其任務ヲ辭スルカ若クハ後見人ト爲ルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ者カ後見人ト爲ル可シト雖モ他ノ者カ後見人ト爲リタルハ全ク元來後見

人タル可キ者ニ辭任又ハ後見人タルコトノ無資格ノ事由生シタルニ由ル故ニ其事由ニシテ止ミタルトキハ其者ヲシテ固有ノ順位ニ復シテ後見ノ任務ヲ執ラシム可キハ正當ナリ例ヘハ(イ)遺言後見人カ軍人トシテ現役ニ服セルノ故ヲ以テ其任務ヲ辭シロ(禁治產者ノ後見人タル父又ハ母カ自己禁治產ノ宣告ヲ受ケテ後見人タル能力ヲ失ヒハ夫又ハ妻カ未成年者ナルトキ親權者カ其配偶者ノ後見人ト爲リタル場合ニ於テイノ軍人カ豫備役ニ入りロ(ノ父又ハ母ニ對スル禁治產ノ宣告ヲ取消サレハ)ノ夫又ハ妻カ成年ニ達シタルトキハ此等ノ者ハ法律上舊位置ニ復シテ當然後見人タルモニ非ス此場合ニ於テハ本號ノ規定ニ依リ後任ノ後見人カ之ヲ理由トシテ其任務ヲ辭スルコトヲ得ルニ止マレリ法律ハ何故ニ辭任又ハ除斥ノ原因止ミタルトキハ後見人タル可カリシ者ヲ當然後見人ト爲ツサルカ是レ他ナシ後見人カ屬變更スルハ被後見人ノ爲メ概シテ不利益ナルト辭任又ハ除斥ノ原因中其消滅シタルヤ否ヤ頗ル不明ナルモノアリテ之カ爲メ争訟ヲ生スルノ處アリ而シテ其裁判確定ノ結果往往ニシテ前後見人カ一定ノ期間内其任務ヲ不當ニ行ヒ法律上後見人タル可キ者カ其任務

ヲ行ハサリシカ爲メニ種種煩雜ナル問題ヲ惹起ス可キヲ以テナリ

- (四) 禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト 未成年者ニ對スル後見ノ年限ハ豫メ一定スルモノニシテ如何ニ長クトモ二十年ヲ超過スルコトアラナルナリ而シテ未成年者ニ對シテハ最初ハ親權者アリテ之ヲ保護シ親權者カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタル等ノ場合ニ於テ後見ニ付セラルコト多キカ故ニ二十年間後見人アルコトハ寧ロ稀ナル可キナリ之ニ反シテ禁治產者ニ對スル後見ノ任期ハ豫メ何年繼續ス可キモノナルヤラ知ルコト能ハサルナリ然ルニ正當ノ理由ナキニ於テハ禁治產者ノ畢生間モ繼続スル後見ノ任務ヲ辭スルコト能ハサルモノトスルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テ禁治產者後見人ハ十年ヲ經過シタルトキハ辭スルコトヲ得ルモノトセリ是レ外國ノ立法例ニ於テモ多々見ル所ノ規定ナリ

此規定ニハ例外アリ即ち配偶者、直系血族及ヒ戸主カ後見人タル場合はナリ此等ノ者ハ當然禁治產者ヲ保護ス可キ地位ニ在ル者ニシテ若シ此等ノ者カ其後見ノ任務ヲ辭スルトキハ之ヨリ一層關係ノ薄キ者ヲ以テ後見人ト爲サツル可

- (五) 此他正當ノ理由 以上列舉シタル事由ハ法律カ認メテ以テ後見ノ任務ヲ辭スルニ足ルト爲シタルモノナレトモ此他ニ於テモ事實上後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ許スニ足ル事由アルナリ例へハ病身ニシテ其任務ニ堪ヘサル場合、公務被後見人ノ住所ノ市又ハ郡内ニ於テ從事スル多忙ニシテ到底後見ノ任務ヲ許ナル可カラス而シテ此正當ノ事由トハ事實問題ニ屬スルヲ以テ裁判所ノ査定ニ依リテ定マル可キナリ

以上ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得可キ事由ナルカ婦女カ後見人ナルトキハ法律ハ以上ノ事由ナク其任務ヲ辭スルコトヲ得ルモノトセリ娘ニ女戸主カ醫

居ヲ爲ス場合第七五五條及ヒ母カ親權者ナルトキ財產ノ管理ヲ辭スルヲ得ル
コトニ付キ叙述シタルカ如ク婦女ハ一般ニ其性格ニ於テ財產管理ニ適セヌ強
チニ後見人タル義務ヲ負ヘシムルハ我邦ノ事情ニ適セサルヲ以テ此例外規
定ヲ設ケタルナリ

○後見人タル不能力 第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

一 未成年者

二 禁治產者及ヒ準禁治產者

三 剝奪公權者及ヒ停止公權者

四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人

五 破產者

六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ配偶者並ニ直系血

族

七 行方ノ知レサル者

八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡

アリト認メタル者(人事編第一八〇條乃至第一八二條、第二二六條)

人事編ニ於テハ後見人ノ缺格ノ場合ト除斥及ヒ罷黜ノ場合トヲ分チヲ規定シ
佛蘭西民法モ亦然リ(第四四二條乃至第四四九條ト雖モ本法ハ之ヲ一括シテ本
條ノ規定ヲ設ケタリ故ニ本條ニ列挙シタル者ヲ詳細ニ分析スルトキハ最初ヨリ
後見人ト爲ル能力ナキ者アリ半途ニシテ其能力ヲ失フ者アリ又ハ元來ノ能力
ハ有スルモ自己ノ過失、不行跡等ニテ後見人タルコトノ資格ヲ失ヒタル者其他
種種ノ者アレトモ是レ畢竟孰レモ後見人タルコトヲ得サル事由タルニ外ナラ
ナルナリ

後見人ハ被後見人ノ身上ヲ保護シ及ヒ財產ヲ管理スル重要ノ職務ヲ行フモノ
ナルヲ以テ被後見人ノ爲メニ不利益ト見ラル者ハ之ニ任スルコトヲ禁セサ
ル可カラス本條ニ列挙シタル者ハ法律カ被後見人ノ爲メニ不利益ナル者ト看
微シタルナリ而シテ此等ノ者ハ最初ヨリ後見ノ職ニ就クコトヲ得サルノミナ
ラス一旦後見人ト爲リタル場合ト雖モ當然其職ヲ失フ可キモノトス

(一) 未成年者 未成年者ハ自身後見ニ服スル者ナルカ故ニ之ニ他人ノ後見人

タルコトヲ禁スルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ

(二) 禁治產者及ヒ準禁治產者 是レ亦未成年者ノ如ク自ラ己ノ身上及ヒ財產ヲ保護スルコト能ヘシテ後見ニ付セラレ又ハ保佐人ノ補助ヲ必要ト爲ス者ナルカ故ニ到底他人ノ後見人タルニハ適セサルナリ

(三) 剥奪公權者及ヒ停止公權者 刑法第三十二條、第三十三條、第三十四條ノ規定ニ依リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ終身公權ヲ剥奪セラレ禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期間輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ監視ノ期限間公權ヲ停止セラルモノニシテ此ノ如キ者ハ信用少キ者ナレハ之ニ被後見人ノ財產ノ管理ヲ託スルハ被後見人ノ不利益タルト後見人タルコトハ一面ニ於テ義務ナレトモ亦他ノ一面ニ於テハ權利ナレハ國家カ以上ノ如キ犯罪者ニハ後見人タルコトノ名譽ヲ有スルコトヲ得ナルモノトシタリ但シ刑法第三十一條第七號ノ但書ニ親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラストアレトモ是レ本條ノ規定ト抵觸スルモノニシテ刑法ノ規定ハ本條ノ規定ニ依リテ改正セラレタルニ外ナラサルナリ

(四) 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人ニ法定代理人例ヘハ親權者後見人不在者ノ財產管理人、法人ノ理事、清算人、相繼人ノ擔綱セル遺產ノ管理人遺言執行者又ハ保佐人等其任ニ適セサルモノタルコトヲ認メラレタル者カ更ニ後見人タルニ適セサルコトハ明カルルヲ以テ此ノ如キ者ハ一タヒ裁判所ニ於テ免職セラレタルトキハ更ニ後見人ト爲ルコトヲ得ナルモノトセリ

然レトモ是レ前ニ免職セラレタルコトカ裁判所ニ於テセラレタル者ニ限ル故ニ第九百十一條第一項、第九百十七條第三項、第九百十九條第三項ノ規定ニ依リ親族會ヨリ免職セラレタル後見人ハ此規定ノ適用ヲ受ケサルモノトス
 (五) 破產者 破產者ハ財產上ノ信用ナキ者ナレハ後見人トシテ之ニ財產ノ管理ヲ委スル被後見人ノ爲メ甚タ不利益ナリ民法施行法第二條第三條ノ規定ニ依リ家資分散者及ヒ以前身代限ノ處分ヲ受ケテ未タ其債務ヲ辨済セサル者ハ破產者ト同視セラルモノトス
 (六) 被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者ノ如キハ被後見人ト利益相反スルモノト看ルコトヲ得可ケレハ此ノ如キ者ヲ其後見人ト爲スハ被後見人保護ノ途ニ非ナルナリ又其者ノ配偶者及ヒ直系血族モ同シテ後見人ト爲ルコトヲ得ナルナリ

(七) 行方ノ知レナル者 此ノ如キ者カ後見ノ任務ヲ盡スコト能ハサルハ言フ
埃タス

(八) 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者此規定ハ第四號ト同趣旨ナリ第四號ハ他ノ後見其他ノ法定代理ニ付テ裁判所ニ於テ免職セラレタル者ナレトモ茲ニ規定スル者ハ其後見ニ付キ特ニ其任ニ堪ヘサル者ト認メラレタルノ差アルナリ

○保佐人—第九百九條前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ其代表スル者ト革禁治產者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス(人事編第二一七條、第二二四條第二項乃至第四項、第二二五條、第二三二條第三項、第二三三條第一項)

未成年者及ヒ禁治產者ニ於ケル後見人ト準禁治產者ニ於ケル保佐人ト其性質相類ス革禁治產者ハ禁治產者ニ比シテ其無能力ノ程度稍ヤ輕キカ故ニ唯其保護ノ程度薄キノミニシテ後見人ト其規定ヲ異ニスル理由アラナルヲ以テ後見人ノ規定ニ關スル前七條第九〇二條乃至第九〇八條ヲ保佐人ニ準用スルコトトセリ

保佐人ノ利益ト革禁治產者ノ利益ト相反スルコトアリ此場合ニ於テ保佐人ハスル革禁治產者ト契約ヲ爲シ又ハ其一方ヲ相手トシ訴訟ヲ爲スカ如キ是ナリ又保佐人カ代理權ヲ有スル第三者例ヘハ保佐人カ第三者ノ後見人タルトキ其第三者ノ利益ト革禁治產者ノ利益ト相反スルコトアリ此場合ニ於テ保佐人ハ自己又ハ其代理スル第三者ノ利益ヲ圖ル爲メニ準禁治產者ニ之カ行爲ヲ許可スルノ處ナシトセス故ニ此場合ニ於テハ臨時保佐人ヲ選任セシメ之ヲシテ革禁治產者ノ爲シントスル行爲ヲ許可セシムルコトセリ故ニ其必要アル場合ニ於テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス是レ親權ノ效力ニ關スル第八百八十八條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ出タル規定ナリ而ビ

ヲ後見人ニ付テハ之ヲ監督スル者アリテ以上ノ如キ場合ニハ第九百十五條第
四號ノ規定ニ依リ其監督人カ被後見人ヲ代表スルカ故ニ被後見人ノ利益ハ十
分ニ保護セラル可キ途アリト雖モ準禁治產者ニ付テハ此ノ如キ者アラサルヲ
以テ右ノ如キ規定ヲ特ニ設ケタルナリ

第二款 後見監督人

後見監督人トハ後見ノ一機關ニシテ後見人カ果シテ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤ
ヲ監督シ或場合ニ於テハ被後見人ノ爲メニ自ラ必要ナル處分ヲ爲シ被後見人
ト其後見人ト利益相反スル行爲ニ付テハ被後見人ヲ代表ス而シテ舊民法ニ於
テハ之ヲ置クコトヲ必要トセナリシ人事編第一六九條第一項ト雖モ後見ノ制
ヲシテ弊害ナカラシメント欲セハ之ヲ置クノ必要アルヲ以テ本法ニハ之ヲ親
族會ノ自由ニ任セシテ必ス置クコトト爲シタリ佛蘭西民法亦然リ

○遺言後見監督人(指定後見監督人トモ云フ)——第九百十條 後見人ヲ指定スル
コトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得人事編第一六九條

第二項

後見人ニハ遺言ヲ以テ指定シタル者第九〇一條法定ノ後見人(第九〇二條第
〇三條及ヒ選定後見人第九〇四條ノ三種アレトモ後見監督人ハ遺言ヲ以テ指
定シタル者ト親族會ニ於テ選定シタル者トニ限レリ而シテ後見監督人ニ法定
ノ者ヲ設ケナルハ他ナシ後見監督人ハ後見人ノ誰タルコトノ定マツタル上之
ヲ監督スルニ適當ナル者ナラサルヲ以テ法律ハ豫メ後見監督人ヲ
定ムルヲ得ナレハナリ

本條ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得可キ旨ヲ規定シタルモノニ
シテ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得可キ者第九〇一條ハ後見監督人ヲ
指定スルコトヲ得而シテ父兄ハ時ヲ異ニシテ各親權ヲ行フコトアリト雖モ第九
百一條ノ規定ニ依リ最後ニ親權ヲ行フ者ニ非ナレハ後見人ヲ指定スルコトヲ
得サルヲ以テ親權者ニシテ後見人及ヒ後見監督人ヲ指定シタルトキハ必ス此
兩者ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル可キヲ以テ法律ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル後見監
督人ハ能ク後見人ヲ監督スルニ適シタル者ト看做シタルナリ然レトモ親權者

カ此等兩者ノ中一人ヲ指定シ他ノ一人ヲ指定セサルコトアリ若シ後見監督人ニシテ指定セラレサリシトキハ次條ノ規定ニ從ヒ親族會ニ於テ之ヲ選任セナル可カラス之ニ反シテ親權者カ後見監督人ノミヲ指定シテ後見人ヲ指定セナラシトキハ第九百三條及ヒ第九百四條ニ從ヒ戸主又ハ親族會ニ於テ選任シタル者後見人タル可シト雖モ此場合ニ於テ後見監督人ハ前ニ定マレルヲ以テ果シテ其者カ後ニ定マレル後見人ヲ監督スルニ適スル者ナルヤハ知ルコト能ハナル可キナリ

○選定後見監督人——第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス(人事編第一六九條第一項第

二項第一七〇條)

前條ニ規定シタル指定後見監督人ナキトキハ親族會ニ於テ後見監督人ヲ選任

スルモノトス而シテ之カ爲メニ親族會ヲ招集スルニハ法定後見人(第九〇二條第九〇三條又ハ指定後見人第九〇一條カ其事務ニ著手スル前裁判所ニ之カ申請ヲ爲ササル可カラス若シ後見人カ其手續ヲ爲ナシシテ其事務ニ著手シタルトキハ其制裁トシテ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ法律カ後見人ノ事務ニ著手スル前親族會招集ノ請求ヲ爲ストヲ要スルトシタルハ蓋シ民法ニ於テハ被後見人ノ利益保護ノ爲メニ後見ノ機關トシテ後見人ノ傍ニ後見監督人アリテ始終後見人ヲ監視スルコトト爲シタリ故ニ若シ後見監督人ナキ場合ニ於テ後見人カ其事務ニ著手スルコトヲ得ルモノトスルトキハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ私スルヤモ知ル可カラス又後見人ノ事務如何ニ不整頓ナリト雖モ之ヲ監督整理セシムル者アラスンハ被後見人ノ不利益ト爲ル可シ又後見監督人ナクシテ後見人カ其事務ニ著手スルコトキハ法律カ第九百一十七條ニ於テ後見人ニ命シタル被後見人ノ財産ノ調査ヲ爲シ及ヒ其目録ヲ調製スルコトモ能ハサルナリ何トナレハ此財産ノ調査及ヒ目録調製ハ後見監督人ノ立會ナケレハ爲スコトヲ得サレハナリ

以上ノ義務ヲ負ヘル後見人ハ法定又ハ指定ノ後見人ニ限ル若シ後見人ニシテ親族會ニ於テ選定セラレタル者(第九〇四條ナルトキハ親族會ノ招集ヲ請求スルノ要ナキナリ蓋シ法定後見人又ハ指定後見人カ後見人タルハ後見ノ開始ノ場合ナルカ故ニ未タ被後見人ノ爲メニ親族會ノ成立シ居ラサルトキ(第九百四十九條ナレトモ法定後見人又ハ指定後見人ナクシテ親族會カ後見人ヲ選任ス可キ場合ニ於テハ特ニ後見監督人ヲ選任スルカ爲メニ親族會ノ招集スルノ必要ナク其後見人選任ノ爲メニ招集セラレタル親族會ニ於テ同時ニ後見監督人ヲ招集スレハ可ナリ故ニ此場合ニハ本條第二項ヲ設ケ親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキ(第九〇四條ハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要スト爲シタルナリ)

○後見監督人ノ改選

(一) 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ選瀬ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス第九一二條人事編第一六九條第一項第二項第一〇七條

前條ハ後見人就職ノ際後見監督人ナカリシヲ以テ之カ選任ノ方法ヲ規定シタルモノナレトモ本條ハ之ト異ナリテ後見人就職ノ際ハ後見監督人アリシモ其後ニ至リテ缺ケタル場合ヲ規定セリ後見監督人ニ選任セラレタル者カ死亡シタルニ因リ缺クルコトアリ或ハ第九百七條ノ事由アルニ因リ辭任スルコトアリ(第九一六條或ハ第九百八條ノ事由アルニ因リ免職セラルルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ノ後任ヲ選任セサル可カラサルヲ以テ法律ハ後見人ヲシテ選瀬ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要スト爲セリ而シテ此場合ニテモ後見人カ此義務ニ違反シタルトキハ之ニ前條ト同一ノ制裁ヲ加ヘ親族會ニ於テ免職スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ是レ此場合ニ於テモ後見監督人ハ被後見人保護ノ爲メニ一日モ缺ク可カラサルモノタルニ後見人カ後見監督人ナキコトヲ知リナカラ之カ選任ヲ促スコトヲ爲ササルハ不正ノ行爲ヲ爲ス爲メカ然ラサレハ非常ノ怠慢者ナルヲ以テナリ

本條ニ於テハ前條ト異ナリテ後見人カ自ラ親族會ヲ招集スルハ被後見人ノ爲メ既ニ親族會ノ設アルヲ以テ別ニ裁判所ニ之カ招集ヲ請求スルノ必要ナケレ

ハナリ(第九四九條)

(二) 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケヌ新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲シシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其實ニ任ス(第九一三條)

後見監督人ノ改選ハ後見監督人自身カ缺ケタル場合ニ限ルモノニ非ス後見監督人ハ依然タルモ後見人ノ更迭アリタルトキハ亦改選セラルモノトス是レ後見監督人ノ職務ノ性質ヨリ生スル規定ナリ後見監督人ハ後見人ノ誰ナルヤノ定マリタル後ニ之ヲ選任スルヲ原則トシ茲ニ叙述シタルカ如ク後見監督人ハ後見人カ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤヲ監督スル者ナレハ後見監督人ヲ選任スルニ當リテハ其後見人トノ間ニ於ケル親族上財產上等ノ諸關係從來ノ經歴年齡及ヒ智能等ヲモ参考トシ此後見人ナルカ故ニ彼ノ後見監督人ニテ適當ナリトシ總テノ標準ヲ後見人ニ取リテ之ヲ定メタルモノナルカ故ニ若シ其標準タ

ル後見人ニシテ更迭アリタルトキハ之ニ伴フテ後見監督人ヲ改選ス可キハ當然ナリ然ラナレハ智能其他ノ關係ニ於テ後見監督人ニ優リタル後見人就任シタルトキハ以前ヨリ繼續スル後見監督人ニテハ到底兼任ノ後見人ヲ監督スルヲ得サルコトアル可シ故ニ後見人更迭ノ場合ニ於テ親族會カ後見人ヲ選任シタルトキハ其選任ト同時に後見監督人ヲ改選スルコトヲ要スト爲シタリ然レトモ實際前後見監督人ニシテ新後見人ヲ監督スルニ適任ナルニ於テハ親族會カ前後見監督人ヲ再選スルコトハ毫モ差支ナキヲ以テ但書ノ規定ヲ加ヘタル所以ナリ

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキ例ヘハ指定又ハ法定ノ後見人タルトキハ後見監督人ハ自ラ遲滯ナク親族會ヲ招集シ自己ノ改選ヲ爲シメサル可カラス而シテ此場合ニ於テモ親族會カ前後見監督人ヲ適當ト認ムベニテハ同シク再選スルニコトヲ得可ヤナリ

後見監督人カ若シ指定又ハ法定後見人ノ新ニ就職シタルニ拘ラス自己ノ改選ヲ爲ス可キ手續ヲ盡ササルトキハ親族會ハ其職權ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ

得ルハ勿論ナレトモ後見監督人ハ著シキ怠慢者又ハ新後見人ト通謀シテ私曲ヲ行ハント欲スル者ト看做シ新後見人ノ爲シタル行爲ニ付ナハ之ト連帶シテ其實ニ任スルコトト爲シタリ
此制裁ハ後見監督人ニ對シテノミ存シ親族會カ第一項ノ場合ニ於テ後見監督人ノ改選ヲ怠リタル場合ニハ如何ナル制裁モ之ナキモノノ如ク疑フ者アル可シト雖モ親族會ニ對シテハ第九百五十三條ノ規定アルカ故ニ其改選ヲ怠リタルカ爲メニ被後見人ニ損害ヲ生シタルトキハ其責ヲ辭スルコト能ハナルナリ
○後見監督人タル不能力—第九百四十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

後見監督人タルコトヲ得ナル場合ハ種種アリ後見人タルコトヲ得ナル場合ノ如ク(第九〇八條)無能力者破産者又ハ裁判所ニ於テ不適任ト認メラレタル者ナルカ故ニ後見監督人ト爲ルコトヲ得ナルコトアリ(第九一六條)又後見人ト後見監督人トノ關係上或種類ノ人ニ限リテ之ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得サルアリ如何ナル者ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得可カラナル者ト爲スカハ諸國ノ立

法例同シカラス佛國西氏法(第四二三條)ノ如キハ或場合ヲ除クノ外ハ後見監督人ハ之ヲ兩系父系母系ノ中後見人ノ屬セサル系中ヨリ之ヲ選擇ス可キモノトセリ

本條ハ則チ後見監督人ト親族關係ヲ有スルカ故ニ法律カ後見監督人タルコトヲ禁シタル規定ナリ後見監督人ハ屢々叙述スルカ如ク後見人ヲ監督スル職務ヲ有スルカ故ニ最モ公平ニシテ偏頗ノ恐ナキコトヲ要ス然ルニ後見監督人タルヘキ者カ後見人ノ配偶者直系血族及ヒ兄弟、姉妹等ノ如ク近親ノ間柄ニ在リテハ其愛情最モ深キヲ常トセルカ故ニ後見人カ私曲又ハ不行跡等ノ事アルトモ情實ニ流レテ後見人ヲ庇護シ十分ニ之ヲ監督スルコト能ハナルコトアリ此ノ如クスルトキハ被後見人ノ不利益タルヲ以テ法律ハ以上列記シテル者ヲ以テ後見監督人タル資格ナキモノトシタルナリ

又後見監督人タルコトヲ得サル他ノ場合ハ第九百十六條ニ規定スル所ナレズニ之ヲ叙述セス
○後見監督人ノ職務—第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

○一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促
シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト

三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト

四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後
見人ヲ代表スルコト(事編第一九八條乃至第二〇〇條)

後見監督人ノ職務ハ主トシテ後見人ヲ監督スルニ在レトモ其職務ハ尙ホ之ノ
ミニ限ラス或場合ニハ被後見人ヲ代表シ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコト等ア
ツ以テ今其職務ヲ左ニ順次叙述セシ

第一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト

此職務ハ最モ重ナルモノニシテ後見監督ノ目的ハ後見人カ能ク其任務ヲ盡ス
ヤ否ヤ其事務ノ執行カ法規ニ違反シ又ハ被後見人ノ利益ヲ害スルコトナキヤ
否ヤヲ監視スルニ在リ而シテ此目的ヲ達スルカ爲ミニ設クラレタル規定モ亦
渺少ナラナルナリ後見人カ被後見人ノ財産ヲ調査シ其目録ヲ調製スルニ當リ

ク後見監督人ノ立會ヲ必要トシタル第九百十七條第二項ノ規定後見人カ被後
見人ニ對シテ債権ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ヲ調査ニ着手スル前項之
ヲ後見監督人ヲ申出ツルコトヲ要スル第九百十九條第七項ノ規定後見人カ其
管理ノ計算ヲ爲スニ當リテモ亦後見監督人ノ立會ヲ必要トスル第九百三十八
條第一項ノ規定ノ如キ是ナリ
後見監督人ハ其監督ノ結果ニ依リ後見人ノ管理上ノ不能又ハ不正實ノ事跡ヲ
發見シタルトキハ直チニ相當ノ處置ヲ爲ササルヘカラス
第二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促
シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト
後見人ハ被後見人ノ爲メ一日モ缺タヘカラサルモノタリ若シ暫時ニテモ其缺
ケタルトキハ被後見人ハ其法定代理人オク法律上ノ保護ヲ受ケサルカ故ニ後
見監督人ハ後見人カ死亡シ資格ヲ失ヒ又ハ辭任ヲ爲ス等ニテ缺ケタル場合ニ
於テ之ニ代ルベキ法定若クハ指定後見人アリトキハ遲滞ナク之ニ其就任ヲ促
シ若シ又法定後見人ナキトキハ親族會ヲ招集シテ之ヲ選任セシメサルヘカラ

第三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコトアリ
後見ノ事務ハ後見人之ヲ行ヒ後見監督人ハ之ヲ行ハサルヲ當トスレトモ後見
人カ更迭シ後任者カ赤タ就任セタルカ如キ場合ニ於テ急ヲ要スル事務アルコ
トアリ例へハ被後見人カ訴訟ノ當事者ノ一方ニシテ上訴其他急ニ爲サルヘ
カラサル訴訟行爲ヲ爲スニ當リ後任者ノ就任ヲ待ソトキハ權利ヲ失フカ如キ
場合ニ於テハ後見監督人ハ被後見人ノ爲メ自ラ適當ノ處分ヲ爲サルヘカラ
ス風、水害ニ遇ヒテ家屋ノ破損シタルカ如キ場合ニ於テモ速ニ其應急工事ヲ行
チサレハ被後見人ノ不利益タル場合ノ如キモ亦後見監督人ハ自ラ必要ナル處
分ヲ爲サルヘカラス而シテ後見監督人カ此處分ヲ爲スハ後見人ノ缺ケタル
場合ニハ限ラサルナリ現在後見人アリト雖モ不在ナルトキ又ハ其任務ヲ行フ
コト不能ナルカ如キ場合ニ於テモ後見監督人ハ此義務ヲ負フナリ

第四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後
見人ヲ代表スルコト

後見人カ二人以上ノ被後見人ノ後見ヲ爲スコトアリ若クハ他人ノ商業支配人
其他ニ由リテ他ノ代表者タルコトアリ此等ノ場合ニ於テ被後見人ト其後見人
カ代表スル他ノ被後見人其他ノ者トノ利益相反スルコトアリ又ハ被後見人ノ
利益ト後見人ノ利益ト相反スルコトアリ例へハ訴訟又ハ賣買ノ行爲ヲ爲スニ
當リ後見人又ハ其代表スル者カ被後見人ノ相手方ナル場合ニ於テ後見人カ被
後見人ヲ代表シテ其行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルトキハ被後見人ノ利益
ヲ十分ニ保護スルコト能ハス此ノ如キ場合ニ於テ後見人ノ行爲ハ自己ノ爲メ
ナルトキハ言フヲ埃及自己ノ利益ヲ圖ルヘク若シ然ラスシテ其代表スル他
ノ者ノ爲メナリトモ愛憎偏頗ノコトアル可クシテ公平ニ雙方ヲ代表シ各其利
益ヲ保護スルコト能ハサルヘキヲ以テ此場合ニ於テハ後見監督人カ被後見人
ヲ代表スルコト爲シタリ

此規定ハ親權ニ關スル第八百八十八條ノ規定ト其趣旨ヲ同シウスルモノニシ
テ何人モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者双方ノ代
理人ト爲ルコトヲ得サル代理ノ原則(第一〇八條)ヲ適用シタルナリ

○後見監督人ノ責任ノ程度 本法ハ後見監督人カ其職務ヲ行フニ付テ受任者ノ責任ニ關スル第六百四十四條ヲ之ニ準用スルコトト爲シタリ(第九一六條即チ後見監督人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ行ハサルヘカラサルナリ親權者カ其子ニ對シテ管理權ヲ行フ場合第八八九條夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合第八〇五條)ニハ孰レモ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テスレハ足レトモ後見監督人ハ親子、夫婦間ノ關係ト異ナリテ他人ノ事務ヲ管理スルモノナルヲ以テ普通ノ受任者ト同シク自己ニ對スルト同一ノ注意ヲ以テ足レリトセス善良ナル管理者ノ注意ヲ以テスヘキコト當然ナリ而シテ此規定ハ後見人及ヒ親族會員ニ付テモ同シタ見ル所ナリ(第九三六條第九五三條)

○後見監督人ノ辭任 後見監督人タルコトモ後見人ノ如ク法律上ノ強制負擔ナレハ任意ニ之ヲ辭スルコトヲ得ナルモノニシテ後見人ト同シク法律カ認メタル事由アルニ非ナレハ其任ヲ辭スルコトヲ得サルナリ而シテ此場合ニハ後見人ニ付キ規定シタル第九百七條ヲ準用スルコトトセリ(第九一六條人事編第九一六條)

第三節 後見ノ事務

一六九條第三項
○後見監督人タル不能力 後見監督人タルコトヲ得ナル場合モ後見人ノ缺格ノ場合ト同シキカ故ニ後見監督人ニ其規定第九〇八條ヲ準用スルコトトセリ

(第九一六條人事編第一六九條)

本節ハ後見人カ行フヘキ職務及ヒ其之ヲ行フニ當リテ有スル權利及ヒ義務ノ範圍ヲ規定シタルモノナリ
○就職ノ際ニ於ケル義務—第九百十七條 後見人ハ遲滯ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一箇月内ニ其調査ヲ終ハリ且其目録ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得財產ノ調査及ヒ其目録ヲ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非ナレハ其效ナシ後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財產ノ目録ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免除外コトヲ得人事編第一八三條第一八七條)

後見人カ就職ノ際ニ於ケル義務ハ被後見人ノ財産ヲ調査シ及ヒ之カ目録ヲ調製スルコト是ナリ後見人ノ事務ハ通常之ヲ三種ニ區別ス一ハ被後見人ノ身上ニ對スル事務、二ハ其財産ニ對スル事務、三ハ法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代理シ又ハ被後見人カ爲ス行爲ニ付キ同意ヲ與フルノ事務ナルカ後見人ハ其中主トシテ財産管理ヲ爲ス可キモノニシテ其任務ノ始マルヤ直チニ管理ニ著手シ又其任務ノ終ルトキハ後見人ハ其管理セシ財產ヲ被後見人ニ返還セサルヘカラサルモノナレハ管理ニ著手スルニ當リ財產ヲ調査シ之カ目録ヲ調製セシメサルトキハ管理ノ終リタルトキ被後見人ノ財產カ幾何ナリシカラズ知ルコト能ハナルナリ而シテ後見人カ其任務中被後見人ノ財產ニ對シテ私曲ヲ行ヒ之ヲ減少スルトモ容易ニ知ルコト能ハサルナリ故ニ後見人ハ其就職スルヤ遲滯ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手セサル可カラサルモノトセリ舊民法人事編第一八七條ハ後見人ハ當然其任務ニ就ク日ヨリ十日内ニ財產ヲ調査スヘキコトヲ命シタレトモ本法ハ調査結了ノ期限ヲ制限シタルニ止マリ其著手ニ付テハ別無制限ヲ設ケシテ單ニ遲滯ナクト云ヒ實際ノ情況ニ應セシムルコト爲シタルコトヲ得ルモノトセリ

然レトモ調査ノ結了及ヒ目録ノ調製ニ付キ制限ヲ設ケサルトキハ後見人カ之ヲ等閑ニ付スヘキ恐アルヲ以テ之ヲ「一个月内ニ爲スコトヲ要ストシタリ」但シ財產カ夥多ナルカ又ハ遠隔ノ地ニ散在スルカ其他正當ナル理由アリテ一个月内ニ其調査ヲ終ルコト能ハサル場合ニ於テハ此期間ハ親族會ニ於テ伸長スルコトヲ得ルモノトセリ

財產ノ調査ハ後見人カ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ許ナス之ヲ調査スルニハ必ス後見監督人ノ立會アルヲ要ス若シ後見人カ其立會ナクシテ調査ヲ爲シタルトキハ其效ナキモノトセリ蓋シ財產ノ調査ハ被後見人ノ財產ヲ明確ニスルカ爲メニ爲スモノナレハ後見人カ悉ニ之ヲ調査スルコトヲ許ストキハ或ハ不正ノ目錄ヲ調製シテ財產ヲ私スルノ恐アリ或ハ調査疎漏ニシテ財產ソ脱漏スル恐アルヲ以テ以上ノ如ク規定シタル所以ナラ

後見人カ右法律ノ規定ニ從ヒ財產ヲ調査シ其目録ヲ調製セサルトキハ如何ナル制裁ヲ加フヘキヤ右ノ如キ場合ニ特別ノ制裁ヲ付セス唯其過失懈怠等ニ因テ損害ヲ生シタルトキハ普通ノ原則ニ依リテ之カ賠償ヲ請求シ又不正ノ行

爲アルカ著シキ不行跡アルトキハ之ヲ免斷スルコトヲ得第九〇八條第八號ヘシト雖モ不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡等ハ之ヲ證明セナル可カラサルモノニシテ時トシヲハ其證明ニ困難ヲ感スルコトアリ又ハ財產ヲ調査セナレハトナ必スシモ不正行爲不行跡アリト云フヲ得サルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於フモ之ヲ免斷スルコトヲ得ル規定ヲ設ケタルトキハ如何トモスルヲ得サル場合ヲ生スヘキヲ以テ親族會ハ此義務ニ違背シタル後見人ヲ免斷スルコトヲ得ルモノトシタリ蓋シ此ノ如キ後見人ハ私曲ヲ逞シウセンカ爲メ若クハ甚シキ怠慢者ナルカ爲メ法律上ノ義務ヲ忘リタルモノト看做スコトヲ得可ケレハ之ヲ免斷スルコトヲ得トシタルハ當然ナリ

○目錄調製終了前ノ權限 第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(人事編第一八九條)

後見人カ財產ノ調查、目錄ノ調製ヲ終ニ管理ニ著手スルコトヲ得ルモノトスルトキハ前ニ叙述シタルカ如ク弊害アルヲ以テ其調査終了スルマテハ被後見人ノ

爲メニ行爲ヲ爲シメサルヲ可ナリトス然レトモ其間全ク如何ナル行爲ノモ爲ナシメサルコトスルトキハ被後見人ノ爲メニ後見機關ノ一部ヲ缺クヲ以テ後見人カ財產ノ調査ヲ爲シ目錄ノ調製ヲ終ルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ與ヘタリ例へハ訴訟行爲ニ付キ懈怠ヲ爲ストキハ甚シキ不利益アル場合不變期間ノ經過時效ノ中斷急ヲ要スル修繕期間アル株金ノ拂込等ノ如キ之ヲ怠ルトキハ權利ヲ失ヒ又ハ財產ノ破損ヲ招クカ如キ行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得セシメサル可カラス又爲サシメサル可カラサルナリ若シ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトスルトキハ却テ被後見人ノ不利益タル可キナリ然レトモ其他ノ行爲ニ至リテハ財產目錄調製ヲ待チテ後之ヲ爲スモ不都合アルコトナカル可シ

夫レ此ノ如ク後見人カ財產目錄ノ調製ヲ終ラサル前ニ於テ本條ノ權限外ノ行爲ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ被後見人ニ對シテハ全ク效力ヲ生セサルヲ原則トスト雖モ善意ノ第三者即チ後見人カ財產目錄ノ調製ノ終ラサルコトヲ知ラサル者ニ對シ後見人カ急ヲ要セサル行爲ヲ爲シタルトキ之ヲ後見人ノ權限外

ニ局スル行爲トシテ效力ヲ生セサルモノトスルトキハ第三者ハ之カ爲ミニ
外ノ損失ヲ被リ甚タ酷ニ過クルナリ何トナレハ財産目録ノ調製ノ終リタルヤ
否ヤノ如キハ全ク後見人ト被後見人トノ間ニ於ケル内部ノ關係ニシテ第三者
ハ之ヲ知ラサルヲ常トスレハナリ故ニ善意ノ第三者ニ對シテハ後見人ハ常ニ
第九百二十三條ニ規定セル權限ヲ有セルモノト看做シ之ヲ保護セリ然レトモ
第三者ニシテ未タ財產目録ノ調製ヲ終ラサルコトヲ知リナカラ後見人ト其權
限外ニ屬スル行爲ノ取引ヲ爲シタルトキハ第百十三條乃至第百十八條ノ規定
ニ依リ追認アリタルトキハ行爲ノ當時ニヨリテ其效力ヲ生スヘシト雖モ然ラ
サルニ於テハ被後見人ニ對シテ其行爲ハ效力ヲ生セサルナリ

○被後見人ニ對スル債權債務關係ノ申出—第九百十九條 後見人カ被後見人
ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財產ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見
監督人ニ申出フルコトヲ要ス後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知
リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フ
コトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ覺人

事編第一八八條

本條ハ財產調査ノ著手前後見人ニ負ハシメタル義務ノ一ナリ蓋シ被後見人ノ
財產ヲ調査スルハ前ニモ叙述シタルカ如ク其財產ヲ明確ニスルニ在ルカ故ニ
被後見人カ有スル債權債務モ亦之ヲ記載ス可キハ勿論ナリ然ルニ後見人カ被
後見人ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フ場合ニ之ヲ申出フルコトヲ要セス
トルトキハ後見人カ債權者タル場合ニ於テ被後見人ノ先人カ既ニ辨済シタ
ル證據ナキコトヲ發見シタルトキハ再ヒ之カ辨済フ請求ス可ク又ハ被後見人
方ニ存セシ辨済ノ證據ヲ湮滅シテ再度ノ辨済ヲ請求スルコトアルモ計リ知ル
可カラサルナリ又後見人カ被後見人ノ債務者タル場合ニ於テハ被後見人方ニ
債權ノ證據ナキヲ奇貨トシ又ハ存生セシ證書ヲ湮滅シテ其義務ヲ免レント圖
ルコトナシトセス然レトモ財產ノ調査前ニ以上ノ申出ヲ爲ストキハ此ノ如キ
奸曲ヲ爲スコト能ハナル可キナリ

後見人ハ何人ニ對シテ其債權及ヒ債務ノ申出ヲ爲ス可キヤ外國ニ於テハ或ハ
公證人或ハ裁判所或ハ親族會ニ之ヲ申出テシムル例多ク又尋問ヲ受ケテ後申

出づレハ可ナリト爲スモノアレトモ本法ハ此ノ如キ立法例ニ倣ハス尋問ヲ受
クシテ後見人自ラ進ンテ後見監督人ニ申出フ可キコトトセリ
後見人カ右申出ヲ忘リタル制裁トシテハ債權ヲ有スル場合ト債務ヲ負擔スル
場合トニ因リ異ナレリ後見人カ被後見人ニ對シテ債權ヲ有スルコトヲ知リナ
カラ之ヲ申出ヲサルトキハ其債權ヲ失フモノトシ又債務ヲ負フコトヲ知リナ
カラ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ之ヲ免謝スルコトヲ得ルモノトセリ然レ
トモ此等ノ場合ハ後見人カ其債權又ハ債務アルコトヲ知リテ之ヲ申出ヲサル
場合ニ限ルモノニシテ若シ後見人カ相續其他ニ因リテ被後見人トノ間ニ債權
又ハ債務ノ關係アルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ之カ申出ヲ爲サナルヲ責ム
可キニ非サレハ以上ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非サルナリ

○就職後被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合ニ於ケル義務——第九百二十條
前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合ニ之
ヲ準用ス

被後見人ノ利益ヲ能ク保護スル爲ミニハ後見人カ就職スル際ニ限ラス其以後

ト雖モ被後見人カ財產ヲ取得シ又ハ喪失シタルトマハ其都度之ヲ財產目錄中
ニ記載セサル可カラス然レトモ被後見人カ特定財產ヲ取得スル場合ハ頻繁ナ
ル可キニ其都度後見人ヲシテ一之カ目錄ヲ調製セシムルカ如キハ後見人ヲ
シテ其煩ニ堪フルコトヲ得サラシムルヲ以テ特定財產ヲ取得シタルトキハ第
九百二十八條ノ規定ニ從ヒ後見人ハ毎年少クトモ一回被後見人ノ財產ノ状況
ヲ親族會ニ報告ス可キ義務アルヲ以テ之ニ依リテ報告スレハ足ルモノトシ特
ニ取得ノ都度財產目錄ニ記載ス可キ義務ヲ負ハシメサル所以ナリ然レトモ被
後見人カ包括財產ヲ取得シタルトキ例へハ他人ノ相續ヲ爲シ又ハ他人ヨリ包
括的遺贈ヲ受ケタル場合ニ於テハ被後見人ノ財產ニ至大ノ變動ヲ生スルモノ
ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ新ニ財產目錄ヲ調製シテ其取得シタル資產
額ヲ明カニスルハ必要ナルヲ以テ此場合ニ限リ前三條ノ規定ヲ準用スルコト
ト爲シタリ

○未成年者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務——第九百二十一條 未成年者ノ後見
人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項

ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ権利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母力
定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ未成年者ヲ懲戒場ニ入レ營業ヲ許可シ
其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事編
第一八四條、第一八五條)

未成年者ニ對スル後見ハ恰モ親權ノ延長シタルモノノ如クニシテ其後見人ハ
親權者ノ相續人ト云フモ可ナルカ故ニ後見人ノ職務ハ概シテ親權者ニ等シキ
ヲ本則トスレトモ唯其間差異アルハ其一ハ自然ノ愛情ニ基クモナルカ故ニ
其保護完全ナルコトヲ期シ得可キモ他ノ一ハ必シモ自然ノ愛情アラサルヲ
以テ其保護完全ナルコトヲ期ス可カラヌ是ヲ以テ親權者ノ權利ニハ制限ナキ
場合ニモ後見人ノ權限ニハ制限アリテ殊ニ親族會ノ監督ヲ受ケ其認許ヲ得テ
被後見人ニ對スル權利ヲ行フコトアルノミ即チ本條ニ於テ未成年者ノ身上ニ
關スル權利義務ニ付キ親權ニ關スル規定ヲ準用スルコトセリ後見人ハ第一
未成年者ノ監護及ヒ教育ノ權利義務第八七九條第二未成年者ノ居所ヲ定ムル
權利(第八八〇條第三、兵役ノ出願ヲ許否スル權利(第八八一條第四懲戒ノ權利第

八八二條第五、職業ヲ許可シ之ヲ取消シ又ハ制限スルノ權利第八三條第六、未
成年人者カ其配偶者ノ財產ヲ管理ス可キ場合ニ未成年者ニ代リテ其財產ヲ管理
スル權利(第八八五條ヲ有ス然レトモ親權者ハ子ノ教育ノ方法及ヒ其居所ヲ定
メ之ヲ懲戒場ニ入レ其營業ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニ獨斷
ヲ以テ決スルコトヲ得ルト雖モ後見人ハ此等ノ場合ニ於テハ必ス親族會ノ同
意ヲ得ルコトヲ要スルモノセリ蓋シ此等ノ場合ハ總テ被後見人ノ爲メ重大
ナル利害アルモノナレハナリ
後見人カ新ニ未成年者ノ教育ノ方法ヲ定ムル場合ハ親權ヲ行フ父又ハ母ト同
シク敢テ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス唯親權ヲ行ヒタル父又ハ母カ定メ
タム法ヲ變更セント欲スルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ
又未成年者ノ居所ヲ定ムル場合モ亦之ト同シク其親權者カ定メタルモノヲ變
更スルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルニ過キサルナリ但シ此場合
ニ於テモ後見人以外ノ者カ戸主タルトキハ戸主ハ第七百四十九條ノ規定ニ依
リ家族タル未成年者ノ居所ヲ定ムル權利ヲ有スルコトハ論ヲ煥タサルナリ而

シテ又後見人カ戸主タル場合ニ於テハ戸主ノ資格ヲ以テ右同條ノ規定ニ依リ其獨斷ヲ以テ未成年者ノ居所ヲ變更セシムルヲ得ルコトモ亦論アヘタナルナリ法律カ親權者ノ既ニ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更スル場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトシタルハ蓋シ親權者ハ子ノ爲メ最モ利益アリ教育ノ方法及ヒ居所ヲ定メタルモノト看做スカ故ニ之ヲ變更スルニハ重大ナル理由ナカラナル可カラナルナリ是ヲ以テ親族會ヲシテ之ヲ調査セシメンカ爲メニ其同意ヲ得ルコトト爲シタルナリ
○禁治產者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務—第九百二十二條 禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス【禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム(人事編第二二二七條)
本條ハ禁治產者ノ後見人ニ特殊ナル職務ヲ定メタルモノナリ禁治產者ニ對スル後見モ其身體及ヒ財產ヲ保護スル職務タルコト未成年者ニ對スル後見ニシト雖モ其保護ノ目的ノ異ナルニ從ヒテ其義務ノ實體モ異ナル所アリ蓋シ法

律カ未成年者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ未タ發達セサルニ由ル而シテ禁治產者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ健康ヲ失セルニ由ル故ニ未成年者ニ付キ其監護及ヒ教育ニ注意ス可キト同シク禁治產者ニ付テハ其療養看護ニ注意セサル可カラス唯療養看護ノ方法ニ付テハ固ヨリ本人ノ資力ニ應シテ自ラ差等アル可キカ故ニ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ爲ス可キコトシタ
禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルヲ以テ之ヲ療養看護スルニハ瘋癲病院ニ入ルルカ又ハ之ヲ私宅ニ監置スルカハ費用ノ上ニ差異アルノミナラス禁治產者ノ健康ニモ影響ヲ及ホシ且ツ其病症如何ニ依リテ病院ニ入レ又ハ監督スルノ必要ナキ場合モアル可ケレハ此等ノ事ヲ決スルニ後見人ノ獨斷ヲ以テセシムルハ禁治產者ノ爲メ利益ナラナルヲ以テ後見人カ之ヲ決スルニハ親族會ノ同意ヲ得可キコトト爲シタリ
○被後見人ノ財產ニ關スル後見人ノ職務—第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス】第八百

八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第一八六條)

前前條(第九二一條)ハ特ニ未成年者ノ後見ニ關シ前條(第九二二條)ハ特ニ禁治產者ノ後見ニ關スレトモ本條ハ此等兩種ノ被後見人ニ普通ナル規定ニシテ其財產ニ關スル後見人ノ職務ヲ定メタルナリ即チ後見人ハ被後見人(未成年者又ハ禁治產者)ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル一切ノ法律行為ニ付キ被後見人ヲ代表ス而シテ其管理權及ヒ代表權ノ行為ニ付テハ親權ヲ行フ父又ハ母ニ比シテ以下叙述スルカ如ク數多ノ制限ヲ受ク可シト雖モ本條ノ規定ハ親權ニ關スル第八百八十四條ト其趣旨ヲ同シウス又被後見人ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生ス可キ場合ニ於テハ父又ハ母カ親權ヲ行フ場合ト同シク必ス被後見人ノ同意ヲ得サル可カラス

○毎年支出ス可キ金額ヲ豫定スル義務—第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活教育又ハ療養看護及ヒ財產ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非ナレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ

豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス(人事編第一九〇條第一項第二〇九條第二二六條)

後見人ノ就職ノ初ニ於テ被後見人ノ生活教育又ハ療養看護及ヒ財產ノ管理ノ爲メニ年年費ス可キ金額ヲ豫定セシシテ之ヲ後見人ノ意見ニ依リ自由ニ費スコトヲ得ルモノトスルトキハ被後見人ノ爲メニ格外ニ多額ノ金額ヲ支出スルヤモ知ル可カラス而シテ此場合ニ於テ後日其必要ナリシコトヲ證明スルトキハ其額ノ如何ヲ問ハス親族會ハ之ヲ非難スルコト能ハサルヘシ然ルニ被後見人ノ財產ニハ限リアルヲ以テ其社會上ノ地位教育及ヒ生活ノ程度病症ノ如何ニ依リ適當ニ費ササルニ於テハ到底被後見人ノ財產ノ安固ハ之ヲ保存スルコト能ハナルナリ故ニ此等ノ費用額ハ豫メ親族會ノ適當ト認メタル所ニ從ヒテ之ヲ支出スルコト定メ其額ハ已ムヲ得サルニ非ナル以上ハ超過スルコトヲ得ナルモノトスルハ被後見人保護ノ爲メ最モ必要タルナリ

以上ノ豫定額ハ眞ノ豫定額ナルヲ以テ必要ナキ場合ニ豫定額ニ充ツルマテ費用可カラサルナリ若シ豫定額内ノ支出ナリト雖モ不當ノ費用アリシトキハ後

見人ハ之カ責任ヲ負ハサル可カラス何トナレハ後見人ハ被後見人ノ爲ミニ常ニ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ執ラサル可カラサレヘナリ又其反對ニ於テ縱合其豫定額外ト雖モ已ムヲ得サル支出ナルトキハ之ヲ支出スルコトヲ許ササル可カラス然レトモ此場合ニ於テハ後見人ニ於テ其已ムヲ得サルコトヲ證明セサル可カラス

本文中生活ノ費用及び財産管理ノ費用ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ共通スルモノナレトモ教育ノ費用ハ専ラ未成年者ニ療養看護ノ費用ハ禁治產者ニ關スルモノナルヤ論ヲ埃タサルナリ

○職務ニ對スル報酬——第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルゴトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス後見人ニ報酬ヲ與フ可キモノトスルヤ否ヤニ付テハ諸國ノ立法例區々タリ苟牙ノ如キハ之ヲ與フルヲ當トシ佛蘭西伊太利ノ如キハ之ヲ與ヘサルヲ常トシ和蘭ノ如キハ報酬ヲ與ヘサルヲ原則トスレトモ裁判所ノ決定アルトキハ之

ヲ與フルコトノ例外アリ西班牙、喫太利及ヒ獨逸ノ如キハ親族會ノ決議ニ依リ之ヲ與フルコトヲ得ルモノセリ本法ハ獨逸法ニ倣ヒ親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ後見人ニ報酬ヲ與フルヲ禁スルハ後見人ハ素ト公益上國民ノ義務トシテ之ニ無能力者保護ノ責任ヲ負ハシムルモノナルカ故ナレトモ是レ縱合國民ノ義務ナレハトテ後見ノ職務ヲ盡スカ爲ミニハ時間ト費用トヲ要シ之カ爲ミニ後見人ノ固有ノ職業ヲ妨ケラルルコトモアル可ケレハ強テ無報酬ニテ其職務ヲ執ラシムルトスルハ甚タ酷ニ失スルモノト謂フ可キナリ然レトモ後見人カ配偶者直系血族戸主等ノ如キ特別ノ關係アル者ナルトキハ此等ノ者ハ其自然ノ性質ニ於テ被後見人ヲ保護ス可キ地位ニ在ルカ故ニ報酬ヲ與フ可キ理由存セサルナリ而シテ此但書ノ趣旨ハ後見人カ其任務ヲ辭スルコトヲ得サル場合ニモ見ル所ナリ(第九〇七條第四號但書)○有給ノ財產管理者又ハ復代理人ヲ使用スルノ權——第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適

用ヲ妨ケス(人事編第一九〇條第二項)

後見人ハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付ヲハ他人ヲシテ自己ノ職務ヲ執ラシムルコトハ許ス可カラナレトモ財產ノ管理ニ付ヲハ法定代理人ハ原則トシテ自己ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルヲ得ルコトハ第一百六條ニ規定スル所ニシテ此原則ハ後見人カ被後見人ノ財產ヲ管理スル場合ニ除外ヲ設ク可キニ非サレハ後見人ハ自己ニ代ル財產ノ管理者ヲ使用スルコトヲ得若シ之ヲ許ナルトキハ被後見人ノ財產夥多ナルトキ又ハ諸所ニ散在スルカ如キ場合ニ於テハ後見人一人ニテ之ヲ管理スルヲ得サルコトアリ或ハ後見人カ自己ノ職務ニ繁忙ナルカ爲ミニ自ラ被後見人ノ財產ヲ管理スルヲ得サルカ如キ不便アリ然ルニ他人ヲ以テ後見人ニ代ルコトヲ許シ後見人カ其責任ヲ負フニ於テハ恰モ後見人自ラ管理スルト同一シテ極メテ便利タルナリ然レトモ後見人ハ被後見人ノ財產中ヨリ自己ノ獨斷ヲ以テ其代理人ニ給料ヲ與フルコトヲ得メ若シ給料ヲ與フル必要アルトキハ親族會ノ同意ヲ得サル可カラス而シテ後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用シタル場合ニ於テモ第一百六條

ノ規定ハ適用セラルモノトス即チ後見人ハ其復代理人ノ行爲ニ付ヲハ自ラ責任ヲ負フ可キヲ原則トシ唯其復代理人ヲ使用スルノ已ムヲ得サムニ出テタルトキハ單ニ復代理人ノ選任及ヒ監督ニ付ラノミ之カ責任ヲ負フモノトス○受取リタル金錢ヲ寄託スル義務—第九百二十七條親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲ミニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス後見人カ被後見人ノ爲ミニ受取リタル金錢カ親族會ノ寃メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム(人事編第一九一條)

後見人カ被後見人ノ爲ミニ受取リタル金錢カ嵩ミタルトキ之ヲ銀行其他ニ貯藏セシテ後見人カ保管スルニ於テハ後見人カ之ヲ消費若クハ融通スルノ危險アルノミナラス空シタ之ヲ貯藏スルトキハ利殖セサルヲ以テ親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲ミニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託ス可キカヲ定ムルコトヲ要スルコトト爲シタリ然レトモ後見人

カ如何ナル些少ノ金額ヲ受取ルモ即時ニ之ヲ寄託ス可キモノトスルトキハ後見人ハ實ニ其煩ニ堪ヘサルカ故ニ法律ハ如何ナル些少額ニテモ寄託ス可キコトヲ命セス何程ノ額ニ達スレハ寄託ス可キカハ被後見人ノ資産ニ從ヒテ異ナルモノナレハ其額ハ親族會ニ於テ定ムヘキコトト爲セリ
索ト後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金額ヲ寄託スルコトスルハ被後見人ノ財產ノ安固ヲ圖ル爲メニ出ツルモノナレハ其之ヲ寄託ス可キ場所ニ付テモ後見人カ隨意ニ定ムルコトヲ許サス若シ後見人カ之ヲ信用ナキ所ニ寄託スルトキハ被後見人ノ爲メ安固ヲ圖リア却テ其不利益ト爲ル可ケレハ其寄託ス可キ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ムルコトセリ

後見人カ親族會ノ定メタル額ニ達シタル金額ヲ相當ノ期間内ニ寄託セサルトキハ之ニ對スル制裁ナカル可カラス此場合ニ於テ後見人ハ其期間ヲ經過シタルトキヨリ其法定ノ利息(第四百四條)ノ規定ニ依リ一个年五分ナリヲ拂フコトヲ要ス

○財產ノ狀況ヲ報告スル義務——第九百二十八條 指定後見人及ヒ選定後見人

ハ毎年少クトモ一同被後見人ノ財產ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス(八事編第一九二條第二二六條第二二八條)

親族會ハ後見人ヲ監督スル職務ヲ有スレトモ被後見人ノ財產ノ狀況ヲ詳悉セナルトキハ果シテ後見人カ適當ニ其任務ヲ盡セルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサバ場合多シ若シ後見人カ其任務ノ終了シタルトキ之ヲ一時ニ報告スルヲ以テ足レリトスルトキハ後見人ノ任務ハ十數年モ繼續スルコトアル可ケレハ其間ニ如何ナル私曲ヲ行フモ之ヲ知ルコト難クシテ遂ニ被後見人ノ不利益ト爲ル可キヲ以テ毎年少クトモ一同財產ノ狀況ヲ報告ス可キモノト爲シタルナリ而シテ此ノ如クスルトキハ獨リ被後見人ノ利益タルノミナラス後見人自身ノ利益ドモ爲ル可シ何トナレハ後見人ハ毎年少クトモ一同ノ報告ヲ爲ストキハ之ヲ以テ一年間ノ責任ヲ解除セラル可ケレハナリ

法律カ此義務ヲ獨リ指定後見人(第九〇一條)及ヒ選定後見人(第九〇四條)ニ限リテ負ハシメ父母配偶者又ハ日主ノ如キ法定後見人(第九〇二條第九〇三條)ニ之サ負ハシメサルハ如何此等ノ後見人ハ一ハ自然ノ愛情ニ基クカ故ニ私曲ヲ行

ブコトアルハ稀ナリト推定シ又一二ハ此等ノ法定後見人ハ法律上當然後見人タル義務アルモノニシテ如何ナル場合ニモ報酬ヲ請求スルコトヲ得ナルカ故ニ之ニ本條ノ義務ヲ負ハシムルハ酷ニ失スルヲ以テナリ
○重大ナル行為ニ付キ親族會ノ同意ヲ得ル義務——第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行為ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領收ニ付テハ其限ニ在ラス(人事編第一九三條、第一九四條、第二二九條)
本條ハ後見人ノ代理權及ヒ同意權ノ制限ノ一タリ蓋シ後見人ハ第九百二十三條ニ依リ被後見人ノ財產ニ付テハ概括的權限ヲ有シ又第四條ニ依レハ未成年者カ法律行為ヲ爲スニ付キ同意ヲ與フル權利ヲ有スト雖モ後見人カ如何ナル重大ナル行為ト雖モ之ヲ其獨斷ニテ爲シ又ハ爲ナシムルコトヲ得ルモノトストキハ甚タ危險ニシテ被後見人ノ不利益タル可キヲ以テ本法ニ於テハ後見人ノ書横ヲ防カシカ爲メニ後見人カ被後見人ニ代リテ營業ヲ爲シ又ハ未成年者カ之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合及ヒ後見人カ被後見人ニ代リテ第十二條第一項ニ

掲ケタル行為準禁治產者カ其保佐人ノ同意ヲ得テ爲ス行為即チ(一)元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト(二)借財又ハ保證ヲ爲スコト(三)不動又ハ動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト(四)訴訟行為ヲ爲スコト(五)贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト(六)相續ヲ承認シ又ハ之ヲ抛弃スルコト(七)贈與若クハ遺贈ヲ拒絶シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト(八)新築改善増築又ハ大修繕ヲ爲スコト(九)第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸借ヲ爲スコト(十)ヲ爲シ又ハ未成年者カ之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合ニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ而シテ第十二條ニ列舉シタル行為ハ孰レモ重大ナルモノナレトモ是レ民法總則編ノ講義ニ依リテ判明ス可キヲ以テ茲ニハ別ニ説明セサルナリ唯同條ノ規定ト異ナル所ハ茲ニ叙述セサル可カラス即チ同條第一項第一號ノ前半タル元本ヲ領收スルコトハ準禁治產者カ之ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スト爲シタルモ後見人カ被後見人ノ爲メニ之ヲ領收スル場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサルモノト爲シタルハ他ナシ單禁治產者カ其獨斷ニテ元本ヲ領收スルコトヲ得ルモノトストキハ往往損

害ヲ被ルコトアラン然レトモ後見人カ被後見人ニ代リテ之ヲ領收シタルトテ
被後見人ニ損害ヲ廉成スルノ虞ナク若シ元本ヲ領收スル場合ニ一親族會ノ
同意ヲ得可キコトトスルトキハ甚タ煩ニ堪ヘサルモノニシテ却テ被後見人ノ
不利益タル可キヲ以テ但書ヲ加ヘタルナリ

○後見人ノ能力ノ制限

(一) 第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ
權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨
ケス(人事編第一九五條財產取得編第三七條第三八條)

後見人自身ノ利益ト被後見人ノ利益ト相反スル場合ニ於テハ後見人カ自己ノ
利益ヲ圖ルハ人情ノ常ナルカ故ニ後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨
ケス(人事編第一九五條財產ヲ讓受タル等被後見人ノ損害ト爲ルヘキ弊害ヲ生スル
ニ至ル又被後見人ニ對スル第三者ノ權利例ハ第三者カ被後見人ニ對シテ有
タルナリ

スル債權ヲ譲受タルコトヲ得ルモノトスルトキハ後見人ハ其債權ニ付ナハ爭
アル場合ニモ之ナキ如クシ被後見人ノ爲メニ利益ト爲ル可キ證據物ハ總テ之
ヲ湮滅シ以テ自己ノ利益ヲ圖ルノ虞アリ故ニ此等ノコトハ共ニ避ク可キモノノ
ニシテ諸國ノ立法例ニ於テハ往往全ク此行爲ヲ禁スルモノアリ萬民法人事権
ノ如キモ後見人ハ未成年者ノ財產又ハ未成年者ニ對スル權利ヲ讓受タルコト
ヲ得ストシ解釋上其行爲ハ全ク無効ト爲シタレトモ本法ハ之ヲ絕對ニ禁止セ
シテ此場合ニ於テ被後見人ハ其讓渡ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ蓋シ後
見人カ被後見人ノ財產又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受タル場合カ必シモ被後
見人ノ不利益ト爲ルモノニ非シテ却テ往往其利益ト爲ルコトモアル可ケレ
ハ之ヲ絕對ニ禁止ス可キ必要ナキカ故ニ以上ノ如ク取消スコトヲ得ルニ止メ
タルナリ

本條ノ規定ハ後見人カ讓受行爲ヲ爲シタル場合即チ契約ニ因リテ被後見人ノ
財產又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受ケタル場合ニノミ適用ス可キモノニシテ後見
人カ相續、遺贈等ニ因リテ其權利ヲ取得シタルトキハ其行爲ナキカ故ニ被後見

人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ナルヤ論ヲ俟タナルナリ

本條ノ取消權ハ無能力者ノ行爲ノ取消ト其性質ヲ同シウスルカ故ニ無能力者ノ行爲ニ關スル第十九條ノ規定ヲ此場合ニ準用スルコトスルハ至當ナリ故ニ後見人ハ被後見人カ能力者ト爲リタル後之ニ對シ又ハ其能力者ト爲ル以前ニ於テハ其後任後見人ニ對シテ一个月以上ノ期間内ニ其取消スコトヲ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ通告シ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ之ヲ追認シタルモノト看做ス又第百二十一條乃至第百二十六條ニ掲ケタル取消權ニ關スル一般ノ規定即チ其取消ノ效力其行爲ノ追認取消及ヒ追認ノ方法取消權ノ消滅時效ノ如キハ總テ總則ノ規定ニ依ル可キハ當然ナルカ故ニ之ニ依ル可キコトシタリ

(二) 第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財產ヲ賃借スルコトヲ得ス(入事編第一九六條)

後見人カ被後見人ノ財產ヲ其獨斷ニテ賃借スルコトヲ得ルモノトストキハ自己ノ利益ヲ圖ルカ爲ミニ廉價ニ借受クルノ處アリ然レトモ他ノ者カ借受セリ

クルト同様若クハ之ヨリ一層被後見人ノ爲ミニ利益ナル條件ヲ以テ賃借スルトキハ被後見人ノ爲ミニ利益アルコトアルモ不利益ナルコトナケレハ此ノ如キ場合ニハ後見人カ賃借スルコトヲ許スモ可ナリ故ニ法律ハ後見人カ被後見人ノ財產ヲ賃借スルコトヲ絕對ニ禁止セスシテ親族會ノ同意ヲ得可キモノトセリ

本條ニ規定スル賃借ハ不動産タルト動産タルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルナリ人事編並ニ佛蘭西民法(第四五〇條第三項)ノ如キハ之ヲ不動産ノ賃借ニ限りタレトモ被後見人ノ動産タリトモ後見人カ其獨斷ニテ之ヲ賃借スルコトヲ得ルモノトストキハ同シク被後見人ノ爲ミニ不利益タル可キヲ以テ本法ハ其範圍ヲ廣メ之ヲ財產ト爲シタルモノナリ

本條ノ規定ニ依リテ後見人カ被後見人ノ財產ヲ賃借スルトキハ後見人ハ被後見人ヲ代表セス此場合ニ於テハ被後見人トノ利益相反スルヲ以テ被後見人ヲ代表スル者ハ第九百十五條第四號ノ規定ニ依リテ後見監督人タルコト言フヲ埃タサルナリ

○後見人カ任務ヲ曠クシタル場合ニ於ケル處置—第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ費人事編第一六三條)

後見ハ公義務ニシテ其任務ヲ負擔ス可キ者カ擅ニ之ヲ避ケルヲ得ナルコトハ屢ニ第九百七條ニ於テ説キタルカ如シ然レトモ後見ハ其任務ニ就ク者ヲシテ作為ノ責ヲ負ハシムルモノナレハ後見人カ其任務ヲ怠リテ之ヲ盡サセル場合ニ於テハ法律上後見ハ單ニ之ヲ辭スルコトヲ得ナルモノト定ムルノミニテハ未タ以テ足レリトセス尙ホ其上之ニ加フ可キ制裁ナカル可カラス而シテ後見人カ任務ヲ盡ササルトキハ之ニ因リテ生スル損害ハ固ヨリ之ヲ賠償ス可キ貞第九三六條第六四四條アリト雖モ損害賠償ハ素ト既ニ生シタル場合ノ救済法タルニ過キナレハ損害ヲ未發ニ防キ以テ被後見人ヲ保護スルノ方法ナカル可カラス是ニ於テ法律ハ後見人カ其任務ニ就カス又ハ一旦其任務ニ就キタル後ト雖モ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ之ヲシテ被後見人ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノトシ而シテ此場合ニ於テ後見人ハ

其臨時管理人ノ行爲ニ付ヲハ責任ヲ負フ可キモノトシタリ舊民法人事編第一六三條ハ此場合ニ後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲモ負擔ス可キモノト爲シタルモ此費用ハ何人カ管理シタリトテ必ス要スルモノナレハ是レ被後見人ノ財產中ヨリ支辨ス可キモノトシテ後見人ノ負擔ト爲ササリシ所以ナリ而シテ外國ニ於テモ此ノ如キ場合ニ後見人ヲシテ費用ヲ負擔セシムルモノアルヲ見ナルナリ

法律ハ臨時管理人カ被後見人ノ財產ヲ管理スルニ當リ過失アリタルトキハ後見人其責ニ當ル可キモノト爲シタルカ故ニ其過失ヨリ生シタル損害ハ被後見人ハ其過失者ニ對シテ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ後見人ニ對シテモ請求スルコトヲ得可キナリ而シテ此場合ニ於テ後見人カ過失者タル管理人ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得可キハ勿論ナリ

臨時管理人ノ權限ハ被後見人ノ財產ヲ管理ニ止マリ其身分上ノ事ニハ關セラルナリ例へハ教育ノ方法ヲ定メ居所ヲ指定シ又ハ懲戒ヲ爲スコト等ハ管理人ノ權限ニ非ナルナリ又財產ニ關シテモ管理行爲以外ニ於テハ管理人ハ權限ヲ

有セス例へハ被後見人ニ代リテ法律行爲ヲ爲シ又ハ被後見人カ其行爲ヲ爲スニ同意ヲ與フルコトノ如キ是ナリ故ニ若シ後見人カ此等ノ事ニ關シテ其任務ヲ曠クシタルトキハ裁判所ニ請求シテ之ヲ免斷スルヨリ外アラサルナリ(第九〇八條第八號)

○後見人ノ擔保提供ノ義務——第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得債權擔保編第二〇四條第一項第二號第二一七條、第二二七條

本條ハ夫カ妻ノ財產ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認メタルトキ其財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ夫ヲシテ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ規定シタル第百三條ト其趣旨ヲ同シウス蓋シ後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理スルヨリ其過失又ハ故意ニ因リテ被後見人ニ損害ヲ加フ可キ危險アルヲ以テ被後見人保護ノ爲メ親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルモノト爲セリ若シ此規定ナキトキハ後見人カ管理ノ當ヲ失シ又ハ濫ニ被後見人ノ財產ヲ費消シタル場合ニ於テハ後見終了ノ後被

後見人ハ後見人ヨリ其財產ノ返還ヲ受クルコト能ハシシテ損失ヲ受クルニ至ル是ヲ以テ此規定ヲ設ケタリ而シテ本法ニ於テハ此義務ヲ後見人ニ對スル定義務ト爲サシシテ親族會カ必要ト認ムル場合ニ限リ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタルハ最モ實際ニ適セリ然ルニ舊民法債權擔保編第二〇四條及ヒ佛蘭西民法第二一二一條ノ如キハ被後見人ハ妻カ夫ニ對シテ法律上ノ抵當權ヲ有スルト同シク後見人ノ總不動產ノ上ニ當然抵當權ヲ有シ之ヲ登記シテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲シタレトモ常ニ此ノ如クスルトキハ後見人ハ其不動產ノ融通ヲ妨ケラレ其迷惑少ナラナルナリ殊ニ富裕ナル溫厚ノ後見人ニ對シテハ必シモ擔保ヲ供セシム可キ要アラス又其擔保ハ法律上ノ抵當即チ不動產ニ限レルカ故ニ不動產ヲ有セサル後見人ハ擔保ヲ供セサル不可ナルモノニシテ此ノ如キハ被後見人ノ保護トシテハ宜キヲ得サルヲ以テ本法ハ此ノ如キ場合ニ法律上ノ抵當ヲ認メシテ必要ナル場合ニ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタル所以ナリ故ニ或ハ保證人ヲ立テシメ或ハ有價證券ヲ供セシメ或ハ抵當權若クハ質權ヲ設定セシムルコトヲ得可キナリ

○戸主權及ヒ親權ノ代理行使——第九百三十四條 被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリヲ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(後見人ハ未成年者ニ代ハリヲ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス八事編第二五七條)

被後見人カ戸主ナル場合ニ於テ後見ニ付セラル者ニシテ自ラ戸主權ヲ行フコトヲ得トスルハ甚タ道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ後見人代リテ其戸主權ヲ行フコトヲ爲シタリ而シテ父又ハ母カ未成年ノ子ニ代リテ戸主權ヲ行フ場合第八十九五條ニ於テハ父又ハ母ニ對シテ別ニ戸主權ニ制限ヲ設ケナレトモ後見人カ代リテ戸主權ヲ行フ場合ニハ(一)家族ヲ離籍シ(七四五九條第三項、第七五〇條第二項若クハ其復籍ヲ拒ムトキ)第七五〇條第二項(二)家族ノ分家若クハ廢絶家再興ニ同意スルトキ(第七四三條ハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ蓋シ此等ノ場合ハ孰レモ事重大ニ涉ルカ故ニ之ヲ後見人ノ獨斷ニ委セサルコトヲ爲シタルナリ

未成年者カ親ナル場合ニ於テ自身親權ニ服シナカラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノトスルハ戸主權ニ於ケルカ如タ道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代リテ親權ヲ行フコトヲ爲シタレトモ(第八十九五條其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキ場合ニ於テモ自身後見ニ付セラレナカラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルトスルハ同シク不道理ナルヲ以テ此場合ニハ後見人代リテ親權ヲ行フコトヲ爲シタリ而シテ後見人カ親權ヲ行フ場合ハ親カ自ラ之ヲ行フ場合ト異ナリテ種種ノ制限ヲ設ケタリ何トナレハ後見人カ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ場合ニ於テハ未成年者ノ爲メニ其任務ヲ行フ場合ニ於ケルヨリ一層大ナル信任ヲ爲ス可キ謂ハレナキヲ以テナリ故ニ其後見ノ任務ニ付キ設ケタル制限ハ總テ茲ニ準用スルコトト爲シタルナリ

○財產ノミニ關スル後見人ノ權限——第九百三十五條 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財產ニ關スル權限ノミヲ有ス
親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危クシタルトキハ其

管理権ヲ失フコトアリ(第八九七條又親権ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル)第八九九條モノニシテ此場合ニハ第九百條第一號ニ依リ後見ノ開始スルコトハ義ニ説キタリ而シテ此場合ニ於ケル後見人ハ他ノ場合ニ於ケルモノト其權限同シキモノニ非ス普通ノ場合ニ於ケル後見人ハ以上説キタルカ如ク被後見人ノ財產並ニ身上ニ關スル事項ニ付キ權限ヲ有スト雖モ親権ヲ行フ者カ管理権ヲ有セナル場合ニ於テ後見ノ開始シタルトキハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付テハ親権ハ仍ホ完全ニ行ハルルカ故ニ其權限ヲ後見人ニ與フ可キ必要アラナルナリ若シ此場合ニ於テ後見人ニモ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與フルモノトスルトキハ權力二途ニ分レ却テ被後見人ノ不利益タル可キテ以テ後見人ニハ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與ヘス單ニ其財產ニ關スル權限ノミヲ與ヘタル所以ナリ

本條ニ於テ後見人カ有スル權限ハ財產ノ管理ニ止マラス尙ホ其外財產ニ關スル行為ニ付キ被後見人ヲ代表シ及ヒ之ニ同意ヲ與フル權限ヲモ包含スルモノトス故ニ法文ニハ管理権ノミヲ有スト言ハシシテ廣々財產ニ關スル權限ノモ

○有スト言ヘリ

○委任及ヒ親権ニ關スル規定ノ準用—第九百三十六條 第六百四十四條第八

百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用(人事編第一八六條第一九七條、第二〇一條、財產編第三一九條第一項、第五七條第一項)

後見人ニハ委任及ヒ親権ニ關スル規定ノ準用ス可キ必要アルヲ以テ茲ニ之ヲ準用スルコトト爲シタリ

第一 第六百四十四條ノ準用 此條ハ委任ニ關スル規定ニシテ受任者カ委任事務ヲ處理スル場合ニ於ケル注意ノ程度ヲ定メタルモノナリ受任者ハ委任者ニ對シテ其受任ノ事務ヲ處理スルニ當リテハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キモノト爲セリ而シテ後見人モ委任ノ場合ト同シク被後見人ノ爲メニ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ後見ノ事務ヲ處理セナル可カラス後見人カ被後見人ノ爲メニ後見ノ事務ヲ處理スルハ親権者ノ子ニ於ケル夫ノ妻ニ於ケルカ如キ間柄ニ非ス此等親子及ヒ夫婦間ニ在リテハ義ニモ説キタルカ如ク親又ハ夫カ子

又ハ妻ノ爲ミニ車務ヲ處理スルトキ之ニ普通ノ場合ノ如ク十分ナル責任ヲ負ハシムルハ甚タ酷ニ失スルカ故ニ之ヲ恕シテ特ニ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スヲ以テ足レリト爲シタルモ是レ寧ロ普通ノ場合ニ於ケル例外タリ然ルニ後見人ニハ毫モ其責任ヲ輕クスヘキ理由存セサルヲ以テ之ヲ受任者ノ責任ト同一ニ爲シタルナリ被後見人ノ親族ニシテ其後見人タル者アル可ケレトモ其間ハ親子及ヒ夫婦ノ如キ近親ニハ非サルナリ而シテ他人ノ爲ミニ事務ノ管理ヲ爲ス義務アル者ハ原則トシテ善良ナル管理者ノ注意佛蘭西民法ニ於テハ之ヲ善良ナル家父ノ注意ト稱スヲ爲ス可キコトハ近來ノ法律ノ一般ニ是認スル所ナレハ本法ニ於テモ之ヲ採用シタルナリ

第二 第八百八十七條ノ準用 此條ニハ親權ヲ行フ母ノ第八百八十六條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得トアリテ親權ヲ行フ母カ越權ニテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行為ハ取消スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモニシテ之ヲ後見人ニ準用スルカ故ニ後見人カ第九百二十九條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ

被後見人又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得可シ其他後見人カ親族會ノ同意ヲ得ルニ非ナレハ爲スコトヲ得サル行爲ヲ其獨斷ニテ爲シタル場合ハ孰レモ取消スコトヲ得可シ而シテ此場合ニ於テハ無能力者ノ行爲ノ取消ニ關スル規定第一二一條乃至第一二六條ノ準用ス可キモノトス

第三 第八百八十九條第二項ノ準用 此條ニハ「母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其實ヲ免ヘルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラスト」アリテ親權ヲ行フ母ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコトト爲シタルカ故ニ後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テハ其同意ヲ得タルノ故ヲ以テ之ヲ責任ヲ免ヘルコトヲ得サルモノトス而シテ此場合ニ於テモ親權ヲ行フ母ト同シタ後見人ニ過失ナカリシコトヲ證明スルトキハ其責任ヲ免ヘルコトヲ得可キナリ

第四 第八百九十二條ノ準用 此條ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメナル意思ヲ表示シタル場合ニ關スル規定ニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコトト爲シタルカ故ニ第三者カ無償ニテ被

後見人ニ財産ヲ與へ而シテ其管理ヲ後見人ニ爲シシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ノ管理ハ後見人ニ屬セシテ別ニ其第三者ノ指定レタル管理人又ハ第三者カ之ヲ指定セサリシトキハ被後見人其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リテ裁判所カ選任シタル管理人ヲシテ之ヲ管理セシムルモノトス而シテ又第三者カ管理人ヲ指定セシトキ雖モ其管理人ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理人ヲ指定セサルトキモ亦同シク裁判所カ選任シタル管理者ヲシテ管理セシムルモノトス

第四節 後見ノ終了

本節ニ於テハ後見カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ義務及ヒ管理ヨリ生シタル債權ノ特別時效ヲ規定ス

後見終了ノ原因ハ被後見人ニ出タルモノアリ後見人ニ出タルモノアリ其被後見人ニ出タル場合ハ第一死亡シタルトキ第二成年ニ達シ若クハ禁治產ノ宣告ノ取消ナレタルトキ第三他人ノ養子ト爲リタルカ爲メ養親カ親權ヲ行フトキ

第四戸主カ後見人タル場合ニ於テ被後見人カ其家ヲ去リタルトキ是ナリ又其後見人ニ出タル場合ハ第一死亡シタルトキ第二辭任シタルトキ第三免職其他資格ノ欠缺シタルトキ第四第九百二條第一項ノ場合ニ於テ父又ハ母カ家ヲ去タルトキ第五第九百三條ノ場合ニ於テ戸主カ隠居ヲ爲シタルトキ是ナリ而シテ其原因ノ被後見人ニ出タル場合ノ第一乃至第三ハ後見終了ノ絶對ナルモノニシテ復タ後見人アルコトナシ然レドモ其他ノ場合ニ於テハ後見ノ終了ハ絶對ナルモノニ非サレハ總テ後任ノ後見人アル可キモノトス
○計算ノ義務——第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ヘ二ヶ月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得人事編第二〇五條、第二〇七條
他人ノ財産ヲ管理スルトキハ何人ト雖ミ其計算ヲ爲ササル可カラサルヤ言フ
ヲ埃及タル所ニシテ既ニ説キタルカ如ク親權者ニ付テモ其規定アリ(第八九〇條)故ニ後見人又ハ其相續人ニモ此義務ヲ負ハシメタルモノニシテ固ヨリ當然ノ規定ナリ

後見人指定又ハ選定ノモノニ限ルハ第九百二十八條ノ規定ニ從ヒ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ状況ヲ親族會ニ報告スル義務アレトモ計算ノ義務ハ之ト異ナリテ指定又ハ選定後見人ニ限ラス如何ナル後見人ト雖モ總テ其義務ヲ負フモノトス而シテ管理ノ計算ハ後見終了ノ時ヨリ二ヶ月内ヲ以テ原則トス然レトモ被後見人ニ財産夥多アルカ其他正當ノ理由ニテ此期間内ニ計算ヲ爲スコト能ハサルカ如キトキハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得又其反對ニ於テ容易ニ計算ヲ爲スコトヲ得可クシテ二ヶ月ヲ要セスト認メタルトキハ親族會ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

後見ノ職務ハ後見人ノ一身ニ關スルモノナルカ故ニ後見人カ死亡シタルカ如何場合ニ於テ其職務ハ之ヲ相續人ニ承繼セナルヲ原則トスレトモ事務引繼ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ被後見人其相續人又ハ法定代理人カ自ラ其事務ヲ處理スルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲シ又ハ後見ノ任務ヲ繼續セサル可カラナルコト第九四一條ト本條ニ規定スル管理ノ計算ヲ爲スコトハ後見人ノ相續人ニ承繼スルモノトス而シテ此等ノ事ハ被後見人ノ身分ニ關セスシテ

其財産權ニ係ルモノナレハ之ヲ後見人ハ相續人ニ承繼スルコトト爲スハ當然ナリ而シテ此義務ヲ相續人ニ承繼セシムナルコトトスルトキハ後見人カ死亡シタル場合ニ於テハ被後見人ハ常ニ損失ヲ被ル可ケレハナリ

○後見人ノ計算ニ關スル條件第一九百三十八條後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第二〇六條)

後見人カ計算ヲ爲ス可キ場合ニ於テ之ヲ其一己ニ於テ爲ス可キモノトスルトキハ其計算正確ナラナル可ク然ルトキハ他ノ保護規定アルトモ被後見人ノ爲メニ殆ト何等ノ用ヲ爲サナルニ至ル可シ故ニ後見ノ計算ハ必ス後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス可キコトト爲シタル而シテ此場合ニ於テ被後見人其相續人後任ノ法定代理人人ヲ立會ハサシメシシテ後見監督人ノ立會ヲ以テスルコトト爲シタルハ他ナシ此等ノ人ハ被後見人ノ財産ノ實況ニ通曉セナルヲ以テ其計算ノ果シテ正確ナルヤ否ナラ知ルコト極メテ難ケレトモ後見監督人ハ常ニ被後見人ノ財產ノ實況ヲ知悉ス可ケレハ隨テ其計算ノ正否ヲ分別スルコトヲ

御可ケレハナノ

セラル可キカ此場合ニ於テハ後見ノ計算ニ立會フ後見監督人ハ前任者ナルヤ
將タ後任者ナルヤハ別ニ明文ヲ以テ之ヲ定メスト雖モ此場合ニ於テハ前任後
見監督人ノ立會ヲ以テス可キモノトス何トナレハ前任後見監督人ニ非サレハ
財産ノ實況ヲ知悉セサルモノニシテ且ツ後見監督人ハ後見人ノ管理ノ計算ヲ
終ルマテハ其任務未タ完カラサルモノナリ

本條ノ條件ハ絶對ノ條件ニシテ若シ之ヲ缺キタルトキ即チ後見監督人ノ立會
ナクシテ爲シタル計算ハ計算トシテ效力ヲ有セス故ニ此場合ニ於テハ前任後
見人又ハ其相續人ハ更ニ後見監督人ノ立會ヲ以テ計算ヲ爲サナルヲ得ス
後見カ被後見人ノ爲ニ終了シ後見人ノアラナル場合ニ於テハ後見人カ
後見監督人ノ立會ヲ以テ爲シタル計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ
爲スモノナルカ故ニ本人又ハ其相續人ニ於テ之ヲ審査スルヲ以テ其計算ニシ
テ正確ナラサルトキハ之カ救濟ヲ求ムルコトヲ得可シ是ヲ以テ此場合ニハ別

○後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルノ必要ナキモノトスニ反シテ後見人ノ更迭アリタル場合即チ被後見人ノ爲メ後見未タ終了セス後任後見人カ前任後見人ニ交替シタル場合ニ於テ前任後見人カ爲ス計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ爲スモノニ非スシテ後見事務引續ノ爲メ後任後見人ニ對シテ爲スモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ前後ノ後見人共謀スルトキハ私曲ヲ爲スコトヲ得可キ處アルヲ以テ計算ノ審査ハ後任後見人ノミニ委セシシテ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要スルモノトシテ被後見人ノ利益ヲ保護セリ

○計算終了前ニ成年ニ達シタル者カ後見人ニ對シテ爲シタル契約及ヒ單獨行為ノ效力—第九百三十九條 成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行為亦同シ第十九條及ヒ第一百二十一條乃至第一百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(入事編第二〇〇八條)

未成年者カ僅(年生ニ達シタル者)又ハ其智能モ元氣又ハ精神モ自由モ無

ク後見人ノ禦絆ノ下ニ在リテ未成年者ハ之ヲ脱シタル後ニ在リテモ其威嚴ニ制セラルルハ人情ノ免レナル所又久シテ後見ニ付セラレ自ラ其財産ヲ自由ニスルコト能ハサリシ者カ成年ニ達シテ述ニ其財産ヲ利用シ又ハ浪費セント欲スル者多キハ是レ亦人情ノ免レサル所ナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シタル際ニ在リテハ金錢其他ノ財産ノ引渡フ受ケント欲スル念切ナルヨリ後見人ニ對シテ自己ニ如何ナル不利益ナル契約ヲ爲スヤモ圖リ知ル可カラナルナリ例ヘハ未成年者タリシ者ノ不動産ヲ廉價ニテ後見人ニ譲渡シ又ハ後見人ヨリ些少ノ金額ヲ受取リテ其計算其他一切ノ責任ヲ免除スル契約ヲ爲ス如キ是ナリ而シテ此危險ハ後見任務ノ繼續中ニ於ケルト毫モ異ナルコト非ナルナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シ能力ヲ取得シタル後ト雖モ後見ノ計算ニシテ未タ終了セナルトキニ在リテハ被後見人タリシ成年者又ハ其相續人ト後見人トノ間ニ爲シタル契約及ヒ其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲權利ノ拋棄追認等ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シタリ

以上ノ場合ニ於テ外國ノ立法例ニ於テハ取消スコトヲ得可キ法律行爲ノ性質

ヲ限定シタルモノアレトモ實際其性質ヲ區別スルコト難キノミナラス各種ノ行爲皆多少ノ危險ヲ存スルカ故ニ寧ロ「一切ノ行爲ノ取消ヲ許スコトト爲スノ儻レルニ如カサルモノトシ本法ニ於テハ一切ノ行爲ノ取消ヲ許シタルナリ」本條ノ取消ハ當事者双方ヨリ請求スルコトヲ得ルモノニ非スシテ被後見人タリシ者ニ限ル是レ本條ニ於テ被後見人タリシ者ノ利益ヲ保護スル趣旨ハ無能力者ノ爲シタル行爲ノ取消ヲ其無能力者ノミニ許シ之ヲ其相手方ニ許サルト同一ナリ

本條ノ規定ハ後見終了ノ總テノ場合ニ適用ス可キモノニ非ス(一)未成年者ノ後見ニ限ル故ニ禁治產者ノ後見ニハ適用セサルナリ(二)後見カ成年ニ達シタルニ因リテ終了スルコトヲ條件トス故ニ被後見人ノ死亡ニ因リテ後見ノ終了シタル場合又後見人ノ死亡・辭任又ハ免職等ノ場合ニモ適用セサルモノトス本條ニ規定スル被後見人ノ取消權ハ無能力者ノ取消權ニ非スト雖モ其性質之ニ酷似スルカ故ニ後見人又ハ其相續人カ其追認ヲ求ムルノ權利取消ノ效力追認ノ效力・取消及ヒ追認ノ方法・取消權ノ特別時效等ニ關シテハ無能力者ノ行爲

又ハ瑕疵アル意思表示ノ取消ニ關スル總則編第一九條及ヒ第一二一條乃至第
一二六條ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタリ而シテ茲ニ適用スト言ハスシテ準
用スト言ヒタルハ他ナシ右ノ法條ハ主トシテ無能力者ノ行爲ニ關シタルモノ
ナレトモ本條ハ未成年者カ成年ニ達シ既ニ能力者ト爲リタル後ノ行爲ノ取消
ニ關シ其間ニ稍ヤ異ナル所アルヲ以テナリ

○金錢返還ノ義務及ヒ此義務ヲ怠リタル場合ノ制裁——第九百四十條 後見人
カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後
見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス後見人カ自己ノ爲メニ被後見
人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費シタル時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要
ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス(人事編第二一〇條)
後見ノ管理ノ計算終了シタルトキハ後見人及ヒ被後見人ハ各直チニ其返還ス
可キ金額ヲ拂渡ス可キモノナルヲ以テ若シ之ヲ怠ルトキハ其後見人ヨリ被後
見人ニ返還ス可キ金額ト被後見人ヨリ後見人ニ立替金等ヲ返還ス可キトヲ區
別スルコトナク孰レモ計算終了ノ時ヨリ當然之ニ利息ヲ附スルコトトセリ舊

民法人事編第二一〇條伊太利民法及ヒ佛蘭西民法第四七四條等ハ後見人ヨリ
返還ス可キモノト被後見人ヨリ返還ス可キモノトニ付キ區別ヲ爲シ後見人ヨ
リ被後見人ニ返還ス可キ金額ニ對シテハ計算終了ノ時ヨリ當然利息ヲ生スル
コトト爲シ其被後見人ヨリ後見人ニ返還ス可キ金額ニ對シテハ計算終了後後
見人ノ催告ヲ受ケタル時ヨリ利息ヲ生スルコトト爲シタレトモ被後見人ト後
見人トノ間後見關係ノ全ク絶ヘタル後ニ在リテモ此ノ如キ差異ヲ設タルハ公
平ヲ缺クヲ以テ本法ニハ右ノ區別ヲ採用セザリシナリ
後見人ハ被後見人ノ金錢ヲ保存シ又ハ被後見人ノ爲メニ之ヲ利殖ス可キモノ
ニシテ自己ノ爲メニ之ヲ消費スルコトハ許サレサル所ナリ然ルニ之ニ拘ラス
後見人カ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其計算終了後此場合ハ利息ニ付
テハ第一項ノ規定ニ依ルニ係ルト其以前ニ係ルトヲ問フコトナク不法行爲ニ
屬スルヲ以テ敢テ計算ノ終了ヲ待フコトナク其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附シ
尙ホ其外損害アリタルトキハ之ヲモ賠償ス可キ責ニ任セシムルハ固ヨリ當然
ナリ故ニ例へハ被後見人カ後見人ノ保存スル金額ヲ以テ或會社ニ對シ株金ノ

拂込ヲ爲ス可キ場合ニ於テ後見人カ其金錢ヲ消費セシヨリ會社ニ拂込ム可キ
金額ナク爲メニ株式ヲ競賣セラレテ損害ヲ被リタルトキハ後見人ハ右法定利
息ノ外尙ホ其損害ヲ賠償セナル可カラス是レ不法行爲ノ原則ヨリ生スル當然
ノ結果ナリト雖モ本條第一項ニ於テ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附ス可キ旨ヲ規
定シタルカ故ニ後見人カ消費シタル場合ニ於テヨリ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附
スレハ他ニ最早賠償ノ責ナキカ如キ疑ラ生スルヲ以テ此疑ヲ豫防スルカ爲メ

ニ第二項ノ規定ヲ設ケタルナリ

本條ノ規定ハ金錢ヲ返還ス可キ場合ニノミ適用セラルモノニシテ其他ノ財
産ヲ返還ス可キ場合ニハ適用セサルナリ而シテ金錢以外ノ財産ヲ消費シテ後
見人カ返還ヲ爲サス若クハ之ヲ遲延シタルトキハ損害賠償ニ關スル原則ノ適用
用ヲ受クルノミ

○後見事務引繼ノ義務——第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五
條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス人事編第二〇二條乃至第二〇四條
法律ハ後見終了ノ場合ニ委任終了ノ場合ニ關スル第六百五十四條及ヒ第六百

五十五條ノ規定ハ法律上ノ代理人タル後見人ニ當然適用セラル可キモノニ非
サレトモ其性質上同一規定ニ依ル可キモノナルヲ以テ委任ニ關スルモノヲ茲
ニ準用スルコトト爲シタリ故ニ(一)委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アリトキ
ハ受任者其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ委任事
務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス而シテ
此場合ニ於ケル後見人其相續人法定代理人ノ權限ハ極メテ狹隘ナルモノニシ
テ後見人トシテ其任務ヲ行フニ非サルカ故ニ後見ニ關スル規定ヲ適用ス可カ
ラサルヲ原則トスルナリ(二)委任終了ノ場合ニ於テ其終了ノ事由カ其委任者ニ
出テタルト受任者ニ出タルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之
ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルカ如ク
後見終了ノ場合ニ於テモ其終了ノ事由カ後見人ニ出タルト被後見人ニ出ア
タルトヲ問ハス之ヲ他ノ一方ニ通知シ又バ他ノ一方カ之ヲ知リタルニ非サレ

ハ之ヲ以テ他ノ一方ニ對抗スルコトヲ得ス例へハ後見終了ノ事由カ被後見人
ヲ方ニ生シタルトセンカ此場合ニ於テ後見人ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ後見人カ之ヲ知ルカ又ハ本人、相續人又
ハ其法定代理人ヨリ後見人ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ後見人カ之ヲ知ルカ又ハ本人、相續人又
シテ爲シタル行為ニ付キ其越權ヲ咎ムルコトヲ得サルナリ後見終了ノ事由カ
後見人ノ方ニ生シタル場合モ亦同シク被後見人相續人又ハ法定代理人人カ之ヲ
知レルカ又ハ後見人若クハ其相續人ヨリ其通知ヲ爲スニ非サレハ後見ノ終了
ヲ理由トシテ後見人ノ盡ス可キ義務ヲ盡ササリシニ因リテ生ス可キ責任ヲ辭
スルコトヲ得サルナリ

本條ノ規定モ基ニ第九百三十七條ニ付キ説キタルカ如ク後見ノ任務ハ後見人
ノ一身ニ止マリテ其相續人ニ移轉セサルヲ原則トスレトモ被後見人ノ利益保
護ノ爲メ必要上此例外ヲ設ケタルナリ
○後見ニ關スル債權ノ時效—第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時
效ハ後見人後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生
シタル債權ニ之ヲ準用ス前項ノ時效ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行

爲テ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス(人事編第二一一條)
後見人後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル
債權ハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ト其子トノ間ニ財產管理ニ付キ生シタル債
權ト其性質同一ナルヲ以テ其時效ニ付テモ之ト同一ノ規定ニ從ハシムルコト
ト爲シ第八百九十四條ニ規定シタルヲ時效ヲ茲ニ準用スルコト爲シタリ即
チ被後見人カ能力者ト爲リタル時若クハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨ
リ時效ニ罹ルナリ而シテ本條ニハ廣ク後見ニ關シテ生シタル債權トアルカ故
ニ後見人ニ對シテ計算ヲ請求スル權ハ勿論管理ノ計算ノ結果後見人ヨリ被後
見人ニ返還ス可キ金額其他後見人カ其職務ヲ怠リタルニ因リテ被後見人ニ對
シテ生シタル損害賠償又ハ被後見人ヨリ後見人ニ支拂フ可キ生活費教育費管
理ノ費用等被後見人ヨリ後見人ニ對スル債權タルト後見人ヨリ被後見人ニ對
スルモノトヲ問ハス後見ニ關シテ生シタル債權ハ皆此中ニ包含スルモノトス
又後見監督人又ハ親族會員カ被後見人トノ間ニ於ケル債權モ亦同シキナリ
後見終了ノ後管理ノ計算ヲ終ラサル以前ニ於テ被後見人ト後見人ト爲シタル

契約又ハ被後見人カ後見人ニ對シテ爲シタル單獨行為ヲ第九百三十九條ノ規定ニ依リ取消シタルニ因リテ債權ヲ生シタルトキハ其債權ノ時效ハ第一項ノ規定ニ從フコト能ハサルヲ以テ特ニ第二項ヲ設ケ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算スルコトシタリ

○保佐ニ關シテ生シタル債權ノ時效——第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス
保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ノ保佐ニ於ケル關係ハ恰モ後見人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ノ後見ニ於ケル關係ニ同シキカ故ニ其關係ニ依リテ生シタル債權ノ時效ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ

第七章 親族會

親族會トハ之ニ依リテ保護セラル者ノ親族其他之ト緣故アル者ヲ以テ組織スル機關ニシテ其者又ハ其家ニ重大ナル關係アル事項ヲ議決スルモノナリ而シテ從來ニ於テハ被後見人ノ不動產ヲ讓渡スコトニ付キ親族ノ連署ヲ要ス可

キコトヲ明治十六年内務省番外達此達ハ一般人民ヲシテ遵守セシム可キ效力ヲ有セヌヲ以テ定メテヨリ以來後見人ノ不動產ヲ讓渡ストキハ親族ノ連署ヲ要スルコトノ慣習ヲ生シ若シ之ナキモノハ其讓渡ハ取消スコトヲ得可キモノトセリ又父又ハ母カ選定シタルニ非シテ被後見人ノ爲メニ後見人ヲ選任ス可キ場合ニハ親族相集リテ之ヲ選任ス可キ慣習モアリタレトモ是レ皆一ノ慣習タルニ過キスシテ從來ハ法律上親族會ノ認メラレタルモノ絶ヘテ之ナカリシモノニシテ民法ノ此規定ハ我邦ニ於テ法律ヲ以テ親族會ヲ認メタルノ嚆矢トスルナリ

本章ノ規定ハ法律若クハ命令ノ規定ニ依リ開ク可キ一切ノ場合ニ適用セラルモノトス故ニ本法ニハ之ヲ一章ト爲シタレトモ舊民法(人車編第一七一條乃至第一七七條其他外國ノ立法例ニハ之ヲ後見ノ機關トシテ規定スルモノ多シト雖モ獨リ後見ノ場合ニ限ラズ其他ノ場合ニ於テモ同一ノ規定ニ從フ可キモノナルカ故ニ本法ニハ右ノ如ク一章ト爲シタルモノ

○親族會ノ招集——第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開

タヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス(人事編第一七二條第一七三條第一七六條第一七七條非訟事件手續法第九六條乃至第九八條)
親族會ノ招集ニ付テハ外國ニ於テモ裁判所之ヲ招集スルモノ多キカ故ニ本法ニ於テモ亦其例ニ倣ヒ親族會ハ無能力者ノ爲メニスルモノト其他ノ者ノ爲メニスルモノトヲ問ハス之ヲ招集スルニ當リテハ必ス裁判所之ヲ招集ス可キモノトセリ唯無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回ヲ限り裁判所之ヲ招集シ其以後ニ於テハ會議ヲ要スル毎ニ會員其他ノ者ヨリ之ヲ招集スルモノトセリ無能力者ニ非サル者ノ爲メニ親族會ヲ開ク可キ場合ハ成年ノ子第七百七十二條ニ規定セル成年者ニ限ルカ婚姻ヲ爲サントスルニ當リ繼父母又ハ嫡母カ同意ヲ爲サナルトキ(第七七三條滿第二十五年ニ達セサル子カ協議上ノ離婚ヲ爲ストキ第八〇九條成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ル場合ニ於テ繼父母又ハ嫡母カ同意ヲ爲サナルトキ第八四三條第八四六條成年ノ子カ協議上ノ離縁ヲ爲スニ當リ右ノ親カ同意ヲ爲サナルトキ第八六三條ノ如キ是ナリ

無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ト其他ノ者ノ爲メニ設ケタル親族會トノ間ニ存スル差異ヲ解説センニ無能力者ノ爲メニハ屢々開會ス可キ必要アルヲ以テ最初一回裁判所之ヲ招集シ其以後ニ於テハ最初裁判所カ定メタル會員ハ其資格ヲ失フマテハ長ク之ヲ繼續スレトモ無能力者以外ノ者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ屢々之ヲ開ク可キ必要ナキヲ常トスレハ會議ヲ要ス可キ事件ノ生シタル度毎ニ其會員ハ裁判所ニ於テ選定セラルルモノナルカ故ニ此會員ハ毎會變更スルコトアル可ク而シテ其招集ハ既ニ說キタルカ如ク必ス裁判所ニ於テ爲サナル可カラサレトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初ノ一回ヲ除キ次回ヨリハ裁判所ノ手ヲ煩ハスコトアラサルナリ

招集ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ會議ヲ要スル事件ノ本人(例ヘハ無能力者ノ爲メニ開ク可キ場合ニ於テハ其者ナリ)本人ノ家組ヲ爲サントスル成年ノ子ノ爲メニ開ク可キ場合ニ於テハ其者ナリ)本人ノ家ノ戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、準禁治產者ノ爲メニ開ク可キ場合ニ限ル)公益ノ代表者タル檢事及ヒ其利害關係人等是ナリ而シテ法律ハ廣ク利害關係

人ニモ親族會ノ招集ヲ請求スルコトヲ許シタルカ故ニ被後見人ノ親族及ヒ公私益ノ保護者タル者ニ限ラス何人ト雖モ親族會ノ招集ニ付キ利害關係ヲ有スビコトヲ證明スルトキハ其招集ヲ請求スルコトヲ得可シ例へハ被後見人ノ不動產ヲ買受ケント欲スル者ハ後見人カ其賣買ヲ承諾シタルニ拘ラス親族會ノ招集ヲ爲サナルトキハ其買主ハ自ラ之カ招集ヲ請求スルコトヲ得可キナリ○親族會員ノ選定及ヒ其員數——第九百四十五條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス(後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得人事編第一七一條第一項第一七四條)

親族會員ノ員數ニ付テハ外國ノ立法例ニ於テハ或ハ之ヲ一定スルモノアリ或ハ之ヲ一定セザルモノアリ佛蘭西民法第四〇七條ハ會長治安裁判所判事ノ外六人トシ獨逸民法第一八六〇條ハ會長ノ外二人以上六人以下トセリ而シテ兼メ其員數ヲ定ムルトキハ其人員ヲ得難キコトアル可ク又ハ其人員ヨリ多クノ員數ヲ以テ組織スルヲ要スル場合モアル可シ故ニ本法ニ於テハ單ニ其最少限

ノミヲ定メ之ヲ三人以上ト爲シ其最多限ニ付テハ制限ヲ設ケサリシナリ故ニ七人若クハ十人ノ會員ヨリ組織センコトヲ希望スルトキハ裁判所之ヲ必要ト認メタル場合ニ於テハ以上ノ如キ員數ヨリ成立スルコトアル可キナリ其會員タル者ハ親族タルヲ常トシ多クハ最近ノ親族タル可シト雖モ之ヲ親族ニ限ルコトト爲ストキハ親族少キ者ハ三人以上ノ親族ヲ得難キコトアリ故ニ其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ト爲シタリ法律ニハ會員ニ充ツ可キ親族ノ不十分ナルトキニ非サレハ會議ヲ要スル本人又ハ其家ニ緣故アル者ヲ選定スルコトヲ得スト規定セサルヲ以テ會員ニ充ツ可キ親族ノ員數十分ナルトキト雖モ最初ヨリ縁故アル者ヲ選定スルコトノ妨アラナルナリ而シテ其會員ハ裁判所之ヲ選定スルモノトス(非訟事件手續法第九六條乃至第九八條)

本人ニ縁故アル者トハ其友人其雇主若クハ雇人其父母ノ友人等ノ如キ是ナリ其家ニ縁故アル者トハ本人ニハ何等ノ關係ナシト雖モ本家分家同家舊蓄主ト藩臣ノ間柄商家ニ於テ暖簾分ケラ受ケタル家ト其主家トノ如キ其先代ノ友人等是ナリ

親族會員ノ選定ハ以上ノ如ク裁判所之ヲ爲スヲ本則ト爲スト雖モ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者即チ第九百一條ニ規定スル者未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者若クハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得ルモノトセリ若シ此選定權ヲ有スル者カ會員ノ全部ヲ選定セナルトキハ裁判所ニ於テ其殘員ヲ選定スルモノトス而シテ此遺言者カ親族會員ヲ選定スルニハ普通ノ場合ノ如ク被選者ニ付キ制限ナキヲ以テ親族ニ非サル者其他本人又ハ家ニ何等ノ關係ナキ者ヲ選定スルコトヲ得可キナリ

普通ノ場合ニ於テ招集セラレタル親族會ハ其會議ノ議決ヲ終了シタルトキハ之ニ因リテ當然解散シ其會員ハ之カ資格ヲ失フモノニシテ其後更ニ親族會ヲ招集スル必要ヲ生シタルトキハ更ニ其會員ヲ選定スルモノトス然レトモ無能力者ノ爲ミニハ屢々親族會ヲ招集スル必要アルカ故ニ此親族會ニ限リテハ其無能力ノ止ムマテ會員裁判所ノ選定シタル者ト遺言ヲ以テ選定セラレタル者ト

ヲ問ハスノ資格ハ繼續スルモノトス(第九四九條)

親族會ヲ招集ス可キ場所ハ法律ヲ以テ別ニ之ヲ定メサルカ故ニ裁判所ノ見込ヲ以テ或ハ之ヲ裁判所内ニ於テシ或ハ他ノ場所ヲ定メ或ハ會員ノ協議ニ任スルコトヲ得可シ而シテ本法ニ於テハ裁判所カ親族會ニ干渉スルハ單ニ之ヲ招集スルニ過キサル(無能力者ノ爲ミニ設ケタル親族會ハ最初一回ノミ裁判所之ヲ招集スモノニシテ獨逸其他ノ立法例ノ如ク判事ハ其會議ニ關係ヲ爲サナルカ故ニ實際ニ於テハ裁判所内ニ於テ會議ヲ開クコトハ極メテ稀ナル可シ

○親族會員タル義務ノ免除及ヒ其不能力—第九百四十六條 遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得後見人後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス(第九百八條)ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス(人事編第一八〇條乃至第一八二條)

本條ニ於テ親族會員タルコトヲ辭シ得ル原因及ヒ親族會員タルコトヲ得ナル原因ヲ規定シタリ親族會員タルコトハ後見人及ヒ後見監督人タルコトノ義務ノ如ク法律上ノ強制負擔ナリ而シテ後見人及ヒ後見監督人ニ付テハ異ニ説キタルカ如ク第九百七條ニ於テ後見人タルコトヲ辭シ得ル原因後見監督人亦同

シ第九百八條ニ於テ後見人タルコトヲ得ナル者後見監督人タルコト亦同シヲ規定シタルモ後見人ト親族會員トハ其性質ヲ異ニスルカ故ニ後見人ニ關係右ノ規定ヲ直チニ茲ニ準用スルコトヲ得ス今法律カ後見人ノ規定ト區別シタル理由ヲ左ニ叙述セント(一)後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定シタルモノハ五箇アレトモ親族會員ハ後見人ノ如ク繁忙ナルモノニ非ス亦其責任モ後見人ノ如ク重大ナラナルカ故ニ其原因ヲ極メテ縮少シ唯遠隔ノ地ニ居住スル者ト其他正當ノ事由アル者(後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ル第五ノ原因トニ親族會員タルヲ辭スルコトヲ許セリ)法律カ遠隔ノ地ニ居住スル者ニ親族會員タルコトノ義務ヲ免除シタルハ若シ此ノ如キ者ニ強テ會議ニ列セシメント欲スルコトキハ時日ト費用トヲ要シ其者ノ爲メニハ重大ナル負擔タルコトアルヲ以テナリ故ニ後見人カ任務ヲ辭スルコトヲ得ル原因トシテ規定セル(二)軍人トシテ現役ニ服タルコト(二)後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト其他第九百七條第三號及ヒ第四號ノ事由ハ法律ハ之ヲ正當ノ原因ト認メサリシヲ

以テ此等ノ事由アリト雖モ當然親族會員タルコトヲ辭スルヲ得ス然レトモ此等ノ事由アリタルキ若シ裁判所ニ於テ之ヲ正當ノ事由ト認メタルトキハ之ニ因リテ其會員タルヲ辭スルコトヲ得可シ而シテ如何ナル事由カ正當ナルヤハ一一裁判所ノ査定ニ任セリ(非訟事件手續法第一〇〇條第一〇一條)

(三)親族會員タルヲ得サルコトニ付テハ後見人タルコトヲ得サル規定第九〇八條ヲ茲ニ準用スルコトシタルカ故ニ(一)未成年者(二)禁治產者及ヒ準禁治產者(三)剝奪公權者及ヒ停止公權者(四)裁判所ニ於テ免點セラレタル法定代理人又ハ保佐人(五)破產者(六)會議ヲ要スル事件ノ本人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族七行方ノ知レサル者(八)裁判所ニ於テ親族會員タルコトニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ヒ著シキ不行跡アリト認メタル者等ハ親族會員タルコトヲ得サルナリ而シテ此外尙ホ後見人後見監督人及ヒ保佐人モ親族會員タルコトヲ得サルモノトス是レ他ナシ此等ノ者ハ或テ親族會ノ監督ヲ受ク可ク或ハ親族會ト相俟チテ監督ノ機關タル可キ者ナガルカ故ナリ但シ此等ノ者ハ第九百四十八條ニ規定スルカ如ク親族會ニ於テ自己ノ意見ヲ陳述

スルコトヲ得可キナリ

○親族會ノ決議——第九百四十七條　親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ
決ス會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス(人事
總第一七五條)

親族會ノ議事ハ會員ノ一致ヲ以テ決セントスルモ其一致ヲ得ルハ困難ナル可
ク又四分ノ三若クハ三分ノ二トスルカ如キハ細密ニ失スルヲ以テ本法ニ於テ
ハ過半數ヲ以テ決スルコトシタリ故ニ例へハ會員三名ナルトキハ二名ノ一
致アルコトヲ要シ若シ會員五名ナルトキハ三名以上ノ一致アルコトヲ要ス而
シフ本條ニハ會員ハ過半數ヲ以テ決ストアルカ故ニ會議ニ出席シタル會員ノ
員數ヲ問フコトヲ要セサルモノニシテ會員ノ過半數出席スルニ非ナレハ決議
ヲ爲スコトヲ得サルナリ是ヲ以テ出席會員過半數ニ充タサルトキハ如何ニ急
ヲ要スル場合ト雖モ如何トモスルコト能ハナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ
第九百五十二條ニ依リ會員ハ其決議ニ代ル可キ裁判所爲スコトヲ裁判所ニ請
求スルヨリ外アラサルナリ

後見人後見監督人及ヒ保佐人ニ非サル者ハ親族會員タルコトヲ得レトモ其議
事ニシテ自己ノ利害ニ關係ヲ有スルトキハ之カ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
若シ此ノ如キ制限ヲ有サルトキハ自己ノ利害關係ヲ有スル會員ハ會議ヲ要
スル本人ノ利益ヲ圖ラスシテ専ラ自己ノ利益ノミヲ圖ル可キハ人情ノ常ナル
ヲ以テ此ノ如キ者ハ其議事ノ表決ノ數ニ加ハルコトヲ許ササルモノトセリ例
ヘハ無能力者ノ不動產ヲ買受ケントスル親族會員ハ第八百八十六條ノ親族會
ノ決議ニ加ハルコトヲ得サルカ如キ是ナリ

○親族會ニ於テ意見ヲ述フルコトヲ得ル者——第九百四十八條　本人戸主家ニ
在ル父母配偶者本家並ニ分家ノ戸主後見人後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ
規定セリ蓋シ本人戸主家ニ在ル父母配偶者本家並ニ分家ノ戸主後見人後見監
督人及ヒ保佐人等ハ皆親族會ノ議事ニ付キ重大ナル利害關係ヲ有スルヲ常ト

スルカ故ニ親族會ニ列シ意見ヲ述フルコトヲ得ルコトセリ然レトモ唯其意見ヲ述フルニ止マリ表決ニ加ハルコトヲ得ナルコトハ言フタゞタルナリ而シテ此等ノ事ハ以上ノ如ク意見ヲ述フル權ヲ有スルカ故ニ其意見ヲ述フル機會ヲ得セシメンカ爲メニ親族會ヲ招集スル毎ニ必ス之ヲ此等ノ人ニ通知スルコトヲ要スルモノトセリ故ニ此等ノ者ニ親族會招集ノ通知ナクシテ親族會ヲ開キタルトキハ此等ノ者分家ノ戸主ヲ除クハ第九百五十一條ニ依リ其決議ニ對スル不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得可キナリ

○無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ニ第九百四十九條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人其法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員之ヲ招集ス人事編第一七二條)

親族會ハ獨リ無能力者ノ爲メニ設ケルニ非ス其他ノ場合ニ於テモ招集スルコトアル可シト雖モ其場合ハ極メテ稀ナルカ故ニ會議ヲ要スル事項ヲ議了シタルトキハ直チニ解散ス可キモノニシテ是ニ第九百四十四條ニ於テ叙述シタル

カ如ク其會員ハ當然其資格ヲ失フ故ニ其後ニ於テ更ニ會議ヲ要スルコト生ジタルトキハ更ニ會員ヲ選定シテ之ヲ招集スルモノトス然レトモ無能力者未成年者禁治產者草禁治產者ノ爲メニハ屢々親族會ヲ開ク可キ必要アルカ故ニ其招集ノ度毎ニ裁判所ヲシテ其會員ヲ選定セシメ其招集ヲ爲サシムルハ煩ニ堪ヘナルナリ是ヲ以テ此場合ニ於テハ親族會ハ無能力ノ繼續スル間繼續スルモノトシ最初一旦裁判所ニ於テ之ヲ招集シタル後ハ無能力者カ成年ニ達シ或ハ其能力ヲ回復スルニ至ルマテ會員ハ其資格ヲ繼續シ會議ノ都度改選セサルコトトセリ而シテ普通ノ場合ニ於テハ招集ノ都度裁判所親族會ヲ招集スルヲ常トスレトモ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初一回限り裁判所之ヲ招集シ其後ニ於テハ本人其法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員ヨリ之ヲ招集スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ招集ノ場所ノ如何ニ付テハ是ニ第九百四十四條ニ付キ之ヲ叙述シタルトキハ今復タ叙述セナルナリ

○親族會員ノ補缺選定 第九百五十條 親族會員ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ヲ選定フ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス非訛事件手續法第九九條

無能力者以外ノ者ノ爲ミニ設ケタル親族會ハ其議事ノ終ルト同時ニ解散スルモノナルヲ以テ其會ノ繼續中ニ缺員ヲ生スル場合稀ナル可シト雖モ此場合ニ於テモ缺員ノ生スルコト全ク之ナシトセス無能力者ノ爲ミニ設ケタル親族會ハ無能力ノ繼續スル間繼續スルカ故ニ其會員ニ缺員ヲ生スルコト屢ナル可シ然ルニ其都度其會ヲ解散シテ新ニ總會員ヲ選定スルハ理由ナキヲ以テ此場合ニ於テハ會員ヨリ單ニ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要スルモノトシタリ而シテ補缺員ヲ選定スルコトヲ得ル者ハ或ハ一般ノ親族ナリトシ或ハ親族會ノ會長トセントスルモノアリ或ハ親族會トスルモノアリト雖モ本法ハ其會員ヨリ之ヲ選定ノ請求ヲ爲スコトシタリ

親族會員ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ其議事ヲ中止セナル可カラサルモノニシテ若シ補缺員ノ選定アラサル間ニ在リテ會議ヲ繼續シタルトキハ縱令其員數三人以上ナリト雖モ其會議ハ有效タラサル可キナリ例ヘハ親族會員七人ナル場合ニ於テ其中一人ハ死亡シ一人ハ辭任シ五人ト爲リタルトキハ第九百四十五條ニ規定シタル員數ニ滿ツルト雖モ選定者ニ於テ會員ヲ七人ト定メタ

ル場合ニ於テハ其員數ハ必ス七人アルコトヲ要スルカ故ニ此場合ニ二人ノ缺員アルトキハ其會議ハ有效ナラサルモノトス

○親族會ノ不當決議ニ對スル救濟法—第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シテハ一个月内ニ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

本條ニ於テハ親族會ノ決議ニ對シテ不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ許セリ本法ニ於テハ裁判所ハ親族會ノ招集及ヒ其會員ノ選定ニ付キ干涉スルニ止マリ其議事ノ如キハ全ク之ヲ親族會ニ一任シ毫モ之ニ干涉セサルヲ以テ親族會カ如何ニ不當ナル決議ヲ爲スヤモ計リ知ル可カラサルナリ而シテ外國ノ立法例ニ於テハ裁判官親族會ノ議長ト爲リ之ヲ監督スルニ拘ラス其決議ニ對シテ不服ヲ訴フルコトヲ許セリ況ヤ我邦ノ如ク裁判官カ親族會ニ干涉セサルニ其決議ニ對シテ不服ヲ訴フルコトヲ得ナルモノトシタリ而シテ其不服ヲ唱フル方法ハ訴

訴ヲ以テセザル可カラナルモノニシテ其提起ノ期間ニ付テハ制限ヲ設ケタリ
若シ親族會ノ決議ニ對シテ期間ノ制限何時マテモ例へハ決議アリテヨリ三年
若クハ五年ノ後ニ至リ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノト復セザルヲ得ナルニ
タル事項ヲ再ヒ問題トシ又ハ既ニ執行シタル事項ヲ舊ニ復セザルヲ得ナルニ
至ル可キヲ以テ決議後一个月内ニ其不服ヲ訴フ可キコト爲シタリ
本法ニハ親族會ニ出席セザル會員ニ會議ノ結果ヲ通知ス可キ規定ナク而シテ
訴ヲ提起スル期間ハ決議ヲ知リテヨリト非ナルヲ以テ開席シタル會員カ其決
議ヲ知ラサルニ拘ラス訴ノ提起ノ期間ハ其決議ノ時ヨリ起算ス可キモノニシ
テ會員カ其決議アリタルコトヲ知ル前ニ其期間ノ経過スルカ如キ不都合ノ生
スルコトアル可シ殊ニ二三ノ會員カ申合セ他ノ一二ノ會員ニ招集ノ通知ヲ爲
サヌシテ會議ヲ開キ而シテ不當ノ決議ヲ爲シタル場合ノ如キハ訴訟提起ノ期
間ハ招集ノ通知ヲ受ケサル會員カ決議ノアリタルニトヲ知ラサル間ニ経過ス
ルコト多カル可クシテ之ヲ救濟スル途ナキハ缺點ト云ハサル可カラサルナリ
不服ヲ申立フ可キ裁判所ノ管轄ハ非訟事件手續法第九十六條乃至第九十八條

二之ヲ規定セリ

○親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル救濟法—第九百五十二條

親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲

スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得人事編第一七六條

親族會員カ旅行疾病其他ノ事由ニテ開會スルヲ得サルコトアリ或ハ會議ヲ開
クモ過半數ヲ得サルコトアリテ之カ爲メニ必要ノ決議ヲ爲ス能ハサルトキハ
會員ヨリ其決議ニ代ハル可キ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモ
ノトセリ是レ會議ヲ要スル本人保護ノ爲メニ至當ノ規定ナリ而シテ此請求ヲ
爲スコトヲ得ル者ハ會員ニ限リ其他ノ親族後見人等ハ此請求權ヲ有セサルナ
リ然レトモ裁判所カ親族會ノ決議ニ代ハル可キ裁判ヲ爲シタルトキハニ對シ
テ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ此抗告ハ獨リ親族會員ニ限ラス第九百四
十四條ニ掲ケタル者即チ本人戸主親族後見人後見監督人保佐人檢事又ハ利害
關係人ヨリモ爲スコトヲ得ルモノトス非訟事件手續法第一〇二條

○親族會員ノ責任—第九百五十三條 第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之

ヲ準用ス

本條ハ親族會員ノ責任ヲ定メタルモノニシテ其責任ハ受任者ノ責任ニ同シキモノトセリ即チ受任者ハ委任之本旨ニ従セ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ(第六四四條モニシテ本法ニ於テハ之ヲ後見人ニ準用シ)第九三六條又後見監督人ニモ之ヲ準用シ(第九一六條タレハ同一ノ主意ニ基キテ之ヲ親族會員ニモ準用シタルナリ是ヲ以テ親族會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス例へハ親族會ニ於テ後見人後見監督人保佐人等ヲ選任スルトキ不注意ニ依リ不適任者ヲ選任シタルカ如キ又無能力者ノ不動産ヲ賣却セントシ其可否ヲ決スルニ當リ相當ノ注意ヲ以テ其實却ノ時機及ヒ代價等ノ調査ヲ爲サヌシテ後見人ノ發議ニ從ヒ容易ク之カ決議ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テ之カ爲メ損害ヲ生シタルトキハ親族會員ハ之ヲ賠償セナル可カラアルナリ但シ親族會員ノ中其決議ニ同意ヲ爲サナル者アルトキハ實任ナク唯其決議ニ同意ヲ爲シタル者ノミ責任ヲ負フ可キハ論ヲ族タサルナリ

第八章 扶養ノ義務

本章ニ於テハ或親族間ニ亘ニ扶養ヲ爲スノ義務アルコト其義務ノ順位其程度、方法等ヲ規定セリ而シテ戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務アルコトハ戸主權ノ規定中(第七四七條ニ規定シアリテ本章以外ニ於テモ扶養ノ義務アルコトハ婚姻ノ效力中第七九〇條ニ規定シアリテ本章以外ニ於テモ扶養ノ義務ヲ負フ者アリト雖モ其義務ノ順位其程度方法等ニ付テハ亦本章ノ規定ニ依ル可キモノトス扶養ノ義務トハ自己ノ資力ニ依リテ生活ヲ爲シ又ハ教育ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテ其生活ノ資ヲ供シ又ハ引取りテ之ヲ養ヒ又ハ之ニ教育ヲ受ケシムル義務ナリ舊民法人事編第二六條乃至第二九條ニ於テハ養料ノ義務ナル文辭ヲ用ヒタレトモ其意味ハ本來金錢ニ關スルモノニシテ甚タ狹ク教育及ヒ其權利者ヲ引取リテ世話スル事ヲ包含セサルヲ以テ本法ニ於テハ扶養ナル文辭ヲ用ヒ扶養義務者ハ必シスモ金錢ヲ與フルコトヲ要セサルノ意ヲ明カニシタルナリ

親族相互ノ間ニ法律上ノ義務トシテ扶養ノ義務ヲ認ムルハ至當ノ規定ナリ茲ニ自ラ生活スルコト能ハヌシテ救助ヲ要スル者アリトセシ歟若シ親族ニシテ之ヲ救助セズソハ社會即チ國又ハ地方自治體ニ於テ救助セサル可カラサルニ至ル可ケレトモ此ノ如キハ到底其財力ノ能ク堪フル所ニ非ス國家ト雖モ自活ヲ爲スコト能ハサル者ニ對シテハ扶養ヲ爲ス可キ義務アリト雖モ是レ已ムヲ得サル場合ニ存スルモノニシテ他ニ之ヲ扶養ス可キ者アルニ於テハ先フ之ヲシテ其扶養ヲ爲サシムハ當然ナリ故ニ親族ハ自然ノ愛情アルニ因リ相互ニ扶養ス可キモノトセリ而シテ此義務ヲ法律上ノ義務ト爲サスシテ親族ノ億義ニ一任スルトキハ不徳義者ハ父母、妻子ノ飢餓ニ迫ルヲ見テ之ヲ顧ミサルトモ如何トモスル能ハナルヲ以テ之ヲ民法ニ規定シ法律上ノ義務ト爲シタルナリ然レトモ扶養ノ義務ハ如何ニ至當ナリトスルモ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メサル可カラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ヲ認メタリ

○扶養義務者——第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義

務ヲ負フ夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ
(人事物編第二六條第二七條)

親族相互ニ扶養ヲ爲スコトハ自然ニ出ソト雖モ今日ニ在リテハ生計ヲ營ムコト昔日ノ如ク容易大ラナルカ故ニ人ヲシテ猥ニ扶養ノ義務ヲ負擔セシム可キニ非ス故ニ法律上扶養ノ義務アル者ハ之ヲ制限セサルトキハ親族中富裕ノ者アレハ舉族之ニ寄食シ富者ハ其負擔ニ堪ヘサルニ至ル是ヲ以テ民法ニ於テハ其範圍ヲ狹クシ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フモノト爲セリ而シテ是迄屢々説クタゞ蓋親又ハ其直系尊屬ト養子繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トハ血族ニ準セラルカ故ニ其間相互ニ扶養ノ義務アルモノトス又直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ其家ニ在ルト否トノ區別アラサルナリ故ニ養子組ニ因リテ他家ニ入りタル者ト實家ニ在ル父母、祖父母トノ間又他家ニ嫁シタル姉ト養子組ニ因リテ他家ニ入りタル弟トノ間ハ家ヲ異ニスルニ拘ラス互ニ扶養ノ義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ尊屬親トノ間ハ其家ヲ同シウスルトキニ限リ此義務

ヲ負フ例へハ他家ニ嫁シタル女ハ其家ニ在ル夫ノ父母、祖父母トノ間、他家ノ入夫ト爲リタル男ハ其家ニ在ル父母、祖父母等トノ間ニ於テ相互ニ扶養ノ義務ヲ負フ然レトモ夫婦ノ一方ハ縱合他ノ一方ニ直系尊属アリト雖モ家フ異ニスルトキハ其者トノ間此義務ナキモノトス夫婦ノ一方ノ直系尊属ニシテ家ニ在ル者ト他ノ一方トハ慣習上殆ト自己ノ直系尊属ト同一視シ又其尊属ヨリモ自己ノ直系卑属ト同一視スルカ故ニ以上ノ如ク規定シタリ

○扶養義務者ノ順位—第九百五十五條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スベキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑属

第三 直系尊属

第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑属又ハ直系尊属ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊属亦同シ(人事編第二八條)

同一ノ人ニ對シテ數人ノ扶養義務者アルコト少シトセス例へハ同時ニ卑属配偶者及ヒ兄弟姉妹及ヒ直系尊属等アルコトアリ又同一種ノ義務者ノ數人アルコトアリ例へハ卑属數人アリ又ハ兄弟姉妹數人アリ此ノ如キ場合ニ於テハ其中何人カ最モ先ニ扶養ノ義務ヲ盡ス可キヤフ定ムルハ必要ナリ而シテ元來此扶養ノ義務ナルモノハ德義ト自然ノ人情トニ基クモノナルカ故ニ其順位ヲ定期ムニ付テモ亦德義ト自然ノ人情トニ基カナル可カラス是ヲ以テ第一、配偶者第二、直系卑属第三、直系尊属第四、戸主第五、配偶者ノ直系尊属及ヒ直系卑属ノ配偶者第六、兄弟姉妹トハシタリ外國ニ於テハ直系尊属ヲシテ直系卑属ヨリ先ニ義務ヲ負ハシムルモノナシトセナレトモ我邦ニ於テハ孝ナルモノノ社會道徳ノ基本タルヲ以テ現今ノ慣習ニ從ヒ直系卑属ヲ直系尊属ヨリ先ニ爲シタル所以ナリ又戸主ハ家族ト其親族關係如何ニ薄シト雖モ第四ノ順位ニ於テ義務ヲ盡ナサル可カラス是レ我邦家族制度ヨリ生スル結果ナリ

直系卑屬數種アリ又直系尊屬數種アリ例へ六子長孫ドアリ父ト祖父トアルコトアリ此場合ニ於テハ子ハ孫ヨリ先ニ義務ヲ盡サナル可カラス又父ト祖父トノ間ニ於テハ父ハ祖父ニ先ナラ此義務ヲ盡サナル可カラス又配偶者ノ直系尊屬ニシテ家ニ在ル者モ亦同シキナリ此順位モ亦自然ノ人情ニ基キタルニ外ナラサルナリ

法律カ本條ニ於テ定メタル順位ニ在ル者ハ自己ノ資力ヲ盡シテモ後ノ順位ニ在ル者ヲシテ義務ヲ盡サシメシテ自己獨リ此義務ヲ盡サナル可カラサルヤ若シ順位ノ先ニ在ル者ニシテ扶養義務ヲ盡スニ十分ナル資力アルトキハ此者ノミニ於テ其義務ヲ盡サナル可カラサルハ勿論ナレトモ若シ其義務者ニシテ全ク無資力ナルニハ非ナレトモ一人ニテ其義務ヲ盡ス資力ナキトキハ其足ラサル所ハ其第二順位ニ在ル者之ヲ補足ス可キモノトス又第一順位ニ在ル者ニシテ全ク無資力ナルトキハ最初ヨリ第二順位ニ在ル者一人ニ於テ全部ノ義務ヲ盡サナル可カラス

○扶養義務ノ分擔——第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各

其實力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

直系卑屬及ヒ直系尊屬ノ如ク同一順位ノ扶養義務者中親等ヲ異ニスル者アルトキハ其親等最モ近キ者ヲ先ニスルコトハ前條ニ規定スレトモ親等ヲ異ニセテル同一順位ノ扶養義務者數人アルトキハ其中何人カ此義務ヲ盡ス可キヤ將タ共同シテ之ヲ盡ス可キヤフ定メタル可カラス法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ各資力ニ應シテ其義務ヲ分擔スヘキモノトセリ例へハ子數人アルトキハ其各人之ヲ分擔セサル可カラス又父母實父母養父母、繼父母數人アルトキ兄弟姉妹數人アルトキモ亦同シキナリ而シテ此規定ニ依リテ各義務者カ分擔ス可キ高ハ必スシモ皆同一ナルモノニ非ス換言スレハ子三人アリテ父ヲ扶養シ其額一ヶ月三十圓ヲ要スル場合ニ於テ必スシモ子カ平等ノ割合ヲ以テ各十圓ヲ負擔ス可キモノニ非ス各人ノ資力同一ナルニ於テハ平等ニ之ヲ負擔スルハ當然ナリ然レトモ若シ各人ノ資力同一ナルトキハ各其資力ニ應シテ負擔セサル可ガラス故ニ一个月甲長子ハ百圓ノ收入ヲ得乙次男ハ五十圓丙(三男)ハ三十圓

ヲ得ルトキハ右扶養ニ要スル三十圓ヲ之ニ比例分擔セサル可カラス
同一順位ノ扶養義務者中扶養義務者ト家ヲ同シサズル者ト然ラサル者トアリ
タルトキ例へハ父ヲ扶養スル場合ニ於テ其家ニ在ル子ト養子縁組父ハ婚姻等
ニ因リテ他家ニ在ル者トノ間ニ於テハ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス又子カ
扶養ヲ受クルニ當リ其義務者トシテ其家ニ養父ト實家ニ實父アル場合ニ於テ
モ同シク扶養ノ義務ヲ盡ヌニ付キ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス即チ家ニ在
ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス是レ亦家族制度ヨリ生スル結果ト云フコトア
得可シ

○扶養権利者ノ順位 第九百五十七條 扶養ヲ受クル権利ヲ有スル者數人ア
ル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義
務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第五 兄弟姉妹

第四 第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

扶養義務者一人ニシテ扶養ノ權利者數人ナル場合ニ於テ義務者一人ニシテ被
テノ權利者ニ對シテ扶養ヲ爲スノ資力ヲ有スルトキハ別ニ論スルコトナケレ
トモ其全員ヲ扶養スル資力ヲ有セサルトキハ如何ニス可キヤ此場合ニ於テハ
其權利者中ニ於テ順位ヲ設ケ其順位ノ先ナル者ノミカ扶養ヲ受クルコトトセ
ナル可カラス法律ハ左ノ如ク其順位ヲ定メタリ第一、直系尊屬第二、直系卑屬第三、
配偶者第四、配偶者ノ直系尊屬及ヒ直系卑屬ノ配偶者第五、兄弟姉妹第六、前五
號ニ掲ケサル家族是ナリ而シテ此順位モ亦德義ト自然ノ人情トニ依リ定メタ
ルナリ歐米ノ人情ヨリ云ヘハ直系尊屬ヨリ配偶者及ヒ直系卑屬ヲ先ニス可シ
ト雖モ我邦ニ於テハ直系尊屬ハ最モ尊重ス可キカ故ニ之ヲ第一順位ニ置キタ

扶養権利者タル直系尊屬又ハ直系卑屬中親等ノ異ナル者アルトキ例へハ父母ト祖父母トアルトキ又ハ子ト孫トアルトキハ其最モ近キ者ヲ先ニス即チ父母ハ祖父母ヨリ先ニ子ハ孫ヨリ先ニ扶養ヲ受クルモノトス是レ自然ノ人情ニ基クモノナリ

○同順位ノ権利者間ニ在リテハ其需要ニ應シテ扶養ノ資ヲ分ツコト—第九百五十八條 同順位ノ扶養権利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同順位ノ扶養権利者數人アルトキハ其間ニ區別ヲ設クルコトヲ得ス例へハ家庭ニ子數人アルトキハ其子ハ扶養ヲ受クルコトニ付キ區別ナシ然レトモ此數人ハ扶養義務者カ其義務トシテ出ス金員ヲ平等ニ分ナシ受ク可キヤ如何ドキハ此場合ニハ扶養ノ資ヲ各権利者ノ需要ニ應シテ分ツコトセリ故ニ例へハ扶養ヲ受ク可キ子三人アリテ各其需要ノ同シキトキハ平等ニ分ツ可シト雖モ各扶養権利者ノ需要ハ其資力身體ノ強弱年齢男女等ニ依リ同シカラナルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ差等ナキヲ得ナルモノトス例へハ甲、乙、丙ノ三子ス

アリテ甲(男子)ハ大學ニ入りリ一个月十八圓ヲ要スレトモ他ヨリ八圓ノ收入ヲ得ル逾アリ乙(女子)ハ一个月十二圓ヲ要スレトモ他ヨリ收入スルモノナク丙ハ幼稚ニシテ健ニ六圓ヲ要スルノミ此場合ニ於テハ扶養義務者ニ對シ甲ハ一个月十圓ヲ請求スルニ止マルモ乙ハ十二圓丙ハ六圓ヲ請求スルコトヲ得可シ然レトモ甲乙丙共ニ同一ノ學校ニ入り同額ノ學費ヲ要シ孰レモ他ヨリ收入ヲ得ル逾ナキトキ換言スレハ各其需要ノ相同シキトキハ孰レモ同額ヲ受クルモノトス

此場合ニ於テモ亦家ニ在ル権利者ト然ラサル者トノ間ニハ區別アリ例へハ甲男ハ家ニ在ルモ乙男ハ養子ト爲リテ他家ニ在リ父母ノ中父ハ家ニ在ルモ母ハ其實家ニ在ル場合ニ於テ孰レモ扶養ヲ受ケントスル場合ニ於テ扶養義務者カ各権利者ノ需要ニ應スルコトヲ得ルトキハ別ニ説明ヲ要スルコトナシ然レトモ其義務者ニシテ各権利者ノ需要ニ應スルノ資力ナキトキハ恰モ扶養義務者ニ關スルカ如ク第九五六條家ニ在ル者先フ扶養ヲ受クル権利ヲ有スルモノトス是レ家族制度ヨリ生スル自然ノ結果ナリ亦從來ノ慣習モ然ルナリ

○扶養義務ヲ生スル場合——第九百五十九條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者
カ自己ノ資産又ハ労務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自
己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ兄弟姉妹間ニ在リテ
ハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シ
タルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス(人事編第
二七條第二九條)

何人モ各自立シテ生活スルヲ原則トスルカ故ニ扶養ノ義務ハ自活スルコトア
得ナル者ニ對シテ與フルコトニ限ラサル可カラス故ニ本條ヲ以テ此義ヲ明カ
ニシテ扶養権利者カ自ラ生活スルコト能ハサル場合ニ限リ此義務アルモノトセ
リ而シテ茲ニ此規定ヲ設ケタルトキハ第九百五十四條ニハ單ニ直系血族及ヒ
兄弟姉妹ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負フトアルカ故ニ自ラ生活スルコトヲ得ル者ト
雖モ扶養ヲ受クル権利ヲ有スルモノニ非ナルカノ疑ヲ生スルニ至ル可キヲ以
テ此規定ヲ設ケタル蓋シ父又ハ子カ莫大ノ資産ヲ有スル場合ニ於テ父又ハ子
カ敢テ自活スルコト能ハサルトキニモ尙ホ之カ衣食ノ資ヲ助クルハ德義上ノ

問題ニシテ法律上ノ義務ト爲ス可キモノニ非ス徳義上ノ問題ハ敢テ自活ヲ爲
スコト能ハサルカ如キ必要ノ場合ノミニ生スルモノニ非サレトモ法律上ノ問
題ハ必要ノ場合ニノミ規定スルモノナレハ前ノ場合ノ如ク扶養ヲ爲スノ必要
ナキカ如キ場合ニ於テハ其義務ヲ認メタルナリ是ヲ以テ幾分カ財産ヲ有スル
者カ其收益ノミヲ以テ生活スルコト能ハサルトキハ其元本ヲ盡シタル後ニ非
ナレハ他ヨリ扶養ヲ受クルコトヲ得ス又身體健全ニシテ苟モ勞務ニ服スル以
上ハ之ニ因リテ生活ノ資ヲ得ルニ難カラサルトキハ唯安居シテ他ノ給養ヲ受
ケント欲スルトモ許ス可キモノニ非ス若シ其者老年少若クハ老年ニシテ勞務
ニ堪ヘ難キトキハ論ヲ埃タス縱合壯年ニシテ勞務ニ服スルニ堪フル者ト雖セ
其者ノ身分ニ依リ勞務ニ服シ難キトキハ扶養ヲ受クルヲ得ルモノトス又扶養
ノ義務ハ單ニ生活ヲ扶養スル義務ニ止マラス必要ナル場合ニ於テハ教育ニ付
テモ扶養ノ義務アリ蓋シ教育ハ文明國ニ在リテハ必須ニシテ缺ク可カラス教
育ナキ生活ハ殆ド生活ト爲スニ足ラナルモノナルカ故ニ自己ノ資産ニ依リテ
教育ヲ受クルコト能ハサル者ハ扶養義務者ノ費用ヲ以テ教育ヲ受クルコトゾ

得ルモノトセナル可カラス而シテ其教育ノ程度ハ各人同シカラス其身分年齢、身體ノ強弱及ヒ扶養義務者ノ身分資力等ニ依リテ異ナル可タ敢テ國家カ國民ニ對シテ負ハシタル教育義務ノ程度ト同シキモノニ非ナルナリ(小學校令第三二條)

以上叙述スルカ如ク扶養ノ権利義務ハ其権利者カ自活スルコト能ハナル場合ニノミ存スルヲ原則トスレトモ之ニ對スル例外ナキニ非ス(第七百九十八條)ノ規定ニ從フトキハ夫又ハ妻タル女戸主ハ其妻又ハ夫ノ資力ノ如何ニ拘ラス一切ノ生活費ヲ負擔ス但シ其義務者ハ其権利者ノ財産ヲ使用及ヒ收益ヲ爲ス権利ヲ有ス(二親権者ハ其子ノ資力如何ニ拘ラス之ヲ教育セサル可カラス(第八九〇條但シ親権者ハ之カ爲メニ子ノ財産ノ收益ヲ爲ス故ニ第一第二ノ場合共ニ権利者ノ財産ヨリ生スル收益ニシテ生活費教育費ヲ償フニ足ラナル場合ニ於フノミ真ノ義務タル可シト雖モ若シ生活費教育費カ権利者ノ財産ヨリ生スル收益ト同シキカ又ハ之ヨリ少キトキハ真ノ義務トシテ不利益ヲ受クルモノニ非ス

或立法例ニ於テハ過失ニ因リテ自活スルコト能ハナルニ至リタル者ニハ單ニ生命ヲ保ツニ必要ナル資料ノミヲ給ス可キモノト爲セリ然レトモ本法ニ於テハ第二項ノ場合ヲ除クノ外ハ右ノ如キ條件ヲ設ケス扶養権利者ハ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ衣食住及ヒ教育ノ資ヲ辨スルコト能ハナル者ニハ其一切ノ費用ヲ給ス可キモノト爲シ其生活ヲ爲スコト能ハナル原因ノ如何ハ敢テ之ヲ問ハサルナリ然レトモ例外トシテ兄弟姉妹ノ間ニ在リテハ其自活スルコト能ハサルニ至リタル者ノ過失ニ因リテ茲ニ至リタルトキハ敢テ扶養ヲ請求スルコトヲ得サルモノトセリ故ニ父カ放棄ノ爲メニ自己ノ資産ヲ浪費シ自活スルコト能ハサルニ至リタルトキモ其子ハ之ニ對シテ扶養ヲ爲ササル可カラス然レトモ若シ兄又ハ姉カ然ルトキハ弟又ハ妹ハ之ヲ扶養スルノ義務ナシ兄弟姉妹ヲ他ノ者ト區別シタルハ茲シ兄弟姉妹ハ親子其他直系血族間ニ於ケルカ如ク互ニ相扶養ス可キ必要アルコトハ専ロ例外ニ屬スルモノニシテ其間相互ノ扶養ヲ責ムルコト直系血族ノ如クスルコト能ハサルハ是自然ノ情愛ノ厚薄アルニ依ルナリ故ニ佛翻西民法及ヒ獨逸民法ノ如キハ兄弟姉妹ノ間ニハ

扶養ノ義務存セサルモノト爲シタリト雖モ多數ノ立法例ニ於テハ扶養ノ義務群スルモノト爲シ本條第二項ニ於ケルカ如キ制限ヲ設ケタリ然レトモ戸主ハ其兄弟姉妹カ扶養ヲ受クルノ必要其過失ニ因リテ生シタルトキト雖モ厚養ノ義務ヲ負フモノトス是レ家族制度ヨリ生スル當然ノ結果ト云フコトヲ得可シ蓋シ我邦ニ於テハ戸主其家ノ全財産ヲ有シ家族ハ一切ノ財産ヲ有セサルヲ通例トスルカ故ニ家族ハ如何ナル理由ニ因リテ自ラ生活スルコト能ハナルニ至ルトモ戸主カ之ヲ顧ミサルコトヲ得ルモノトスルトキハ家族ハ如何トモスルコト能ハサルニ至ル可キヲ以テナリ而シテ戸主カ家族ヲ扶養ス可キ此義務ハ獨リ兄弟姉妹ニ對スル場合ノミニ限ラス之ヨリ親族關係ノ遠キ者ト雖モ其家族タル以上ハ之ニ對シテ兄弟姉妹ニ於ケルカ如キ同一ノ義務ヲ負フモノトス

○扶養ノ程度—第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養権利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リフ之ヲ定ム(人事編第二九條)
扶養ノ程度ハ豫メ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス其程度ハ一方ニ於テハ

扶養権利者ノ需要ト又他ノ一方ニ於テハ扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リ異ナラサルヲ得ナレハナリ例ヘハ扶養権利者ニ付テ云ヘハ或ハ全ク資産ヲ有セス又勞務ニ就クヲ得サルコトアリ或ハ多少ノ資産ヲ有スルコトアリ又ハ勞務ニ就キ多少生活ノ資ヲ得ルモ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテハ自己生活ノ費用ノ全部ニ充ツルニ足ラサルコトアリ其第一ノ場合ニ於テハ生活費ノ全部ニ付キ扶養ヲ受クル必要アル可シト雖モ之ト異ナリテ第二ノ場合ニ於テハ不足部分ノミノ扶養ヲ受クルニ過キサルナリ又其全部又ハ一部ノ扶養ヲ受クル場合ニ於テ扶養権利者ノ身分ハ其需要ニ影響ヲ及ホスヤ論ヲ俟タス身分ノ高キ華族ノ如キハ下等社會ノ者ニ比スルトキハ多額ノ生活費ヲ要スルナリ而シテ又扶養ノ義務者ニ付テ云ヘハ或ハ資産ノ薄弱ナル者アリ富裕ナル者アリ或ハ身分ノ高キ者アリ又ハ然ラサル者アリ例ヘハ華族又ハ三井岩崎ノ如キ者ハ薄給ヲ受クル者又ハ車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ト同シキコト能ハス薄給者車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ僅ニ其權利者カ生活ヲ爲スニ足ル丈ノ資ヲ給スレハ足ルモ華族又ハ富裕者カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ其權利者ノ生命ヲ保

持スルニ止マラシシヲ尙ホ相當ノ資ヲ給セサル可カラス而シテ此等ノ程度ハ
権利者ノ資力如何ニ依リテ定ム可キハ勿論ナレトモ必スシモ之ノミヲ以テ定
ムルヲ得ス義務者ノ資力及ヒ身分ノ如何ニ依リテモ斟酌セサル可カラナル
故ニ以上ノ如ク規定シタルナリ

扶養ノ程度ハ右ノ如ク扶養権利者ノ需要及ヒ扶養義務者ノ資力及ヒ身分ニ依
リテ一旦之ヲ定メタリトモ其後ニ至リ若シ権利者ノ需要及ヒ義務者ノ資力及
ヒ身分ニ變動ヲ生シタルトキハ之ヲ増減スルコトヲ得可キナリ例へハ最初其
程度ヲ定ムル際ハ義務者ノ資力不十分ニシテ相當ノ資ヲ給スルコトヲ要ス但正
シモ後ニ至ナ富裕ト爲リタルトキハ十分ノ扶養ヲ爲ササル可カラス又最初ハ
権利者全ク無資力ナリシモ其後多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタルトキハ
最初定メタル扶養ノ資額ヲ減スルコトヲ得可キナリ

○扶養ノ方法 | 第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養権利者ヲ引
取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラシシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正
當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養権利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコ

トア得

舊民法ニハ別ニ扶養ノ方法ヲ定メサレトモ扶養義務ヲ養料ヲ給ス可キ義務ト
爲シタルカ故ニ當事者間ノ協議ニテ其義務者カ権利者ヲ引取リテ扶養ヲ爲ス
トキハ別ニ論スルコトナシト雖モ若シ此ノ如キ協議調ハナルトキハ其義務者
ハ單ニ扶養ノ資料ヲ給スルヲ以テ足ル又外國ノ立法例ニ於テモ多クハ扶養ノ
方法トシテ金錢ノ支拂ヲ爲ス可キモノト爲スト雖モ我邦ノ事情ニ照ストキハ
扶養権利者ニ扶養ノ資料ヲ與フル方法ノミニテハ適當ナラナルカ故ニ或ハ扶
養権利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ或ハ之ヲ引取ラシシテ單ニ生活ノ資料ヲ給スル
コトトシ其選擇ハ一ニ之ヲ其権利者ニ任シタリ然レトモ單ニ此等二方法ノミ
ナルトキハ不便ナルコトアル可キヲ以テ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養
権利者ノ請求ニ因リ扶養ノ他ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ルモノトセリ例へハ扶
養権利者ヲ扶養義務者ノ家ニ引取ルトキハ家内ニ不和ヲ生ス然レトモ其権利
者カ生活ノ資料ヲ受ケテ他人ノ家ニ居住スルコト不可ナル事情アルカ如キ
場合ニ於テハ扶養権利者ハ別ニ一戸ヲ構ヘ扶養義務者ヨリ唯其費用ヲ受クル

コトトスルヲ得可キナリ而シテ其方法ハ一ニ裁判所ノ定ムル所ニ依ラナル可カラス

○扶養ノ程度又ハ方法ヲ定メタル判決ノ效力——第九百六十二條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得(民事訴訟法第二四〇條第二四四條)

凡ソ判決ハ一旦確定シタルトキハ後ニ至リ其效力ニ變更ヲ生セナルヲ通例トスト雖モ扶養義務ニ付テハ此原則ニ依ルコト能ハナルナリ既ニ第九百六十條ニ於テ叙述シタルカ如ク契約ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法ノ定マリタル場合ニ於テハ其後ニ至リ其根據タル事情ノ變更ニ依リ變更ヲ來シ又ハ其消滅ヲ來シタルトキハ其義務ニ變更ヲ生シ又ハ之ヲ消滅セシムルハ論ヲ換タル所ナルカ判決ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法カ定マリタル場合ニ於テモ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメナル可カラス扶養ノ程度ハ權利者ノ需要ト義務者ノ

身分及ヒ資力トニ依リテ定ムルモノナレハ權利者ノ需要又ハ義務者ノ身分及ヒ資力ノ變更シタルトキハ其程度ハ最初定メタルモノト同シカラナル可キコトハ契約ニ因リテ之ヲ完メタル場合ト判決ニ因リテ其定マリタル場合トニ依リテ異ニス可キ理由アルヲ見ナルナリ又扶養ノ方法ニ付テモ亦同シキナリ例へハ最初判決ニ因リテ扶養ノ程度ヲ定メタルトキニ在リテハ扶養權利者ハ全ク無資力ナリシモ其後ニ至リ多少財産ヲ有スルニ至リ又ハ勞務ニ就キタル者カ其後ニ至收入ヲ得ルニ至リ又最初多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタル又扶養義務リ全ク無資力ト爲リ又ハ勞務ニ就クコト能ハナルニ至ルコトアリ又扶養義務ヒシモ幼年ナリシ權利者カ成年ニ達シ他所ニ於テ教育ヲ受クル必要ヲ生シタルカ如キ場合又ハ最初權利者ヲ引取ラスシテ罪ニ生活ノ資料ヲ給スルヲ得ルニ至ルコトアリ又扶養ノ方法ニ付テモ最初權利者ヲ義務者ノ家ニ引取りシモ後ニ至リ引取リテ看護ヲ要ス可キ疾病ニ罹リタルカ如キ場合ニ於テハ其

方法ヲ變更セナル可カラサルノ必要アリ而シテ是レ特ニ明文ヲ設ケテ規定セ
ナルトキハ扶養ノ程度及ヒ方法ニ關スル判決モ普通ノ原則ニ依リ確定後ニ於
テハ之カ變更又ハ消滅ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テナリ

○扶養ノ權利ノ性質 第九百六十三條 扶養ヲ受タル權利ハ之ヲ處分スルコ
トヲ得ス

扶養ヲ受タルノ權利ハ一ノ財産權債權ナルカ故ニ債權總則ノ規定ハ總テ之ニ
適用セラル可キヲ原則トスト雖モ扶養ヲ受タルコトハ實ニ其權利者ノ生活教
育ヲ目的トシ必要缺ク可カラサルモノニシテ若シ之カ處分ヲ許スコトトスル
トキハ其目的ヲ達セサル可シ而シテ法律カ此扶養ノ權利及ヒ義務ヲ設ケタル
ハ公益ニ基キタルナリ若シ扶養權利者カ其權利ヲ拋棄シテ扶養ヲ受ケサルニ
至ルトキハ遂ニ餓死スルニ至ル可ク然ラサルトモ國又ハ地方自治體ニ於テ之
ヲ養ハサルヲ得サルニ至ル可クシテ此ノ如キハ此規定ヲ設ケタル精神ニ反ス
ルナリ故ニ扶養ヲ受タル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勿論之ヲ擔保ニ供
シ又ハ差押フルコトヲ得サルナリ(民事訴訟法第六一八條第一項第一號)



民法親族 緒

吳忠縣志

卷之三

三

講習科規則摘要

乙種講習科ハ講義錄ニ依リテ獨習ヲ爲スモノ

トス

講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル

講義錄ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス

一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得

一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得

講習料ハ金拾貳圓ト但三十四年度ニ限リ左

一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年七月廿六日印刷

明治三十四年七月廿九日發行

東京市四谷區四合會町三丁目廿八番地
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

發行者

小田幹治郎

印刷者

金子鐵五郎

印刷所

和佛法律學校

司法省

和佛法律學校

發行所

和佛法律學校

指定期

和佛法律學校

和佛法律學校